

アリ、蓋シ人材中ノ人材ト云フ可シ。

帝國大學醫科大學教授

### 藥學博士 下山順一郎君

下谷區根岸町九八 電話下谷四一

抑々君ハ舊尾州犬山藩士下山健治氏ノ長男、嘉永六年二月十八日ヲ以テ生ル、幼ニシテ穎敏夙ニ秀才ノ名アリ、先ヅ藩ノ儒者ニ就キテ和漢ノ學ヲ修メ、明治三年遂ニ貢進生ニ拔擢セラレ、大學南校ニ入り、初メ獨逸學ノ研究ニ從ヒ、尋テ東京大學醫學部ニ入りテ藥學ヲ專攻シ、同十一年卒業シテ藥學士ノ學位ヲ受ク、明治十四年陸軍藥劑官ニ任ジ、尋テ東京大學助教ヲ兼ネ、製藥學ヲ講座ヲ擔任ニ、同十六年製藥學研究ノ爲メ獨逸ニ留學ヲ命セラレ、居ル事四年、歐州最新ノ學ヲ研究其濫奥ヲ極メテ同二十年歸朝シ、同年七月醫科大學教

三六四

授ニ任セラレテ藥學講座ヲ擔任シ、兼スルニ第一高等中學校教授タリ、斯クテ最高學府ニ其蘊蓄ヲ傾ケテ育英ニ從ヒ、傍ラ專念藥學ヲ研究シテ怠ラズ、又、時ニ日本藥局方編纂委員、藥劑師試驗委員等ヲ命セラレシ事數回、益々信望名聲共ニ揚ル明治卅二年藥學博士ノ學位ヲ受ケ、現ニ東京帝國大學醫科大學教授トシテ、藥學科ノ權威タリ、是君ガ公生涯ノ一斑ニシテ、一度其私生涯ニ於テ國家ニ貢獻セラレシ事實ハ數フルニ遑アラズ、屢ニハ多年苦心ノ結果清酒釀造ノ簡易法ヲ公ニサル、眞ニ一世ノ發明ナリト言ハザル可ラズ、又其著書ノ如キ決シテ抄シトセズ、資性溫良恭謙自讓敢テ街ハズ、其識見ト學殖ハ當今學界ノ粹、人格ノ崇高ナル眞ニ瞻仰ニ耐フ、近時學界其人ニ乏シカラズ、而モ人格ノ之ニ伴フナクンバ何ヲ以テ衡トセ

ンヤ、吾人ハ我學界ニ下山博士ノ如キ士アルヲ以テ、呼稱シテ世界ニ誇ルノ榮ヲ享有スルヲ謝セズンバアラズ、敢テ蕪詞ヲ並デ、君ヲ傳ス、乞フ寛容セラレヨ。

### 實業家 池貝庄太郎君

芝區三田四國町三二 電話芝五九七

我國ニ於ケル器械事業ハ今ヤ大ニ進歩發達ノ域ニ達シタルモ四十年前ヲ回顧スレハ轉々感慨ノ禁セサルモノアリキ當時ニアツテ器械事業ニ從事セントスルモノハ非凡ノ才ヲ有スルモノナラサレハ進ンテ着手スルモノアラサリシナリ君ノ慧眼早クモ此ノ事業ノ有望ナルニ着眼シ年十四ニシテ横濱ニ出テ西村器械製造所ノ徒弟トナル居ル事三歲其業ニ通ス明治十八年歸京シテ田中工場ニ入り數年間一日ノ如ク勤勉鍛鍊ノ功ヲ積ミ明治廿三年十一月

獨立ヲ以テ芝區金杉川口ニ於テ器械製造所ヲ創設シ暫ク同區芝井町ニ移轉シタルモ業務頻繁ニシテ工場ノ狹隘ヲ告クルニ至リ、明治三十四年同區本芝入横町ニ轉セリ之ヨリ顧客ノ需用ニ隨テ製作スル事ヲ得信用頓ニ加ハリ確固不拔ノ基礎ヲ固メ明治三十九年組織ヲ變更シテ合資會社トナシ、池貝鐵工所ト稱ス製作器ノ主要ナルモノヲ列記スレハ石油發動機工業用器械其他海軍省御用品等ニシテ其他ヲ舉クレハ日モ亦足ラス信用ノ多大ニシテ營業ノ盛大ナルハ吾人ノ嗷々ヲ待タスシテ明ナリ、君ハ尙以テ足レリトセス斯業ノ研鑽ニ熱注セラレツ、アリ其發展ヲ見ルヤ決シテ疑ヲ入レサル所ナリ。

### 實業家 高橋藤兵衛君

赤坂區青山町二ノ八 電話芝二八〇四

三六五

君家ハ世々伊勢屋ト號シ、質商ヲ營業トス、世間或ハ質商ヲ以テ暴利ヲ得ルモノト誤解スルモノナキニアラス蓋シ之レ這般ノ事情ニ通セサルノ言ナリ、抑モ質商ナルモノハ文明ノ西洋各國ニ於テモ『ボン、ブロカー』ト稱シ一定ノ有價物ヲ擔保トシテ一定ノ期間金錢ヲ貸附スルモノ之レ實ニ金融上ノ利便ニ於テ必要ノ業タルコト言フ俟タス、故ニ質商ナルモノハ眞ニ粒々ノ微ヲ積ムノ業ナリ、而シテ高橋家ノ今日ニ至ル基礎ノ確固ナルコト贅言ヲ要セス、君ハ文久三年二月六日ヲ以テ生ル、先代藤兵衛氏ノ長男ナリ、君既ニ理財ノ事ニ精通シ家督ヲ相續スルヤ君ノ經營ノ宜シキ爲メ家運益々繁榮ニ至リ、現今ハ實ニ多額ノ所得稅ヲ納ム、明治三十三年三月青山麻布ノ有志者ト謀リ株式組織トナシ旭貯金銀行ヲ創立シ、青山町現今ノ所ニ

營業ヲ開始シ推サレテ其取締役トナリ行務ニ執掌ス、素ヨリ理財ニ通曉セル君ノ經營宜シク社運日ニ月ニ隆盛ニ赴キ、現今ニ至リテハ其資金ヲ二十萬圓ニ増加シ麻布青山千駄ヶ谷及ヒ大森等各要地ニ支店ヲ設ケ益々擴張發展ス、而シテ今ヤ預金ハ實ニ百萬圓餘ヲ有シ、隨テ法定積立金ノ如キモ巨額ニ達シ、毎期九分ノ配當ヲ爲スト云フ、世人ノ信用ヲ受クルモ亦疑ヲ容レス、君ハ現ニ市會議員ノ職ニアリ、市ノ爲メニ貢獻スル所尠シトセス、君尙春秋ニ富ム將來ノ發揚ハ亦偉大ナルモノアラシヤ。

實業家 吉田平吉君

横濱市森下町四五四 電話一〇九五

横濱ニ於ケル第一流ノ硝子商トシテ、多年ノ信用ト經驗トヲ擁シテ業務愈々熾盛ナルモノ先ツ指ヲ

君ニ屈セサル可ラズ、先代藤助氏今ハ一切ヲ君ニ托シテ老齡尙且質舖ヲ營ミツ、アリ、其昔早クモ硝子商ノ前途ヲ豫想シ、幾多ノ支障ヲ排シテ業ヲ樹テシ先見ノ明ハ、慥カニ其非凡ヲ窺フニ堪ヘタリ、君ハ其養子ニシテ埼玉縣人松本宗五郎氏ノ三男ナリ、即チ文久三年十月二日ヲ以テ生ル、夙ニ商業ニ志シ、苦辛粒々漸ク商道ニ通ズ、忠實ノ資性、養父藤助氏ノ認ムル處トナリ、明治二十五年ヲ以テ嗣トナル、爾來藤助氏ハ店務ノ一切ヲ擧ケテ君ノ手腕ニ托シ、自ラ前記ノ商業ニ從フニ至レリ、茲ニ於テカ君一層ノ奮勵ヲ以テシ、着々繼承ノ効果ヲ擧ゲ年々業務ヲ擴張スルニ至レリ、遂ニ去ル明治卅二年、一族相謀ツテ横濱硝子合資會社ヲ起シ、從來ノ規模ヲ増大シ、君其代表社員トシテ熱心ナル經營ヲ以テシ、今ヤ其基礎極メテ堅實

トナリ、一種獨特ノ機軸ヲ出シツ、アリ、曾テ平沼專藏氏等ト横濱銀行ヲ起スヤ、養父藤助氏亦之レガ計ニ加ハツテ出資シタル關係ニヨリ、君亦連年同行監査役トシテ努力シツ、アリ、彼ノ日露戰役後經濟界ノ混沌ニ際シ、不測ノ變ニヨツテ幾多ノ支障ヲ來セシモ、君等重役ノ熱心ト信用トハ、今ハ全ク復活シテ隆昌ニ向ヒツ、アリ、願フニ其質素ニシテ一切ノ虛榮ヲ避ケ、實質本位ノ活動ハ彼ノ浮華ノ空氣ニ滿テル横濱實業界ニ於テ、稀ニ見ル敦厚ノ人物トシテ畏敬セラレツ、アリ、一步堅固ノ地盤ヲ築造シツ、前進スル君ノ商風ハ應テ牛歩ノ偉力ヲ示スベク好箇ノ範典タラム。

實業家 今井高行君

淺草區西三筋町五九 電話下谷二五二二

君ハ東京府士族今井善長氏ノ二男ニシテ萬延元年

大ナル性格ハ當代稀ニ見ルノ士ト謂フベシ。

### 實業家 篠原鶴吉君

深川區洲崎辨天町一ノ一四 電話浪花三四二九

正月廿一日ヲ以テ生ル、幼ニシテ天稟ノオアリ、  
 屢々人ヲシテ驚嘆セシメシコトアリ、稍々長スル  
 ニ至リ、嚴君ノ武士的薰陶ヲ受ケテ一層ノ光彩ヲ  
 放ツ、明治十九年大藏省ニ出仕シ銀行局ニ其敏腕  
 ヲ揮ヒ、會々明治二十七年帝國商銀行創立ノ議ア  
 リ、君ハ依囑セラレテ其計畫ニ參與シ樞機ニアリ  
 テ大ニ盡ス所アリ、其銀行ノ創立セラル、ヤ大藏  
 省ヲ退ヒテ同行ニ入り専ラ經營ニ當ル、斯クテ明  
 治卅二年ニ至ル、數年間同行ニアリシカ、偶々園  
 田孝吉氏ノ知遇ヲ受ケテ十五銀行ニ入り、拮据勉  
 勵日本橋支店長ノ榮位ニ昇リ、經營能ク勤メラレ  
 社運大ニ隆盛ヲ來セリ、君亦水戸鐵道株式會社ノ  
 監査役トシテ同社重役間ノ柱礎ヲ以テ目セラル、  
 君資性謹嚴ニシテ理智性ニ強ク、而モ溫良人ヲシ  
 テ能ク親マシム、不知不識ノ間ニ感化ヲ與フル偉

大ナル性格ハ當代稀ニ見ルノ士ト謂フベシ。  
 今ヤ時勢ノ風潮ハ滔々トシテ浮華嬌奢ノ弊ニ陥リ  
 向上虛榮心ハ日ニ發達シ虛ヲ實トシ無ヲ有トシ美  
 ヲ術ヒテ得々然タルモノ比々皆然リ焉ソ其成功ヲ  
 遂ケルノ日アラランヤ、眞摯熱誠ナルモノハ其始メ  
 遅々トシテ振ハサルカ如シト雖モ其結果ハ偉大ノ  
 成功ヲ奏スルニ至ル吾人ハ今此ノ生ケル摸範トシ  
 テ篠原鶴吉君ヲ推サントス、君ハ嘉永四年六月靜  
 岡縣小笠郡朝比奈村ニ生ル、父ヲ丸尾熊藏氏ト稱  
 シ君ハ其二男ナリ出テ篠原氏ヲ繼ク幼ニシテ聰悟  
 活發、夙ニ南山ノ鴻儒野賀岐山氏ニ就テ和漢ノ學  
 ヲ修ム、稍長シテ池新村ノ役場員トナリ、德望  
 四隣ヲ聳ス、高潔磊落タルノ君ハ公共事業ノ爲メ

ニ巨財ヲ抛チ家計ノ乏シキヲ告クルヤ、明治廿二  
 年九月飄然東都ニ出テ苦戰奮闘ヲ試ムルモノ數年  
 偶々洲崎辨天町ノ技樓失敗ノ爲メ維持ノ困難ヲ極  
 ムルニ至ルヲ以テ、君ハ遂ニ之ヲ買收シテ之ガ衝  
 ニ當ル維レ時明治二十八年十二月ナリ爾來君ハ熱  
 誠以テ業ニ當リ眞摯以テ浮華ヲ戒メ今日ノ成功ヲ  
 見ルニ至レリ、君ハ又兼業トシテ篠原合資會社ヲ  
 組織シ資本金ヲ六千圓ト定メ土地建物ノ賣買抵當  
 ノ仲介ヲ爲シ其性行ヲ發揮シテ信用ヲ博シ、今ヤ  
 家政隆盛ニシテ實業家中有數ノ地位ヲ占ムルニ至  
 レリ將來ノ發展亦偉大ナルモノアラン歟。

船舶及諸機械製造並電機瓦斯器業

### 渡邊忠右衛門君

橫濱市高島町五ノ一 電話一四一六

君ハ嘉永元年靜岡縣戶田村ニ生ル、幼ニシテ江戸

石川嶋造船所ノ一職工タリシカ鐵槌ヲ振フテ鍊ニ  
 鍛エシ健腕ハ鐵トモ見ルベク嗜コソ上手ノ譬ニ洩  
 レス、慶應二年六月ニハ橫須賀海軍造船所ニ派遣  
 サル、同所ニハ御雇佛國人「バステアン」氏工師ト  
 シテアリ、君專心同氏ノ指揮ニ從ヒ大ニ得ル所ア  
 リ、明治三年橫濱居留地六十六番英國人「ウキドブ  
 ール」氏鐵工所ニ入りテ業務ヲ執レリ、明治七年更  
 ラニ時ノ海軍兵營寮御雇英國人「サット」氏ニ就キ  
 テ研究センモノト東京築地ノ同寮ニ轉セリ、明治  
 十一年ニ至リ君ハ非凡ノ工匠トシテ世ニ知ラレタ  
 レバ三菱會社橫濱製造所ハ終ニ之レヲ羅致スルコ  
 ト、ナレリ、後日本郵船會社トナルニ方リ同社橫  
 濱監督課船長「ウオーカー」氏ニ屬シ、廿五年九月  
 同社橫濱鐵工場技手ニ任ララル、同所ノ船梁會社  
 ニ讓渡シトナリシヨリ引續キ其社務ノ囑托ヲ受ク

遠大ナル君ノ素志ヤ將サニ發展セントスル時機ニ接セリ、時維明治三十一年一月驟然立ツテ横濱高濱町ニ造船及諸機鑄造並諸船舶修繕業ヲ開始セリ、多年ノ練磨ト各種ノ經驗トハ一齋ニ發揮シ諸官衙會社ノ用命頻々トシテ來リ漸次擴張シテ第一ヨリ第四ノ工場ヲ有スルニ至レリ目下第二工場ヲ改築中ニシテ成功ノ曉ニハ神奈川舊臺場ヨリ北方ニ於ケル海面三千坪ノ大船梁ヲ見ルヲ得ベシ、時昔ノ理想ハ現實ニ酬ユルヲ得タリ、君ノ得意ヤ想フベキナリ。

### 實業家 小川勝三郎君

横濱市辨天通一ノ一 電話横濱二二一

深山大澤龍蛇ヲ生ス、由來甲州ノ地、山岳重疊シテ邊境ヲ圍繞シ、中央緩カニ一平地ヲ存ス、豈是レ大澤ニアラズシテ何ソヤ、宜ナリ人傑ノ此ノ地

ニ輩出スルノ多キヤ、乱世ニ英雄ヲ出シ、治世ニ商傑ヲ出ス、昔ハ武田ノ智謀、二十四將ノ豪傑、天下ニ咆吼シテ虎威ヲ逞フス、今ハ若尾兩敬備テハ電燈ノ怪傑佐竹氏アリ、一タヒ商界ニ馬ヲ進ムレハ、天下ノ經濟靡然トシテ伏ス、豈雲霧ヲ起シ電ヲ呼フニ異ナランヤ、君モ亦甲州ノ産、豈二十四將ノ勇ヲ抱カサランヤ、豈若尾兩敬佐竹氏等ノ敏腕ヲ持セサランヤ、彼ハ時勢ノ要求ニ依テ生レ是ハ時勢ノ力ニ因テ立ツ君ハ將ニ雲ヲ起サントスル龍蛇ニ似タリ、其翺翔自在ノ氣胸中ニ鬱勃タリ其發展ノ期豈遠カラランヤ、君ハ山梨縣平民小川與右衛門氏ノ三男ナリ、文久三年十二月九日ヲ以テ生ル家ハ累世蠶糸業ニ從事セリ、君ハ父祖ノ業ヲ繼テ謹勉怠ラス、大ニ研鑽スル所アリ、十七八歳ノ頃東京ニ出テ苦學スル事數年、身ヲ商界ニ投セ

ント欲シ、横濱ニ出テ中嶋爲吉氏ノ店員トナリ、呈辛慘憺大ニ艱難ヲ嘗ム、穎才奇略旺盛セル君ノ永ク人ノ手足タランヤ、獨立獨歩ヲ以テ絹糸仲買業ヲ始ム、多年ノ經驗ハ何ソ人後ニ落チンヤ、一鞭馬ヲ躍ラシテ商界ニ進ム、誰カ君ヲ拮抗スルヲ得ンヤ、暫時ニシテ金港屈指ノ金傑トナル、其奇才雄略毫モ先輩ニ讓ラス、只突進ノ時機ヲ待ツ、豈脾肉ノ嘆ナカランヤ。

### 實業家 豊田久之助君

横濱市本町一ノ一四 電話一五六五

艱難ハ人ヲ玉成ストハ古來ノ金言ニシテ敢テ吾人ノ疑ヲ存セサル所タリ、而モ能ク之ヲ誦シ之ヲ唱フト雖モ之ヲ實踐スル者ノ寥寥タルニ至テハ誠ニ遺憾ニ堪ヘサル所タリ、豊田久之助君ノ成功ヲ見ルニ着々之ヲ實現セラレタルハ夙ニ吾人ノ敬服ニ

値ヒスル所ナリ、君ハ幼ニシテ聰明ノ資ニ富ミ常ニ大志ヲ抱懷シテ其鵬志ヲ伸ヘントス、早ク郷里ヲ去テ京都ニ出テ高等中學校ニ入り更ニ講習所ニ轉學シ、和漢洋ノ諸書ヲ修メテ出藍ノ稱アリ、出テ、育英事業ニ從事スルコト數年、偶々感スル所アツテ堀越商店ニ入り商業ノ見習ヲ爲スコト三星霜此ノ間具サニ辛苦艱難ヲ嘗ム、茲ニ其敏腕ヲ提ケテ一家ヲ設ケ、絹織物等ノ賣込商ヲ營ミ、桐生足利地方ノ委託販賣ヲ爲シ、大ニ家運ノ隆昌ヲ見ルニ至レリ、明治四十年尾上町ヨリ本町ニ移轉シ更ニ一層ノ活躍ヲ試ミ逐日社界ノ信用ヲ博シ、蔚然トシテ斯界ニ一頭地ヲ拔クニ至リ、徳望亦隆々タリ、君ハ資性温厚ニシテ篤實能ク雇人等ヲ優遇シテ家庭ハ寔ニ春海ノ如キモノアリ、又一方ニハ公共事業慈善事業ニ盡瘁スルコト一々枚擧スルニ

遊アラス金港第一流ノ人物トシテ人ノ崇敬ヲ受クルモノ亦當然ノ結果タルヲ知ルベシ。

### 實業家 飯田久松君

横濱市山下町一八五 電話一七一四

抑モ君ハ富山縣ノ人慶應三年十一月ヲ以ル生ル、父ヲ西尾儀三郎ト云フ、君ハ其長男ナリ家世々農ヲ以テ業トス、幼少學ヲ好ミ和漢洋ノ學ヲ修メテ出藍ノ譽アリ、郷里ニ於テ小學校ノ教師トナリ感スル處アリテ、明治十九年京都ニ登リ、一増勉學ノ爲メ、或塾ニ入り學成テ、横濱ニ來リ、近藤廉平氏ノ許ニ在リテ二ヶ年英學ヲ研究シ後チ氏ノ許ヲ辭シテ飯田家ニ來ル君ガ忠實精勵ナルヤ人ノ賞讃ヲ受クルコト大ニ遂ニ家督相續者トナルノ幸運ニ接セリ、三十九年合名會社ト改メ、代表者員トナル君資性温厚篤實世ノ信用金港ノ外四方ニ響キ

三七二

名聲赫々タリ、明治四十二年同志ト謀リ資本金二十萬圓ヲ以テ横濱屠場株式會社ヲ創設シ、推選セラレテ其取締役社長トナリ、同社ノ爲メニ畢世ノ心力ヲ傾注セラル、其隆盛ニ至ルヤ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ。

順天堂病院副院長醫學士

### 佐藤 佐君

本郷區湯島新花町九八 電話下谷二〇二〇

君ハ千葉縣出身ニシテ安政四年二月ヲ以テ其ノ郷ニ生ル、幼名ヲ虎三氏ト稱ス、幼ヨリ同藩士宇都木常藏氏ノ家塾ニ於テ和漢ノ學ヲ修メ、穎悟敢行群重ト異ナル處アリ、歳十二ニシテ佐藤氏ノ塾ニ入り専心學術ヲ勉勵セラル、先師尙中氏ノ大學ニ登用セラル、ヤ、君從ツテ上京シ明治四十甫メテ大學東校ニ開設セラレタル獨英式醫學教育ニ幼年

生トシテ入學セラレ直チニ官費生トナリ大ニ勉勵セラレシニ其後大患ニ罹リ學ヲ廢スルコト二ヶ年ニ及ベリ、明治八年再ヒ入學ヲ志シ入學試験ヲ受ケテ及第シ、貸費生ニ編入セラル、明治十四年成績最優等ヲ以テ醫科大學ヲ卒業セラレ醫學士トナル、茲ニ下總國ニ其人アリト知ラレタル古豪佐藤繼信氏ノ後、洋醫術ノ祖タル佐藤泰然氏ノ裔、佐藤尙中氏ノ養フ處トナル後チ其姓ヲ冒スニ至レリ君實ニ舊佐倉ノ藩士井上信利氏ノ三男ナリト云フ明治十五年一月獨塊ノ二國ニ留學シ伯林維那ノ大學ニ內科學ヲ研究シ大ニ得ル處アリテ明治十九年歸朝セラル、直チニ順天堂病院ニ入り副院長トナル、同院ハ諸般ノ設備ハ東洋第一ト稱シ實ニ模範病院トシテ其名聲四海ニ隆々タリ、君ハ院長佐藤進氏ヲ補ケ外術以外ニ内科ノ一生面ヲ開キ同院ノ

光輝一段ノ美ヲナセリ、尙院長ハ軍醫總官ナルヲ以テ日清戰役ノ際大本營勤務トナリ、又馬關媾和談判地ニ出張セラレ、亦近クハ日露戰役ニ當リ出征セラレシヲ以テ、君一身ヲ以テ院長ノ事務ヲ處理シ院務ノ完キヲ計リ、内科外科ノ診察ニ從事シ寸毫ノ遺憾ナク益々院名ヲ擧ケラレタルハ到底凡醫ノ做フ能リザル所ナリ、明治三十年宮中侍醫ニ召サレ、正六位ニ叙セラル、明治卅五年日本藥局調査委員ヲ命セラル、君山來忠實ヲ以テ業務ノ唯一武器トナス、些ノ野心ナク、些ノ名利ナク管ニ營々トシテ自家ノ天職ニ盡瘁スルノミ、超然トシテ內科醫學及衛生法上ノ改善ニ力ヲ致サル斯界ノ泰斗タル名ニ背カサル紳士ナリ。

### 勳一等男 貴族院議員 波多野敬直君

四谷區右京町二二 電話番町四〇九

三七三

抑々君ハ肥前小城ノ藩士嘉永三年十月ヲ以テ生ル  
 明治七年三月市メテ司法省ニ出仕シ、尋テ十二年  
 判事ニ任シ、十四年廣島裁判所長ニ補シ、二十年  
 司法省參事官トナリ、同廿二年京都地方裁判所長  
 ニ補セラレ翌年大審院判事ニ轉シ、尋テ司法省書  
 記官トナリ總務局職員課長、銓考委員等ヲ命セラ  
 レ、廿五年從五位ニ陞リ、翌年勳五等ニ叙セラレ  
 廿九年六月判檢事登用試験委員辯護士試験委員ヲ  
 命セラレ、同年十月函館控訴院長ニ轉ジ、三十一  
 年判檢事登用試験委員長ニ任ジ、東京控訴院檢事  
 長ニ補セラレ、卅二年四月司法次官ニ進ミ同年七  
 月從四位ニ、十二月勳二等ニ陞叙セラレ、三十三  
 年五月司法省總務長官兼司法省官房長ニ任セラレ  
 三十六年九月内閣ノ更迭アルヤ司法大臣トナリ正  
 四位ニ陞ル、三十七年六月勳二等瑞寶章ヲ賜ハリ

卅八年從三位ニ昇叙、三十九年全閣員ト共ニ辞ス  
 同月直チニ貴族院ニ勅選セラレ、功ヲモツテ勳一  
 等ニ叙シ特ニ男爵ヲ授ケラル、爾來、上院ノ一角  
 ニ權威者トシテ認メラル、ト共ニ、近時、市政講  
 究會ヲ與シテ副會長トナリ、昨年四谷區會議員ニ  
 推サレ、自ラ蹶起シテ改善ノ實ヲ舉ゲントシツ、  
 アリ、定ニ旺ナリト言フ可シ。

日本勸業銀行理事

有尾敬重君

本郷區上宮土前町二 電話下谷二〇八一  
 君ハ岐阜縣大垣ノ藩士ニシテ嘉永二年六月ヲ以テ  
 其郷里ニ生ル、明治四年禰ヲ大藏省ニ釋キ同六年  
 地租改正法カ發布セラレ、ヤ、君其ノ實施ノ任ニ  
 膺リ事務ニ軼掌シテ成績頗ル舉ル、功ヲ以テ勳五  
 等ニ叙セラレ、年々各地ヲ巡回シテ地味ノ豊渡租

税ノ輕重ヲ察シ足跡殆ト全國ニ遍テシ、明治三十  
 年六月日本勸業銀行ノ創設セラレ、ヤ、君聘セラ  
 レテ理事トナリ貸附部長トナル、君大藏省ニ在勤  
 スルコト前後二十有七年間其功空シカラズ辞スル  
 ニ及ビ從四位勳三等ニ叙セラレ積年ノ勤勞ニ酬ヒ  
 ラル、抑モ日本勸業銀行ノ目的タル農工業者ノ爲  
 ニ不動産ヲ抵當トシテ長期貸附ヲナシ以テ之レガ  
 改良進歩ヲ圖ルニ在リ、此ノ種ノ金融機關ノ設備  
 ハ實ニ吾カ國空前ノ事業ニ屬シ當事者ノ手腕ノ熟  
 否ハ直チニ延ヒテ我經濟界全般ニ影響ヲ與フルモ  
 ノナレバ、之ニ該ル人物ノ撰擇頗ル慎重ノ注意ヲ  
 要スベキモノアリ、此際ニ於テ多年ノ經驗ニ依リ  
 坐シテ全國ノ土地ヲ鑑別スルノ明ヲ有セル君ガ此  
 ノ樞要ノ地位ニ任セラレシハ國家ノ爲メ賀セスン  
 ハアラス、明治三十一年關西地方ノ經濟界ノ恐慌

起ルヤ之レガ救済ヲ勸業銀行ニ求ム、當時同行ハ  
 創業日尙ホ淺ク之レガ救済ニ充分ノ力ヲ傾注スル  
 能ハザル場合ナルニモ拘ラズ、君ハ時ノ總裁川嶋  
 醇氏ト議シテ大坂ニ赴キ親シク其ノ狀況ヲ視察シ  
 テ直チニ應急ノ策ヲ施シ關西工業家ヲシテ遺憾ナ  
 ク其ノ恩澤ニ浴セシムルヲ得タルハ今尙ホ吾人ノ  
 耳目ニ新クナル所ナリ、明治三十三年理事ノ滿期  
 改選ニ際シ最多數ノ投票ヲ得テ再ヒ其職ニ舉ケラ  
 ル以テ其人格ノ如何ヲ窺知スヘシ。

實業家 川上保太郎君

邸 日本橋區本石町二ノ一 電話本局四二七七  
 工場 木所區柳島元町一三八 電話下谷一九五〇

銃匏用『コロス、ヲイルト』製造ヲ以テ有名ナル共  
 成社主川上保太郎君ハ慶應元年六月ヲ以テ栃木縣  
 太田原町ノ邸ニ生ル、父ヲ安平氏ト稱シ、其祖先

ハ薩州ヨリ出テ西ノ原ノ地二十四石ヲ賜ハラル、爾來十九世土地ノ里正タル誠ニ由緒アル豪族タリ君ハ明治十九年七月煙草問屋ヲ營ミ大ニ隆盛ヲ見ルヤ、同二十二年之ヲ令弟ニ譲リ、決然帝都ニ出テ身ヲ政治界ニ投シ、尾崎行雄、青木匡ノ諸名士ト親交ヲ結ヒ改進黨本部ノ評議員トナリ、大ニ同黨ノ發展ニ就テ盡瘁セラル、同廿五年青年改進黨ヲ起シ、又富士見十三州會ヲ組織シテ何レモ其幹事タリ、後憲政黨ノ組織成ルヤ、大隈、板垣兩伯ノ眷遇ヲ受ケ同黨ノ代議員タリ其企劃獻策ノ功顯著ニシテ名聲噴々タルニ至レリ、君ハ既ニ國民黨ノ政務調査員トシテ同黨ノ推重スル所タリ、君ハ斯ノ如ク政治上ニ於ケル勢力ヲ有スルト同時ニ實業界ニ於テモ成效ノ運ニ接セリ、其共成社ニ於ケル品製ハ世ノ歡迎ヲ博シ、各博覽會、共進會ニ出

品シテ賞杯賞狀ヲ受領セルモノ枚舉ニ遑アラス、先年烏居忠文子ト謀リ雄勝「スレート」株式會社ヲ創立シ、推サレテ其取締役トナリ、又城北煉瓦株式會社ヲ起シテ其監査役トナリ、何レモ皆隆昌ノ域ニアリ、曾テハ雞林八道ヲ跋涉シテ利源調査ヲ遂ケ滿腔ノ抱負ハ歷々トシテ實現セラル、又會テハ憲政本黨ノ公認候補者トシテ逐鹿場裡ニ立チ將ニ功成ラントスルヤ、政友ノ前途ヲ顧慮シテ勇退セラル、交宜ノ深厚ハ夙ニ世ノ感嘆スル所、其大成ノ期將ニ近キニアラン歟。

實業家 佐竹巳之助君

京橋區南金六町一 電話新橋一〇三二

當家ノ祖先ハ元ト常陸國水戸野口ノ佐竹山城守ヨリ出ツ、弘化ノ頃上京シテ芝區源助町ニ於テ袋物製造業ヲ開始セラル、爾來連綿トシテ斯業ニ從事

子 爵 東 園 基 愛 君

麹町區一番町四一 電話番町八八

シ、老舖中ノ最老舖トシテ同業者間ノ推重ヲ受ケ名聲都下ニ籍甚タルニ至レリ、君ハ先代巳之助氏ノ長男ニシテ幼名ヲ錄之助ト稱セリ、明治十七年相續シテ現名ニ改ム、新規ノ考案、嶄然ノ意匠ハ屢々流行界ノ垂涎ヲ招キ、斯界ノ珍トシテ名物商舖ノ一ニ屈ス、明治十八年以降各種博覽會、共進會等ニ出品シテ賞杯賞狀ヲ受クルコト枚舉ニ遑アラス、殊ニ第五回内國勸業博覽會ニ於ケル出品ハ内外ノ稱讚ヲ受クルコト甚ク大ニシテ宮内省御買上ノ榮ヲ受ケ、同會ヨリ優等賞ヲ賜ハル、誠ニ一家ノ面目是ニ過クル者アラシヤ、曾テハ東京博覽會袋物携帶品ノ審査員ヲ命セラレテ其職責ヲ全フシ、現今袋物組合ノ評議員タリ、其發展ヲ見ルモノ亦故ナキニアラサルナリ。

當家ハ内大臣鎌足十七世右大臣藤原賴宗ノ後胤ニシテ園家ノ分流ナリ、其祖正三位參議基氏十三世後光明帝ノ外祖タル權大納言基任ノ二男從四位上同少將基教一家ヲ分立シテ東園ト稱ス、即チ藤氏ノ新家ナリ其子正二位權大納言基賢延寶五年臺命ニ依リ出仕ヲ停メラル其家ハ正二位前權大納言基量ニ交附シ家名ヲ相續セシム、爾來繼承スルコト九世ニシヒ當主基愛君ニ至ル、君ハ先代正三位基敬氏ノ長男ニシテ嘉永四年六月十四日ヲ以テ生ル同五年三月被叙從五位下、安政六年元服シテ昇殿ヲ聽サレ被叙從五位上、文久二年被叙正五位下、爾來三職書記及ヒ近臣被仰付御親征各地行幸ニ際シ供奉被仰付、明治元年九月任侍從被叙從四位下

同十六年四月三十日被叙勳六等賜單光旭日章、同十七年七月授子爵、爾來累進シテ叙正三位被叙勳三等、此レヨリ先キ待從トシテ各地へ差遣セラレシコト數十度ニ達セリ、又各宮殿下ノ差遣セラレ、ニ際シ隨行被仰付シコト數回ニ及ベリト聞ク、目下待從兼宮中顧問官ノ重職ニ在リ宮内ニ奉ズルコト十年一日ノ如ク勤務セラレツ、有リ。

### 實業家 野口榮世君

京橋區月島東仲通一ノ二 電話混花八三二

君ハ高知縣ノ人舊土州藩士高橋吉助氏ノ二男ナリ文久三年十一月高知ニ生ル明治九年野口啓喜氏ノ養嗣子トナリ其姓ヲ胃ス、幼ヨリ、和漢ノ諸書ヲ涉獵シ造詣甚ク深シ十九年神奈川縣警部ニ任セラレ更ニ埼玉縣ノ警部ニ轉シ、遞信大臣後藤伯ノ知遇ヲ受ケ二十三年遞信省ニ轉任シ官房秘書課勤務

ヲ命セラル、廿五年伯ノ農商務大臣トナルヤ、君亦農商務屬ニ轉シ、大臣官房秘書課及商工局會社課勤務ヲ命セラル、二十九年一月官ヲ掛シテ野ニ下リ實業界ニ雄飛セント欲シ東都ノ紳士豪商ニ計リ東京精米株式會社ヲ設立シ、推サレテ支配人トナレリ、爾來一意専心社務ノ發達ヲ計リ、苦慮焦心寢ヲ廢シ食ヲ忘レ勤勉精勵以テ前社長石崎政藏氏後社長若宮正音ノ二氏ヲ補佐シ大ニ盡瘁スル所アリ、社運隆々トシテ盛況ヲ極ムルモノ一ニ君ノ施設献策ニ由ラスンハアラス、事業ノ盛大ニ至ルヤ、商店工場ノ狹隘ヲ告クルニ至リ、京橋區南八丁堀ニ本社ヲ新築シ、其工ヲ竣ハルヤ移轉シテ一層ノ勤勉ト誠實トヲ加ヘテ華客ノ便利ヲ計リ現時ノ大發展ヲ視ルニ至レリ、君ノ功勞偉大ナルハ夙ニ株主ノ認ムル所トナリ、同四十三年君ハ推サレ

テ社長ノ職ニ就クニ至ル之ヨリ尙發奮興起シテ多年老熟ノ敏腕ヲ揮ハントス、社運ノ隆昌期シテ待ツヘキナリ。

### 歌舞伎座重役

### 田村成義君

京橋區築地二ノ二七 電話長京橋四六二

我演劇界ニ於テ舊陋ヲ打破シテ革新ヲ施シ其品位ヲ高メ人格ヲ進メ遂ニ天覽ノ榮ヲ賜ハリ、現今ノ隆盛ヲ見ルニ至ラシメタルモノ始メハ守田勘彌氏其準繩ヲ施シ千葉勝五郎氏建築ノ勞ヲ採リ、田村成義君ニ至テ白亞丹砂ヲ施シ其美觀ヲ完備スルニ至レリ、之レ劇界ノ三傑ト稱セスシテ何ソヤ、其準繩ヲ施シ建設ヲ見ルヤ固ヨリ難シ之ニ裝飾ヲ施シ其美觀ヲ添ヘントスルハ亦決シテ容易ノ業ニアラサルナリ、思ヲ練リ想ヲ磨キ時勢ヲ察シ風俗ニ

鑑ミ舊套ヲ脱シテ嶄新ヲ撰ミ、人心ヲ收攬シテ時好ニ投セントス、其苦心經營決シテ凡庸ノ能クスヘキ處ニアラス、斯界ノ明鑑三木竹二君ガ人材ノ寥々タルヲ嘆シ古今只二人ヲ維ス曰ク千葉勝五郎君曰ク田村成義君是ナリ、今ヤ千葉氏退キ劇界只一人ノ君ヲ存スルノミ。爾來斯界ノ榮枯ハ懸リテ一ニ君カ双肩ニアリ、時勢ノ風潮ハ滔々トシテ進化發達ヲ爲シ流行時ヲ追フテ變移ス君カ苦心一層ヲ煩ハサントス聞ク隣邦ノ珍客載洵殿下ノ臺覽ノ榮ヲ得其感賞斜ナラサルヲ致セリト、君ハ福井藩士福井壽仙氏ノ男嘉永四年二月ヲ以テ江戸ニ生ル幼名ヲ鑄之助ト稱シ小松原省三氏ニ就テ漢籍ヲ修ム慶應元年七月田村金太郎氏ニ養ハレ金一郎ト改稱ス仕官シテ囚獄書役見習トナリ後本職ニ進ム更ニ鎮臺府附ヨリ囚人前科取調役トナリ明治三年其



職ヲ辞シ實業界ニ身ヲ投シタルモ所感アリテ明治九年東京法律學校ニ入り卒業ノ後辯護士登用試験ニ合格セリ而モ其業務ニ從事セスシテ明治十二年ノ交ヨリ劇壇ニ盡瘁セラル爾來幾多ノ變遷ヲ經テ現今ノ地位ヲ占ムルニ至レリ、偉人ノ性行豈端睨シ易カラシヤ。

### 實業家 内田福太郎君

横濱市日ノ出町一ノ一七 電話横濱一七六二

君ハ東京ノ人慶應三年二月十三日ヲ以テ生ル、父ヲ豊吉氏ト云ヒ君ハ其長子ナリ、幼ニシテ漢籍ヲ學ヒ漸長シテ法律學ヲ學ベリ、而モ君ハ商業ヲ以テ身ヲ立テント欲シ、空理空論ニ馳スルヲ好マヌ二十七年横濱ニ出テ菓子パンノ卸小賣業ヲ開始シ誠實熱心日夜寢食ヲ忘レテ東西ニ奔走シ奮勵勤勉之レ事トシ販路ノ擴張ヲ計リシガ初メ資力ノ豊富

ナラサルガ爲メ、大ニ困難ヲ感セシモ君カ熱心ノ奔走ハ信用ヲ得ルノ因トナリ、逐次店運好調ニ進ミタリ、明治二十七八年日清戰役ニ際シテハ陸海軍ノ命ヲ拜シ軍用バンヲ製造シ戰地ニ輸送シテ其需用ヲ滿タシ其功勞少カラズ之ヨリ信用一時ニ旺盛ヲ極メ顧客店頭ニ雲集シテ繁劇筆紙ノ能ク述ル能ハサルノ盛況ヲ呈セリ爾來市内各所ニ支店及販賣店ヲ設置シ盛名全市ニ喧傳セリ君ハ又仁慈ノ志厚ク公共事業ニ資ヲ投シテ之ヲ補助シ、養育院孤兒院等ニ金銀物品ノ寄贈ヲ爲シテ不幸ヲ賑ハシ獎兵義會ハ卒先シテ開設ノ運ニ至ラシメ常ニ士氣ヲ鼓舞シテ有用ノ材ヲ養成シ國家社界ノ爲メ盡瘁セル功績將ニ表彰スルノ價值アルベシ、實業家中人望ノ旺盛ナル人士ヲ舉クレハ君ヲ以テ第一位トナサザルヘカラス。

### 實業家 松岡 辯君

赤坂區青山北町六ノ三三 電話芝二五二四

君ハ岡山縣平民松岡恒七郎氏ノ次男ニシテ明治二年二月二十八日ヲ以テ生ル、幼ニシテ聰慧穎悟類ヲ雖レ群ヲ絶ツ意氣壯烈ニシテ活氣洋溢セリ、君躬躬肥大常ニ園藝ヲ嗜ミ偶々時ノ移ルヲ知ラス、而シテ能ク談シヨク語ル、家庭又圓滿ニシテ和氣

七年一月歸朝後農商務參事官會社課長ニ任セラレ同三十九年十一月會社ノ招聘ニ應シ官ヲ辞シテ東京株式取引所ニ入ル理事ニ選任セラレテ現今其職ニアリテ寡黙深沈温容親シムベク其何人ニ接セルモ卑辭厚禮極メテ謙遜ノ態度ヲ保テリ、現時ノ椅子ニアリテ經濟社會ニ貢獻セントスル滿腔ノ赤誠ハ斯界ノ矜シク認ムル所ナリ。

杏雲堂佐々木病院長

### 醫學博士 佐々木政吉君

神田區駿河臺北甲賣町一 電話本局二九五〇

君ハ同廿九年十二月兵庫縣參事官トナリ、同三十年八月東京府參事官ニ轉シ、同卅一年八月臺北縣書記官兼臺灣總督府事務官トナリ同卅五年六月獨乙ニ航シ、伯林大學ニ留學シ商政學ヲ專攻シ、同三十六年八月英國ニ轉シ倫敦ニ留學シ、同三十

刀圭界ノ名家醫學博士佐々木政吉先生ノ小傳ヲ按スルニ、君ハ安政二年ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ擧ク、年少嚴肅ナル家庭ニ忠愛ノ美風ヲ薰育セラレ才氣眉宇ノ間ニ横溢シ自カラ群俗ヲ離脱セルノ真隨ヲ具フ、蛟龍豈永ク池中ノ物ナランヤ、後年醫學ノ泰

斗佐々木東洋先生ノ養嗣子トナリ其姓氏ヲ冒ス、直チニ東京帝國大學部ニ入り研鑽數年、明治十一年學績優等ヲ以テ卒業ス、次テ私費ヲ以テ獨逸伯林ニ留學シ專門大家ニ親灸シテ研鑽甚ク努メリ、同十七年歸朝スルヤ、東京大學部御用掛ヲ仰付ラレ内務省醫術開業試驗委員トナリ、十九年醫科大學教授ヲ仰付ラル、廿二年醫學博士ノ學位ヲ領シ次テ醫科大學第二醫院內科學教授主任ニ推舉セラレ廿四年「コツボ氏」結核療法審査委員ニ推サレ遂ニ同法研究ノ爲官命ヲ以テ露國ニ出張シ造詣多大型年歸朝スルヤ殊功ヲ以テ正六位ニ叙セラル、後所感アリ辭任スルニ際シ特旨ヲ以テ從五位ニ陞叙セラル、爾來專心杏雲堂病院副院長トナリ其非凡ノ學識手腕ヲ揮ヒツ、銳意父君ヲ補佐シテ精勵甚ク努ム、後年嚴父鶴齡隱退ノ後ヲ受ケ院長トナリ

奮勵努力以テ其神秘靈腕ヲ發揮セリ、先生ノ高名ヲ欽慕シテ治療ヲ請フ者門前常ニ群ヲ爲ス、今ヤ都下幾多ノ病院中第一流ノ名門大醫ヲ舉クレハ先ツ指ヲ先生ニ屈セサルハナシ、茲ニ特筆大書スヘキハ先生ノ雅量坦懷能ク人ヲ容レ幾多ノ部下人士ヲシテ分擔業務ニ從事セシムルニアリ、河村恒三郎君其人ノ如キ、熱誠ヲ濺ヒテ多年院務ニ鞅掌シテ亦餘念ナク復雜ナル事務ヲシテ整然宜シキヲ得タルノ人士ヲ出セリ、吾人ハ先生ノ前途愈健全洋々乎トシテ春海ノ如カラシコトヲ祝福シテ措カサルモノナリ。

辯護士 高見之通君

麹町區下二番町一五 電話長番町二二四九

氏ハ富山ノ人ナリ、四十一年秋、東京帝國大學法科大學ヲ卒業シ、昨年辯護士ヲ始メ日未タ淺シ、

然カモ其發展ノ顯著ナルヲ氏ヨリモ數年先輩ノ士ヲシテ舌ヲ捲カシムルハ確カニ其才能、學問ノ程ヲ憚ハシムルニ足ル、他方ニハ事業家トシテ頗ル經驗ニ富メル一傑物タル事ヲ失ナハス、曾テ大學學生時代ニ一友甲州黒川金山ノ爲ニ困扼セルヲ見氏ハ直ニ之ガ助力ヲ與ヘ其經營ニ至ル迄盡力シタリ抑モ氏ガ斯業ニ一種ノ趣味ヲ萌セシハ蓋シ此時ニ始マリシナリ爾來同金山ハ氏ガ一手ニ引受ケテ其經營ヲナシ來レリ、一書生ノ身ヲ以テ此ノ如キ大事業ヲ經營畫策スルハ普通ノ手腕ノ及ブベクモアラズ、東京市長尾崎行雄氏ノ如キハ之ヲ傳ヘ聞キ「成程豪イ俺ガ一ツ資本ヲ出シテヤル」ト二萬餘圓ノ資金ヲ投與シタリ、白面ノ一布衣タル同氏ノ書生時代ニ已ニ斯ル名士ノ知遇ヲ得タル豈ニ偶然ノ事ナランヤ、愈々斯業ニ興ヲ増シ來リ、越中立

山即チ常願寺川ノ上流ニ當リ鐵礦ノ發見アリ、氏亦其經營ヲ企ツ素ヨリ資ナシ、因テ此事ニ付キ賀田氏ヲ往訪スルヲ月五十幾回ニ及ブ、茲ニ於テカ有名ナル米商ノ飛將軍ト稱セラレタル賀田金三郎氏モ氏ノ熱心精力ニ動カサレ終ニ出資ヲ許シ斯業ノ一大發展ヲ見ルニ至ラントス然リト雖モ學術ニ至リテモ熱心ナリシハ他人ノ想像シ得ザル所ナリ氏ハ本來酒ヲ嗜ム事甚クシク曾テ金澤ノ第四高等學校在學中ハ常ニ「ストライキ」ノ首領トナリ、當時ノ校長北條時敬ヲシテ困ラシメタル事甚クシク飲酒亂暴殆ント手ノ附ケヤウナカリシト云フ、去リ乍ラ大學ノ業ヲ卒ヘルヤ將來ノ方針等ニ付キ熱慮スルヲ數日茲ニ斷乎トシテ酒ヲ絶チ煙草ヲ禁ジ節制以テ身ヲ養ヒ活社會ニ奮闘的生活ヲ試ミント決心シタルハ國家ノ爲メ又愛スベキ士ナリ、辯護

士トシテハ辯論明快其研究豐富民事刑事共ニ之ヲ  
處決シ盛シニ其敏腕ヲ振ヒツ、アリ、彼ノ一時法  
曹界ヲ騷セシ情夫殺、生田お梅ノ辯護人ノ官選タ  
ル所ノ名譽ヲ得例ノ精力主義ヲ以テ其證據收集ニ  
是レロモ足ラスト云フ以テ君ガ業務ニ熱心ナルヲ  
推知スルニ足ルベシ。

### 實業家 田中 茂君

横濱市境町一ノ二 電話横濱長一八

君ハ佐倉藩士ニシテ父ヲ忠德氏ト稱ス、年八歳ニ  
シテ昇平覺ニ入り一世ノ鴻儒鹽谷宕陰中村敬宇芳  
野金陵等ノ薫陶ヲ受ケ夙ニ出藍ノ稱アリ十五歳ニ  
シテ同覺ノ助教ヲ命セラル君カ如何ニ學識深遠ナ  
ルカヲ知ルヘシ、明治維新横濱開港地日ニ般盛ヲ  
加フルヲ聞キ來テ修文館ノ漢學教諭トナリ、後日  
本電信取扱人トナリ、電信局ニ出仕シ傍ラ粟津高

明ニ就テ英學ヲ修メ日夜暹勉寸時モ怠ラサルヲ以  
テ學業大ニ進ミ其名聲噴々タルモノアリ、聘セラ  
レテ若松ニ赴キ英學教師トナルヤ感スル處アリ去  
テ上京シ開成學校ニ入り學フ處アリシモ學資欠乏  
ノ厄ニ遭ヒ中途退學ノ止ムナキニ到レリ二十一歳  
ニシテ再ヒ横濱ニ出テ外國人某ニ仕ヘ、千挫不撓  
ノ精神ヲ發揮シテ信用大ニ加ハリ大賈タルノ素養  
ヲ作ルニ至レリ、爾來君カ商路ハ時運ノ進歩ト共  
ニ盛況ヲ呈シ名望大ニ揚リ明治二十年市會議員ニ  
舉ケラル、同廿五年ノ頃平沼タンク貯藏場設置ノ  
議アリ議合ハスシテ辭任ス蓋シ、君侃々諤々議苟  
モ合ハスンハ高踏雄退ノ氣懷ニ富ム高潔ナル紳士  
ナルヲ以テナリ、明治二十三年本町十二ヶ町區會  
議員トナリ副議長タル榮譽ヲ擔ヒタルコトアリ、  
横濱商業會議所ノ創設ヲ見ルヤ、毎選選ニ推選セ

ラレテ今日ニ至レリ其間常務委員タルコト一再ニ  
止マラス實ニ金港第一流ノ實業家タルニ愧サル紳  
士ナリ、君ハ株式會社横須賀商業銀行監查役石川  
嶋造船所ノ取締役タリ。

### 實業家 千葉松兵衛君

京橋區銀座一ノ四 電話京橋長一〇五六  
京橋區白魚川岸三十九號地 電話京橋二〇六

想ヒ起セハ煙草官營前、村井ノ「サンライズ」岩谷  
ノ天狗ト君ノ牡丹ノ旌旗ヲ擁シテ銀座ノ堅城ニヨ  
リ奮闘活躍シタリ商戰史ハ今尙世人ノ記憶ニ存ス  
ル所ナリ、乞フ吾人ヲシテ少シク月旦スル所アラ  
シメヨ、君ハ先代松兵衛氏ノ長男ニシテ元治元年  
五月廿四日ヲ以テ生ル、年僅カニ十五出テ、京橋  
區東湊町ノ煙草問屋渡邊三吉氏ニ仕フ、爾來誠實  
忠勤他ノ模範ト稱セラル、某時偶々主人ノ死亡ニ

遭遇シ止ムナク歸家シテ乃父ヲ輔ケ専心業務ニ精  
勵スル所アリキ、既ニシテ時代ノ趨勢ニ鑑ミル所  
アリ、年少ナカラ具體的成案ヲ以テ父君ニ獻策シ  
「大江戶」ナル細卷煙草ヲ製シテ輸入品ト戰ハント  
セシモ利アラス、恨ヲ吞ンテ之レカ發展計畫ヲ中  
止スルニ至レリ、翌十八年家督ヲ相續シテ徐ニ商  
戰準備ニ着手ス、先ツ「牡丹印」紙卷煙草ヲ製造ス  
蓋シ茲ニ至ルノ苦心ハ到底局外者ノ窺知スル能ハ  
サル所ニシテ一貫ノ至誠着々トシテ其効ヲ奏ス、  
更ニ百尺竿頭一步ヲ進メテ外國煙草ニ勝テ制セン  
ト欲シ、原料ヲ輸入シテ木村勝氏ト協力シ、同三  
十一年七月合名會社木村商店ヲ組織シ大ニ輸入煙  
草ト競争ス、以テ皇太子殿下御慶事ノ典アルニ方  
リテ、紀念トシテ菊世界ヲ發賣シテ世人ニ愛煙セ  
ラレ岩谷ノ天狗ヲシテ大ニ其鼻ヲ挫折メシコトア

リ、コノ年木村商店ヲ解散シテ關係ヲ絶チ專ラ獨  
 特ノ手腕ヲ發揮シテ斯界ヲ聳動ス、後煙草官營ノ  
 事アリテ一切ヲ政府ニ讓與シテ爾來銀座ノ店舗ニ  
 和洋煙草雜貨ヲ營ミツ、アリ之レ君カ概歴ニシテ  
 此間ノ活動ヲ細説スレハ吾人ノ禿筆能ク之ヲ盡ス  
 能ハサルヲ遺憾トス、然レトモ吾人ハ茲ニ大筆特  
 書セサルベカラサル一事アリ、即チ牡丹經營結了  
 後ノ君ハ直接事業ニ軌掌セサルモ依然トシテ銀街  
 ノ店舗ヲ監視シ更ニ池貝庄太郎氏ノ經營ニ係ル、  
 池貝鐵工場ニ投資シテ百般ノ策戰計畫ハ君カ肚裏  
 三寸ヨリ出サルハナシト云フ、之レ事業上ニ於ケ  
 ル隠レタル君ノ努力ニシテ尙更ニ筆ヲ淨メテ謳歌  
 セサルヘカラサルハ君ノ信仰ニアリ、佛教、儒道  
 耶蘇教、等ノ真理ヲ研究シテ安心立命ヲ求メント  
 シ、多年研究ノ結果日本國情トノ關係アリ最モ適

切ニ解釋セラレタル金光教即チ教祖金光大陣ノ遺  
 訓ヲ尊奉シ以テ其佛教ニ力ヲ致シツ、アリ、吾人  
 ハ現今宗教家ノ惡弊、人心ノ墮落ヲ慨スルノ時ニ  
 方リ君ノ如キ熱心ナル宗教家ヲ見ルハ國家ノ爲メ  
 ニ喜フモノナリ、尙君ガ家庭ノ平和ナルハ模範的  
 ノ定評ヲ以テ屢々操觚者流ノ資料トナリツ、アリ  
 嗚呼物質的文明ノ餘弊、滔々トシテ天下ノ人心ヲ  
 腐蝕シツ、アル時ニ當リテ君カ健全ナル信仰ニヨ  
 リ現代ノ凡介ヲ超脱スルヲ耳ニシテ轉々敬慕禁ス  
 ル能ハサルモノアリ物色シテ以テ稿トナス、君亦  
 高潔醇正眞個紳士タルノ好型ト云フモ敢テ誣言ニ  
 アラサルベシ。

東京硫酸株式會社社長

衆議院議員 大井 卜新君

赤坂區田町五ノ四 電話長新橋三六八八

君カ青年時代ノ苦學ハ、往年某實業雜誌ニ記載セ  
 ル君ガ告白ニ見ル、眞個ノ苦心慘憺ハ、寔ニ世ノ  
 青年ノ好鑑タルニ値ス、恨ラクハ短篇本誌ノ詳ニ  
 盡ス能ハサルヲ、試ニ其概歴ヲ摘記スレハ、君ハ  
 南海紀伊國南牟婁郡西山村ノ出身ニシテ天保五年  
 三月ヲ以テ生ル、少壯出テ、蘭學ヲ修メ兼ヌルニ  
 醫學ヲ以テス所謂『あんまヲシテ苦學セシ』時代ナ  
 リキ、苦心空シカラス、業成ツテ大坂假病院師及  
 文部中助教ヲ命セラレ、成績亦見ルヘキ者アリ、  
 後年野ニ下ツテ浪華東區平野町ニ居ヲトシ、賣藥  
 業ヲ營ム、即チコレ關西斯界ノ重鎮タルノ動機ナ  
 リキ、爾來連綿トシテ今日ニ至ルモ終始一貫ノ活  
 動ハ老齡尙且ツ鏖鏖タリ、彼ノ伊和鐵道株式會社  
 大坂電燈株式會社、日本食鹽コークス株式會社硫  
 酸肥料株式會社、東京硫酸株式會社等幾多ノ企業

ニ軌掌シ、此他關西實業界ノ爲ニ盡力シタル事一  
 々枚舉ニ遑アラサルナリ、更ニ同地公共事業上ニ  
 於ケル殊勳ハ、蓋シ特筆大書セサルヘカラサルナ  
 リ、多年大坂府會議員ノ要職ヲ占メツ、アリシガ  
 去ル三十七年衆議院議員總選舉ニ際シ、故山有志  
 シ推ス處トナリ、選ハレテ代議士トナル、更ル四  
 十一年第十回總選舉ニ際シ、大多數ヲ以テ再選シ  
 爾來連續トシテ今日ニ至レリ往年渡米實業團體ト  
 シテ彼土ニ航シ、同行ノ最年長者トシテ『卜新老』  
 ノ名ハ各所ニ喧傳セラレキコレ君ノ一面ニシテ、  
 特ニ逸スヘカラサルハ、曾テ私財ヲ投シテ不遇ノ  
 志士ヲ恤ミシ事ト、本邦ニ於ケル智利硝石輸入ノ  
 一事ナリ、特ニ後者ニ至ツテ細密ヲ致サハ若干軍  
 機ト交渉アルヲ以テ詳記スル能ハズト雖モ、濶眼  
 ヲ以テ一大冒險的計劃ニヨリ其輸入ヲ斷行シタル

ハ斯界ノ逸話タリ、茲ニ吾人ハ、君ガ過去歴史ノ寸影ヲ掲ゲ、謹テ其健康ヲ祝スル者ナリ、

東京電燈株式會社社長

山梨縣選出  
衆議院議員

佐竹作太郎君

麴町區有樂町三ノ三 電話新橋九五〇

君ハ元京都府士族ニシテ嘉永二年三月ヲ以テ山紫水明ノ境タル山城國愛宕郡小出石村ニ生ル、夙ニ峽陽山梨ニ移住シ、幾多ノ處世的「スタート」ヲ茲ニ定メヌ、明治二十一年ノ交、山梨縣會議員ニ選ハレ、爾來、甲府市會議員、甲府市區改正調査委員等ノ重職ニ就キ、漸次其聲望ヲ大ナラシム、第七回衆議院議員總選舉以來、引續キ、甲府市選出議員トシテ今日ニ至リ、立憲政友會ノ重鎮トシテ會ノ樞機ニ參與シ、院內ニアツテハ、全院委員長其他ノ常設委員トシテ盡瘁シタル事既ニ人ノ知悉

スル處ナリ、尙實業方面ニ於ケル重要關係ト、頃者某新聞記者ニヨツテ評論サレタル「財界ノ巨人」ニ於テ稍其面目ヲ窺フニ足ル、嘗ニ其概略ヲ掲クレハ、彼ノ東京電燈ヲ始メ、第十銀行頭取山梨新聞、中央新聞、其他ノ事業一々中心の要位ヲ占ム就中其心血ヲ灑キツ、アルハ東京電燈ニシテ同社ノ營業振ニ至ツテハ既ニ天下ノ定評アリ、願レハ君入社(明治廿九年)以來、今日ニ至ルマテノ奮闘努力ハ、蓋シ容易ノ事ニアラザリキ、三十三年前社長木村正幹氏ニ代ツテ以來、一大英斷ヲ以テ改革ヲ決行ス、或ハ冗費ノ節減、或ハ社員ノ淘汰等内部ノ整理ヲ遂行スルト共ニ、外ハ發電所及配電所等ノ諸設備ヲ完全ナラシメ、誠意ヲ以テ着々實果ヲ擧グ、先是君ハ水力電氣事業ノ將來ヲ洞察シ甲州桂川駒橋附近ノ水利權ヲ買收ス、數年後同會

社事務ノ擴張ニ連レテ水力電氣ヲ計劃スルニ當リ豫ネテ買收セシ權利ヲ原價ヲ以テ會社ニ移シ些ノ報酬ヲ受サリシ如キハ單リ株主ノ感謝シテ止マサルノミナラス、好箇ノ逸話ト稱スルニ足ル、卅五年、品川電燈ヲ、卅八年深川電燈ヲ買收シ基礎愈々安固タリ、前年渡米實業團員トシテ北米ヲ視察シ、歸來同社ノ施設亦一新セルモノ尠ナカラサルナリ、君亦政治實業兩界ニ跨ツテ其勢力圏ヲ廓大ナラシムルノ士歟。

實業家 大村五左衛門君

京橋區東淺町一ノ一〇 電話京橋長八二四、八二五

徳川幕府ノ創業時代ヨリ今日マテ殆ント三百年來船具商トシテ廣ク天下ニ名ヲ轟カシタル大村家ノ歴史中最要ナルモノヲ茲ニ略述スレハ、抑モ安政年間黒船ノ破船我伊豆ノ下田港ニ漂着スルヤ、同

國菲山ノ代官江川氏ノ命ヲ受ケク船體ヲ修復シテ安全歸國ニ就カセシメタル如キハ正ニ特筆ニ値ヒスルモノナリ、我邦未開ノ時代ニ於テ斯ル大業ヲ完成シタルカ如キ偉功ハ實ニ當時ノ耳目ヲ驚カス處ニシテ君家ノ名聲茲ニ顯ハレ文久年間幕命ニ依リ、和蘭國ヨリ諸機械ヲ輸入シテ汽船ヲ製造シ之ヲ軍艦トナス之則チ我國ノ汽船製造ノ嚆矢ナリトス而シテ横須賀軍港ノ擴張ニヨリ海軍省ニ於テ船具ノ必要ヲ生スルヤ、君ハ工場ヲ建築シ網具ノ製造ヲ開始ス、明治二十年、豪富紳商ト計リ株式組織ヲ以テ深川製網株式會社ヲ起シ、同二十九年増資シテ月嶋ニ一大工場ヲ建築シ後チ月嶋製網株式會社ト改ム、其間二十有餘年繼續シテ取締役タリ、是ヨリ種々嶄新ナル天幕雨覆或ハ戰時用具ヲ發明シ從來外國ヨリ輸入シ來リタルヨリモ一層輕

便ニシテ廉價ナルモノヲ製造シ却テ海外輸出スルノ盛大ヲ見ル、君資性熱實克ク先代ノ遺業ヲ繼承シ尙肥料販賣業ヲ兼テ益々家運ノ隆盛ヲ計リ、今日ノ如キ大盛況ヲ見ルニ至レリ、尙ホ公共事業或ハ慈善事業等ニ盡瘁シ大ニ社會ノ信望ヲ博シ、會テ區會議員ニ推選セラレ區政ニ參與シテ力ヲ致サル、後辭シテ一意専心實業ニ從事セラレシモ區内ノ衆望ハ君ノ一身ニ集マリ、其固辭セラル、ニモ拘ハラズ、大多數ノ得點ヲ以テ推選セラル、德望ノ歸スル所、以テ知ルベキナリ。

衆議院議員 稻茂登二郎君

神田區岩本町一二 電話本局一八七六

君ハ群馬縣出身ニシテ慶應二年二月ヲ以テ同縣伊香保ノ地ニ産聲ヲ上グ、家ハ世々富豪ニシテ夙ニ近隣ニ聞ユ、幼ニシテ學ヲ好ミ長スルニ及ヒ群馬

縣立中學校ニ學ヒ業ヲ卒ルヤ直チニ帝都ニ上リ攻玉社ニ入り三星霜ノ間専心精意學ヲ積ミ造詣頗フル深シ郷ニ歸リ老母ニ從ヒ家務ニ從事セラレシモ再ヒ東都ニ來リ日本橋區築地ノ某外人ニ就テ英語及ヒ簿記學ヲ學フ、業終ルヤ實業ヲ以テ身ヲ立テント欲シ、明治三十三年海國生命保險株式會社ニ入ツテ其取締役トナリ中村元雄氏等ト共ニ熱心其ノ經營ニ從事セラル、後チ東京市會議員、同參事會員、市區改正常設委員ニ推選セラレ劃策スル處渺ナカラスト云フ、尋テ株式會社倉庫銀行取締役東京信託株式會社取締役、東京市場建物株式會社取締役、日本電線株式會社取締役等ニ推任セラレ大ニ其發展ニ傾注セラル、明治四十一年總選舉ニ際シ有志ノ推ス處トナリ、遂ニ辭スルヲ得スシテ東京市選出衆議院議員トシテ最高點ヲ以テ當選セ

ラル、同年東京商業會議所議員トナリ實業界ニ貢獻シツ、アリ、其他伊香保電氣軌道株式會社創立ニ際シ發起人トシテ盡瘁セラレシ功空シカラスシテ明治四十三年十月ヲ以テ開業ノ運ニ至レリ、君人トナリ快活ニシテ眉目清秀ノ好紳士タリ、巧妙ナル應接振ハ常ニ對手ヲシテ倦ム處ナカラシム現代紳士ノ好典型トシテ推讚スルニ餘アリト云フ可シ。

貴族院議員

男爵 目賀田種太郎君

小石川區原町二七 電話番町九七五

君ハ静岡縣ノ人、目賀田幸助氏ノ長男ニシテ嘉永六年七月廿一日ヲ以テ生ル、幼少學ヲ好ミ書ヲ愛シ、夙ニ儒者ニ就キテ漢籍ヲ究メ、後、明治初年米國ニ航シ經濟學ヲ研究シテ造詣深シ、一度歸朝

スルヤ、明治八年先ツ文部省ニ出仕シ、後判事及大藏省書記官兼參事院外議官トナリ、次テ大藏省參事官橫濱稅關長ニ歷任シ、議造試驗場長トナル此間、每議會ノ政府委員トナリテ議會ニ臨ミ、博識強記政府委員中ノ彩華タリ、又會テ留學生監督トシテ歐米各國ヲ巡遊シ、兼テ視察ヲ遂ク、後年特ニ選マレテ韓國財政顧問ニ聘セラレ、同國財政ノ難局ニ處シテ克ク其明截ノ智、縱橫ノ手腕ヲ揮フ、明治三十九年四月日露事件ノ功ニヨリ、特ニ華族ニ列シ男爵ヲ授ケラレ、尋テ貴族院議員トナリ、茲ニ多年ノ經論ヲ注キテ幸俱樂部ノ一權威タリ、惟フニ君ハ彩華艶麗ナル才子ニアラスシテ、質實醇乎タル智者ナリ、其博識強記、曾テ大藏省ニ松尾氏ト共ニ活字典ト言ハレシヲ以テモ知ル可ク、而シテ君ガ治績却ツテ表ハレサルハ即チ智ノ

人タルヲ示スモノナリ、若シ君ヲ論セントセハ韓  
 國時代ヲ以テセサル可ラズ、當時ニ於ケル書等ト  
 治績ハ將ニ同國財政ノ根底ヲ成セルモノ、其功績  
 武勳ノ如ク赫々タラサルモ、實質ノ容ハ亦比多カ  
 ラサル可ク、儘ニ東洋財政史上ノ貢ヲ飾ルニ値ヒ  
 ス如斯、故海舟翁ノ薰化加致セルニヨランモ、吾  
 輩ハ君ノ天資ニ待ツ多キヲ信ズ、蓋シ明治ノ一偉  
 材タリ。

子 爵 渡 邊 昇 君

麻布區仲ノ町一三 電話九一

太刀ハ鞘弓ハ袋ニ納マル徳川ノ太平三百年ノ長夢  
 ハ浦賀一發ノ砲聲ニ破レテ世ハ王政ノ御一新トナ  
 リテ風雲際會ノ時ハ來リヌ、今日元勳ノ稱ヲ以テ  
 臺國ニ列セル者何レカ當時ノ志士タラサルヘキ乎  
 然レトモ四時ノ序功ヲナモハ去ル回歷後既ニ五星

霜黃塵稀ナル清閑ノ地ニ優遊自適スル君カ當時ノ  
 政變ヨリ聯想シテ今日ノ元勳ニ及ベハ豈多少ノ感  
 ナシトセンヤ、吾人ハ君ノ如キ出處進退ヲ欽慕セ  
 サルヲ得ス、君ハ舊大村藩士渡邊殿氏ノ二子貴族  
 院議員渡邊清氏ノ實弟ナリ、天保九年四月藩地ニ  
 生ル、安政ノ未東上シテ安井息軒翁ノ門ニ入り儒  
 學ヲ修メ、又齋藤彌九郎氏ニ劍道ヲ學フ、幕府ノ  
 未造ニ當リ、尊攘ノ志ヲ懷キ、桂小五郎、高杉普  
 作諸等藩ノ名士ト交ヲ通シ薩長ノ連衡藩論ノ方向  
 ニ就キテ幹旋甚メカム、明治戊辰ノ役君侯ニ隨行  
 シテ上京シ自ラ出師ノ事ヲ掌理ス既ニシテ天下復  
 平安ナリ、藩主特ニ世祿三萬石ヲ賜フテ殊遇ス、  
 明治元年長崎總督府出仕トナリ權辯事待詔句主事  
 中辯彈正大忠等ニ歷任ス、三年四月朝廷君カ積年  
 ノ勤勞ヲ賞シ永世祿ヲ賞典セラル、同年盛岡知事

ニ任シ爾來大坂府大參事、大坂府知事元老院議員  
 參事院議員等ヲ經テ會計檢査院長ニ任ス、時ニ明  
 治十七年ナリ之レヨリ先キ累進シテ從四位勳三等  
 ニ陞叙セラル、廿年五月華族ニ列シ子爵ヲ賜ヒ勳  
 二等ニ叙セラル、此ノ年歐米各國ニ差遣セラレ會  
 計制度ヲ調査ス、在留歲餘ニシテ歸朝シ爾來其見  
 聞ヲ以テ會計制度上ニ關シ企畫スル所尠カラス、  
 二十五年正三位ニ叙セラレ、後職ヲ辞シテ閑散ノ  
 身ニアリト雖モ同族ノ推ス所トナリ貴族院議員ニ  
 當選シ現ニ其職ニアリテ從二位勳三等子爵タリ。

漁 業 家 高 井 義 喜 久 君

下谷區谷中清水町一 電話下谷三六七四

我新領地タル極北樺太ノ地、荒涼蕪原、山岳兀ト  
 シテ、朔風野ヲ掠メ凜乎タル霜晨ノ感アリ、此ノ  
 地無限ノ富ヲ藏ス、漁業亦其一タリ、君ハ夙ニ

漁業發展ノ爲メニ半生ノ力ヲ傾注セラレ、曾テハ  
 露國ニ赴キ内山吉左氏ノ主任タル露領沿海州水産  
 組合ニ事務ヲ執リ、逐年露國駐劄本邦領事ト親交  
 ヲ結ヒ、日本漁業組合ヲ代表シテ露國政府ニ再三  
 ノ建議ヲ爲シテ嘉容セラレ、其智略ハ同國官憲ノ  
 信用スル所トナリ、交亘ノ親善ヲ結ヒ彼我ノ意志  
 疏通ニ盡瘁セラル、日露戰役終局ニ際シ、大本營  
 ノ通譯官ニ任用セラレ次テ辭職セラル、君ハ北門  
 ノ遺利ヲ開發セント欲セラレ、同三十九年四月、  
 サガレン漁業者ノ後援ヲ受ケロモ一及ヒ北樺太シ  
 ベリヤ沿岸數百里ノ間ヲ踏査シ、漁業所數ヶ所ヲ  
 設ケ盛ニ斯業ニ執掌セラレ、今ヤ名聲籍甚ニシテ  
 斯界ノ重鎮ヲ以テ極北ノ地ニ稱ヲ唱ヘツ、アリ、  
 而シテ君ハ高井榮司氏ノ長男ニシテ明治六年五月  
 十一日ノ産ニ係リ、長野縣舊松代藩士ニシテ神學

校ヲ卒業シ、露語ニ精通セラルト云フ、而シテ君ハ忍耐克己ノ性ニ富ミ、千挫不撓ノ精神ヲ發揮シ以テ現今ノ地位ヲ得タルモノ亦以テ後進ノ鑑鑑タルニ足ラン歟。

代議士 磯部保次君

芝區高輪車町三五 電話芝一〇三三

君ハ茨城縣西茨城郡笠間町字笠間ノ出身ニシテ、明治元年七月ノ出生ナリ、明治十八年ノ頃上京シテ三田福澤先生ノ塾ニ入り廿四年十二月卒業ス、當時同僚間ニ美談トシテ傳ヘラレタルハ、彼ノ滔々タル素封家子弟ノ奢侈ヲ排シ、月額僅カニ六圓ノ學費ヲ以テ自炊苦學シタリト云フ、卒業後岩田武雄氏ノ推薦ニヨリ創設中ノ播州鐵道ニ入り一躍シテ會計課長トナリ、孜々汲々成績頗ル良好ナリ即チ六年間ノ精勵ハ君カ今日ノ大ヲ爲スノ基礎タ

ラスンハアラス、後東京馬車鐵道ニ入りテ財政整理ニ任シ兼ヌルニ小田原馬車鐵道ノ會計長ヲ以テス、即チ前者ノ整理ニ於テハ、遺憾ナク君ノ眞技ヲ發揮シ爾來振ハサル同社ヲシテ二割乃至三割ノ配當ヲナサシムルニ至ル、三十六年馬車鐵道カ電氣鐵道トナルニ及ヒ、鹽谷技師ト共ニ選マレテ米國ニ渡リ、材料ノ購入及歐米電氣事業ヲ視察シテ歸朝ス、這般ノ功勞ニ至リテハ皆消息通ノ知悉スル所ニシテ、當時安藤氏ト共ニ同社ノ二俊秀ト稱セラル、既ニシテ三電車合併後東京鐵道會社經理課長トシテ屢々樞機ニ參與セリ、殊ニ君カ車掌及運轉手ニ對スル、同情ハ頗ル感ス、ヘキ美點ニシテ常ニ自己ノ損益ヲ度外シテ彼等ノ増俸ヲ要請シ爲ニ重役ト論争シタルコト屢々ナリシト云フ、四十年主事ヲ辭シテ取締役トナル、此時第十四回衆

議院議員總選舉ノ事アリ、郷里茨城縣郡部ヨリ推サレテ候補トナリ、而モ何等政黨ノ後援ヲ有セサル君カ高點ヲ以テ當選シタルハ確カニ異彩ナリキ過般千代田瓦斯株式會社ノ創立成ルヤ推サレテ專務取締役トシテ銳意發展ヲ計畫シツ、アリ、如斯シテ政治、實業ノ兩界ニ亘リテ其手腕ヲ發揮セラシ、君尙春秋ニ富ム、ソノ玉成豫メトスルニ難カラサルナリ。

實業家 平澤道次君

本所區橫網町二ノ三 電話下谷二二五七

君ハ備後國福山ノ舊藩士平澤八兵衛道弘氏ノ養孫ニシテ天保十四年二月江戸本郷駒込西片町ノ藩邸ニ生ル、祖父ハ性質謹嚴ナル名士ナリシ、常ニ曰ヘラク我家子孫ノ爲メニ美田ヲ買ハス今ヨリ宜シク之レヲ服膺スベシト其主義抱負ニ基キ傳來ノ財

産ヲ賣放チ以テ公共事業ニ投シタリ、又藩ノ子弟ガ武術ノミニカヲ盡スノ如キアルヲ見テ曰ク時勢ハ必ス發展ノ運ヒニ趨ヒ算籌ノ必要ヲ生スヘシト是ニ於テ君ヲシテ算數ノ研鑽ニ從事セシム、其遠眼實ニ驚ク可キアラサヤ、君ハ此ノ薰育ヲ受ケ算數ノ道ニ長シ其暗算ノ的確ナル如キハ往々他ヲ驚カシムト、歳十三ニシテ市メテ勘定所見習役ニ出身シ祖父ノ歿後生母ト共ニ福山ニ歸邸シテ勘定帳元役ニ進ミ以テ明治元年通商役ニ拔擢セラル、同三年藩命ニ從ヒ北海道ニ航シ其開拓諸般ノ事務ヲ掌ル數年在勤中廢藩置縣ノ事アリテ後チ大藏省ニ出仕シ海軍省ニ轉任シ、爾來官等勳位ヲ歷進セラレ海軍本省ニ職ヲ執ルコト數十年ナリ、二十七八年ノ戰役ニ方リテハ數職ヲ兼掌シ就中臨時軍事費ノ仕拂命令官トシテハ巨額ノ收支ヲ管掌シ戰時



軍資金ノ活用ト刻苦經營ノ遲滯緩漫ヲ見サリシト其結算事務ヲ速了セシメタルコトハ世人ノ齊シク知悉スル所ニ屬セリ平定ノ後其功勞ニ依リ勳三等ニ叙セラレ旭日中綬章及ヒ年金ヲ賜ハリ更ニ一時金一千五百圓ヲ特ニ加賞セラレシ如キ恩典ニ浴シタルハ君ノ功績ノ非凡ニシテ顯著ナルニ由ラスンハアラス、君ハ管ニ計數ノ術ニ達スルノミナラス又能ク工事上ノ設計ニ長シ彼廣嶋軍用水道布設ノ事其他軍用建築ノ工事ニ關シテモ職務上成績少ナカラスト云フ、東京市區改正委員ニ命セラレ又ハ三十年機密事務ヲ帶ヒテ朝鮮ニ航シ大ニ計策スル所アリテ今尙ホ國家有益ノ形績アリシコトハ顯然タリト、君ハ累進シテ海軍一等監督ニ任セラレ次テ威海衛ニ於ケル日清英三國ニ渉ル撤兵事務ノ爲メ清國ニ派遣ヲ命セラレ其解決ヲ了セシガ如キハ

君ノ手腕ト明晰ナル頭腦ヲ活用セラレシコトハ信スルニ足ルヘシ卅三年二月海軍ノ現役年齡滿限ニ依リ後備役ニ編入セラレ、特旨ヲ以テ正五位ニ叙セラレ、君ハ直チニ東京石川島造船所ニ入りテ專務取締役トナルヤ從來同所ノ復雜ナル難局ニ當リ一層ノ奮勵ヲ以テ營業上ハ素ヨリ社内ノ大刷新ヲ計リ改良ニ續クニ改良ヲ以テシテ同所ノ聲名ヲ傳セシメラレタル其堪忍ノ強固ナルコト甚大ナリキ同所ノ其隆盛ニ至ルヤ君ハ四十年五月任期滿了ニ際シ辭シテ之レヲ後繼者ニ讓ラル、同所ハ君ノ功績ノ偉大ナルヲ以テ屢々株主總會ノ決議ニ依リテ感謝狀及ヒ金圓ヲ以テ功勞ヲ表セラレタリ以テ君ノ如何ニ同社ニ盡瘁セラレタルカヲ窺知スルニ足ルヘシ、又君ハ日韓瓦斯電氣株式會社創設ニ際シ推サレテ現ニ監査役タリ、君ハ百般ノ事業ニ熱心

ニシテ能ク其濫域ニ精通ス、君ハ性資温厚ニシテ堅實廉潔且博愛仁俠ニ富ミ人ノ難ニ馳セテ救濟ノ道ヲ講スルコト多々アリキ、同儕常ニ敬慕シテ措ラサリシト云ヘリ、君ハ軍衛ニ竭セシ計理ノ頭腦トヲ以テ更ニ實業界殊ニ其造船ニ披瀝セラレタリ經世家多ク又利殖家多シト雖モ君ノ如キ經世家ハ實ニ寥々晨星ニ異ナラス、君ハ祖父ノ訓戒ヲ嚴守シ幾度カ苦境ニ出入シテ猶ホ常規ヲ逸セス自主獨立ノ意義ヲ發展シ來リタルハ眞ノ經世家ナリト謂フヘシ尙ホ自重加登シテ國家ノ爲メ貢獻スル所アラシコトヲ切望ス。

米穀取引所仲買丸正商店

松谷正太郎君

日本橋區橋元町栗林商店内電話浪花 特長一三五三  
長一五九九、長四三六三

動モスレハ兎角ノ世評ヲ受ケ易スキ仲買業者中、

寧ロ堅實ニ過クルノ定評ヲ受ケツ、アル君ハ、多年斯界ニ奔馳シタルノ少壯家ニシテ、今ヤ店舗ノ責任者ハ、同志栗林真太郎氏ニ托シツ、アルモ、事實上、兩者ノ合意的計劃ニヨリ、着々トシテ多年ノ主義ヲ發揮シ、節操依然トシテ嚴乎タリ、略傳ニヨレハ君ハ武州ノ人明治四年ヲ以テ生ル、爾來ノ經歷頗ル趣味アルモ、今ハ單ニ一隅ヲ揚ケンニ、其普通學ヲ終リタル十二歳ノ時、嵩古香ト稱スル學僧ノ塾ニ入り、漢籍ヲ修ムル事年アリ、尋テ同縣立中學校ニ入り、專ラ正則ノ修學ニ從事ス後廢校ノ運命ニ接スルヤ、翻然感悟スル處アリ、身ヲ實業界ニ投セント企テ、川越八十五銀行頭取黒須喜兵衛氏ノ下ニ至ツテ小僧生活ニ入ル、此自ラ造リシ動機ハ、應テ中央市場ニ名ヲ爲スノ發點ナリキ、爾來嚴格ナル黒須氏ノ薰陶ヲ享ケ、大ニ

修養スル處アリ、年十九、辞シテ實家ニ復期ス、  
 靜思四年、斷然期スル處アリ、出テ、帝都ノ中樞  
 米屋街ノ人トナル、奮闘ノ意氣頗ル旺盛、知人ヲ  
 シテ未來ヲ囑望セシメツ、アリキ、最初小林源次  
 郎氏ノ名義ヲ以テ米穀取引所仲買ノ店舗ヲ開キ、  
 卅三年自ラ名義ヲ露ハシ、表裏共ニ當面ノ局ニ立  
 チ、益々斯界ノ信用ヲ博シ、更ニ往年栗林氏ノ名  
 義トナスニ至リ、蓄積セル地盤ハ愈々鞏固ナルニ  
 至レリ、君年齒尙壯、前途ノ發展期シテ待ツヘキ  
 ノミ、至囑、至囑。

### 實業家 石田亦一郎君

芝區高輪車町八三 電話芝二一九七

君ハ岩手縣水澤藩醫、石田俊二氏ノ長男ニシテ安  
 政五年七月ヲ以テ生ル、夙ニ明敏ノ資ヲ以テ雄大  
 ノ志操ヲ抱キ、累代祖業ノ藩醫ニ甘ンセス、破天

荒ノ快舉ヲ以テ一世ヲ驚倒セント欲シ、社界ノ大  
 勢ヲ達觀シ、縣下狩場澤山林ヲ拂下ケ、木材ノ代  
 採ヲ爲シ、鐵道枕木、經木、薪炭等ノ供給ヲ爲シ  
 更ニ私財ヲ抛テ狩場澤輕便鐵道ヲ布設シ、交通機  
 關ノ完備ヲ計ラル、地方人士カ其恩惠ニ浴スルコ  
 ト多大ニシテ皆其德ヲ謳歌セリ、次テ又鑛山經營  
 ニ志シ、越後北魚沼郡ノ鑛山及外數ヶ所ノ金、銀  
 銅、亞鉛、等ノ採掘ヲ計リ着々トシテ功ヲ奏シツ  
 、アリ其大成ヲ見ルモノ蓋シ遠キニアラサルヲ知  
 ルヘシ。

### 實業家 内田幾助君

本所區吉田町一六 電話長下谷二二八

帝都ニ於ケル實業家ニシテ鏘々タル名聲ヲ博シ豪  
 商紳士トシテ世ノ推敬ヲ受クル者枚舉ニ遑アラヌ  
 ト雖モ、能ク勤儉貯蓄ノ美風ヲ存シ、眞摯熱實ニ

シテ質素ヲ固守シ、社會ノ信用優大ナルモノ内田  
 幾助君ノ如キハ最モ稀ナル所ナリ、君ハ府下北豊  
 嶋郡練馬村ノ人、内田八三郎氏ノ長男ニシテ周次  
 郎氏ノ令兄ナリ、帝都ニ於テ名ヲ成シ業ヲ遂ケン  
 ト欲シ、明治十年僅少ノ資本ヲ以テ本所區吉田町  
 ニ店舗ヲ開キ、廢物利用ノ誠意ヲ以テ古銅鐵ノ賣  
 買ヲ始メ、忍耐至誠ノ性情ヲ發揮シテ更ニ屈撓ノ  
 色ナク、時運ノ展開ニ伴ヒ君ノ業務ハ日一日ヨリ  
 旺盛ヲ極メ、現今ノ取引ハ實ニ一ヶ年五十有餘萬  
 圓ノ多額ニ達セリ、現ニ東京市及大坂等樞要ノ都  
 府ニ在テ水道部ニ於ケル、各戸ニ配付セラレタル  
 炮金及眞鍮ノ『カラン』ノ原料ハ悉ク君ノ鑄造工場  
 ニ於テ供給セラル其品質ノ良否ハ吾人ノ喋々ヲ俟  
 タスシテ世ノ定評アル所ナリ、彼ノ精工ヲ以テ名  
 アル輸入品ヲ凌駕スルコト實ニ數等ナリトハ使用

者ノ實見ニ屬セリ、曾テ米國桑港ノ製鋼會社ノ社  
 員來朝シテ君ノ工場ヲ縱覽シ深ク其進歩ヲ嘆賞セ  
 ラレタリト云ヘリ、君ハ謙遜辭讓ノ美質アリテ決  
 シテ浮華嬌奢ヲ好マス、常ニ綿衣綿服ヲ纏テ店員  
 ト雜居シ、顧客ノ迎接最モ鄭重ヲ極ム、誠ニ古聖  
 賢ノ遺風ヲ存スルモノ、現代富豪ノ模範タルニ愧  
 チサル實業家ナリト云フヘシ。

### 實業家 堀井松之助君

麻布區水坂町二三 電話芝一〇四〇

更科本店ノ當主、堀井松之助氏ハ布屋大兵衛（更  
 科ノ舊稱呼）氏ノ嫡男ニシテ慶應元年八月現所ニ  
 生ル、由來同店ハ更科蕎麥ノ老舗トシテ江戸名物  
 ノ一ニ數ヘラレ、斯道ノ食通ノミナラス、一般人  
 口ニ膾炙セラレツ、アル處ナリ、而シテ其品質ノ  
 精良云ハズモガナ、尊キ方ヨリ一般ノ人士ニ至ル

マテ其醇ナルヲ歎美ス、維新ノ際、大ニ打撃ヲ被  
ツテ家運漸ク傾キ、此一名物モアタラ時代革命ノ  
餘波ヲ受クルノ止ムナキニ至レリ、君此時未タ弱  
冠、早クモ辛酸ニ遭フ、爾來銳意復活ヲ計リ、孜  
々汲々挽回ヲ講シテ今日ノ隆運ニ向ハシムルニ至  
レリ、如斯シテ盛名昔ニ優ツテ地步遂ニ樹立スル  
ヤ、去ル卅五年支店ヲ日本橋區三代町四番地及神  
田區錦町三丁目五番地ニ設ケ、前者ハ叔父藤村源  
三郎氏其衝ニ立チ、後者ハ姉婿堀井丈太郎氏其局  
ニ當リ、三者鼎立各々繁盛ヲ競ヒツ、アリ、尋テ  
更科蕎麥粉ヲ製出版賣ノ一新機軸ヲ出シ、コレ亦  
良ク時好ニ投シテ苦心ノ効亦空シカラサリキ、君  
以上ノ劇務ニ從事スルノ傍ラ、夙ニ區内ノ公共事  
業ニ盡瘁シ、同區會議員トシテ鞅掌シタルノ功勳  
亦埋没スヘカラサルモノアリ、尙更ニ株式會社麻

布銀行重役トシテ大出資者ノ一人ナリ、而シテ箇  
性ノ半面トシテハ、温厚篤實、極メテ慈善ノ美風  
ニ富ミ、世ノ孤弱ヲ恤ムノ義舉ハ、既ニ世人ノ知  
悉スル處ナリ。

### 實業家 鈴木善助君

神田區鎌倉町二一 電話長本局九六〇

堅忍精勵能ク其節操ヲ持シ、千難迫リ來ルモ頑ト  
シテ更ニ變渝セス十數年ノ砥礪ハ商業ノ蘊奧ヲ盡  
シ、永ク祖業ヲ守リテ家運愈々揚ルモノ君ノ如キ  
ハ蓋シ異數ト云フ可シ、抑モ君ハ純粹ノ江戸子  
ニシテ仁俠義氣敢テ人ニ讓ラス、社界ノ爲メ公共  
ノ爲ニ私財ヲ抛チ、奔走盡力致ラサルナク、人ヲ  
シテ常ニ仰慕ノ念ニ堪ヘサラシム、眞ニ當代ノ精  
華タルヲ失ハス、德望都下ニ隆々タルモノ亦故ナ  
キニアラサルナリ、君ハ明治二年六月ヲ以テ神田

ルモノハ何レモ君ノ干與スルヲ見ル、其舊江戸ノ  
名物タル仁俠ノ氣慨ハ君ニ依テ遺憾ナク發揮セラ  
レヌ、吾人ハ其氣魄ノ旺盛ニシテ一點ノ瑕玼ナキ  
ニ多大ノ望ヲ囑セスンハアラス、後進ノ龜鑑トシ  
テ推重スルモノ豈偶然ナランヤ。

### 日本煉炭株式會社主事

### 森本 鉾 太郎君

府下豊多摩郡千駄ヶ谷村原宿一八六

ノ現住所ニ生ル、父ヲ善三氏ト稱シ君ハ其長男ナ  
リ、累世乾物問屋ヲ營ミ、斯界ノ老舗タリ、幼  
ニシテ慧敏、早クモ商業見習ノ爲メ日本橋區小船  
町ノ砂糖商小林彌兵衛氏ノ店丁トナリ、爾來刻苦  
勉勵一日ノ弛怠ヲ見ス、居ルコト三年有餘ニシテ  
更ニ堀留町ノ小林吟次郎氏方ニ轉シ、コ、一層ノ  
奮勵ヲ加ヘ、主家ノ爲メニ多大ノ貢獻ヲ爲シ、其  
信認亦非常ノ厚キヲ加ヘラル、數年ノ練磨ハ老熟  
ノ域ニ達シ、奇智縱横ノ策ヲ揮テ、利益ヲ占ムル  
コト甚タ多シ、後歸宅シテ乾物問屋ノ業ニ從ヒ、  
營々トシテ勵ミ、孜々トシテ勉メ、社會ノ信用大  
ニ加ハリ、衆望一ニ君ニ歸シテ同業者組合ノ成立  
ヲ見ルヤ君選ハレテ其組合長ニ推サレ爾來同業者  
ノ爲メニ盡瘁セルモノ幾干ナルヲ知ラス、更ニ赤  
十字社、義勇鑑隊、獎兵義會其他公共事業ニ關ス

君ハ東都牛込ノ人ニシテ元治元年ヲ以テ生ル、學  
卒ツテ直ニ海軍ニ奉職ス、時正ニ明治二十二年ノ  
交ニシテ爾來専ラ横須賀鎮守府ニ在勤シ、精勵克  
ク上長ノ信任ヲ博シ、累進シテ艦營需品購買主任  
トナル、熱誠ナル萬般ノ施設、良ク機宜ニ適ス、  
十有餘年孜々トシテ一日ノ如ク、些ノ失態ナク、  
進退頗ル要領ヲ得、由來其職務ノ性質上動モスレ

ハ奸商輩ノ乘スル處トナリ、陰密ノ間幾多ノ罪惡ヲ以テ蔽ハレ易キ境遇ニ處シ、公明正大一點ノ私ナク、今尙一部人士間ニ賞揚セラレツ、アル處ナリ、去ル卅三年、官ヲ辞シテ日本煉炭株式會社ニ入り、長崎縣西彼杵郡土井首村同社工場ニ在勤ス前後三年販賣主任トシテ致サレタル努力ハ尠ナクトモ同社ノ事情ニ通スルモノヲジテ賞讃セシメツ、アル處ナリ、即チ同社ノ組織ハ、東京本店ニ於テ事務ノ統轄ニ任シ、長崎工場ニ於テ製産ニ任シ、兩所相俟ツテ進捗スヘキ方法ヲ執リツ、アルヲ以テ、長崎ニ於ケル販賣主任ノ技量ハ、直ニ會社ノ消長ニ影響ス、君カ此間ニ處シタル功績ハ、決シテ埋没ニ附スヘキ者ニアラサルナリ、蓋シ多年研磨ノ鐵腕ト天賦ノ勤直トハ、茲ニ渾和シテ具体現シタルニ外ナラサルナリ、即チ其活動ハ價值アリ

實業家 友田嘉兵衛君

横濱市境町二ノ三六 電話七四

意義アル者ナリキ、既ニシテ小野社長ノ知遇ヲ得招聘セラレテ本社主事トナリ、事實上一切ノ社務ニ缺掌シ、例ニヨツテ拮据經營一日ノ弛怠ナシ、前年來、經濟界ノ共通的打撃ヲ受ケ、一時發展ヲ妨ラレシト雖モ熱心ナル君等ノ奮闘ニヨリ、漸次復活ノ曙光ニ接シツ、アリ、コレ其實業上ニ於ケル概歴ニシテ特ニ吾人ノ曰ハント欲スルハ其人格ナリ、乃チ身ヲ持スルニ薄ク人ヲ待ツニ厚ク稜々ノ俠骨寔ニ純東京男兒ノ面目躍如タリ、更ニ尊重指ク能ハサルハ、彼ノ二宮尊徳翁ノ遺訓ヲ導奉シ以テ精神的安心ヲ得ツ、アルトイフニアリ亦以テ當代噴々流ノ比ニアラサルナリ。

金港一流ノ實業家トシテ快腕縱橫、實業ニ市政ニ

社會事業ニ、三面六臂ノ活動ニ當ツテ其成績ヲ收メ、今ヤ金港ノ先識者トシテ崇敬セラレツ、アルモノ是友田嘉兵衛氏ナリトス、君ハ大坂ノ人、天保十三年十月大坂市東區道修町二丁目ニ生ル、嚴父利兵衛氏ノ三男ナリ、幼ニシテ穎悟、夙ニ學ヲ修メ秀才ノ名アリ、已ニ普通教育ヲ終ルヤ、實業ノ將來ヲトシテ即チ明治四年横濱ニ來リ藥種商ニ入ツテ商業ヲ見習ヒ、後仲買商某ノ店員トナリテ生糸貿易ノ業務ニ當リ、忽チ主人ノ信用ヲ得、愈々重用セララル、ニ至リヌ、明治十一年感ズル處アツテ主家ヲ辞シテ獨立シ、茲ニ藥種貿易業ヲ開始シ、爾來拮据經營些ノ怠リ無カリシカバ、果然家運隆々遂ニ今日ノ大ヲ致スニ至ル、之レヨリ先キ君常ニ本邦商人ノ道德觀念ニ乏シキヲ憂ヒ、専ラ心ヲ商業道德ノ振興ニ注ギ、卒先シテ自ラ其ノ摸

合名會社安西商店代表社員

今泉卯吉君

横濱市西戶都町七二三 電話七一四

範ヲ中外ニ示シ、以テ大ニ本邦商人ノ面目ヲ發揮シタリ、是眞ニ賞シテ餘リアリト云フ可シ、尙曩ニ横濱商業會議所員、市會議員ニ推選セラレ、市民ノ重望愈々加ハルニ至リヌ、懷ヒ見ヨ、維新勿々ノ際、未タ其緒ニタモ付カサル金港ニ立ツテ、粒々辛苦ノ困難ハ、實ニ名狀ス可ラズ、而モ不屈不撓ノ大決心ヲ以テ遂ニ初志ヲ敢行セシ其壯、亦以テ後進青年ノ模範タルニ値ヒス、君資性温良ニシテ恭謙自讓、思慮綿密ニシテ事ヲ愆ラズ、苟クモ漫然ト事ヲ企テ、徒ニ運命ヲ決スルガ如キ輕舉ナシ、蓋シ當代多カラザルノ士ト云フ可シ。

士ハ自ヲ知ル者ノ爲ニ死ス、男兒元來知遇ニ辜負

好範典トシテ推薦スルニ足レルヲ信シテ疑ハサル所ナリ。

### 實業家 千葉胤義君

赤坂區青山北町五ノ一五 電話三三二七四

セサルヲ尙ブ、澆季ノ未法果シテ這般ノ道義ヲ求メ得ラルヘキヤ否ヤ、吾徒君ガ半生ノ閱歷ヲ耳ニシ、其男性的氣魄ヲ謳歌ス、君ハ横濱ノ老紳安西德兵衛氏ノ姻戚タリ、明治十八年安西氏ガ、金港ノ一角ニ旗ヲ舉クルヤ、君入ツテ其補翼トナリ爾來二十有餘年間孜々汲々同店ノ隆昌ヲ計圖シテ專念一日ノ止ムナシ、其間仲買及仲次業トシテ自己經營ニ努メツ、アリシガシカモ安西商店支配人トシテ力ヲ致シタルモノ一貫シテ變渝アルナシ、卅九年六月、獨立シテ業ヲ創ムルアリシガ、翌四十年合名會社安西商店ノ創立アルヤ、同店ノ代表社員トナリ、例ニヨツテ當面ノ局ニ當リツ、一切ノ實權ヲ收メテ同店繁茂ノ策ヲ講シツ、アリ、如斯シテ全幅ノ努力ヲ拂ヒ、銳意全精力ヲ舉ケテ忠實ナル劃策ヲ提供シツ、アル處、眞ニ當代紳士ノ

電氣瓦斯工業ノ發達ハ近代ニ屬シ、時運ノ趨勢ニ伴ヒ沼々トシテ展開セラレ、其需用日ニ殷盛ヲ加フ、我カ千葉胤義君ノ如キハ、學理ト經驗トニ於テ斯界ニ一頭地ヲ拔クモノ帝國有數ノ金傑ト直接往來シテ親交ヲ結ヒ、昨四十二年十二月資本金五十萬圓ヲ投シテ豊崎瓦斯株式會社ヲ創設シ目下其實行中ニアリ、尙大倉喜八郎氏等ト謀リ、電氣瓦斯株式會社ノ發起ニ計畫ヲ爲シ、更ニ清國安東縣ニ於テ瓦斯株式會社ノ設立ニ多大ノ盡瘁ヲ爲ス等斯界發展ノ爲メニ貢獻スル所甚々多シ其完成ノ曉ハ東洋諸國ノ工業界ノ一新紀元ヲ劃スルヤ必セリ

### 馬政局長官 淺川敏靖君

府下豊多摩郡大久保百人町五三 電話番町二二一

抑モ君ハ如何ナル經歷ヲ有セララル、ヤ、是レ吾人カ聊カ叙セシト欲スル所ナリ、君ハ宮城縣登米郡石越村ノ人、累世醫ヲ業トシ同地方ノ舊族タリ、明治十年十一月ヲ以テ生レ夙ニ中學校ノ課程ヲ卒業ハリ、高等中學ニ入り多年勉學ノ功ヲ擧ケ、學績優良ヲ以テ卒業セラレ、後東京英語學校ニ遊ヒ、造詣大ニ加ハル、君實業界ニ其雄大ノ鵬志ヲ伸ヘント欲シ、先ツ印度支那滿州方面ヲ踏查シ更ニ歐米各國ヲ漫遊シ新智識ヲ享受シテ歸朝セララル、後某外國人ト計リ日本鑛物輸出合資會社ヲ創立シ、專ラ黒鉛ノ輸出ヲ企畫セラル、爾來同社ノ發展ハ著ルシク進捗セラレ常ニ努力主義ヲ勵行シテ着々功ヲ擧ケツ、アリ、吾人ハ君ノ工業上ニ於ケル多大ノ功勞ニ對シ、常ニ嘆賞シテ止マサル所ナリ。

馬匹ノ改良ガ軍國ノ急務タルハ今更吾人ノ辯ヲ要セサル處、我當局亦夙ニ茲ニ意ヲ須ヒ、百方其發達ヲ謀リシガ、近ク日露戰役ノ結果、一政局ヲ設ケテ是ガ改良普及ニ當ラシムルニ至リ、君ハ多年ノ閱歷ヨリシテ、遂ニ推サレテ其長官ノ重職ニ當リ、銳意改善ノ任ヲ全フシツ、アリ、試ニ其小歴ヲ見レバ、君ハ山梨縣ノ平民、萬延元年四月十八日ヲ以テ生ル、夙ニ文武ノ道ヲ修メ、健剛敏才郷間ニ名アリ、明治十八年甫メテ騎兵少尉ニ任セラレテ軍務ノ人トナリ、同二十二年獨逸ニ留學ヲ命セラレ、在ル事三年、同國陸軍制度ヲ研究シテ廿五年歸朝ス、當時已ニ馬匹改良必要ノ弊アリ、君亦其論者トシテ其急務ナルヲ説ク、後日清、北清

### 及劍商小倉陽吉君

京橋區木挽町一ノ一五 電話京橋一七二九

ノ兩戰役ニ於テ愈々其急ナルヲ認メ、當局亦意ヲ同ウシテ茲ニ馬政調査會ヲ設ク、依ツテ君其委員トナリ調査研究ヲ怠ラズ、偶々日露交戦ノ事アリ戰役中大佐ニ任シ、陸軍省軍務局騎兵課長トナリ馬匹ノ徵發輸送ニ盡ス、戰雲收マルヤ、其功ニヨリ勳三等ニ叙シ功三級金鷄勳章ヲ授ケラレ、尋テ四十二年少將ニ陞任ス、斯クテ日露戰役ノ結果ハ遂ニ馬政局ノ設置トナリ、内閣直屬トシテ會根男其長官トナリ、君其下ニ在リシガ、後遂ニ長官ニ進ミ、茲ニ陸軍馬政ノ大任ヲ帶ヒ、多年ノ經驗ヲ傾ケテ軍國ノ重職ヲ完フシシ、アリ、其専門的手腕ニ至ツテハ他ニ一人ノ對者ナク、最適任者トシテ衆望君ガ四周ニ至リ、功績ノ揚ル可キヲ期シテ疑ハズ。

三尺ノ秋水、日東男兒ノ氣ヲ吐ク、光芒電閃夏尙寒、由來武士道ノ消長ト日本刀トノ關係ハ巧妙ナル歴史ノ跡ヲ印シツ、アリ、明治維新ノ革命ハ斯界ノ老手ヲ失フ、君少壯ノ資ヲ以テ斯界ノ「オウソリチー」ト稱セラル、傳ニヨレバ、君ハ明治十一年ヲ以テ現所ニ生ル先代惣一郎氏ノ長男ナリ、家ハ代々網屋ト稱シ、刀劍及附屬商ノ老舗トシテ其名良ク喧傳セラル、然ルニ先代思フ處アツテ實業ニ轉シタリシガ、計圖好果ヲ得ル能ハズ、家運漸ク傾ク、之ヨリ先、君幼ニシテ祖父惣右衛門氏ニ伴ハレテ越後ニ至リキ、既ニシテ家運衰退ノ極ニ達シ、遂ニ傳來ノ家業ヲ廢シテ再ヒ祖父ト別居セザルヘカラサルニ至レリ、茲ニ於テカ君ハ祖母ノ

手一ツニ養ハル、ノ慘狀ヲ呈セリ、コレヨリ先キ幼時早クモ刀劍ニ趣味ヲ有シ、其鑑識眼等侮ルベカラサル者アリキ、既ニシテ天才愈々發揮シ、自ラ亦期スル處アリ、同家ノ中興者トシテ自他共ニ認容スル處タリキ、遂ニ由緒アル網屋ノ暖簾ヲシテ復活スルニ至レリ、爾來研究ニ研究、工夫ニ工夫ヲ重ネ、苦心亦空シカラスシテ、天質ノ麗玉良ク琢磨セラレ、當今斯界ノ第一流ト稱セラル、ニ至レリ、如斯シテ一面店務亦隆昌ヲ極メ、遂ニ今日ノ成功ニ到達セリ、コレ單ニ吾人ノ阿諛的言辭ニアラズシテ斯界消息通ノ定評ナリ、更ニ其人物ニ至ツテハ濃厚篤實ノ青年紳士ニシテ一點ノ銜氣ナク、天真流露秋毫ノ輕薄ナシ、モシ夫レ公共慈善ノ美風ニ至ツテハ敢テ吾人ノ蛇足ヲ須ヒサル處ナリ君亦前途多望ノ人ト謂ツベシ。

### 候衆院議員 德川頼倫君

麻布區飯倉町六ノ一四 電話芝三三八 三三九

當家ハ贈大政大臣德川家康公ノ第十子大納言頼宣ノ後ナリ、頼宣父君大御所ニ從ツテ屢々軍功アリ天下平定ノ後紀伊ニ封セラレ世稱シテ紀伊大納言ト云フ、治績大ニ舉ツテ絶世ノ英主タリ、寛文十一年正月年七十ニシテ薨ス、其子光貞ヨリ十世ヲ經テ先代茂承ニ至ル、茂承維新ノ變革ニ際シテ特ニ功アリ、明治二年他藩ニ卒先シテ藩籍ヲ奉還シ改メテ和歌山縣知事トナリシガ、幾干モナク辭シテ東上シ、悠々閑々世外ニ超越シテ風流ヲ極メ、善行美事ヲ盡シ、公私ノ事業ニ貢獻シタルモノ擧ケテ數フ可ラズ、十七年華族令ノ發布ト共ニ侯爵ヲ授ケラレ、後貴族院議員トシテ國政ニ參與シツ、アリシガ、明治四十年薨去セラル君ハ其嗣子ニ

ナリ君亦前途多望ノ人ト謂ツベシ。

橫濱倉庫株式會社專務取締役  
衆議院議員 村野常右衛門君

橫濱市神奈川青木町字平尾窪一〇四八電話橫濱二三一八

シテ明治五年六月廿七日ヲ以テ生ル、早ク學習院ニ入り、成績優良ヲ以テ鳴ル、後年海外ニ航シテ研學數年、歐州ヲ巡遊視察シテ造詣大ニ加ハル、斯クテ先代ノ没後家督ヲ承繼シ、後貴族院議員トナリテ錚々タル名聲アリ、君夙ニ現代貴族社會ノ弊風ヲ慨嘆シ、之ガ矯正ヲ絶叫シ、優柔不斷ニ陥リシ意氣振興ヲ唱導ス、而モ學殖深奥見識優ス可ラズ出テ、上院ニ雄ヲ唱へ、入ツテハ同族ノ矯風ニ努力シ、又社會教育界ノ爲メ南葵文庫ヲ公開シ、近クハ舊藩下ノ發明家ヲ集メテ苦心談ヲ紹介シ其勞ヲ犒ラヒシガ如キ、以テ其人格ヲ想見シ得可シ、最後ニ特筆ス可キハ身ノ貴顯ヲ行ハズ常ニ平民主義ヲ唱導シテ躬ラ之ヲ行フ一事ナリ蓋シ現代貴族社會ノ偉才タルヲ失ハス、吾人ハ同族ノ爲メ又邦家ノ爲メ祝福ヲ祈ツテ已マザルルリ。

立憲政友會ノ重鎮トシテ、君ガ政治上ノ經歷ハ頗ル波瀾ニ富ミ、讀者ヲシテ奮然起タシムル者アリ其自由黨以來ノ苦戰惡闘ハ、亦以テ憲政史上ノ一人タルヲ失ハサルナリ、今ハ管ニ其概歷ニ止マ、餘韻ヲ保留シテ他日ニ讓ラントス、小傳ニヨレバ君ハ府下南多摩郡鶴川村ノ人ニシテ安政六年七月廿五日ヲ以テ生ル、家代々豪農ヲ以テ近郷ニ鳴リ常右衛門ヲ以テ襲名ス君明治二年ノ交清水某ノ私塾ニ入ツテ漢籍ヲ修メ、尋テ橫濱ニ出テ、益田咲菘先生ノ門ニ學ブ、明治十二年舉ラレテ戶長トナリ、爾來專ラ公共事業ニ盡瘁ス、會々自由民權ノ說熾ニ行ハレ、翫然トシテ天下ヲ風靡シ志士騷

兵庫縣選出衆議院議員

小寺謙吉君

赤坂區青山南町六ノ六八 電話芝二九二八

客、死ヲ決シテ天下ニ呼號ス、君亦青年國士トシテ東奔西走シ、關東ノ平野、血ヲ以テ彩ラル、ノ時、屢々死生ノ境ヲ出入シテ奮闘年アリ、尙一面村會議員、縣會議員、同常置委員等ニ選舉セラレテ縣治ノ爲ニカム、彼ノ所謂三多摩派ナル者ノ牛耳ヲ取ツテ處士橫議ノ概アリキ、三十一年府民ノ推ス處トナツテ衆議院議員トナリ、爾來連續シテ今日ニ至ル、故伊藤公ノ立憲政友會ヲ組織スルヤ同志ト共ニ盟ニ加ハリ、今ヤ同會ニ於ケル古參トシテ多年一貫ノ主張ヲ實行シツ、アリ、前年日露戰役ノ功ニヨリ勳四等ニ叙シ旭日小綬章ヲ賜ハル往年同志ト計ツテ橫濱倉庫株式會社ヲ起シ、今ヤ專務取締役トシテ漸進的態度ニヨリ社運ノ向上ヲカメツ、アリ、君亦多能ノ士ト稱スルニ足ル。

硬分士ヲ以テ下院ニ團ヲナス國民黨中、特ニ少壯硬骨漢ヲ以テ嶄然頭角ヲ現ハス者君ナリ、吾人ハ現今日本政界ノ狀態ニ就キ言フ可クアマリニ張合ヲ有セズ、雷ニ青年政治家タル君等正義ノ士ニ嚙シテ一縷ノ望ヲ繫クノミ、聞ク君ハ兵庫縣神戸市ノ人、明治十年四月ヲ以テ生ル、普通學ヲ卒業シテ入營シ、期滿チテ後蹴起大志ヲ抱ヒテ北米合衆國ニ航シ、彼ノ「コロンビヤ」大學ニ入り、苦學數年「バチエロル、オブ、ロース」「マスター、オブ、ロース」「ユーリス、ドクトル」等ノ學位ヲ領ス、君由來向上主義ノ人、此一段落ヲ以テ甘ンゼズ、

更ニ同國「カソリック」大學ニ入り研究多年又「ジ  
ンスホフキンス」大學ニ法律政治學等ヲ究ム、茲  
ニ於テ同地ヲ去ツテ歐洲ニ航シ、獨逸國「ハイデ  
ルベルグ」埃太利國「グイン」及瑞西國「ゼテ  
バ」大學等ニ歷學シ専ラ法政學ノ濫奧ヲ極メ造詣大  
ニ加ハル斯クテ歸朝シ、將ニナスアラントスルヤ  
偶々日露ノ戰役トナリ即チ應召シテ軍ニ從セ、克  
ク戰士ノ面目ヲ發揚シ累進シテ陸軍騎兵中尉トナ  
ル凱旋後勳六等ニ叙セラル、明治三十九年國際關  
係及商工業視察ノ爲メ歐米各國東亞諸邦ヲ踏破シ  
テ頗ル得ル處アリ、同四十一年第十回總選舉ニ際  
シ、政進兩黨ノ激烈ナル競争間ニ打ツテ出デ、絶  
大ノ精力ヲ拂ツテ郡部第二位當選ノ光榮ヲ贏チ得  
ルニ至リス、後同志ト共ニ又新會ヲ組織シ、不斷  
ノ活動ヲ以テ主張ノ實行ニ努メツ、アリシカ、曩

ニ立憲國民黨ノ組織サル、ヤ、同黨ニ入り黨中ニ  
於ケル少壯硬骨ノ一將タリ、四十三年四月三度歐  
州ニ遊ヒ、全歐刺ス處ナク漫遊視察シテ歸朝ス、  
尙、君曩ニ逝キシ嚴父ノ遺志ニヨリ、模範的中學  
ヲ興サント計畫中ニテ、既ニ其準備トシテ數名ノ  
俊才ヲ歐米ニ留學セシメ、特ニ研究セシツ、アリ  
校舍ハ地ヲ郷ニ選ヒ愈々本年ヨリ工業ニ着手ノ豫  
定ナリト言フ、記者一日親シク君ニ接シテ語ルニ  
些ノ墻壁ヲ設ケズ磊落ニシテ快活、口ヲ衝イテ出  
ル言々凡テ句ヲ成シ咀ハレタル現代ノ缺陷ヲ痛罵  
シテ剩サズ、其堂々タル立論ハ實ニ國民黨ノ鎮々  
ル而已ナラズ下院ノ彩花タル可キヲ想ハシメ、人  
格ノ高潔ナルハ其博識ト相俟ツテ徐ロニ君ノ將來  
ヲ俾バシキヌ、眞ニ一世ノ好漢、而モ尙春秋ニ富  
ム、希クハ吾人青年ノ代表者トシテ活躍以テ禿ケ

タル醜類ヲ根絶サレン事ヲ。

### 實業家 橋本直一君

日本橋區横山町一ノ二三 電話浪花二六五

我商業道德ノ廢頹ヲ嘆シ、是ガ振起ノ向上ニ留意  
シ、機關紙商工新報ニヨリテ主義ヲ主張シ、不斷  
ノ努力ヲ以テ我商業界ノ先覺者タルモノ君ナリ、  
試ミニ其閱歷ヲ見レハ、君ハ千葉縣山武郡鳴濱村  
ノ人、橋本新左衛門氏ノ男ニシテ元治元年六月ヲ  
以テ生ル、明治十年上京シテ一店舗ヲ開キ、洋物  
ノ賣買ヲ試ミテ利シ、遂ニ明治廿九年合資會社組  
織トナシ、爾來堅實ナル營業振ヲ以テ同業者ヲ壓  
スルニ至リス、尙又、明治製帽會社、日本鉛筆  
會社、共益精米會社等ノ創立ニ參與シテ其社長ニ  
揚ケラレ、實業界一方ニ雄飛ス、君夙ニ我商業家  
ノ廢德ヲ嘆シ、是ガ矯正ニ留意シ、遂ニ自ら主唱

シテ東京商工同盟會ヲ組織シ、商業道德ノ振起ヲ  
絶叫シツ、アリシカ、斯ル主義主張ハ單ニ一部分  
ニ而已限ル可ラズトナシ、更ニ日本商工會ヲ起シ  
テ機關雜誌商工新報ヲ發刊シ、自ら執筆シテ内ニ  
商者ノ向上ヲ期シ、對外貿易ノ發展ヲ計リ、論議  
縱橫眞ニ實業界ノ警醒紙タラシメ、尙又、支那貿  
易ノ前途ヲ慮リテ支那文ノ一小紙ヲ刊行シテ彼地  
需要者ニ配布ス、如斯シテ其不斷ノ努力ハ實業界  
ノ認ムル處トナリ先年遂ニ推サレテ商業會議所議  
員トナリ、又諸會社ノ重役等ニ推サル、然レ共君  
事ノ多岐ニ亘ルハ不忠實ノ素因ナリトシテ堅ク動  
カズ、商工新報ノ一城廓ニ在リテ實業界ヲ鞭達警  
醒シテ主義ノ實行ニ努メツ、アリ、亦多カラザル  
主義ノ人ト言フ可キナリ。



# 實業家 稻垣彌三郎君

橫濱市元濱町四ノ四二 電話一八五  
營業店 湊町六ノ五四 電話七二三

出テ、ハ國家的大觀念ヲ以テ社會公共ノ業ニ盡瘁シ、入ツテハ專念業務ノ發展ヲ計リ、同業者中ノ翊者、金港實業界ノ名識者タル是稻垣彌三郎君ナリ聞ク、君ハ三重縣ノ人先考彌三郎氏ノ二男ニシテ文久元年七月四日ヲ以テ三重郡八郷村ニ生ル、幼名ヲ民次郎ト云ヒ後改名ス、家ハ土地ノ門閥家ニシテ醬油醸造ヲ業トス、君夙ニ學ヲ郷師大賀某ニ學ヒ秀才ノ譽アリ、明治十八年壯志ヲ懷キテ横濱ニ出テ、廻米雜穀問屋ヲ開ク、精銳ノ氣其勤勉ト相待ツテ店業頓ニ揚リ商運日ニ旺盛ヲ極ム、茲ニ至ツテ擴張發展米穀貿易業ニ從事シ、明治二十八年港町ニ支店ヲ設置スルニ至リヌ、是ヨリ先キ

## 四二二

明治十九年橫濱廻米問屋組合委員ニ推サレ、同廿九年一月其委員長トナリ、更ニ同卅五年一月同組合長ニ推サレ、以テ同業者間ノ師表ニ立チ、組合ノ經理ニ從ツテ大ニ盡瘁ス、又、明治二十七年一月橫濱米穀取引所監査役ニ推サレ、同廿九年六月武藏商業銀行取締役トナリテ實業界ニ活動シ、三十六年三月遂ニ橫濱商議會議所議員ニ推サレ今日ニ至ル迄繼續信望ヲ恣ニス、三十八年一月橫濱米穀貿易商組合長トナリ、同三十九年ニハ橫濱肥料株式會社ノ創立ヲ發起シテ東西ニ奔走シ、遂ニ功ヲ擧ケテ其取締役ニ就任ス、同年又、自己ノ親族ト共同シテ精米改良ノ目標ニ進ム可ク、橫濱改良精米株式會社ヲ創立シ、其相談役トナリテ掩護以テ社運ニ資スル所大ナリ、君資性敦厚、恭謙自讓、公共慈善ノ念篤ク、或ハ赤十字社、孤兒院、感化

院、癡兵事業其他幾多ノ事業ニ財ヲ投シテ以テ自己ノ分トナス、眞ニ奇篤ナリト言フ可シ、積善ノ家ニ古諺如何テ空シカラシヤ、其商運ノ熾盛亦以テ推知スルニ餘リアリ。

# 實業家 渡邊平吉君

日本橋區兜町五 電話浪花一四八〇

一進一退機ヲ察シテ動キ、一舉手一投足忽ニセズ省察熟慮而モ穎敏ナラザル可ラサル是實業界ニ立ツテ覇ヲ稱セントスル者ノ要素タリ而シテ財界中尤モ波瀾ニ富ミ變化ニ富メル株式界ニ立ツ者、何ゾ容易ニ事ヲ擧ケ得可ケンヤ、見ヨ狂瀾怒濤翻然トシテ到リ翻然トシテ去ル、機ハ一瞬ニシテ須臾モ人ヲ待タズ、一上一下片葉ノ暴風ニ飛フニ異ラズ、斯ル間ニ立チ、機敏果斷、直截ノ腕ヲ縱横ニ揮フ者茲ニ我渡邊平吉氏ナリ、君ハ東京府平民、

## 四二三

先考善吉氏ノ四男タリ、安政四年九月十一日ヲ以テ生ル、幼ニシテ奇才溢レテ衆ニ冠絶シ、已ニ將來ヲ矚目サル長シテ商ニ志シ修養スル内ニ商界ノ機微ヲ知推シ、株式仲買人トナリテ兜町ニ立ツニ至ル、爾後數十年、財界ノ變動恐慌ニ逢フテ危機ニ迫リシ事幾度カアリシト雖モ、一ノ失敗蹉跌ハ却ツテ君ノ勇猛心ヲ鞭達スル資料タルニ過キズ、益々奮起シテ斯界ノ機智ヲ得了シ、今ヤ一方ノ鎮トシテ覇ヲ稱スルニ至ル、其圓熟セル活動振ハ到底他ノ模倣シ得サル處ニシテ、機ヲ見ルヤ奮然トシテ邁進シ、急轉直下又機ヲ察シテ退讓陰トシテ聲ヲ成サズ、軍ニ於ケル三段六法、孫氏ノ謀カ楠氏六門ノ法カノ如シ、ソレ如斯シテ陸々店運ノ勃興ヲ來シ辛辣ナル怪手腕ヲ揮ツテ愈々同業者ヲ驚倒セシム、亦財界ノ一勇者タルニ愧チサルナリ。

# 辯護士 佐藤重之君

赤坂區南坂町三一 電話芝二七四六

近ク官界ヲ去ツテ民間ニ降り多年ノ濫與ヲ傾ケテ辯護事務ニ従事シ、民事、鑑定ヲ以テ斯界ノ先進者ヲ壓倒スルノ勢アルモノ是君ナリ、君ハ舊德嶋ノ藩士、明治四年ヲ以テ生ル、夙ニ德嶋中學校ニ學ヒ、後大坂ニ出テ、關西法律學校ニ法律學ヲ修ム同廿三年上京シ、和佛法律學校ニ入ル、廿五年同校ヲ卒業シ、三十一年判檢事登用試験ニ合格シ直チニ司法官試補トシテ甲府裁判所ニ赴任シ、翌年本官トナリテ東京區裁判所ニ轉シ、爾來檢事及豫審判事等ニ歴任シ、又法律取調委員トナリ、此間常ニ勤格、敏腕ノ名同輩ニ鳴ル、疑ニ感ズル處アリテ退職シ、辯護事務所ヲ開キテ一般ノ依頼ニ應ス今ヤ盛名揚リ斯界ノ一方ニ重キヲ致サレ、

## 四一四

辯護士會常議員ニ推サル、君ノ最モ得意トスルハ民事ニシテ、殊ニ執行ニ關スル事件ニ於ケル、持殊ノ手腕ハ斯界ニ於テ他ニ匹儔ヲ見サル處ナリト言フ、君資性温健些ノ術氣ヲ見ズ、頭腦明晰ニシテ截斷ニ富ム、音吐朗々辯說明快、一方口ノ人タルト共ニマタ筆ノ人タリ、目下専門ニ關スル著述ニ従事シ、寸閑ヲ愉ミテ是ガ草ヲ急キツ、アリ、吾人ハ近キ君カ未來ヲ待ツニ民間法曹界一方ノ鎮タルヲ以テス、其期ヤ蓋シ遠キニ非ザル可シ。

### 教育家 三輪田眞佐子女史

麹町區四番町

電話番町一五三六

女史ハ天保十四年一月ヲ以テ京都ノ嵯峨ニ生ル、嚴父宇田淵氏幕末ノ鴻儒梁川星巖翁ノ高足ナリシ故ヲ以テ女史亦彼レノ室紅蘭女史ニ就テ學ヒ兼テ書畫ニ及フ、明治ノ初年故岩倉具視公ノ媒ニ由リ

松山藩士三輪田元綱氏ニ嫁ス、公ハ女史ノ才徳ヲ賞シ聘シテ子女ノ薰陶ヲ托シタルト云ヘリ、爾來琴瑟相和シ春風照々タリシモ良人元綱氏不幸ニシテ病魔ノ胃ス所トナリ明治十一年ヲ以テ溘然九泉ノ客トナリ、女史爲メニ頗ル辛苦ヲ嘗ムル後人ノ再嫁ヲ勸ムルモ兩夫ニ見ヘサル貞操ヲ持シテ敢テ應セス、其翌年松山ニ明倫學舎ヲ開キ女生ニ授ケテ生ヲ營ム、其徳ヲ慕ヒテ門下ニ集マルモノ甚タ多シ、同十六年事終ニ時ノ縣令關新平氏ノ知ル所トナリ、擧ケラレテ愛媛縣師範學校ニ教鞭ヲ執リシモ嗣子ヲ都門ニ教育センカ爲メ亡夫ノ舊友丸山

作樂氏等ノ斡旋ニ由リ東京ニ出テ神田松下町ニ家塾ヲ開ク、後東京府女學校ニ教諭トシテ十有餘年後進ノ誘掖ニ勤メ女子教育事業ニ關スルモノ一トシテ關與セサルナク實ニ婦人社界ノ泰斗タリ、現

ニ三輪田高等女學校長タル傍ラ東京女子高等師範學校女子大學等ニモ教鞭ヲ執ルト言フ先年麹町ニ三輪田高等女學校ヲ創立シテ以來令男元道氏ト共ニ専ラ女史教養ニ力ヲ致サル既ニ業ヲ卒ヘテ良妻賢母ト賞セラル、モノ少シトセス、現今學生ノ數五百ニ下ラスト云フ、女子教育ニ必要ナル今日ニ於テ三輪田女史ヲ得タルハ國家ノ爲メ祝福ノ意ヲ表セサルヲ得サルナル。

小池合資會社代表者代理

### 渡邊仁三君

四谷區右京町二一 電話番町二二一

銚南ノ商戰場裡ニ於テ、嶄然一頭地ヲ拔キ、其實カト其潑瀾タル營業振トヲ以テ鳴ルモノ小池合資會社ナリ、同社ハ即チ君ノ令弟國三氏ノ經營ニナルモノ、同社ノ隆昌ハ一ニ君等背後ノ奮闘精勵與

ツテカアリト云フ可シ聞ク君ハ山梨縣甲府市柳町ノ人、淺川友八氏ノ次男ニシテ文久元年ヲ以テ生ル、天資聰慧夙ニ山梨徵典館幕府學門所ニ入りテ漢籍ヲ學ヒ、後同校ガ師範學校トナルニ及ヒ其課程全科ヲ卒ハツテ明治十二年卒業、暫時他方ノ小學ニ教鞭ヲ取ル、偶々時代ノ風潮ニ感ズル所アリ即チ翻然決志郷ヲ出テ上京シ、當時諸老大家ノ經營セル斯文學會ニ入り専ラ修身齊家ノ道ヲ學究セリ一日高嶋翁來講アリテ大ニ敬服スル所アリ、即チ翁ガ別邸神奈川大間山ヲ訪ヒ先生ニ就キテ學ハシテ事ヲ乞フ先生快諾親シク訓陶ヲ受クル年餘ニシテ後或事情ノ爲メ一旦郷ニ歸リ専ラ實業ニ從事シ幾多ノ艱難辛苦ニ心膽ヲ練磨セリ、後三十一年偶々令弟小池氏ノ株式店ヲ經營スルニ際シ再ヒ上京シ、茲ニ兄弟相提携シテ斯界ニ驅馳シ、遂ニ今日

ノ隆盛ヲ致スノ基ヲ作り、明治四十年組織ヲ變更シテ合資會社トシ、君其代表社員代理トナリテ盡瘁亦一層シ、今ヤ其取引高等ノ如キ同業者間ノ二三ニ推サル、盛ヲ見ル、是一ハ君等背後ノ力ニヨルト言ハザルヲ得ズ、而モ世人君ヲ餘リニ語ラズ、是却ツテ君ガ天性ヲ表ハス處、陰然トシテ功ニ誇ラズ名ヲ街ハザル亦謙德ノ風アリト云フヘシ、聞ク君ハ名利ニ恬淡斯界ニアリテ曾ツテ輸贏ヲ爭ハズ坦然トシテ其守ル所ヲ全フス皆是漢籍ニ私淑スル所ニ基因セスンハアラス。

從三位子爵 久松 定弘 君  
 下谷區下谷根岸八六 電話下谷一〇四〇

當家ハ左近衛權少將久松貞勝ノ五男美濃守定房ノ後ナリ、定房ヨリ十代ヲ經テ君ニ至ル、君實ハ大河内正晴ノ長男ニシテ定政四年一月一日ノ生、幼

名ヲ弘太郎ト言フ、明治四年久松家ニ入りテ養嗣子トナリ、翌五年八月家督ヲ相續ス、君幼ニシテ聰敏夙ニ古今ノ學ニ通ズ、明治七年十一月獨逸ニ航シ、専ラ哲學ヲ研究シ、居ル事四年、同十一年十二月歸朝ス、同十六年内務省御用掛トナリ、十七年華族令ノ發布ト共ニ子爵ヲ授ケラル、同十八年内務權小書記官ニ任シ、二十年内務省參事官トナリ、翌二十一年公使館書記官トナリ、兼ネテ第一高等學校教諭ニ任セラレ、明治廿三年國會ノ開設ト共ニ、貴族院議員ニ選ハレ、冒頭ノ院議ニ參與シ、爾來上院ノ一權威トシテ經綸ヲ傾ク、後期滿ツルヤ再選セラレ、益々圓熟ノ手腕ヲ揮ツテ正々堂々國政ヲ論議シ名愈々揚ル、後公職ヲ辭シテ閑ニ居シ、清風光月ヲ友トシテ時流ニ超然タリシガ、頃者、東亞火災保險株式會社ヲ興シテ自ラ其

取締役會長トナリ、曾テ政界ニ揮ヒシ手腕ヲ移シテ茲ニ實業界ニ雄飛セラル、資性謹嚴卒直、内ニ氣骨アリ外ニ風格アリ、蓋シ一個ノ良紳士、當ニ崇拜瞻仰ニ値ヒス、吾人茲ニ君ヲ實業界ヨリシテ評隲ス可ク尙早キヲ覺ユ、而モ近キ將來ニ於テ、必テズヤ斯界ノ一權威者タルヲ疑ハズ。

東京市會議員

春日銀行取締役 吉村 銀次郎 君

小石川區指谷町一七 電話番町二〇七六

曾テハ官界ニ英材ノ名ヲ馳セ、或ハ育英ニ經綸ヲ揮ヒ、下ツテハ實業界ニ貢獻シ、又市政ニ參與シテ月曜會ノ驍將タルモノ是君ナリ、君ハ東京府下北多摩郡調布村ノ人、慶應三年九月ヲモツテ生ル姓ヲ箕輪ト言ヒ土地ノ名門ニシテ世々里正タリ、君幼ニシテ石州津和野藩士吉村泰得氏ノ養子トナ

リ、遂ニ同家ヲ嗣グ、夙ニ碩儒ニ就キテ和漢ノ學ヲ研究シ、尋テ慶應義塾三田英學校等ヲ經テ駒場農學校ニ入り、明治十九年卒業シ、翌二十年英吉利法律學校ニ入り廿三年卒業、同時ニ東京法學院ヲモ卒業ス、後遞信省ニ奉仕セシガ當局ト意合ハズ依ツテ辭シテ米國ニ航シ、ミシガン大學ニ入りテ研鑽數年、廿六年同大學ヲ卒業シ『マスタオプロース、アットニー、エンド、カンセロル』等ノ學位ヲ得テ歸朝ス、後井上角五郎、金子堅太郎氏等ト協力シテ殖民協會ヲ設立シテ評議員トナリ、傍ラ獨乙協會學校進德館等ニ教鞭ヲ捉リ、同廿六年六月宮崎縣中學校長ヲ拜命シテ赴任、專心育英ニ努力セシカ、會々嚴父ノ長逝スルニ逢ヒ同校ヲ辭シテ歸京、二十七年六月外務省ノ列國形勢取調委員ヲ命セラレ、廿八年十一月大藏大臣秘書官ニ榮進

シ正七位ニ叙セラル、三十二年四月商船學校教授ヲ兼幹事トナリ正六位ニ進ミシカ、卅四年四月退キテ民間ニ下リ、爾來專ラ民間事業ニ力ヲ盡シツ、アリシカ、三十七八年ノ交關東州經濟界調査ノ爲メ派遣セラル、事前後二回克ク其事情ヲ精査シテ實ヲ舉ク四十年小石川區民ニ推サレテ區會議員トナリ、尋テ四十一年市會議員ニ當選ス、而モ多年ノ經驗ト老熟セル手腕トハ市會ノ一異彩タルト共ニ、月曜會ノ饒將ヲ以テ目セラル。

宮内省式部官

岡田平太郎君

芝區三田町四ノ三八 電話芝一六四六

慶應義塾出身者中一異彩アリ、是宮内省式部官岡田平太郎氏ナリトス、式部官ノ職タルヤ主ニ古蹟革命ノ出ニシテ其然ラザル者真ニ氏ヲ措イテ他ニ

非ザルナリ、以テ其ノ崇高ナル人格ヲ窺フニ足ル可シ、君ハ岡田平藏氏ノ長男、明治三年ヲ以テ大坂ニ生レシカ、翌年東京ニ移ル、君ノ父平藏氏ハ博識卓見ノ賢者、夙ニ外國貿易ニ注目シ、米國ト商交ヲ結ンテ幕府ノ忌諱ニ觸レ入獄セシコトアリ後我國財政ノ困難ナルヲ見、是カ救濟ノ道ヲ大藏省ニ建議シ保護貿易ノ議ヲ唱ヘテ當局者ニ迫リ遂ニ貫徹シテ大ニ名ヲ舉ク、氏熟々思フ様一國ノ富ノ素因ハ是個人ノ富ニアリ、宜敷産業ヲ起シテ富強ヲ計ルヘシト、採鑛ニ志シ、小猿澤鑛山ニ着手セシカ不幸中途夭折ス、如斯時潮ニ先ンジ、其卓識當時ノ珍トシテ讚ハレキ、サレハ氏ノ門矢野、益田等ノ偉人ヲ出ス蓋シ宜ナル哉、君ハ實ニ斯ル嚴父ノ薰陶ノ下ニ生育シ、天稟ノ才能ニ加フルニ偉大ナル感化ヲ以テシ、幼少既ニ穎敏異數トシテ

知ラル、明治十三年慶應義塾ニ入り、又ハ徳川達孝伯ノ稽古所ニ通ヒ、後再ヒ慶應義塾ニ入りテ明治廿三年卒業ス爾來嚴父ノ遺志ヲ繼キテ外國貿易ヲ營ミツ、アリシカ、明治三十九年宮内省式部官ニ任シ有栖川宮家ノ家令ヲ兼ス、爾來其顯位貴職ヲ濫サズ、能ク奉公克忠ヲ致シテ恐レ多クモ御上ノ御覺ヘ芽出度ク、殿下ノ行啓アル毎ニ必ズ隨行セサル事無シト、如斯光榮真ニ何人カ能ク膺テ得ル者ゾ、吾人ハ推讚却ツテ辭無キヲ愧ヅ、君資性謹嚴、而モ溫厚篤實、其崇高ナル人格ト、畏敬スヘキ品位トハ方ニ當今紳士ノ好模範トシテ學フ可キモノアリトス、希クハ益自重奉公ノ大義ヲ致サレン事ヲ、蕪辭却ツテ尊嚴ヲ汚瀆ス、幸ニ寬恕アラセラレヨ。

### 工業家市原求君

京橋區入船町六ノ一 電話長新橋二六五八  
營業所 日本橋區蠣壳町三ノ二 電話浪花二六

沛然到ツテ底止セサル文明ノ急潮ハ、浦賀灣頭ニ  
轟ノ砲聲ニ醒メタル我國全土ヲ襲フテ急天直下ノ  
勢ヲ以テ迫リ來リ、精神界ニ物質界ニ啓發ヲ促シ  
テ茲ニ四十餘年、駁々トシテ發展シ進運ヲ見ル眞  
ニ急舉驚クニ絶エタリ、而シテ近ク我文明史ヲ飾  
ル其優一ハ工業上ノ進歩發達ニアリトス、見ヨ往  
昔夢想ニタモ及ハアリシ化學工業ノ盛況、鐵工治  
金ノ偉績、而シテ新進奇拔ナル機械工業ノ勃興、  
又驚嘆ノ外辞句無キナリ、是一ニ時代ノ風潮ノ然  
ラシムルニ依ルト雖モ、其一ハ奇才偉傑ノ斯業ニ  
當ツテ奮勵努力セシ結果ニ外ナラス、我市原求氏  
ノ如キ又其一トシテ尊敬スヘキ人ナリトス、君

ハ東京府平民星野長兵衛氏ノ二男ニシテ安政四年  
一月十七日ヲ以テ生ル、幼名ヲ政吉ト云ヒ、後當  
家先代物故後入ツテ養嗣子トナリ、明治十九年十  
一月家督ヲ相續シテ改名ス、君幼少已ニ穎敏衆ニ  
絶シ、頭腦中樞性發達シテ理數ニ富ム、君カ青春ハ  
暗澹タル時代革新ノ間ニ終リ轉々世風ノ悽慘ヲ知  
ル、而モ常ニ修養ヲ怠ラズ漸次新進ノ學ヲ修メ大  
ニ將來ヲ期ス、時ニ市原家ニ懇請セラレテ其養子  
トナリシカ、抑々同家先代舊時代ノ識者明治七年  
早クモ我國消防機械ノ不完全ヲ痛嘆シツ、アリシ  
カ偶々警視廳カ之カ從業者ヲ募ルニ及ヒ應募シテ  
茲ニ唧筒製作ヲ期劃シ、工場ヲ設ケテ獨力製作ヲ  
開始シ有ラユル辛慘ヲ擊破シテ經營ニ當リ漸次其  
功ヲ擧ク之レ我國ニ於ケル唧筒製造業ノ嚆矢ナリ  
トス、君即チ其後ヲ承ケテ勉メシカハ業務漸次擴

大シ、發展亦加ヘ來ツテ其他諸機械ノ製作ヲ開始  
シ益々大ヲ致スニ至ル、於茲明治三十八年十一月  
資本金三萬圓ヲ以テ合資組織トシテ、經營ニ當リ  
日本橋區蠣壳町ニ營業所ヲ設ケ深川ニ分工場ヲ開  
キ益々進運ニ連行シテ發展擴張シ、今ヤ清韓各地  
ニ輸出スルノ盛況ヲ呈スルニ至ル尋テ、明治卅九  
年十二月、久保田、岡田ノ諸氏ト計リテ有恒社ヲ  
起シ、君其取締役タリ、君又公共ノ事ニ篤ク、市  
會區會等ノ公職ニ任シ衆望益々加フト云フ。

### 實業家守田守衛君

下谷區上車坂町二五 電話下谷二二六五

篤行慈善以テ人ニ稱セラレ、或ハ市政ノ爲メ或ハ  
區民ノ爲メ貢獻シテ毫モ勞ヲ吝マズ、今ヤ退隱ス  
ト雖モ尙社會ノ爲メ盡瘁シラ己マザル是我守田氏  
ナリトス、聞ク君ハ東京府平民棚橋吉兵衛氏ノ男

安政二年五月廿五日ヲ以テ日本橋區本石町ニ生ル  
幼名ヲ清吉ト云ヒ、元治元年八月小間物化粧品業  
守田商店ノ店員トナリ、精勵克ク店務ニ努メ、重  
望愈々加ハリシカ、明治八年守田重兵衛氏ニ請ハ  
レテ其養子トナリ明治二十九年相續ス、爾來一意  
專念店業ノ發展ヲ計リ、舶來化粧品防遏ヲ旨トシ  
テ諸種ノ化粧品ヲ製出版賣シ、又香水ヲ發明ス、  
明治二十八年第四回内國博覽ニ出品シ、畏クモ宮  
内省御用品ヲ命セラレ有功賞ヲ下賜サル、爾來再  
ヒ新製香水ヲ製出シ、改良ヲ加ヘ新銳以テ外品ニ  
當リ、今ヤ海外迄モ輸出セルノ盛大ヲ致スニ至ル  
サレハ其後、第五回内國勸業博覽會ニ有功三等賞  
東京博覽會ニテ有功三等賞、第二回五二共進會ニ  
テ進歩賞牌、尋テ、明治四十三年ノ日英博覽會ニ  
出品シ銀牌ヲ受ク、此他賞セラレシ事枚舉ニ遑ア

東京正則英語學校長

齋藤秀三郎君

麹町區五番町二 電話番町一五二四

ラス、君夙ニ區政ニ留意シ、町村制實施以來、下谷區會議員トシテ區政ノ刷新改善ヲ期シ、又所得稅調査委員徵兵參事委員等ニ選ハレ、市會議員トシテ市政ヲ議スル事亦數度、又第三回内國勸業博覽會ニハ其審査委員ニ推薦セラレ功勞賞トシテ銀牌ヲ賜ハリ、明治二十年海防費金一千圓ヲ献納シ勅定銀製黃綬褒賞ヲ下賜セラル、其他教育衛生慈善等ニ盡瘁シ木杯賞狀ヲ受ケシ事實ニ數フルニ違アラズ、以テ其人格ヲ窺フヲ得ヘシ、今ヤ店ハ一子重兵衛氏ニ譲リ、專ラ德行ニ而已努メ、併セテ合資會社下谷銀行取締役、株式會社長日銀行相談役ヲ兼ネ、勤格ノ名亦アリ、德行ノ道人トシテ敢テ推讚シ世人ノ三顧ヲ煩ハサントスルモノ豈故ナカラシヤ。

正則英語學校ノ創立未タ日淺シト雖モ名聲噴々トシテ全國ニ喧傳セアレ隨テ其校長タル齋藤秀三郎君ノ名ヲ知ラサルモノナシ、如斯幾多ノ學識ヲ凌駕スル所以ノモノ其敢爲ノ性ニ富ミ敢テ權門ニ媚ヒス勢家ニ阿ラス、熱心ト懇切トヲ以テ能ク子弟ヲ薰陶教授セルニアルヤ、論ヲ俟タス抑モ君ハ仙臺藩士ニシテ慶應二年ヲ以テ生ル、幼ヨリ俊才ノ名アリ、明治十二年東京ニ上リテ工部大學ニ入り勉學スル數年中途故アリテ退學シ此ノ間英人『デクソン』氏ニ就キテ英文學ヲ專修シ英文學殊ニ英文典ノ蘊奧ヲ窮メ二十年出テ、宮城縣尋常中學校ニ教鞭ヲ執リ其翌年第二高等學校助教授ニ轉シ既

ニシテ第一高等學校教授ニ進ミ從六位ニ叙セラル

後職ヲ辭シテ今日ノ正則英語學校ヲ創立ス、嘗テ

大學講師ニ聘セラレシカ意見ノ合ハサルタメ辭シ

テ專ラ正則英語學校ニ全力ヲ盡シテ他ヲ顧ミス校

運益々盛ンナリ、君著書亦頗ル多シ其一タヒ世ニ

出ツルヤ紙價爲メニ騰リ殊ニ組織英語文ノ如キハ

汎ク諸學校ニ數科書トシテ用キラレツ、アリ亦以

テ其聲價ノアル所ヲ知ルヘキナリ、抑モ外國語中

特ニ英語研修ノ緊切必要ナルヤ吾人ノ言ヲ待タス

官公私立學校ニ於テモ亦幾分ノ力ヲ此點ニ注ク

ト雖未タ満足ノ効果ヲ得ルニ至ラサルハ世人ノ齋

シク認ムル所ニシテ今此缺陷ヲ補ヒ幾萬子弟ノ志

ヲ成サシムルモノ豈國家ノ一大事業ト謂ハサルヘ

カラス、君ノ事業ヤ前途猶遠遠ナリ吾人ハ君ノ益

々之ヲ擴張發展セラレンコトヲ國家ノ爲メニ切望

シテ止マサルモノナリ。

岡山縣郡部選出衆議院議員

服部綾雄君

芝區公園二〇號ノ四

君ハ文久二年十二月ヲ以テ静岡縣駿東郡沼津町ニ生ル、夙ニ明敏ノ資ヲ以テ博學ノ稱ヲ受ク、早クモ東京築地大學ヲ卒業シ更ニ、米國ニ航シテ『ブリンストン』大學ニ入り、倫理學及心理學ノ研鑽ニ勤メ、親シク斯界ノ大家碩儒ニ接シテ其蘊奧ヲ叩キ、蓄積スル所甚タ深シ、同國ニ滞在スルコト數星霜、歸朝後直チニ富山縣中學校ヨリ、岡山縣中學校ニ轉ジ、再轉シテ私立金川中學校ニ入り校長ノ職ニ在ルコト數年、此ノ間育英事業ニ貢獻スルコト甚タ少カラス、今ノ青年ニシテ君ノ薰陶ヲ受ケテ一地方ニ勢力ヲ占ムル者甚タ少カラス、

君カ岡山縣郡部ヨリ衆議院議員ニ推選セラレタルモノ亦其子弟薰育ノ關係ヨリ生シタル結果ニ外ナラスンハアラス、君ハ性質温厚ニシテ篤實、人ニ接スル鄭重懇切ヲ極メ、一言一句皆其誠意赤心ヨリ出テ人ノ肺腑ニ銘スルモノ少カラス、岡山縣人士カ君ノ徳ヲ望ンテ推重スル所以ノモノ亦一ニ茲ニ存セリト云フモ敢テ誣言ニアラサルナリ後更ニ古屋商店ノ營業顧問トシテ米國ニ渡航シ『シヤートル』滞在中排日熱ノ旺盛ナル當時ニ於テ日本人會長ノ重任ヲ帶ヒ滿腔ノ熱誠ヲ捧ケテ我同胞ノ爲メニ盡瘁セラレタル功勳ハ頗ル見ルヘキモノアリテ今尙嘖々トシテ内外ニ喧傳セラレツ、アリ、會

テ是等ノ狀況ニ關シ、神田錦輝館ニ於テ演說セラ、ヤ、熱實至誠ノ迸發スル所、慥カニ聽者ヲシテ不知不識熱淚ヲ揮テ切齒ノ情ニ堪ヘサラシメシ

モノアリ、同四十一年第十回總選舉ニ當リ岡山縣郡部ヨリ選出セラレテ衆議院議員ノ榮職ニ在リ、國民黨ニ屬シテ院內幹事トナリ同黨ノ爲メ東奔西走ニ寸暇モ餘サス、同派ノ勢力カ近來非常ノ發達ヲ爲セシモノ君ノ力ノ與テ大ナルハ世ノ既ニ認ムル所タリ、君ヤ學殖豊富ニシテ多技多能ヲ極メ、加フルニ熱烈至誠ヲ以テス、其向フ所一トシテ功ヲ收メサルハナシ、誠ニ當代稀有ノ人傑ト敬稱スヘキニアラスヤ。

專修大學校長  
實業家相馬永胤君

府下豊多摩郡高田馬場 電話番町三八〇

惟ミルニ、我邦近時ノ實業界ガ、急轉セル進歩ヲ來セシ一素因ハ當ニ財政經濟諸學ノ輸入ト普及ニアルヤ論ナシ、而シテ吾人ハ其最功勞者ニ謝セサ

ルヘカラス、其人ヲ誰トカナス、他ナシ君ナリ、君カ彦根藩士ニ生レ、幽艶ナル山水裡漢籍ヲ學ヒシハ其壯時、一度爛眼時潮ヲ看破スルヤ蹴起シテ波濤萬里ノ米國ニ航セシハ是明治四年ナリ、斯クテ『コロンビヤ』大學、並ニ『ウエーン』大學ニ於テ財政經濟及政治法律ヲ研究シ殆ント其蘊奧ヲ究メテ明治十二年歸朝スルヤ、邦人カ法律思想ニ缺如セルヲ嘆シ、茲ニ目賀田尻氏等ト謀リテ專修學校ヲ設立シテ青年ヲ收容シ、泰西ノ學ヲ講シ新智ノ普及ヲ謀リヌ、是現專修大學ノ前身ニシラ實ニ我國ニ於ケル此種ノ學校ノ嚆矢タルト共ニ泰西ノ學ヲ邦語モテ教授セシ始メナリトス、斯クテ一意專念同校ノ發展ヲ謀リ盛大ヲ來スト共ニ一方實業界ニ盡シツ、アリシカ、偶々横濱正金銀行破綻ノ事アリ、君大藏卿ニ託セラレテ其整理ニ當リ、宿

弊ヲ斷ツテ其實ヲ舉ケ遂ニ頭取トナリテ財界ノ霸權ヲ握リ益々盡瘁シツ、アリシガ、先年老ノ故ヲ以テ辞シ、取締役タリ、如斯ナル、他陰ニ陽ニ我實業界ニ貢獻セラレシ處實ニ多ク、我實業界今日ノ隆盛ハ君ニ負フ處決シテ渺カラサルナリ、君資性温良恭謙自讓、其人格ノ崇高ナルト清廉潔白節ニ重ク義ニ篤キトハ當ニ多カラサルノ士ナリト言フ可シ。

秋田縣選出衆議院議員  
柳田清兵衛君

秋田縣仙北郡大曲村

抑々君ハ秋田縣平民、元治元年五月ヲ以テ羽後國仙北郡大曲村ニ生ル、家ハ代々農業ニ從事シ、名門トシテ郷間ニ鳴ル、君天資聰慧夙ニ學ヲ修メテ秀才アリ、長シテ一家ノ權者トナルヤ、愈天稟ノ

タリト言フ可シ。

熊本縣選出衆議院議員

木村 義賢 君

熊本縣菊池郡城北村

才氣茲ニ横溢シテ公共事業ノ上ニ表ハレ來リ君カ  
 直接間接ニ致シタル其功定ニ偉大ナリトス、ヤレ  
 ハ家望茲ニ集リ來リ、推サレテ町會議員トナリ、  
 尋テ縣會議員ニ當選シ、遂ニ推サレテ議長トナル  
 スクテ、縣治ノ監視ニ努メ、殖産興業其他百般ノ  
 利ヲ謀リテ其英名縣下ニ轟ク、嘗テ秋田農工銀行  
 ノ設立セラル、ヤ其取締役トナリ、又同志ト謀リ  
 テ大曲銀行ヲ設立シテ其取締役トナリ大ニ努力ス  
 其他、公私幾多ノ事業ニ其努力ヲ割ク事真ニ枚舉  
 ニ遑アラス、君カ威名愈々揚リ來リ、明治四十年  
 衆議員總選舉ニ際シ、衆望君ニ聚リ、遂ニ郷地郡  
 部ヨリ推サレテ當選シ、日比谷原頭ニ其達識ヲ發  
 揮シ、政友會ノ一員トシテ院内一部ノ權威者タリ  
 誠ニ旺ナリト言フヘシ、君資性温厚篤實、慈善公  
 共ノ念篤ク、理智ノ明、情ノ厚キ亦一個ノ人格者

君ハ熊本縣藩士ニシテ嘉永四年四月ヲ以テ肥後國  
 菊池郡城北村ニ生ル、資性穎敏聰悟智略衆ニ拔ン  
 テ和漢ノ諸學ニ精通シ、頗ル博覽ノ稱アリ、早ク  
 モ小學校ノ教師トナリ育英事業ニ鞅掌スルコト數  
 年、更ニ熊本縣廳ニ職ヲ奉シテ能史ノ稱アリ、後  
 郷里ノ戸長トナリ村政ヲ掌リ、茲ニ初メテ政治的  
 境涯ニ入り國利民福ヲ増進センコトニ勉メラル、  
 其盛名ハ縣下ニ喧傳セラレテ衆ヲ推ス所トナリ夙  
 ニ縣會議員ニ當選シ、更ニ常置委員ノ要職ヲ兼ヌ  
 縣下萬般ノ行政上ニ參與シテ治績大ニ揚リ、縣下  
 ノ輿望ヲ双肩ニ荷ヒ、明治四十一年第十回衆議院

議員ノ總選舉ニ當リ大多數ノ得點ヲ以テ當選ノ榮

ヲ得タリ、爾來國家ノ大計ニ參劄シ正義公論ヲ吐  
 露シ、同志ノ推戴ヲ受ケテ中央俱樂部ノ巨鎮タリ  
 尙實業方面ニ關シテハ株式會社隈部銀行頭取及九  
 川蠶糸信託株式會社取締役トシテ敏腕ヲ揮ヒ錚々  
 ノ名ヲ博セラル君ハ博學多聞ノ資ヲ以テ國家ノ樞  
 機ニ參劄シ、滿腔ノ熱誠ヲ提ケテ國家ニ貢獻セン  
 コトヲ勉メテ又他ヲ顧ミス偶々自家ノ利害ト相撞  
 着スルコトアルモ常ニ國家的觀念ヲ抱テ勇往邁進  
 シ、往々多大ノ損害ヲ見ルモノ實ニ先憂後樂ノ國  
 士タルニ愧チス政治的公徳ノ腐敗ハ夙ニ識者ノ鴻  
 嘆スル所、君ノ如キ皓潔ノ國士ヲ得タルハ亦以テ  
 吾人ノ意ヲ強フスルニ足ル代議士中硬骨ヲ以テ一  
 頭地ヲ拔クモノ亦故ナキニアラサルナリ。

今井株式商店代表社員

丸山 孫藏 君

牛込區中町三四 電話番町一五八四

鐵南商戰場裡、禪坊主ノ如ク豪傑ノ如ク、政治家  
 ノ如ク、嶄然トシテ名物男ヲ以テ目セラル、我孫  
 藏丸山君、奮闘例ニヨツテ例ノ如ク、堅實ナル信  
 念ト、偉大ナル抱負ヲ以テ猪突シツ、アリ、略傳  
 ニヨレハ、君ハ新瀉縣西蒲原郡升瀉村ノ出身ニシ  
 テ、明治四年ヲ以テ生ル、初メ縣立中學校ニ入り  
 軍人ニ志シ郷里ヲ出奔シテ東都ニ出テシモ、家情  
 許サ、ルアツテ一旦歸郷シ、再ヒ上京シテ計ル處  
 アリシカ、遂ニ意ヲ決シテ慶應義塾ニ入ル、學生  
 時代ノ君ノ面目ハ曾テ其實業雜誌記者ノ筆端ニ上  
 レリ、曰ク『三田ノ一破寺ニ寓居シテ老子、莊子  
 韓非子、等ノ東洋哲學並ニ佛典ヲ研究シテ迷ヘル



如ク悟レル如ク……云々」ト亦以テ一局ノ觀察タルニ値ス、明治二十七年卒業シテ一時商業會議所ノ書記タリシカ、潑瀾氣鋭ノ君、到底此蠟ヲ齒ムカ如キニ耐エヘクモアラス、轉シテ時事新報記者トナル、爾來專ラ政治經濟記事ヲ擔當シ、其深刻ノ批評ト、流暢ノ文章トハ、當時青年操觚者中ノ白眉タリキ、三十四年一月身ヲ投シテ株式界ニ入り

現ニ合資會社今井商店出資者ノ一人ニシテ業務擔當社員タリ、明晰ナル頭腦ハ、良ク斯界ノ機微ヲ看取シ、意義アル活動、亦注目ニ値セスンハアラサルナリ、トマレ君カ此稜々ノ仙骨ヲ帶ヒテ、俗中ノ俗タル斯界ニ處ス其『コントラスト』ニ於テ頗ル妙味アリ、願フニ一舉シテ萬金ヲ贏チ得タル所謂得意時代モ、不幸一敗地ニ塗レタル失意ノ際モ、平然トシテ處スルノ高風ハ、所謂滔々者ト選

ヲ同フスル者ニアラサルナリ、更ニ任狹ノ美風ニ至ツテハ幾多ノ實例ヲ有ス豪磊ノ資一見粗笨ノ如キモ、シカモ綿密ナル頭腦ハ到ル處其結果ヲ實示ス、蓋シ悉クコレ禪ノ修養ヨリ來レル者カ、君亦人格ノ人トシテ斯界ノ珍トスルニ足ル。

### 實業家 田中銀之助君

麻布區市兵衛町一ノ五 電話特長芝一四六

明治商界ノ一奇傑、天下ノ糸平カ生涯ハ、波瀾曲折、痛快男兒ヲシテ快哉ヲ叫ハシムルニ足ル、電光石火凡輩ノ小ヲ以テ計リ能ハサル者アリ、墨堤櫻花爛熳タル處、長ヘニ語ル壯大ノ碑、吾人杖ヲ曳イテ茲處ニ至レハ、自ラ雄壯ノ血湧キ出テ、骨亦鳴ルノ思アリ、今説ク田中銀之助君、故翁ノ愛孫ニシテ潑瀾ノ意氣、一半ハ遺傳セラレタリト稱セラル其見識其手腕、確カニ凡庸ヲ拔クアリ、サ

レド恨ラムクハ其富ト故翁ノ大ナル輪廓ハ、君ノ眞骨頭ヲ評隲セラルヘク頗ル不利ノ立脚地ニアリ試ニ吾人ヲシテ月旦セシムレハ、趣味アル資材トシテ江湖ニ問フニ足ルモ、恨ムラクハ君年齒壯、徒ラニ定評シ去ルハ落磊タル君ノ向上心ヲ尊フ所以ニアラス、管ニ和魂英才ヲ新塾字ヲ案出シテ多幸ナル前途ヲ祝福センノミ、換言スレハ、其頭腦ハ故翁ノ薰化ニヨツテ銘刻セラレタル純日本式ニシテ、加味スルニ英國紳士ノ眞面目ヲ以テシ、

渾和シ融和シテ發展シ來リタルニ據ル、傳ノ一節ニヨレハ、君ハ明治六年一月二十日ノ出生ニシテ年少萬里ノ波濤ヲ蹴ツテ英國ニ航シ、後同國『ケンブリッジ』大學ニ入ツテ修學ス、卒業後暫ク視察ニ費シテ歸朝シ、故翁ノ遺業タル合資會社田中銀行ノ經營ニ任シ、更ニ姉妹銀行帝國貯蓄ノ重役

トナリ、專心兩行ノ發展ニカメテ他ヲ顧ス、親族及先代恩顧ノ士ト協力シ、例ニヨツテ熱實ナル方針ニヨツテ歩武ヲ進メツ、アリ、斯ク記シ終ツテ豫定ノ稿ヲ結フニ際シ、君ニ薦ムルニ自重ヲ以テス、圭角可ナリ、勇斷可ナリ、信スル處ニ向ツテ直進スルハ、蓋シ男兒ノ本懷ナリ、碌々タル世間斗屑輩、與ニ當世ノ要務ヲ談スルニ足ラズ、希クハ邁進セヨ。

### 貴族院議員 黑田和志君

四谷區傳馬町新一ノ二〇 電話番町三〇三五

謹ンテ當家ノ系統ヲ按スルニ宣化天皇ノ曾孫多治比古王ノ子、左大臣嶋ノ後裔丹治家房ノ後也、基房經家、家季、助季、清季、行季、季光、季頼、規季、季憲實季、季國、氏季、季仲、家勝、家範、照守、直定、直守直張ヲ經テ豊前守直邦ニ至リ始メテ姓ヲ黑田ト稱

ス、徳川氏ニ仕ヘテ寛保二年上總國久留里三萬石ニ封セラシ、直純、直享、直弘、直英、直温、直方、直候、直静ヲ經テ直質ニ至ル、君其後ヲ繼ク君實ハ宗義和ノ第六子ナリ、明治十四年五月從五位ニ同二十年十二月正五位ニ同廿五年七月從四位ニ、同三十年七月正四位ニ叙セラレ現今從三位ノ榮位ニアリ、君ハ嘉永四年八月十三日ヲ以テ生ル、明治十四年四月家督ヲ相續ス同十七年七月子爵ヲ授ケラル、同三十九年四月勳四等ニ叙シ旭日小綬章ヲ授ケ賜フ、君亦同族ノ推ス所トナリ貴族院議員ニ當選シ引續キ其職ニアリ。

半田鑛山合資會社員

松原 堯君

赤坂區青山北町六ノ三四、二 電話芝二六八二

會テ君カ三井時代、彼ノ三池炭坑ニ於ケル功績ハ

蓋シ特筆大書スヘキ者ニシテ、渺ナクトモ斯界消息通ノ認メテ殊勳トナス處ナリ、試ニ半生ノ閱歴ヲ求ムレハ、君ハ福岡縣ノ名門松原家ノ出ニシテ慶應二年七月ヲ以テ生ル、年僅カニ十三、笈ヲ負テ東都ノ遊子トナリ、興習院ニ入ツテ修學ス、爾後大學豫備門ヲ出テ、工科大学ニ入り機械工學科ヲ專攻ス、二十三年卒業スルヤ直ニ招聘セラレテ三井家ノ經營ニナル三池鑛山ニ勤務ス、爾來同所ニ於ケル機械部ノ主任トナリ、豊富ノ新知識ト天赋ノ至誠ヲ傾注シ、同所ノ設備ニ向ツテ一大革命ヲ與ヘ、其面目ヲシテ全然一新セシメタリ、毎ニ勞働者ニ對スル熱情ハ、鬼ヲモ摧ク荒クレ坑夫ヲシテ、神ノ如ク崇敬セシメタルハ今尙美談トシテ傳ヘラル、三十一年機械、研究ノ爲ニ特派セラレテ、英米、佛、獨、伊、瑞、等ノ各國ヲ視察シ、歸

來本店機械技長、兼探鑛技長トナリ、幾多ノ新設備ヲ施シタル、一々枚舉ニ遑アラサルナリ、殊ニ前記以外田川、山野、兩炭鑛、神岡銀鉛坑擴張、大牟田築港計劃等ハ、其主要ナル者ニシテ、此間努カシタル貢獻ハ、單リ三井鑛山部ノ爲ニアラスシテ、筑豊鑛業發達史中ノ光彩タリ、三十八年辭シテ半田鑛山合資會社ノ組織ニ從事シ、専ラ日常ノ衝ニ當リ、鑛物採掘、製鍊賣買、硫酸製造賣買、等ニ從事シ、創業以來例ニ依ツテ眞面目ヲ發揮シ、漸進的ニ其歩武ヲ進メツ、アリ、尙資性ノ一面トシテ美術ニ趣味ヲ有シ、鑑識批評亦侮ルヘカラサルモノアリ、亦以テ人格ノ流露ヲ窺フニ足ル。

渡邊特許工務所長 渡邊庚午郎君

京橋區木挽町三ノ二二

人格アル特許代理業者トシテ、斯界多年ノ積弊ヲ

掃去セント欲シ孤軍奮闘一日ノ寧ナキ者、蓋シ夫レ君ノ謂カ、君ハ赤門出身ノ少壯工學士ニシテ、去ル二十八年七月同校卒業後助教授ヲ拜命シ、一面其蘊奧ヲ極ムルト共ニ、一面後進ノ扶掖ニ怠ラサリシカ、三十年七月之レヲ辭シテ専ラ修養スル處アリキ、同卅二年巴里博覽會ニ際シ農商務省審査官ヲ囑托セラレ、歐米ニ渡航シテ大ニ海外各國ノ情況ヲ視察シテ造詣アリ、三十三年歸朝シ、次テ三井物産會社ニ招聘セラレ、爾後、工業設計、器械販賣等ニ執掌シ、就ン中電氣工業動力ハ、君ノ研究苦心ニヨツテ面目ヲ一新ヒラレタルモノ尠ナカラサリキ、尋テ社命ニヨリ再ヒ工業狀態等ノ視察ノ爲メ、三十八年四月ヲ以テ米國ニ渡航シ、機械製造電氣製造其他工業發展ノ實狀ヲ研察シ、同年八月歸朝ス、幾モナクシテ同社工業事務ノ刷

三越吳服店常務取締役

### 藤村喜七君

芝區下高輪町五五 電話芝二一四九

新セラレタルハ、ソコニ何等カノ消息ナクンハアラサルナリ、爾來職ヲ同社ノ參事ニ置キ、施設經營頗ルカメタリ、由來澎大三井ノ事業ハ、單ナル「箇」ノ力ヲ以テ左右シ得ヘキニアラス、少壯群雄ノ努力ガ、渾和シテ其集積セルモノ即チ發展シ即チ擴張サル、此間ニ於ケル君等ノ功績決シテ沒スヘキニアラサルナリ、往年詳シテ獨力ノ人トナリ前記ノ箇所ニ事務所ヲ設ケ、特許代理業者トシテ忠實ナル服務ノ外、更ニ榮電社ヲ創立シテ電氣修繕、製造修繕、取次販賣、工事請負、等ノ副事業ヲ經營シ、例ノ硬骨例ノ俠骨、常ニ同業者ノ向上ヲ期シツ、アリ、尙其人格ノ半面トシテ傳フベキハ、君天真流露、些ノ銜氣ナク、一見老書生ノ如ク、克ク後進ヲ誘導ス、尠クトモ斯界ニ於ケル鷄群ノ一鶴ヲ稱スルニ足ル。

君ハ三重縣松坂ノ出身ニシテ嘉永四年十一月ヲ以テ生ル、幼ニシテ父君ヲ失ヒ慈母ニ撫育セラレツ、アリシニ、文久元年東都日本橋區駿河町越後屋吳服店ニ入ル、時ノ支配人山岡庄次氏ハ早クモ君ノ秀才ヲ認識シ選ハレテ桐生出張所詰トナス時ニ明治六年ナリ、爾來累進シテ京都詰トナリ後チ更ニ東京本店詰トナリ仕入部ニアリテ盡瘁息リナシ明治十年佛國大博覽會開設セラレ、ヤ、同會ノ事務官前田正名氏ノ發議ニヨリ羽二重、縮緬等ノ廣幅ナルモノヲ精製出品スルノ好機ニ會シ君其責任ヲ負ヒテ東奔西走セラレタルコトアリ、同十九年十二月店命ヲ帶ヒテ實地視察トシテ歐州ニ渡航シ

佛國巴里、「リラン」ヲ經テ英國倫敦ニ至リ視察ヲ遂ケ婦人服ニ就テ研究ヲ重ネ、婦人裁縫師三名ヲ雇テ歸朝ヌ、後洋服部開設ト共ニ取締役トナリ、明治卅七年組織ヲ株式會社トナスヤ推サレテ常務取締役トナリ以テ今日ニ至ル、君資性温厚着實博愛慈善ノ志ニ富ミ社界公共事業ニ熱注シテ奔走盡力到ラザルハナシ、汚流滔々トシテ道義ノ廢レタルヤ久矣君ノ如キ任俠ノ志士ヲ得タルハ吾徒ノ敬服ニ堪ヘサル所タリ。

### 實業家 龍野周一郎君

麻布區新龍土町二二 電話芝二二〇七

往年自由黨ノ志士トシテ「龍野」ノ名ハ當局之レヲ聞ヒテ戰慄シ、國民之レヲ聞イテ歎美セリ、當年ノ國士、今ヤ牙齦ヲ探ツテ賈行ヲ敢テス、シカモ尙且士心ノ鬱勃タルアリ、ソモ大輒底カ、ソモ大

悟道カ、トマレ明治憲政史上ノ恩人ハ今尙健在ナリ、カクシテ吾人ハ世ノ健忘性ナル噴々流ニ傳見ノミ、例ニヨツテ略傳ヲ草スレハ、君ハ元治元年四月七日ヲ以テ長野縣小縣郡東鹽田村ニ生ル、家ハ代々農業ヲ業トス、幼時龍野庄藏翁ニ學ヒ、明治七年習成學校ニ入り、傍ラ碩儒渡邊眞揖氏ニ師事シ、後上田中學校ニ入り、餘暇上野尙志氏ノ塾ニ遊フ事數年ニ及フ、十四年小縣郡川西地方教育家諸氏ト計ツテ政談社益友社ヲ興シテ君社長タリ當時自由民權ノ說唱道セラレ、自由黨ノ組織セラレ、ヤ、君亦盟ニ加ハル、爾來命ヲ賭シテ拮据經營太タカム、十五年同志ト謀ツテ有爲社ト稱スル書籍館ヲ創立ス、同年自由黨擴張ノ爲メ北信地方ヲ遊説ス、十六年ニ至リ、言論禁止ノ嚴命布達ニ逢フテ志士ノ口ヲ迫害セリ、君茲ニ於テカ一策ヲ

案シ、翌十七年春、先愛亭後樂ト號シ、軍談師ノ免許ヲ受ケ、講談ニ事ヲ托シテ自由民權ノ説ヲ鼓吹ス、後入獄中行政處分ヲ以テ該鑑札ヲ取上ラル當時ノ行動即チ是憲政史中ノ花ト稱スヘシ、卅一年郷里第三區ヨリ選ハレテ衆議院議員トナリ、例ノ雄辨今尙人口ニ膾炙ス、爾後議席ヲ占ムル再三亦一面自由黨評議員、憲政黨幹事トシテ盡瘁スル事極メテ大ナリキ、今ヤ全ク政界ヲ棄テ、實業界ニ入り、故友天下系平ノ遺業ニ干與シ、専ラ同家鐵山方面經營ニ任シツ、アリ。

實業家 市川好廉君

本郷區弓町二ノ二九 電話下谷一〇五四

君ハ山梨縣中巨摩郡五明村ニ生ル、安政六年三月ノ誕生ナリ、父ヲ好三氏ト云フ好三氏ハ第十銀行東京支店ノ行務ヲ擔任スル事トナリシカ君ハ父ニ

代ツテ其實務ニ當リ、大ニ同行ノ爲メ盡瘁ス、幾干モナク父君菱銀行ヲ創ムルニ至リ君ハ其頭取ニ任シ、明治十五年日本銀行設立セラル、ヤ、入ツテ帳房ノ人トナリ爾來二十有四年、行内各局ノ事務ニ盡瘁シ、或ハ支店長トシテ各地ニ敏オヲ知ラレ、三十四年舉ケラレテ其調査役ニ榮進スルニ至リシガ三十九年思フ處アリテ斷然辭職シ、日米銀行支店ヲ横濱ニ置カル、ニ及ヒ之ガ代表者トナリテ經營ノ任ニ當リ、明治四十一年東京機械株式會社ノ創立セラル、ニ至リ君ハ推サレテ其監查役トナリ、幾干モナク專務取締役ニ轉シテ社務一切ヲ見ルニ至ル、今ヤ百萬圓ノ大資本ヲ以テ、輪轉印刷機、卷煙草機械其他有ユル機械ヲ製作シ、工業界ニ貢獻スル大會社ノ樞機ヲ把握シテ奮闘シ尙都銀行伊那電鐵等ノ創立ニ與リテ盡瘁シ其ノ重望亦

篤シト云フ。

從五位法學博士

清水澄君

麴町區永田町二ノ八〇 電話新橋三九五

我法曹界ニ人材ヲ求メンカ、眞ニ多士濟々、恰モ錦上ノ花ノ如シ、而モ清水澄氏ノ如ク、學ニ街ハス、崎ニ偏セズ、温厚篤實邊幅ヲ飾ラス、能ク凡テニ通ジ、品格ノ崇高眞ニ圓滿ナル好紳士タル斯克ノ如キハ又多カラスト云フ可シ、氏ハ加賀金澤ノ人、清水吉三郎氏ノ長男ニシテ、明治元年八月十二日ヲ以テ生ル、幼ニシテ才智人ニ優レ秀才ノ名高シ、後帝國大學ニ入り明治二十七年卒業シテ茲ニ法學士トナリ直チニ内務省ニ出仕シ、同三十年東京府參事官トナリ次テ内務省事務官ニ累進ス夙ニ玉ノ知キ人格ト、温厚ナル資性トハ人ノ認ム

ル處トナリ、卅一年拔擢セラレテ學習院教授ノ榮職ニ座シ、宮内省ヨリ命セラレテ佛獨兩國ニ留學ス、特ニ内務省書記官ヲ兼ヌ、明治三十四年歸朝シ、卅七年學習院教授兼幹事ヲ被仰付、三十八年法學博士ノ學位ヲ授ケラレ翌年行政裁判所評定官トナリ、學習院教授ヲ兼任シ屢々文官高等試驗委員ヲ命セラレ、又法科大學講師ヲ囑托セラレ、四十年農科大學ニ憲法ヲ講ス、其行政裁判所ニ評定官トシテ立ツヤ明晰ノ理論立所ニ事ヲ決シ、教育者トシテ起ツヤ、崇高ナル人格衆ノ欣慕ヲ招致ス而モ街ハズ誇ラズ、能ク學究的態度ヲ持續シテ研磨怠ラズト云フ、眞ニ高風如斯ハ亦多カラズト言フ可シ、氏ノ著述ニ係ル物亦多ク、就中憲法編ノ如キハ同一書中ノ白眉ト稱セラル、氏尙春秋ニ富ム、吾人ハ氏ノ將來ニ多大ノ期望ヲ囑シテ己マサ

ルモノナリ。

從三位勳四等伯爵

### 松平直亮君

四谷區元鰈ヶ橋五八 電話番町七四

抑當家ハ清和天皇ノ皇孫鎮守府將軍源經基八世ノ後胤徳川四郎義季十六世ノ裔、家康ノ男權中納言結城秀康ノ三男出羽守松平直政ノ後ナリ、初メ越前國大野ニ城主トナリ五萬石ヲ領シ、寛永十二年信州松本七萬石トナリ、同十五年雲州松江ニ轉シテ十八萬石ニ加増セラレ、別ニ隱岐國一萬八千石ヲ領セラル、後世々松江ニ城主トシテ十二世ニシテ君ニ至ル、君ハ從四位松平定安ノ三男ニシテ慶應元年九月九日ヲ以テ生ル、幼名ヲ陽之進又ハ優之丞ト云フ、明治六年五月、大坂ノ豪商大眉五兵衛ノ養子トナリシカ、同十三年復籍シ、同十五年

### 四三六

十一月十七日松平家ヲ繼キテ相續シ、直亮ト改名ス、同十六年二月十二日從五位ニ叙セラレ、同年六月九日拜謁シテ天盃ヲ賜ハリ、同十七年七月、現今ノ華族制度ノ發布ニヨリ華族ニ列シ伯爵ヲ授ケラレ、尋デ同二十二年十二月正五位ニ、廿六年十二月從四位ニ陞叙シ、二十九年六月、日清役ノ勳功ニ依リ勳四等ニ叙シ瑞寶章ヲ賜ハリ、尋テ三十年七月正四位ニ、卅五年十二月從三位ニ被叙、同三十七年一月貴族院議員補缺選舉ノ際議員ニ當選就任、同年七月ノ總選舉ニ再度當選ス、四十年九月、日露役ノ功ニ依リ旭日小綬章ヲ授ケラル、去ル明治二十三年嶋根縣下ノ三大惡路ノ改修ニ際シ金千五百圓ヲ寄附シ銀盃ヲ賜ハリ、又々大日本弘道會ノ會長トシテ盡瘁シ、今尙其評議員タリ、夙ニ郷黨育英ノ事ニ志シ、曩ニ獨力舊藩下ノ秀才

ニ貸費シテ學ハセツ、アリシカ先年藩ノ有志ト謀リテ財團法人育英會トナシ現ニ之ガ會頭トシテ盡サル、現代貴顯社流ノ好模範トシテ推讃スルモノ亦宜ナルニアラスヤ。

### 銀行家 杉田富君

下谷區谷中清水町二二 電話下谷一〇一九

確信アリ牢トシテ拔ク可ラズ、熱血アリ炎トシテ冷ス可ラス、而シテ自己ノ天職ヲ信シテ徒ニ名利ニ趨ラズ、一意專念道ニ忠ナルノ士真ニ求メテ得易カラス斯ル間ニ於テ吾人ハ杉田富君ノ如キ熱烈ノ人ヲ見ル、君ハ實ニ當代青年ノ模範タルニ値ヒスルモノナリ、君ハ古今人物ノ叢淵タル愛知縣豊橋ノ出身ニシテ、父君ヲ富安三郎ト云ヒ其第三男ナリ、明治八年四月七日ヲ以テ生ル、幼ニシテ俚童ト選ヲ異ニシ、土地ノ長老連ヲシテ大ニ將來

### 四三七

ニ矚目セシメシガ、事果シテ違ハス、長スルニ隨ツテ異彩陸離タルモノアリ、偶親戚杉田家ニ嗣子無キニヨリ夙ニ入ツテ權三郎氏ノ養嗣子トナル中學卒業ノ後東都ニ笈ヲ負フテ向ケ岡ノ稜舍ニ研學シ、帝國大學法科ニ入ツテ研修四年、遂ニ明治三十五年同校ヲ卒業シテ法學士ノ月桂冠ヲ得ルニ至ル、幾多青年血氣ノ人其ノ多クハ官界ニ投シテ將來ノ宰相ヲ期ス者多カリシカ、君ハ早クモ實業界ニ着眼シ、斷然第一銀行ノ一行員トシテ實業界ニ入リス、爾後十餘年一日ノ怠慢無ク行務ニ勤ム、サレバ漸次累進シテ遂ニ副支配人トナリテ書課長ヲ兼スルニ至リス、君資性謹格、事務ニ當ツテ整然一糸ヲ乱サス一毫ノ誤ナシト、以テ君ノ手腕ノ如何ヲ察スルヲ得可シ、君尙春秋ニ富ム、吾人ハ將來ニ於ケル君ノ大成ヲ期シテ疑ハズ、希クハ卑

平タル所信ヲ楯トシ益々努力奮勵以テ實業界ノ爲  
メ盡瘁セラレン事ヲ。

池田合資會社東京支店長

### 中村喜之助君

京橋區尾張町二ノ一三 電話長新橋二五三〇

中央ニ於ケル新古美術商界ノ敏腕家トシテ、能ク  
内外人間ニ知ラレタルハ君ナリ、更ニ博覽會ノ功  
勞者トシテ多年其努力ヲ捧ケツ、アルハ君ナリ、  
茲ニ其略傳ヲ草スレハ、君ハ京都ノ人ニシテ萬延  
元年二月十二日ヲ以テ生ル、先考庄兵衛氏ノ長男  
ナリ、十二歳ニテ商家ノ徒弟トナリ、十四歳ニシ  
テ父ヲ喪フ等早クモ運命ノ數奇ニ翻弄セララル、二  
十二歳ニシテ獨立古着行商ヲ營ミ、日本全國ニ其  
足跡ヲ印ス、明治十四年ノ交、神戸ノ貿易商池田  
清助氏外戚ノ故ヲ以テ其家政ヲ補佐シ、次テ上海

香港ニ赴キテ營業シ、銀價ノ變動ニ遭フテ失敗ス  
十六年四月歸朝シテ外人相手ノ古着商ヲ營ミ、翌  
年三月上京シテ中央牙齋界ニ奔馳シタルガ、其後  
横濱ニ至ツテ製茶輸出商某氏ト約シ、北門ノ商界  
ニ辣腕ヲ振ハントス、不幸病魔ノ胃ス處トナツテ  
志業共ニ果サズ、尋テ京都ニ歸リ、將ニナサント  
シテ韓國攘亂ノ事アリ、再ヒ池田氏ノ事業ヲ扶ク  
ルニ至ル、時ニ岡氏機ヲ誤ツテ失敗シ、家族ヲ君  
ニ托シテ英國倫敦ニ赴ケリ、茲ニ於テカ、君ハ明  
治十七年ヨリ二十二年迄池田氏ノ事業ノ挽回ニ苦  
心シ、此年東上シテ京橋區尾張町ニ美術工藝品ノ  
販賣ヲ營ミ、苦心空シカラスシテ漸次初念ニ接近  
セントスルニ至レリ、二十八年二月米英佛ノ各國  
ニ巡遊シテ商業ノ視察ヲナシ、同年六月歸朝ス、  
彼ノ北清事變ニ際シ、清國北京ニ赴キ附近各地ノ

視察ヲ終ツテ三十六年十一月歸朝シ、翌年更ニ北  
米ニ渡航シ、紐育『ポストン』地方ニ赴キ、商況視  
察ニ依テ事業上ノ刷新ヲ量ル、是ヨリ先、池田氏  
ノ事業挽回ナツテ合名會社ノ組織成ルヤ、君ハ其  
總支配人トシテ東京支店管掌ヲ兼務シ、爾來拮据  
經營今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ、君尙内外博覽會  
事業ニ曉通シ、幹事或ハ幹事長トシテ盡力ノ殊勳  
頗ル大ナリ、外ニ東京商業會議所議員トシテ東部  
實業界ニ其赤誠ヲ割キツ、アリ、茲ニ波瀾アル歴  
史ノ梗概ヲ掲ケテ過去ノ心勞ヲ德トス。

### 實業家 岡部菊太郎君

横濱市南仲通り二ノ二六 電話横濱三三七二

君ハ横濱市屈指ノ實業家ニシテ其關係スル會社ヲ  
舉クレハ横濱經濟會幹事絹物商同業組合長新瀉縣  
ノ高田羽二重株式會社取締役福島縣ノ東北機業株

式會社監查役兵庫縣ノ日本輸出羽二重株式會社監  
查役横濱ノ日本絹布精練株式會社取締役タリ、其  
名譽職トシテハ横濱區會議員ノ職ニアリ以テ君カ  
如何ニ實業ニ熱心ニシテ又公務ノ爲メニ盡瘁セラ  
ル、カヲ窺知スヘシ君ハ朽木縣安蘇郡新合村ノ産  
明治四年九月十六日ヲ以テ生ル、父ヲ仲藏氏ト稱  
シ君ハ其二男ナリ、累世農ヲ以テ業トナス明治十  
九年東京ニ出テ小石川ノ同人社ニ入りテ英學ノ學  
ヲ修メ、二十四年同校ヲ卒業シ更ニ早稻田專門學  
校ニ入りテ英語政治科ヲ修メ、明治二十六年益雪  
ノ功成リテ卒業スルヤ、君ハ身ヲ商界ニ投シ明治  
三十年横濱市南仲通り二丁目ニ絹布羽二重等ニ直輸  
出業ヲ開始シ、爾來捲土重來ノ勢ヲ以テ巨萬ノ利  
益ヲ撰取シ忽チ屈指ノ商店トナレリ、明治三十八  
年山下町三十番地ニ直輸出店ヲ設ケ三十九年横濱

五品取引所仲買人トナリ、獨特ノ敏腕ヲ揮テ勇往邁進シ苟モ勝ヲ制セスンハ止マヌ宜ナリ、君ノ成功ノ奔雷モ管ナラサルヤ、君ハ此ノ如ク商界ノ雄將ニシテ剛毅果斷ニ富ミシノミナラス、公共事業ニ力ヲ盡シ慈善事業ニ資ヲ吝マサル等ハ人ノ常ニ敬服スル處ナリ。

### 實業家瓜生寅君

豊多摩郡淀橋字角番五十八八七一 電話番号一〇〇八

君ハ越前福井ノ藩士ニシテ夙ニ合名アリ、早クモ文部省ニ出仕シテ小博士ニ至ル、後大藏省ニ轉任シ、其功績ノ見ルヘキモノ甚々多シ、曾テ印紙稅則ノ必要ナルヲ認メ、自カラ筆ヲ採テ其法制ノ完備ヲ計リ、企劃苦衷大ニ盡瘁セラレタルモノアリ、今ノ印紙稅則ナルモノハ凡テ當時ノ胚胎ニ係ルモノナリ、君ハ更ニ神戸稅關ニ轉職シ次テ稅關長ノ

要位ヲ占ムルニ至レリ、此ノ間開港事業ニ關シ多大ノ研究ヲ重ネ、外國領事等ト大ニ論議シ稍完全ナル成案ヲ立テタルカ如キハ當時ノ稱賛ヲ受ケタル事實ニ屬セリ、後故アリテ一時在野ノ人トナリシモ更ニ立テ鐵道廳ニ奉仕シ、滿腔ノ熱誠ヲ傾注シテ天王寺ヨリ敦賀ニ通スル鐵道事業ニ從事シ、晝夜奮勵効果大ニ舉カレリ、當時ノ精勵不幸ニシテ身体ノ傷害ヲ享ケ足部ノ操行不隨ナルニ至レリ以テ其如何ニ献身の活動ヲ試ミラレタルカヲ想見スヘシ、桂川鐵橋ノ如キハ非常ノ難工事ニシテ其使用セル西洋博士モ殆ント困憊セルニ至ル、君ハ嚴冬水中ニ立テ指揮監督ニ日モ亦足ラサリシハ、當時ノ關係人士カ驚嘆シテ措カサリシ所タリ、其功績ノ偉大ナルハ吾人ノ喋々ヲ俟タサル所ナリ。

### 三吉商會々主

### 武田俊熊君

營業所 芝區新堀河岸二九號地 電話芝長七二一  
自宅 麻布廣尾町一〇〇 電話芝三二二〇

本邦電氣事業界ノ先覺者故三吉正一君ハ、抄ナクトモ明治電業史上ノ立者タラサルヲ得サルナリ、遺業三吉商會ハ、令弟武田俊熊君ニヨツテ經營セラル、茲ニ故人ノ俤ヲ偲ヘバ、其出身ハ周防國岩國藩士英郷氏ノ長子ナリ、明治八年彼ノ富岡製絲場ニ入り、更ニ東京電信修技學校ニ入り電信機械製造ノ業ヲ修ム、天才屢々發揮シテ特筆スベキモノ抄ナカラサルモ、彼ノ足踏製絲機械ノ創製、細銅線卷絹器械等ノ創造ハ、既ニ國家的ヲ意味ス、幾モナクシテ技術官トナリ、神戸ニ赴任セシム、大鵬徒ラニ小天地ニ羽翼ヲ收ムル能ハズ、辭シテ電氣工場ヲ芝南佐久間町ニ創設ス(明治十六年四月)

翌十七年電燈業ヲ始メテ我國ニ傳フ、君卒先シテ電機製造ニ從事ス實ニ發電機ヲ本邦ニ於テ作製セシ嚆矢ナリ、明治二十一年三田四國町ニ一大工場ヲ建築シ、三吉工場ノ名全國ニ汎ク、幾多ノ秀才ヲ薰育シ、民間技術者養成所トシテ亦唯一ノ者タリキ、今日電氣業者トシテ錚々タル、才賀、重宗等ノ士ハ寔ニコ、ニ搖籃ノ人ナリキ、爾來倍々努力シ、幾多ノ變遷アリシモ、君ガ誠意ハ變渝ナシ卅九年三月廿四日遂ニ依病歿セラル、令弟武田君夙ニ阿兄ノ教訓ヲ受ケ、相擁リ相扶ケテ献身從事セリキ、三十一年經營上變革アラシ際ノ如キ克ク其處置宜シキヲ得テ内助ノ功ヲ奏ス、爲人頭腦明敏頗ル精力主義ニ富ミ、孜々トシテ歴史アル三吉商會ノ隆運ヲ量リ、年一年漸進的ニ發展シツ、アリ、數年來人知レヌ苦心慘憺ハ、確カニ同情ト敬

意トヲ拂フニ吝ナラサルナリ、君亦先人ノ後繼者ト絶好ノ武器ヲ有ス、曰ク、堅實コレナリ、希クハ自重セヨ。

三越呉服店専務取締役

日比翁助君

府下品川町大字北品川宿三三九電話芝二二三三

東都ノ一名物否日本ノ名物三越呉服店、今ヤ本邦商業界ニ向ツテ幾多ノ先覺ヲナス、經營幹部ノ顔振レ、恐ラク配劑ノ巧妙ナルニ於テ他ニ比儔ヲ見ズ、専務日比君、例ニヨツテ顧客大事ト活動一日ノ荒怠アルナシ、試ニ種々ナル立脚地ヨリシテ三越評論ヲ草センカ、優ニ一篇ノ冊子ヲナス、今ハ雷ニ君ノ概歴ノ一端ニ止メン哉、聞ク君ハ福岡縣士族竹井彌太夫氏ノ二男ニシテ安政五年七月廿六日ヲ以テ生ル、後先代日比氏ノ養フ處トナリ現名

ヲ襲グ、長シテ三田慶應義塾ニ入り、明治十七年ヲ以テ卒業ス、初メ海軍省天文臺技手トナリ更ニ慶應義塾大學部建設資金募集員トナル、次テ堀越氏ノ『モスリン』商會ニ入り、幾多小僧ト相伍シテ前垂掛生活ニ從フ、會々故中上川彦次郎氏三井銀行經營ノ衝ニ立ツヤ、義塾出身ノ俊秀ヲ拔擢シテ破格ノ登用ヲ啓ク、君亦選ハレテ同行貸附係長トナリ、爾來、和歌山支店長、本店營業次長、等ノ要職ヲ經テ手腕既ニ認メラレツ、アリキ、三十一年轉ジテ三井呉服店營業部長トナリ、其才鋒愈々發揮シテ常ニ新機軸ヲ出シ、早クモ絶好ノ適任ヲ以テ目セラレタリ、三十七年十二月同店ノ組織變更アツテ三井直轄ヲ脱シ、株式會社三越呉服店ノ創業成ルヤ、君舉ケラレテ専務取締役トナリ、常務藤村氏ト提携シテ拮据經營今日ニ至レリ、創業

後期スル處アツテ歐米ヲ視察シ、『デパートメントストア』ヲ研究シテ歸朝シ、直ニ實施シテ本邦斯界ノ鼻祖タルノ榮冠ヲ領セリ、其營業振殊ニ顧客待遇法ニ至ツテハ、寔ニ實業界ノ模範タルニ値ス加フルニ奇抜タル廣告、或ハ活動寫眞、或ハ兒童博覽會、或ハ傳令使、ト計劃一トシテ間然スル處ナシ、尙外賓、觀光團等ノ接待等、營利以外ノ或モノハ、確カニ君ノ人格ト手腕ヲ窺フニ足ル、來ルベキ大新築落成ノ日ト、炎々タル君ガ向上ノ活火トハ、將來何者ヲ實現セントスルカ、吾人ハ興味ト囑望ヲ以テ、之レヲ期待センノミ。

實業家池田庄吉君

日本橋區元大工町四 電話本局三三四六

君ハ純粹ノ江戸ツ子、嘉永三年一月十五日、日本橋區北鞘町ニ生ル、先代忠七郎氏ノ長男ナリ、幼

ニシテ伶俐年僅カニ十二歳ニシテ出テ、渡邊治右衛門氏ノ店丁トナル、爾後殆ント名狀スヘカラサル、苦心慘憺ヲ嘗メ漸ク商道ニ通ス、其間ノ鍛鍊ハ君ヲシテ手腕ノ人タラシムルト同時ニ又人格ノ人タラシメタリ、明治二十年ヨリ三十五年ニ至ルノ間ハ委託販賣主任トシテ苦心ヲ拂ヒ、事業成績頗ル見ルベキモノアリ、爾來事實上渡邊氏ノ店務一切ニ對シ責任ヲ負ヒ、主家ノ信望大ニ加ハルト共ニ、外ニ向ツテ其眞面目ハ遺憾ナク發揮セラレ、ニ至リシナリ、君當時ヲ追憶シテ曰ク『店員時代ノ苦心ハ自分カラ申スト高慢ノ如クナレトモ朝飯ノ如キハ殆ント満足ニ食セシコト稀ナリト』以テ如何ニ活動セシカヲ推知スルニ足ル、夙ニ東京汽船株式會社ノ取締役トシテ社務ニ關與ス、會テ二十七銀行監査役タリシモ今ハ其職ニアラズ、現



今東京保稅庫株式會社ノ專務取締役トシテ起倒廻瀾ノ手腕ヲ逞フシ、徐ロニ社運ノ隆盛ヲ來シツ、アリ、君資性温厚ニシテ同情ノ念ニ富ム、部下亦心服シテ熱心ト誠意ヲ以テ君ノタメニ盡シツ、アリ、同社隆盛亦期シテ待ツベキナリ。

### 子爵吉田良正君

麹町區上六番町一七 電話番町一九〇四

當家ハ天兒屋根命ノ後胤ニシテ其十世殖坂命景行天皇ノ朝ニト部ノ姓ヲ賜ハル、後十數世ヲ經從五位下宮守ノ子業基出仕シテ神祇官トナリ、爾來子々孫々神祇官タリ、夫レヨリ三十四世正三位待從兼熙ノ時ニ至リ昇殿ヲ聽サル、夫レヨリ、兼敦兼富兼名、(其子兼綱ノ三男ハ中古有名ナル文學者兼好法師ナリ)ヲ經テ從二位兼見ニ至ル、慶長十二年大職冠ノ像破烈ス、明年三月權右少辨藤原共房

告文使トナリテ之レニ赴キ、告文ヲ讀ム、凡ソ七回、其夜亦裂ク是ニ於テ京師ニ歸ル、其九月兼見ノ子兼治命ヲ奉シテ之ニ赴クヤ、兼見之レヲ憂ヒテ措カス、自ラ將サニ之レニ赴カントス、而シテ父子宗源殿ニ於テ討論ス、時ニ兼治短刀ヲ懷キ辞色凜然其意若シ瘞ユサレハ自殺セントスルニアリ是ニ於テ兼見大ニ之レヲ快トシ奮ツテ赴カシム、兼治往テ多武峯ニ至ルヤ、廟殿鳴動ス、而シテ兼治告文ヲ讀ム、五回ニシテ瘞ユト云フ、徳川家康書ヲ贈リテ之ヲ嘉ス夫レヨリ兼英、兼起兼敬、兼章良延、良俱、良連、良長、良熙ヲ經テ從二位良義ニ至ル、君ハ其次男ナリ君ハ明治十九年一月十六日ヲ以テ生ル、同二十三年三月四日父君ヲ失ヒ、同月廿七日家督ヲ相續ス、其前同廿四年學習院ニ入學目下同院高等科ヲ卒ヘ帝國大學ニ於テ修學中ニ屬

セリ。

### 實業家宮本勝君

京橋區彌左工門町二二三 電話京橋二〇九七

徹々タル一寒ノ店丁ヨリ身ヲ起シテ、帝都中央ノ要部ニ堂々タル店舗ヲ有シ、英佛伊土ノ各國ニ確實ナル取引ヲ締結シ且、東亞南米ノ各邦ニ多大ノ顧客ヲ有シテ商況甚々熾盛ヲ極ム試ミニ其聲咳ニ接スレハ能ク談シ能ク語ル所、眞摯熱實ニシテ言々皆首肯感服ノ外ナク、聽者ヲシテ三嘆セシムル所正ニ斯界ノ大立者タルヲ覺ヘシム、其常ニ抱持スル貿易政策ト實業トノ關係ノ如キハ大ニ傾聽スヘキ價值ヲ有ス誠ニ當代得易カラサル實業家ナリトス、抑モ君ノ閱歷ヲ如何ト云フニ、君ハ茨城縣長戸村ノ人安政四年十二月ノ生誕ニシテ、夙ニ和漢ノ學ヲ修メテ得ル所多シ、二十一歳ニシテ決然

帝都ニ上リ、横山町岩山半兵衛氏ノ商店ニ入りテ店丁トナリ、次テ岩田銀藏氏ノ同町ニ袋物商店ヲ開クヤ、更ニ入りテ其店員トナリ、多年練磨ノ熟腕ヲ發揮シテ偉大ノ功ヲ擧ケラル、後更ニ獨立以テ商業ヲ開始シ、大坂京都關西ノ各地ニ取引店ヲ有シ、家道大ニ隆盛ニ向ヒ、旭日昇天ノ勢ヲ示セリ、明治十五年ヨリ書架ノ製造漆器蒔繪專業象牙角細工銅器貴金屬携帶品袋物等ノ各ニ事業ヲ營ミ其緻密多技ナル先天の特技ハ其濫與一連シ同業者間ニ先鞭ヲ著ケ、更ニ又貴金屬美術品ノ貿易ニ從事シ卅四年ヨリ現所ニ一大商店ヲ設テ、盛ニ海外輸出ヲ計ラル、君ガ斯業ニ從事スルモノ殆ント三十年客年歐米各國ヲ漫遊シ大ニ感スル所アリ、歸來其事業ニ一大刷新ヲ斷行セントシ今ヤ其實施中ニ屬セリ、曾テハ五二會ノ爲メニ東京同業者ヲ代

表シ貢獻スルノ勞甚タ多シ、君ハ實ニ私利ニ汲々タル陋劣ヲ好マズ國家的觀念ヲ以テ美術工藝品ノ貿易上ニ改善ヲ舉ケンコトニ苦衷セラシ、吾人ハ其志操ノ皓潔ナルニ多大ノ敬意ヲ表セサルヲ得ス君乞フ奮起セヨ。

### 貴族院議員 杉下太郎右衛門君

岐阜縣吉城郡國府村

杉下家ハ二十三世ノ久シキ、連綿トシテ土地ノ豪族ヲ以テ鳴ル、君ノ先代ハ實業上ノ偉傑、萬般ノ施設ハ皆産業發達史ノ色彩タラサルハナク縣民ノ仰望又甚タ厚シ、曾テハ「コロンバズ」博覽會ヲ視察シ、米國布哇等ノ各地ヲ漫遊シテ其規模ノ大ナルヲ實見シ、滿腔ノ抱負ヲ抱ヒテ歸朝セラレ、農産ノ發展ニ多大ノ貢獻ヲ爲ス、縣民皆其恩惠ニ依ツテ現今ノ盛況ヲ得ルニ至ル、君ハ其息男ニシテ

慶應三年九月吉城郡國府村ニ生ル、幼ヨリ學ヲ好ミ、和漢ノ諸書ヲ涉獵セラレテ造詣スル所甚タ深シ、早クモ時勢ノ趨勢ヲ察シ、米國ニ航シテ營業ノ視察ヲ遂ケ大ニ得ル所アリテ歸朝セラレ、明治二十六年推選セラレテ郡會議員トナリ、爾來公共事業ニ熱血ヲ傾注セラレ、同二十一年長尾、矢橋ノ諸氏ト計リ濃飛農工銀行ヲ創立シテ其重役トナリ、以テ其監督ノ任ヲ盡サル、第二第三回飛彈物産共進會參事員トナリ以テ令名ヲ博シ、君カ多年縣下ノ爲メニ貢獻セラレタル偉功ノ大ナルハ世ノ齋シク認ムル所タリ、第五第六回共衆議院議員總選舉ニ當リ、當選ノ榮ヲ擔ヒ少壯議員ノ錚々ヲ以テ聞ユ、後感スル所アツテ専ラ心ヲ實業界ニ注キ同三十九年杉下合名會社ヲ設立シ、専ラ金融機關ノ設備ヲ計ラレシガ、明治四十年十月同縣多額納

稅議員ノ補欠選舉ニ當リテ、貴族院議員ニ推選セラレ、爾來再ヒ政界ニ雄飛スル、ニ至レリ、君ハ尙赤十字事業ニ多大ノ盡瘁ヲ拂ヒ、特別社員有効社員トシテ表章セラレ、君ノ如キ赤誠ヲ以テ終始一貫シ、報國盡忠ノ大義ヲ徹底セラレタルモノ天下又幾人ヲ算ス可キ吾人ハ茲ニ其經歷ノ梗概ヲ語ルノミ。

貴族院議員公爵

### 毛利元昭君

芝區高輪南町二七 電話九五七

當家ハ其先天穗日命ヨリ出テ命廿七世ノ孫ヲ參議左大辨大江音人トナス、音人廿四世ノ孫陸奥守元就大永三年莖州ニ居城シ、元龜年間四隣ヲ平定シテ中國十餘州ヲ領ス、夫レヨリ三代輝元ニ至リ、天下ハ秀吉ノ權ニ在リ、即チ參議權中納言ニ舉ゲ

ラレ、偶々朝鮮征伐ノ軍功アリ威名ヲ轟ス其子秀就ヨリ十二世ヲ經テ元德ニ至ル、元德從四位下待從ニ叙任シ松平長門守ト稱ス、明治元年議定ニ任シ從三位ニ進ミ、維新廢藩置縣ニ際シ山口縣知事トナリ、同十七年華族令ノ布カル、ヤ特旨ヲ以テ公爵ニ列シ從一位勳一等ニ叙セラレ、君ハ即チ其長子ニシテ慶應元年二月ヲ以テ生ル、幼名ヲ與丸ト云ヒ、明治十三年十二月現名ニ改メ三十年一月家督ヲ相續シ、從三位ニ叙セラレ貴族院議員ニ勅選セラレ、明治三十四年正三位ニ叙シ四十年勳四等旭日小綬章ヲ授ケラレ四十一年從二位ニ叙セラレ四十四年一月巖香間祇侯ヲ拜命ス、尙、當家ノ善行美事ニ至ツテハ、一々枚舉ニ遑ナク、又其祖先以來ノ勳績ヲ説カバ尨大ナル一書以テ盡ス可ク、吾人ハ敢テ茲ニ説クヲ須ヒズ之ヲ他日ニ待ツト共

ニ、只帝國貴族社會ノ模範タリ四民ノ儀表タルヲ  
頌シ、瞻仰以テ已マン。

### 實業家 高田 茂君

麴町區中六番町二九 電話番町四四一

君ハ安政五年九月京都烏丸下立賣ニ生ル、父ヲ出  
雲之椽ト稱ヌ、君ハ其長子ナリ、家世々皇室御  
裝束ノ御用命ヲ拜シ祖先創業以來二十四世連綿ト  
シテ君ノ代ニ至ル、明治維新前ニ於テハ佩刀御免  
ノ家柄ニテ世々出雲之椽ヲ以テ官名ニナス、元治  
甲子年十月彼ノ有名ナル蛤門ノ變ニ際シ兵燹罹リ  
祖先傳來ノ舊記古書悉ク燒失ス、此時君僅カニ七  
歳一家ヲ舉ケテ難ヲ近郷ノ地ニ避ク、平定ノ後舊  
居烏丸ニ歸ル、齡十三歳ニシテ宕垣先生ノ家塾ニ  
漢書ヲ學フコト三歳、明治元年會々皇上遷都セラ  
ル、ヤ、明治三年君カ一家亦隨テ居ヲ東都ニ移ス

同十八年伊勢大廟式年御造營ノ機アルヤ、例ニヨ  
リテ御用ヲ仰付ラレ、東京府下豊多摩郡淀橋村字  
角筈ノ地ニ織物工場ヲ設ケ専ラ御裝束ニ要スル古  
代ノ織物ヲ作ル、而モ之ヲ織リナスニ當リテ當今  
ノ機械ヲ用ヒス一切古來傳フル所ノ舊式ニ依レリ  
ト云フ廿二年ニ至リ父君出雲之頭氏名ヲ改メテ秀  
成ト稱シ京都ノ舊居ニ轉居スルニ及ヒテ、君家名  
ヲ毀ク、同年麴町區三番町ニ其工場ヲ移シ以テ今  
日ニ及ベリ、今ヤ業務ノ擴張逐日ニ加ハリ其雇備  
スル所ノ職工數十名ノ多キニ達シ、官服裝束、諸  
織物製造、諸官省及辯護士服、帽子、祭典用具高  
等葬具ノ用達業者トシテ名アリ、君賦性温厚、常  
ニ謹格身ヲ持シ、篤實事ニ當リ孜々トシテ傳來ノ  
業ニ從ヒ、會テ内國勸業博覽會及各地ノ展覽會ニ  
出品シテ金銀盃及賞狀等ヲ受領シタルコト尠カラ

又、嗚呼連綿タル福祉常ニ家門ニ充ツ羨ムベキ哉。

西洋船具、諸機械、銅鐵商、製油業

### 鈴木彌兵衛君

本店 京橋區松屋町一ノ一八 電話京橋五八〇  
製油所 府下南葛飾郡砂村大字水代新田三八〇  
電話浪花一六一二

英邁ノ氣魄、剛健ノ意志、兩々相俟ツテ勃發シ、恰  
モ明治ノ新機運ニ乗シテ幾多ノ新人物ヲ輩出シタ  
ルハ、藩閥以外先ヅ指ヲ長野縣ニ屈セサルベカラ  
ズ、君亦此地出身ノ實業家ニシテ、興味アル過  
去半生ノ奮闘史ハ、波瀾曲折、優ニ一篇ノ立志篇  
ヲナスモ、今ハ割愛シテ僅カニ概歴ニ止メントス  
傳ニヨレバ、君ハ長野縣人小嶋七郎右衛門氏ノ四  
男ニシテ弘化四年五月一日ヲ以テ生ル、年十八、  
大志ヲ抱イテ江戸ニ入り、小石川春日町ノ鐵砲師  
坂部六右衛門氏ニ仕ヘ、當時ノ諸大名ニ向ツテ賣

込係ヲ擔當ス、誠實熱心衆ニ擢ンデ、出色アリ會  
々維新ノ變革ニ際シ、遂ニ業務ヲ轉セサルベカラ  
サルニ至リ、即チ彼ノ木村萬平氏ノ經營ニナル蒸  
氣廻酒店ニ入り、忠實勤格數年ニ及ブ、此當時、  
幾多ノ經驗ニヨツテ西洋船具商ノ前途ヲ豫想シ、  
徐ロニ策劃計籌スル處アリキ、即チ機ヲ得テ現所  
ニ店舗ヲ創業ス、コレ今日成功ノ出發點ニシテ斯  
業ノ日本ニ於ケル嚆矢ト稱セラル、所以ナリ、コ  
レヨリ先、鈴木家ノ養フ處トナツテ現名ヲ襲フ、  
由來同家ハ、二百有餘年ノ歴史ヲ有スル舊家ニシ  
テ、徳川時代ニ於テハ、頗ル熾盛ヲ極メタル商賈  
ナリシガ、君入家當時ハ、家道衰退シテ悲運ノ極  
ニ達シ、所謂蒼茫一色、詠懷ノ歎ニ堪ヘズ、此刺  
戟ハ君ヲシテ家名ノ再興ニ一念ヲ込マシメ、孜々  
トシテ奮闘一日ノ怠リナシ、這般ノ消息ニ至ツテ

、到底筆紙ノ盡シ能フ處ニアラズシテ、尊敬スベキ粒々辛苦ノ汗ハ、亦以テ一條ノ教訓タルニ足ル、遂ニ業務ヲ擴張シ、發展ニ亞クニ發展ヲ以テシ茲ニ現時ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ、今ヤ支店ヲ函館、横濱、浦賀ノ三ヶ所ニ置キ、共ニ共ニ發揮シテ本邦斯界ノ巨擘ト稱セラレ、其名全國船舶業者間ニ喧傳セラレツ、アリ、同明治二十七年頃ヨリ、江東砂村ノ地ヲ相シテ獨力鈴木製油所ヲ起シ、是亦現今成功ノ域ニ達セリ、此間君ノ苦心ニナル專賣特許鑛物再製法ノ如キハ、亦特筆大書スルニ値セリ、更ニ約十年前、富岡氏ト計ツテ彌富商會ヲ起シ、今ヤ株式組織トシテコレ亦隆々タル成績ヲ擧ケツ、アリ、以上ハ君ノ概傳ニシテ要スルニ其成功ハ高價ナル至誠一貫ヲ以テ購ヒ得タルナリ、傳ヘ聞ク往年一大家憲ヲ制定シテ店員優遇

ノ途ヲ實行シツ、アリト云フ、君資性温良ニシテ頗ル謙讓ノ德ニ富ミ、博愛慈善ノ美風ヲ具ヘ、常ニ私財ヲ投シテ世ノ孤弱ヲ恤ミツ、アルモ、常時飽ク迄モ、表面其名ヲ列スルヲ避ケ、隠然トシテ善事ニ盡シツ、アリ、彼ノ砂村製油所増築工事ニ際シ幾多ノ白骨ヲ發見シ、其由來ヲ聞知スルニ際シテ、自ラ淨財二千餘金ヲ投ジ、コ、ニ釋尊ノ鑄造ヲ安置シタルノ逸事ハ、既ニ世ノ知ル處ナリ、語ニ曰ク積善ノ家ニ餘慶アリト金言人ヲ欺カスト謂ツベシ、希クハ自愛セヨ。

代議士 上 埜 安 太郎 君

芝區三田四國町二ノ一七號 電話芝一四九五

君ハ富山縣西礪波郡西五位村ノ人、慶應元年ヲ以テ生ル、夙ニ自由主義ヲ抱持シ、大同團結ニ加盟セリ、當時改進黨ノ班盛ヲ極メタリシモ君ハ尙一

個ノ青年ヲ以テ奮闘スルコト連年克ク此ノ強敵ヲ排ス、明治廿五年選ハレテ富山縣々會議員トナリ尋テ副議長ニ推サレテ其重任ヲ帶ベリ、爾來自由黨ニアリテ極力黨勢ノ擴張ニ努メ、會テ北陸自由黨ヲ組織シテ其主義ノ鼓吹ニ努メテ、同地方ノ重鎮タリ、三十一年推サレテ縣會議長トナリ、最モ勸業、教育及ヒ土木ノ事業ニ盡力シ、庄川改築、富直鐵道案ノ如キモ君ガ勞多キニアリト云フ、次テ北越組ナルモノヲ起シテ自ラ其社長トナリ同ト共ニ北陸公論ヲ發行シ尙越中新報ニ主幹トシテ大ニ地方ノ風教ヲ矯正シ、三十五年第七回衆議院議員總選舉ノ事アルヤ縣民ノ推ス所トナリ當選ノ光榮ヲ得テ以來每期ノ總選舉ニ當選シテ今日ニ至ル、今ヤ立憲政友會院內幹事及生産調査委員トシテ令名噴々タリ、君ハ尙餘力ヲ以テ同ト共ニ東

洋漁業株式會社(資本金二百萬圓)ヲ創立シテ其監查役トナリ、今ハ東洋捕鯨株式會社ト合同シテ大組織トナスニ至レリ其功勞ニ依リ、同社株主ヨリ銀杯ヲ贈ラル、現今ノ大名ヲ成ス亦故ナカランヤ。

實業家 雨 宮 庄 吉 君

麹町區飯田町四ノ一八 電話番町九五

君ハ明治三年滋賀縣甲賀郡佐山村ニ生ル、藤原傳右衛門氏ノ長男ナリ、幼少學ヲ好ミ夙ニ神童ヲ以テ目セラル、會テ京都私立獨逸學校ニ遊ヒ、正科別科並ニ藥學科ヲ兼修シ、藥舖開業試驗ニ及第シ東京製藥會社ノ招聘ヲ受ケテ上京シ、其試驗部ニ入り、傍ラ獨逸協會學校別科ニ入りテ獨乙語ノ研鑽ヲ爲シ、更ニ帝國大學ノ選科ニ學ヒ、衛生學、裁判醫學、藥品檢査法等ヲ專攻セラレ大ニ其蘊奧ヲ極メラル、東京製藥會社長雨宮綾太郎氏ノ眷顧ヲ

### 伯爵藤堂高紹君

本邸本所區橫綱町一ノ五電話浪花一五八〇、四八四五  
別邸邸府下北豊島郡巢鴨村大字上駒込九一一  
電話下谷二二五〇

得ルコト甚々厚ク遂ニ養子ト爲ツテ其姓ヲ冒スニ至ル、獨立自營ヲ以テ麴町區飯田町ニ藥舖ヲ開キ熱心以テ其衝ニ當リ逐日隆盛ヲ致セリ、更ニ東京製藥株式會社ノ取締役トナリ、畢世ノ熱血ヲ傾注セラレテ其發展ヲ計ラル、今ヤ同社ハ駿々乎トシテ隆昌ノ域ニ進ミ、内地ハ勿論支那朝鮮印度等ノ各地ニ輸出ヲ謀リ、着々トシテ功ヲ奏シツ、アリ同社ハ規模宏大ニシテ試験部新藥販賣部及數個ノ工場ヲ有シ兩宮藥學博士村松藥學士等ノ全力ヲ注クアリテ斯界ノ革新ヲ計リツ、アリ、君ハ曾テ東「レザ」株式會社ノ社長、日本藥劑師會ノ支部副長、東京商業會議所議員等ノ職ニ在リシモ勇退シテ以テ一意東京製藥株式會社ニ其全力ヲ傾注セラレ、ツアリ。

當家ハ天武天皇ノ皇子、一品舍人親王ノ曾孫、中原真人長谷ノ後胤、藤堂石見守友章十二世ノ孫、源助虎高ノ子伊賀少將和泉守高虎ノ後ナリ、高虎幼名ヲ與吉ト云フ、年甫メテ十五阿閉淡路守ニ倚リ、後去ツテ織田信澄ニ屬シ、羽柴秀長ニ從ヒテ處々ノ戰鬪ニ勇名ヲ顯ハシ、豊臣秀吉亦器重ス、天正十九年秀長薨シ、世子中納言秀保ニ仕ヘシム文祿年間初度ノ征韓ニ從軍シテ偉功アリ、同四年秀保薨ス、高虎髮ヲ截ツテ高野山ニ遁ル、秀吉屢々之ヲ召ス、高虎固ク辭スレ共聽カレズ、伊豫宇和嶋七萬石ヲ賜フ、慶長二年再ヒ朝鮮ニ航シ、軍功アリ依テ、八萬石ニ加増セラレ、秀吉薨去ノ後

徳川家康ト舊交アルヲ以テ、五奉行家康ヲ危フセ

ントスルニ際シ之レヲ救護ス、同五年關ヶ原ノ役家康ニ屬シテ大功アリ、數回ノ加封ヲ經テ遂ニ勢州ノ地ヲ賜ヒ、三十二萬石餘ヲ地行スルニ至ル、

其レヨリ高次、高久、高陸、高敏、高治、高朝、高悠、

高嶷、高兌、高猷ヲ經テ從三位高潔氏ニ至ル、君ハ

其第二子ニシテ明治十七年七月二十七日ヲ以テ生

ル、學齡ニ達セラル、ヤ直チニ學習院ニ入り常ニ

優秀ヲ以テ卒業セラル此レヨリ先キ、明治廿三年

一月八日家督ヲ相續シテ伯爵ヲ襲グ、明治卅七年

期スル處アリ萬里ノ波濤ヲ蹴ツテ英國ニ航シ「ケ

ンブリッチ」大學ニ入り在學中最優等ノ成績ヲ得

テ明治四十年ヲ以テ卒業歸朝セラル、君資性敏慧

學深ク志遠大ニシテ博愛ニ富ム、實ニ當代青年貴

族中稀ニ見ルノ英材ニシテ、未來ノ發展ヲ期シツ

、アリト云フ。

### 醫學博士 金杉英五郎君

病院 神田駿河臺南甲賀町一三及一二  
電話本局一二八五  
自宅 電話番町二一〇一

刀圭界ノ豪傑金杉英五郎君ハ千葉縣ノ人、慶應元

年七月十三日ヲ以テ生ル、金杉與右衛門氏ノ三男

ナリ、幼時腕白至ラサルナク特ニ學ヲ好マサリシ

ト雖叔父金杉恒氏(嘗テ内務書記官)ハ其氣骨ヲ愛

シ、遂ニ養フテ其嗣子トナス、少時東都ニ上リテ

醫學ヲ研究ス、明治二十一年耳鼻咽喉科研究ノ目

的ヲ以テ獨逸國ニ留學シ、二十三年「ドクトル」ノ

學位ヲ受領シ爾後專ラ彼地領學大家ニ就テ其助手

トナリ研究スルノ傍ラ特ニ實地ニ臨ンテ新タニ學

理ヲ發見シテ全廿五年錦衣歸郷ノ人トナルヤ、直

チニ地ヲ高燥ナル神田駿河臺ノ一角甲賀町ニ相シ

テ東京耳鼻咽喉科病院ヲ起シ普ク一般ノ診療ニ從事シ且斯界ニ志望アル青年ノ爲メニ指導扶掖ノ衝ニ當リ尙同科ニ從事スル醫師ヲ料合シテ研究團體ヲ組織スル等直接間接ニ斯界啓發ノ爲メニ盡瘁シタルハ已ニ世人ノ認識スル所ナリ、試ミニ其二三ヲ列舉スレハ、曰ク大日本耳鼻咽喉科學會名譽會頭曰ク大日本私立衛生會評議員兼理事長、曰ク海軍々醫學教授、曰ク中央醫學講習會顧問等一々枚舉ニ遑アラス、就中一昨春維世納市ニ開キシ第一回萬國咽喉科學會ニ臨ミテハ特ニ名譽會頭ニ推舉セラレ次テ埃國、佛國、白國等ノ諸學會ヨリ招聘セラレ其新發見ニ係ル頗ル有益ナル學說ヲ發表シテ大ニ日本醫學ノ面目ヲ發揮シ、彼ノ泰西文明ノ碩學者ヲシテ三嘆セシメタルノ偉功ハ正ニ特筆大書ニ値ヒスルモノナリ、或曰下總ニ過キタルモ

ノ三ツアリ曰ク成田不動、曰ク官幣大社、香取神社、曰ク醫學博士金杉英五郎君ナリト至言ナリト謂フヘシ、君人トナリ豪宕、一片稜々ノ氣慨ハ克ク碌々タル蕪醫者流ノ企及シ能ハサル所、殊ニ世ノ毀譽褒貶ヲ顧ミス、自己ノ信スル所ニ隨テ直進直行スルノ勇氣ハ常ニ吾人ノ敬服スル處ナリ、君亦詩文ヲ好クス、頃日左ノ一篇ヲ得タリ附記シテ稿ヲ結ハン哉、

#### 新年書懷

漫謂新年多端祥、看來時事總茫茫、國家須劃千秋計、邊境誰期萬里強、堪笑侏儒能媚世、却憐傀儡競登場、何當能建經綸策、一片微衷報我皇、

#### 庚戌歲晚書懷

落落乾坤五尺身、牛朋李党奈斯民、謠言愛國恐無益、狂態乖時翻有真、胸宇誰存閑日月、世途仍剩舊精神、

功名未就年空逝、笑見寒梅獨出塵、

#### 辛亥新年

雲蒸霞蔚仰楓宸、尤喜國光追日新、風歷改瑞從此始、桃符除厄古來真、蚌因無病仍誇健、家爲多書不愧貧、頌德篇成先引白、酒痕紅發臉邊春、

#### 子爵鍋島直彬君

芝區三田綱町三 電話芝一四九六

當家ハ内大臣藤原鎌足ノ末裔ニシテ大宰少貳經資ノ庶流鍋島平右衛門尉清久ノ孫加賀守直茂ノ後ナリ、直茂龍造寺隆信ヲ助ケテ九州ニ割據ス、豊臣秀吉ノ九州ニ下ルヤ主トシテ之ニ屬ス、肥前國佐賀ノ城主タリ其第三子和泉守忠茂封地二萬石ヲ分タレテ肥前國廣嶋城主トナル、爾來連綿繼承スルコト十二世ニシテ當主直彬君ニ至ル、君ハ從五位下丹波守鍋嶋直永氏ノ第三男ニシテ天保十四年十

二月十一日ヲ以テ舊藩地ニ生ル、幼名ヲ熊次郎ト稱ス、幼ニシテ學ヲ重野、中村、塩谷ノ三氏ニ學ヒ後藩内ニ鎔造館ヲ設立シ文學武藝ヲ講究シテ大ニ闡藩ノ士ヲ薰陶セラル、又日々政廳ニ臨ミ吏員ト藩治ノ得失ヲ討議シテ専ラ庶民ノ休戚ヲ謀リ、領民靡然トシテ其德ヲ謳歌セリ、王政革新ノ際宗藩鍋嶋閑叟公ヲ補翼シテ大ニ文武ノ偉功ヲ奏セラレ從五下備前守ニ任セラル、維新後米國ニ航シ同國文明ノ施設ヲ視察シテ歸朝セラレ、米政撮要ナル名著ヲ公ニセリ、明治九年三月任侍從同、十年八月任侍補同十一年宮内省兼司法省御用掛被仰付同十二年被任沖繩縣令兼判事、同十三年被叙正五位、同十四年任元老院議官被叙從四位、同十七年叙勳三等賜旭日中綬章授子爵、同十九年十一月被叙正四位、同二十一年帝室制度取調委員被仰付被

叙從三位、同二十三年七月十日同族中ノ推ス處トナリ貴族院議員ニ當選セラル、同年十月錦鷄間祇候被仰付、廿七年五月被叙正三位卅九年四月被叙勳二等同廿三年以來貴族院議員ニ當選セラル、コト三回ニ及ベリ、爾來累進シテ目下從二位錦鷄間祇候ノ要職ニ在リ、其經歷其功勳ニツナカラ貴族社界ノ明星ヲ以テ稱セラル、吾人ハ唯其略歴ヲ草スルニ止メ、實壽ノ萬歳ヲ祈ルノミ。

清水組技師長

### 岡本 釜太郎君

本郷區西片町一〇

清水滿之助ガ經營ニナル彼ノ清水組ハ、東都有數ノ建築請負業者ニシテ、其成績既ニ世ノ定評アル處ナリ、コハ初代滿之助氏ノ情力的勢力ト、男澁澤氏等ノ挽推亦與ツテ力アリト雖モ、現在幹部ノ

努力ハ、慥カニ此盛運ノ根據ヲナスヤ論ヲ待タサルナリ、岡本君多年同所ノ技術主任トシテ功勞顯著ナル者アリ、今其概歴ヲ聞クニ、君ハ静岡縣濱松町ノ出身ニシテ、舊井上藩ニ屬ス、慶應三年其地ニ生ル、夙ニ上京シテ攻玉社ニ入り尋テ二三私立學校ニ入ツテ修學ス、明治十七年工部大學ニ入り、學制變更當時更ニ高等學校ニ轉學シタルモ不幸病魔ノ胃ス處トナリ、一時休學ノ止ムナキニ至ル、療養ノ後、同二十年東京帝國大學工科大學選科ニ入り、同廿三年ヲ以テ全科ヲ卒業セリ、此間ノ苦學ハ同儕尊服シテ措カサル處ニシテ、力行經營股雖ノ艱難ヲ嘗ム、會々先輩辰野工學博士ノ盡力ニヨリ、清水組ヨリ學費ニケ年分ノ給與ヲ受ケ無事業ヲ卒ルノ好運ニ接セリ、茲ニ於テカ、大學卒業以來清水組ニ入り、孜々トシテ精勵ニ從ヒ、

所謂士ハ已ヲ知ル者ノ爲ニ死スベク、學生時代ノ恩顧ニ酬フ、知人傳ヘテ美談トナスニ至レリ、爾來其設計ニ成ル諸建築一々枚舉スルニ遑アラズト雖モ、要スルニ清水組ガ今日隆盛ニ至レル徑路ニ於テ、君亦閑却スベカラサル一人タルヤ、敢テ吾徒ノ叟々ヲ須ヒサルナリ、同三十三年佛國巴里博覽會ニ出張シテ視察ス、尙其面目ノ一半トシテ傳フベキハ、君身ヲ持スルニ薄クシテ、常ニ邊幅ヲ飾ラズ、爾カモ、人ノ爲ニ計ツテ極メテ厚キ處、聊カ世ノ噴々流ト選ヲ異ニス、希クハ健在ナレ。

### 實業家 神谷傳兵衛君

邸 本所區向島須崎町一八 電話下谷六七三  
店 淺草區花川戸町二 電話下谷六一一

醸造家ノ泰斗、成功ノ龜鑑トシテ吾人カ常ニ崇敬ノ意ヲ以テ迎フルモノヲ神谷傳兵衛君トス、而シ

テ其醸造高ガ帝國第一流ノ位置ヲ占ムルニ因テ然ルニアラス、販路カ東洋全般ニ及ヘル大擴張ヲ遂ケタルニ因テノ故ニアラス、君カ葡萄酒界ノ革新ヲ計リ斯業ノ開拓ニ非類ナキ盡瘁ノ功ヲ舉ケタルノ一事ニ因テナリ、君ガ葡萄酒製造ノ端緒ニ於ケル極メテ奇異ナル事實ハ神秘的ニシテ未タ嘗テ世ニ流布セラレスト雖モ記者ガ精探確聞スル所ヲ總合スレハ寔ニ古代ノ神話ニ類スルモノアリ、今之カ概要ヲ語ランニ、君ハ幼時活潑潑地ノ意氣ニ富ミ活動ノ餘過テ足部ニ數本ノ縫針ヲ貫通シタルヲ以テ直チニ之ヲ抜キ取リタルモ内一本ハ殘サレテ追々足部ヨリ上進シ來リ、遂ニ服部ニ入ルノ不幸ヲ見ルニ至リ、其苦痛ハ時々ニ起リテ堪ヘ難キモノアリ、其當時醫師ノ診療ヲ乞フト雖モ亦如何トモ爲シ難キニ至レリ、是ニ於テ醫師ハ葡萄酒飲用

ノ必要ヲ説カレタルヲ以テ之ヲ購求セントスルモ當時ハ外國船來ノモノ、ミナルヲ以テ其價額不廉ニシテ容易ニ購求スルコトヲ得ス、君ハ即チ内國ニ於ケル葡萄ヨリ其採收ヲ爲シ以テ之ヲ飲用ニ當テント欲シ、神秘的事實ニ因テ香竄葡萄酒ナルモノヲ發明セラレ之ヲ常用スルニ其効果亦甚ク大ナルヲ以テ廣ク之ヲ世ニ公ニシ同病ノ救濟ニ勉メントシ茲ニ販賣ノ運ニ至リ、其効果偉大ナルヲ以テ逐年隆昌ヲ極メ遂ニ今日ノ大成ヲ爲スニ至レリ而シテ其香竄ノ二字ハ嚴君ノ雅號ニ依テ名命セルモノ、君ノ奇拔異様ノ活眼家ナルハ其一斑ヲ窺フニ難カラスト雖モ今尙一個ノ奇談ヲ掲ケンカ、君カ現今魚類ヲ食スルニ當リ未ダ嘗テ其骨ヲ捨テスシテ、必ス之ヲ食スルヲ恒例トセリ、之レ君ハ幼時魚漁ノ術ニ巧ミニシテ近傍ノ河川ニ網ヲ投シ多大

ノ魚類ヲ捕獲スルヲ以テ一大快樂トセラル、一日海中ニ網ヲ投シテ得ル處多シ、依テ傍ラノ一小島ニ一睡ヲ催ス、夢醒メテ倉皇歸ラントスレハ其傍側ニ置キシ漁魚漁具一切ヲ失フ、茫然トシテ歸宅スレバ不思議ナル哉其網我家ノ屋上ニ掛レリ茲ニ於テ乎其祖母ハ漁獵ノ不可ナルヲ戒メ、且魚肉ハ骨ヲ捨ツ可カラサルノ理ヲ語リタルニ君ハ深ク之ヲ感シ、爾來魚獵ヲ廢シ、骨ヲ捨テスシテ食スルノ好味亦大ナルヲ悟レリト云ヘリ、君カ身邊ノ奇異ハ斯ノ如クニシテ歷々トシテ皆感歎スヘキ事實ニ屬セリ、而シテ君ハ奇異ノ觀得ニ因テ葡萄酒ナルモノヲ醸造シ得テ其性命ノ保安ヲ全フシ、且又帝國第一流ノ資産ヲ造ルノ幸運ニ接セリ、而シテ其身中ノ針ハ數十年來其腹部ニ止マリシモ二年前研究室醫院長栗本學士ノ治術ニ因リ其胸邊ニ於テ

無難ニ抜キ取ルヲ得タリ栗本學士ハ此ノ治術ヲ名譽トナシ、其ノ針ヲ保存シテ永ク紀念トセラルト云ヘリ、君ハ實ニ葡萄酒トハ深キ關係ヲ幼時ヨリ結ヒ付ケラレ、而シテ今日ノ地位ニ進ムヲ得タルモノ實ニ是レ天授ニシテ人力ニアラサルナリ、吾人ハ今暫ク其出所經歷ニ就テ語ル所アラントス、君ハ愛知縣三河國幡豆郡衣崎松木嶋村ノ人神谷兵助氏ノ二男ナリ、其祖先ハ驍將ヲ以テ有名ナル、神谷石見守高正ヨリ出ツ、幼ヨリ慧敏聰悟ニシテ遙カニ群童ヲ抜ク、明治四五年ノ交年齒十五歳ニシテ横濱ニ出テ某商店ニ仕ヘテ勤勉ノ稱アリ、同十二年更ニ蹶起帝都ニ上リ、淺草花川戸吾妻橋畔ニ一小酒舗ヲ開キ、尋テ神靈ナル葡萄酒ノ發賣ヲ爲セシニ恰モ宜シ時運ハ滔々トシテ展開シ來リ、君ノ營業ハ歲月ト共ニ盛運ヲ見ルニ至リ、一面近

藤利兵衛氏ノ應援ニヨリ兩々相俟テ葡萄酒界ノ大發展ヲ見ルニ至レリ其香竄葡萄酒ノ名ハ全國ニ普及ク、如何ナル山村僻地ニ至ルモ之ヲ知ラサルモノナキ大聲譽ヲ博シ、今ヤ却テ海外ニ輸出セラル、モノ非常多額ニ上リ、家運洋々トシテ豪商紳士ト班ヲ共ニスルニ及ヘリ、明治三十年茨城縣下ニ數百町歩ノ葡萄園ヲ開キ、模範的設備ハ既ニ完成セラレ、其製品ハ内外國ノ博覽會等ニ出陳シテ名譽賞牌ヲ受領セルモノ實ニ枚舉ニ遑アラズ、又君ハ酒精製造ニ多大ノ希望ヲ有シ、同廿六年本所中ノ地ヲトシ、一層宏大ナル酒精製造場ヲ建設シ、嶄新完備ノ器械ヲ輸入シ、盛ニ醸造ニ從事セラレ令兄慶助氏之カ監督ノ任ニ當ラル、又化學界ノ大家宇都宮三郎君ノ説ヲ容レテ三田ニ酒精試驗場ヲ



設置シ、精良ナル日本酢及西洋酢ヲモ併セテ製造セラレ、國分勘兵衛氏ト特約シテ其販賣ノ衝ニ當ラシム尙養豚事業石油事業等ニ於テ好果ヲ奏セラレ、幾千萬ノ資財ヲ得テ既ニ安意ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトヲ得タリ、君ハ又仁慈博愛ノ性ニ富マレ下僕使用人ノ未ニ至ル迄、救恤憐憫ノ情ヲ加ヘラレ殆ント親子ノ關係ノ如ク悉ク苦心服セサルハナク其家庭ノ喬々タルハ又都下ニ見サル所ナリ、同卅七八年日露戰役ノ際ハ金銀器物及貴金屬類ハ殘ラス、日本銀行ニ提供シテ戰役資金ノ補足ニ備ヘラル、其志操ノ皓潔ナル誰カ亦感歎セサルモノアラシヤ、君ハ平素質素儉約ヲ守リ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養成シ、昔時君カ奮闘セシ旨縞ノ衣服ハ子孫ノ鑑トシテ又寶物トシテ永ク保存セラル共用意ノ周到ナル、其志操ノ緻密ナル誰カ亦歎服セサルモノ

アラシヤ、吾人カ君ノ性行奇異ヲ察スルニ決シテ凡侶凡俗ニアラズ、慥カニ天授天福ノ人ト稱スルニ憚カラス、聊カ其經歷ヲ述ヘ併セテ其奇事奇跡ノ相因縁スル所ヲシテ後世ノ模範的資料ニ供セントス。

實業家 大瀧勝三郎君

淺草區今月町五

電話下谷一六〇九

實業家 大瀧勝次郎君

淺草區馬道町七ノ二 電話下谷七三二

沈毅宏量ニシテ輕躁ノ失ナク、機智勇略ニシテ一矢ノ過ツナシ、一度牙籌ヲ採テ立ツヤ電光石火直チニ敢行シテ又他ヲ顧ミス其怪腕其敏捷人ヲシテ眞ニ驚倒ノ外ナカラシム曾テ花屋敷ノ買収ヲ爲スヤ他ノ希望者等カ苦策ヲ弄スル間隙ニ乘シテ數萬圓ノ資ヲ投シ彼ノ有力家ヲシテ果然爲ス所ヲ知ラ

カラシメタルノ快舉ハ聞ク者ヲシテ驚嘆措ク能ハサラシム、爾來同所ノ設計ハ擴張セラレテ帝都名物ノ一ニ算セラル、ニ至リ、東京花屋敷ノ名ハ遠ク歐米ノ各國ニ迄喧傳セラレテ外國觀光人士ノ遊覽ヲ受クルモノ甚タ多シ、由來淺草公園ノ地、娛樂遊覽ノ施設乏シカラスト雖モ、多クハ古風陋習ノ弊ニ陥リ、嶄新有功ノ設備ハ甚タ僅少ニ屬セリ、君ハ大ニ之ヲ憂ヘ、特ニ一新規軸ヲ出シテ教育上ノ裨益ヲ與ヘント欲シ、各種ノ動物花卉類ヲ蒐集シ遊樂ノ間ニ不識不知其見聞ヲ廣メ、子弟教育ノ一端ニ供セントス、其志ヤ偉大ナリト云フ可シ、而シテ是レカ設備ニ要シタル金額ハ實ニ數十萬圓ノ多キニ達セリト云ヘリ、此ノ一班ヲ見テ以テ君ノ凡庸一俗ノ人ナラサルヲ知ルニ難カラス、尙是等教育ノ資ニ供セントシテ、大勝館ナル宏莊雄大ノ

建築ヲ爲シ、歐米各國ノ撮影ニ係ル文明的嶄新ノ活動寫眞ヲ展覽シテ名聲噴々タルニ及ヘリ、同館ノ設備ハ既ニ完成セラレテ同業者間ノ第一流タリ其他世界館ヲ始メ數個ノ活動寫眞館ヲ有シ就レモ最大盛況ヲ呈シ元旭日昇天ノ勢アリ、抑モ大瀧勝三郎君ハ京都ノ人累世鬚職ヲ以テ名アリ、帝國第一流ノ名優團菊左等ノ需ニ應シテ調製シ聊カ遺憾ナカラシメタルノ技量ハ正ニ斯界ノ明星タリ而テ其任俠ノ氣慨ニ富メルヤ、曾テハ劇界ノ老雄守田勘彌氏ノ爲メニ大ニ盡瘁ノ勞ヲ採リ韓客金玉均氏ノ爲メニ大ニ斡旋スル所アリ、更ニ伊藤公ノ眷遇ヲ受ケテ朝野ノ紳縉ト交ハリ、名聲大ニ揚レリ、花屋敷、大勝館等ノ大規模ハ多ク其方寸ヨリ出ヅル所ニ屬セリ、本年六十四歳ノ高齡ニシテ尙且饒鏗タリ、今ヤ今戸ニ別居シテ風月ヲ親シマル、功成

### 實業家 加藤 正義 君

舊町區元岡町一ノ二 電話番町三〇五

ヲ名遂ケテ悠々閑地ニ就ク誰カ羨望セサルモノアラシヤ、勝次郎君ハ其長男ナリ、明治五年六月ヲ以テ生ル、幼ニシテ慧敏、當時嚴格ノ教育家トシテ噴々タリシ深川ノ文池學校ニ入り、切磋琢磨ノ功ヲ積マル、業卒ハルヤ嚴父ノ膝下ニ在テ父祖ノ業ニ従事セラレ技大ニ進ム、曾テハ尊キアタリヨリノ命ヲ拜シ謹テ調製シ奉リ、泰西舶來ノ製品ニ比シテ一頭地ヲ抜クモノアリトノ賞讃ヲ受ケラル彼ノ花屋敷、大勝館其他有益ノ設備ハ父君ヲ補ケテ君專ラ其衝ニ當ラレ、以テ現今ノ隆盛ヲ見ルニ至ラシム、君沈毅宏量、温雅醇朴ニシテ懇々語ル所自カラ抱負ノ偉大ナルヲ覺フ、帝國實業界ノ一異彩タルモノ亦偶然ナランヤ。

君ハ鳥取縣加藤良吉春昌ノ次男安政元年二月廿三日伯耆國日野郡渡村ニ生ル、君十歲隣村ノ寺僧ニ就キ禪學ヲ修ム十七歲藩命ニ依リ藩籍高調査ノ事ニ任シテ効アリ、廢藩置縣後鳥取縣參事關義臣氏置賜縣令ニ轉任スルヤ、君ノ才幹ヲ愛シ其縣吏ニ拔擢シ且餘暇修學スル所アラシム、又改租ノ事アルニ當リ、一方面ヲ擔任セシム其成績頗ル見ルヘキモノアリ、同縣ノ山形ニ合併スルヤ、三嶋縣令亦君ノ才幹ヲ認メ厚ク任用スル所アラントス、偶々政論抑壓ノ干渉極端ノ縣吏ノ政治ヲ講究スルヲ嚴禁ス、君謂ヘラク政界ノ大勢立憲ニ移ルハ近キ將來ニ在リ國民ヲシテ國體ニ基キ善良ナル政治思想ヲ養成セシムル必要ノ時機ニ際シ、如斯ハ頗

ル其當ヲ得スト大ニ其非ヲ鳴シ官祿ヲ棄テ、決然勇退ズ兵庫縣令森岡昌純氏君カ硬骨敏腕ノ用ユヘキヲ知り、同縣勸業課長ニ任ス、其在職中事績ノ一斑ヲ舉ンニ君ハ專ラ産業ノ獎勵輸出貿易ノ發展ヲ企圖シ先ツ關西地方製茶事業ノ改良ヲ急務トシ其第一着手トシテ製茶共進會ヲ關西ノ輸出地ニ官設シ、製造業者ヲシテ普ク製法改良ノ必要ヲ知悉セシメ且講究ノ機會ヲ與ヘント欲シ、其方法ヲ明治十五年春滋賀縣ニ開カレタル關西府縣勸業會ニ提案シ一致ノ賛同ヲ得テ同年秋冬ノ候森岡縣令ノ旨ヲ承ケ抱負滿腹出京シ諄々之ヲ當路ニ説ク時ノ農商務卿西郷參議品川農商務大輔大ニ之ヲ賛シ即チ廟堂ノ議ニ上リ同年十二月太政官布達ヲ以テ翌十六年製茶共進會ヲ神戸ニ開設セラレ關西茶業ノ發達ニ偉大ノ効果ヲ與ヘタリ、十八年森岡縣令農

商務少輔ニ轉任スルヤ、君亦農商務書記官ニ任ス此時ニ當リ海運界ニ三菱共同兩會社ノ大競争起リ頗ル慘劇ヲ極メ終ニ帝國海運ノ元氣ヲ阻害シ復タ起ツヘカラサルニ到ラントス、政府森岡農商務少輔ニ命シテ善後ノ策ヲ講セシムルニ當リ、君ヲシテ補佐ノ責ヲ取ラシム乃チ三菱共同兩社ノ資本ヲ併セ新タニ日本郵船會社ヲ創立シ、茲ニ帝國海運ノ基礎ヲ確立ス此間ニ處シ、君カ苦辛經營補佐ノ効最モ多シトス、森岡少輔新設日本郵船會社ノ社長ニ官選セラレ尋テ君亦タ其理事ニ官選セラレニ十六年十二月時運ノ進歩ニ伴ヒ役員ノ官選ヲ止メ商法ノ規定ニ準據シ純然タル株式會社ニ變更スルヤ、其定款社則悉ク君ガ起按ニ成ル而シテ新組織第一回ノ株主總會ニ於テ君ハ取締役ニ選任セラレ尋テ副社長トナリ以テ今日ニ至ル其間二十有六年

一意専心社務ニ勵精スルコト一日ノ如シ、抑モ郵船會社カ當初兩社競争ノ餘弊ヲ承ケ六萬噸ノ衰弱船舶ヲ以テ起リ、航路ハ内地沿岸近海ニ止リ資産ハ一千百萬圓ト稱スルモ實價ハ約其半額ニ過キサリシモノ今ヤ船舶ハ三十萬噸ニ進ミ航路ハ殆ント世界ニ普ク資産ノ實價ハ五千萬圓以上ニ達シ、全世界海運業者ノ第六位ヲ占メ今日隆盛ヲ致シタルモノ君カ勤勉經營ノ効與リテ力アリト謂ハサルヲ得ス、其間君ハ三十四年夏秋ノ候朝鮮北清及南清地方ヲ巡視シ鐵道ニ海運ニ鑛業ニ種々ノ手段ニ依リ列國競フテ其勢力ヲ彼地ニ扶植センコトヲ勉ムルノ實勢ヲ看取シ、當時排外熱ノ最モ熾ニシテ他國ノ未タ一指ヲ染ムルコト能ハサル湖南省ノ彼我兩國ノ前途ニ重大ノ關係アルヲ認識シ尙ニ總督張之洞巡撫俞廉三ニ謀ルニ日清兩國人ノ資本ヲ以

テ漢口ヨリ洞庭ヲ經テ湖南省ノ首府長沙ニ至ル、汽船航路開設ノ事ヲ以テシ、乃チ張俞兩人ノ内諾ヲ得テ歸朝シ之ヲ政府當局ニ謀ル當局者亦タ時機ノ失フヘカラサルヲ以テ速ニ之ニ着手センコトヲ德憑ス於是事業界ノ有力者ト謀議シ一會社ヲ創設ス之ヲ湖南汽船會社ト爲ス、君ハ推レテ其社長トナル蓋シ、日清合同事業經營ノ嚆矢タリ後他ノ同業者ト合同ス、今ノ日清汽船會社はレナリ、君ハ三十九年ヨリ四十年ニ度リ歐米各國及印度ニ於ケル海運業發達變遷ノ實況ヲ視察シ以テ從事スル所ノ社業經營ニ資益スル所多シト云フ、以上君ガ事業ノ概要ナリ君カ公職トシテハ法典調查會委員、司法省破産管財人、東京商業會議所特別議員、東洋拓殖會社創立委員、築港調查會協議委員等ナリトス、君ハ二十七八年戰役ノ功ニ依リ勳四等ニ叙セ

ラレ、卅三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ勳三等ニ叙セラレ卅七八年事件ノ功ニ依リ勳二等ニ叙セラ

函館日々新聞社々長

衆議院議員 小橋榮太郎君

日本橋區箱崎町四ノ一 電話浪花二二七七

君ハ北海道函館ノ出身ニシテ慶應三年ヲ以テ生ル父君ハ石川縣橋立ヨリ出テ、函館川仁商店ノ支配人トナリ、敏腕ヲ以テ知テタルノ人ナリ、君幼ニシテ同地商船學校ニ入り、卒業後青森縣弘前東奥義塾ニ英學ヲ修ム、夙ニ海軍兵學校ニ入ラント志シ、十六七歳ノ頃、笈ヲ負フテ東都ニ遊フ、一夜京橋某族館ニ投宿中、會々其隣室ニ宿泊セル自由黨某名士ト相知リ、大ニ其民權說ニ服シ、心機一轉、身ヲ政界ニ投セントス、遂ニ板垣老伯ヲ高

知ニ訪ヒ、茲ニ同盟ニ盟スルニ至ル、爾來東奔西走、青年志士トシテ頭角ヲ顯セリ、後歸省シテ黨ノ擴張ニ努メ、有志ト共ニ、秋田、青森、北海道ノ各地ニ新聞ヲ發行シ、國民政治思想ノ啓發ニ力メタリキ、特ニ函館地方ニ發行セル、めざまま新聞ノ如キハ、筆鋒尖銳要路ノ騰ヲシテ寒カラシメキ、明治二十七年一月一日、函館日々新聞ヲ起シ爾來續刊シテ今日ニ至レリ、サレト此間、藩閥政府ニ抗シテ侃諤ヲ恣ニシ發行停止ノ厄ニ遭フ事二十餘回、社員亦筆禍ニ依ツテ囹圄ニ投セラル、モノ十餘人、地方新聞中第一ト稱セラル、亦以テ君半面ノ本色ヲ窺フニ足ラズヤ、尙傍ラ同道ノ名譽職ニ就キ、多年函館區會議員、北海道々會議員、同副議長等トシテ盡カスル處尠ナカラサルナリ、外ニ實業方面ノ關係ニ至リテハ、自ラ某鑛山ヲ經營

スルト共ニ、函館商業會議所議員、物産商組合委員等ノ公職ヲ帶ヒタリキ、去ル四十一年衆議院議員總選舉ニ於テ、函館區ヨリ選出セラレ、始メ戊申俱樂部ノ創設ニ與力シ、今ハ同志ト共ニ中央俱樂部ヲ組織ス、君年齒未タ壯未來ノ活躍亦以テトスルニ足ル、至囑、至囑。

仁壽生命保險會社々長

### 下 郷 傳 平 君

芝區三田小山町三七 電話特長芝二一〇八

本邦生命保險界五大會社ノ一トシテ世人ノ信用ヲ博シタル仁壽生命保險合資會社ハ昨年端午ノ内紛ヲ生シタ、其跡ヲ受ケテコレヲ整理シ會社ヲ泰山ノ安キニ置クノミカ其狀況ハ寧ロ從前ニ倍シテ發展ノ域ニ入り、社會ノ信用ヲ恢復シタ大達者社長下郷傳平氏ハ、抑モ如何ナル人物テアルカ氏ハ江

州實業派テ所謂江州氣質ノ好典型先代從七位貴族院議員傳平久道氏ノ長男明治五年三月滋賀縣長濱町ニ呱呱ノ聲ヲ舉ゲタ青年實業家テアル初メ京都第三高等中學校ニ學ヒ後チ慶應義塾ニ轉シテ現財ノ業ヲ卒ヘタノテアルガ氏ハ夙ニ保險事業ニ深キ趣味ヲ有セラレタ所カラ明治卅三年三月ノ春歐米各國ヲ巡遊シ主トシテ斯業ノ視察ヲ遂ケ造詣スル所ガ深カツタ歸朝後滋賀縣輸出製絲組合長、大日本蠶絲會滋賀支會長、長濱町長トシテ公私團體ノ爲メ大ニ盡シテ居タカ三十七年六月同縣ニ於ケル多額納稅者團ノ衆望ニ依リ推レテ貴族院議員ニ舉ケラレ日露戰役ノ勳功ニ依リ、勳四等ニ叙セラレタノテアル、殊ニ氏ニ就キ感スヘキハ慈善事業ニ巨額ノ金錢ヲ投惠シテ者ナラサル一事デ嘗テ亡父傳平氏ノ遺志ヲ繼キ基金一萬圓ヲ以テ下郷共濟會

ヲ設立シ慈善、教育事業ノ資ニ充テツ、アリシガ其後眞影拜戴及ヒ、叙勳祝賀ノ紀念トシテ更ニ同會ヘ金一萬圓ヲ寄附シタリ氏ハ現ニ其理事長トシテ專ラ會ノ啓發ニ努メツ、アリ又久道會ナルモノヲ組織シテ亡父久道氏ノ誕生日(毎年十二月七日)ニ親戚及會社關係者ノ老人ヲ集メテ之ヲ款待シ寺參ノ賽錢與ヘテ居ル彼ノ世ニ所謂紳士富豪ト稱セラル、モノカ徒ラニ巨萬ノ財ヲ持シテ公益ニ盡スナク書畫古物ヲ玩ソフ甚シキハ花柳ノ夢ニ醉フテ自己ノ地位ヲ忘却スルノ痴態多キヲ見ルトキ氏ノ如キ高潔社會ノ爲メ盡瘁スルノ人士アルハ邦國ノ爲メニ欣喜スベキコトデアル、氏ヤ齡マタ三十

九歲前途春秋ニ富ミ頭腦明敏特ニ理財ニ長シテ居ル、今ヤ多年蒞蓄セル學材ト其實驗トヲ以テ仁壽生命保險會社ノ經營ニ臨ム同社ハ氏ヲ得テ舊倍ノ

發展ヲナスヘキヤ蓋シ疑ヲ要セヌ所テアル、會社ハ實ニ最良社長ヲ得タモノト謂フベク擬ニ會社ノ出資社員タル松平伯辻男等ノ囑望シテ就任ヲ強ラレタノモ亦故アル次第テハアルマイカ、氏ハ仁壽生命保險會社長タル外既ニ近江製絲株式會社及ヒ大坂中ノ嶋製紙株式會社ノ社長トシテ令名ノ聞エカアル。

### 子 爵 京 極 高 義 君

本所區龜澤町二ノ六 電話下谷二三三四

謹ンテ當家ノ系統ヲ按スルニ人皇五十九代宇多天皇第八ノ皇子一品式部卿敦實親王ノ苗裔ナリ、敦實親王承平六年源朝臣ノ姓ヲ賜ヒ後チ入道シテ仁和守宮ト稱ス其子從一位左大臣源雅信ヨリ臣下ニ列シ其後十代ノ孫檢非違使兵部之丞佐々木ノ冠者源三秀義五代從五位上佐々木近江守源氏信ヨリ始

メテ京極ニ住ス、故ニ京極ト號ス氏信後ニ姓ヲ京極對馬守源朝臣氏信ト改ム、是レ京極ノ祖ナリ夫ヨリ、滿宗、宗氏、高氏、高秀、高詮、高光、持清、政光、高濤、高峯、高秀、高吉、ヲ經テ長門守高吉ノ次男從四位下侍從丹波守高知ニ至ル、高知豊臣秀吉ニ縁故アリ故ニ天正十九年若年ニシテ江州蒲生郡ノ地五千石ヲ賜フ、文祿元年舅毛利河内守ノ領セシ遺跡信州伊奈郡ノ地ヲ賜フテ十萬石トナル、後慶長庚子ノ年八月信州ヨリ丹波田邊(即チ現舞鶴ノ地)ニ移リ羽柴修理太夫ト稱シ、後京極丹後守ト改メ加封シテ十二萬三千石トナル實ニ一國一城ノ主タリ、其三男從五位下修理太夫高三ハ父高知所領(十二萬三千石)ノ中三萬五千石分與同田邊ノ城主トナル、夫ヨリ高直、高盛、高住、高榮、高寬、高永、高品、高有、ヲ經テ從五位下甲斐守高行ニ至ル此間寬

文八年但馬ニ移封シ豊岡ノ城地並ニ五郡ヲ領ス享保十一年高寬早夭ノ爲メ絶家シ更ニ同所並ニ二郡ヲ領シテ一萬五千石ヲ賜フ、君ノ父高厚氏ハ天保四年四月豊岡ノ地ニ生レ、幼名鑑吉郎後修理ト云ヒ、弘化四年十二月襲封從五位下飛彈守トナル、明治二年二月藩籍ヲ奉還シ、同年四月豊岡藩知事ニ任シ同四年本官ヲ免セラル、後東京ニ住ス同十七年七月子爵ヲ授ケラレ、同十八年四月正五位ニ同廿三年六月後四位ニ同廿八年六月正四位ニ叙セラレ、同三十年七月貴族院議員ニ當選同三十四年六月從三位ニ叙セラル、同卅七年七月期滿チテ議員ヲ罷ム同三十八年十二月勳四等ニ叙セラレ旭日小綬章ヲ授ケラル、同年同月薨去長子早世君其次男ニシテ明治七年十二月十九日ヲ以テ東京本所ノ邸ニ生ル、同二十七年十二月從五位ニ叙セラレ、同

二十九年五月御召ニヨリ參内拜謁仰付ラレ並ニ天盃下賜同三十六年十二月正五位ニ叙セラル、同三十八年十二月父君ノ薨去セラレシニヨリ家督ヲ相續シ、同三十九年一月二十三日襲爵仰付ラレ同四十二年十二月從四位ニ叙セラル現ニ從四位子爵タリ。

實業家 今井 藤七君

日本橋村松町三 電話浪花長三九八二五六〇

氏ハ嘉永二年十二月越後國南蒲原郡三條町ニ生ル家世々穀商ヲ業トシ、父七平氏ノ如キハ公職ヲ帶ヒシ事モアリシガ不幸家道ノ衰退ヲ招クヤ、氏慨然トシテ是レガ挽回ヲ志シ明治四年父母ノ許シヲ得テ單身北海道ニ渡リ、初メ函館ナル某陶器店ノ番頭トナリ、翌五年札幌ニ移リ函館ニテ蓄ヒ得タル僅カノ資金ヲ以テ現時創成橋ノ傍ナル地盤八枚

許リ敷カルベキ掘立小屋ヲ賣收シ茲ニ吳服太物及小間物類ヲ鬻ギ大ニ利スル所アリ、明治八年一旦郷里ニ歸リテ父母ヲ省シ家債ヲ請還ヒシガ偶々父ノ病死等ニヨリテ資金ヲ失シモ氏屈セズ、具サニ艱苦ヲ嘗メシガ明治九年令弟武七氏官ヲ抛チテ起キ援ケ次弟良七氏亦前後シテ來リ助クルアリ商運漸ク隆昌ヲ極ムルト共ニ益々需用者ノ便ヲ圖ランガ爲メ、明治十二年商品ヲ通ジテ破格ノ値下ケヲ斷行シ且ツ總テ正札附キトナセシヨリ非常ノ好評ヲ博シ、遠近相傳イテ來リ購フモノ市ヲ爲シ、遂ニ<sup>Ⓢ</sup>さんナル敬稱ヲ以テ呼バル、ニ至ル、二十四年小樽ニ二十五年函館ニ支店ヲ設ケ次イテ旭川室蘭等ノ各地ニモ支店ヲ置キ、何レモ吳服太物洋物及金物類ヲ販賣シ一而東京大坂京都等ニ仕入店ヲ設ケテ益々營業ヲ擴張シ、三十年今井合資會社ヲ

岐阜市選出衆議院議員

### 干 早 正 次 郎 君

半込區中町二三 電話番号町二二三〇

組織シ兄弟益々一致協力シテ繁昌ヲ増シツ、アリ副業トシテハ旭川醬油醸造業ヲ營ミ、本支店所在地ニ於テハ煙草元賣捌キヲ爲シ、岩見澤栗澤及知惠文等ニ農場ヲ經營ス、而シテ店員ヲ遇スル亦能ク其道ヲ以テシ現ニ永年勤務者ニシテ獨立營業セシメツ、アル者全道ニ亘リテ四十有五名ニ及ブ常ニ公共事業ニ義捐シ殊ニ卅四年五月ヲ以テ開業三十週年紀念トシテ數萬圓ヲ投シテ札幌ヲ始メ支店所在地及ヒ郷里三條町等ノ學校及消防機關等ニ寄附セリ而カモ兄弟相戒メテ名聞ヲ避ケ唯僅ニ武七氏カ今井合名會社ノ代表者トシテ商業會議所ノ議員トナリ副會頭ニ舉ケラレアルノミ蓋シ稀ニ見ル成功者ト謂フベシ。

君ハ美濃國惠那郡苗木村ノ人ニシテ安政三年七月ヲ以テ生ル、累代苗木藩ノ重臣トシテ重用セラレタルノ由緒アリ、夙ニ藩賢ニ學ンテ屢々才名ヲ馳ス、既ニシテ藩選留學生トナツテ江戸ニ遊ヒ、専ラ三田薩藩ノ道場ニ入ツテ劍法ヲ修ム、維新ノ後志ヲ海軍ニ寄せ、當時創設セラレタル海軍主計學校ニ入ル、卒業後直ニ海軍省ニ勤務シテ帝國海軍經理ノ根底ヲ樹ツ、這箇ノ消息、事多クハ軍機ニ關シテ明示スル能ハサルモ、隠レタル勳功決シテ不問ニ附スベカラズ、恬淡ノ資性多ク功ヲ讓ツテ介意セサリシモ、歷代ノ海相君ノ建策ニヨツテ立案ノ自信ヲ固カラシメタル亦一再ニシテ止マサリ

キ、明治十九年官制改革ノ際、破格ノ拔擢ヲ受ケテ本省供給課長トナリ、其手腕ヲ發揮シテ勤格精勵一日ノ如カリキ、然ルニ一朝誠實ナル君ノ劃策ガ、所謂舊思想派ノ迫害ニ遭フヤ、遂ニ冠ヲ掛ケテ野ノ人トナル、次テ海外漫遊ヲ志シ將ニ發途ニ就カントスルノ時、軍需品供給ノ目的ヲ以テ内外用達會社ノ起ルアリ、大倉、藤田、等出資者トナリ熾ニ活動ヲ開始セントス、君ハ故福嶋氏ト共ニ海軍先輩某々將軍等ノ德懃ニヨツテ支配人トナリ、茲ニ始メル牙齋界ノ人トナル、後年轉シテ九州ニ入り、田川炭礦會社ヲ起シテ總支配人トナリ以來全力ヲ注イテ筑豊炭礦界ノ爲メニ努力シ、拮据經營十有餘年ニ及ブ、其間特筆大書スヘキハ、事實上ノ創立者トシテ計劃シ經營シタル豊州鐵道ナリ、同鐵道敷設ニヨツテ筑豊炭界ニ與ヘタル功勳

ハ、蓋シ斯界ノ永ク徳トスル所以ナリ、三十二年同地有志ノ推ス處トナツテ衆議院議員ニ當選セシモ、君ハ義ニヨツテ任ヲ辞シ、平岡浩太郎氏ノ囑ニ依ツテ席ヲ山本氏ニ讓リ立タシメタル美談ハ、賢明ナル當世代議士諸君、自ラ三思シテ怎麼ノ感カアル、此頃ヨリ獨力ヲ以テ御徳炭礦ヲ經營シ着々トシテ好成绩ヲ舉ケツ、アリシガ、明治三十八年十月、『ボウツマス』媾和ヲ最後トシテ一切ノ事業關係ヲ解キ、東濃ノ舊草廬ニ起臥シテ讀書三昧ニ入ル、明治四十一年第十回總選舉ニ際シ、岐阜市有志ノ推ス處トナリ、理想的結果ヲ以テ當選ス爾來商工黨中俱樂部ノ重鎮トシテ、東奔西走ハモ維レ足ラサリキ、往年合同成ツテ中央俱樂部ノ組織セラル、ヤ期スル所アツテ幹部ヲ辞セシモ、隠然同黨ノ重務ニ干與シツ、アリ。

戶部貯蓄銀行支配人

### 橫濱市會議員 川本多吉君

橫濱市西戶部一〇

橫濱土着人士ノ尤トシテ、市政ト産業兩界ニ亘リ多年其献身的努力ヲ捧ケ、市民ヲシテ其功ヲ頌セシメツ、アルハ君ナリ、試ニ半生ノ閱歷ヲ窺ヘハ過半ハ公共事業ト密接ノ關係ヲ有セリ、亦以テ君ノ人物性行ヲ語ルヘク好箇ノ雄辯ナラスヤ、聞ク君ハ安政三年一月三十日ヲ以テ戶部ニ生ル、即チ先考勘右衛門氏ノ長男ナリト、十八歳ニシテ橫濱町會所ニ書記トシテ任用セラル、資性敏慧克ク上長ノ知遇ヲ得、次テ同所用掛ヨリ戶長トナル、爾來衛生委員、學務委員、市吏員、等ニ歷任シ、明治廿九年橫濱水道局検査掛長トナル、後辭シテ實業界ニ入り、三十年第一銀行橫濱支店詰、愛國生命保

險會社地方相談役囑托等ノ任ニ就ク、三十二年戶部方面ノ同志ヲ叫合シテ株式會社戶部貯蓄銀行ヲ起シテ支配人トナル、同年久良岐郡會議員ニ選ハレ、次テ同參事會員トナル、同年株式會社鐵系銀行支配人トナリ兼ヌルニ戶部貯蓄銀行監査役ヲ以テシ、尙幾多ノ公共名譽職ヲ帶フ、即チ町會議員大日本武德會地方委員、學務委員、橫濱獎兵義會幹事、橫濱市建物等級調査委員、同高等小學校建築委員、日本赤十字社橫濱支部協贊委員、等ノ要職ヲ帶ブ、卅八年橫濱市會議員ニ選舉セラレ、更ニ戶部貯蓄銀行支配人ニ復シ、以テ今日ニ至リシナリ、君資性温健、頗ル任俠ノ美風ニ富ム、常ニ公共事業ニ狂奔シ、幾多ノ實例ヲ有ス、往年故伏島近藏氏吉田川開鑿事業ヲ起スニ際シテ君挺身其業ヲ扶ケタル如キ、亦橫濱家屋稅賦課ノ不公平矯正

ノ爲、建物敷地等級調査委員トシテ東奔西走シタルガ如キ、コレナリ、君亦同港人物鐵中ノ錚々ト謂ツベシ。

衆議院議員

### 辯護士 宮古啓三郎君

京橋區本村木町三ノ二八 電話京橋長二二二一

抑モ君ハ慶應二年四月八日ヲ以テ茨城縣行方郡行方村五町田ニ生ル、實父ハ鹿嶋郡新宮村安塚ノ人今泉右源司氏ト稱セリ、君ハ二歳ノ時父ノ夭折ニ遭ヒ爾來繼父今泉源兵衛氏(新治郡玉川村下王里)ノ鞠育ヲ受ク、後年綠成土浦藩士宮古氏ノ養子ト爲リ以テ其姓ヲ冒ス、資性穎敏活達ニシテ智略亦衆ニ秀テ既ニ吞舟ノ氣懷アリ、塙榎介氏及川崎學舎等ニ於テ漢籍ノ素養ヲ造リ、博覽強記ニシテ當時既ニ出藍ノ稱アリ、十九歳ニシテ司法省法學生

徒ヲ命セラレ、佛人「アリヅエー」氏ニ就テ佛法學ヲ修メ、後東京法學校、東京大學豫備門ヲ經テ第一高等中學校ニ移リ明治二十二年七月卒業セラル此ノ間ニ於ケル、學資ノ供給ニ多ク自己ノ力行ニ俟ツモノニシテ其苦辛慘憺ノ狀ハ能ク筆紙ニ盡ス可クヒアラス、正ニ一卷ノ立志篇ヲ爲ス、同二十二年七月帝國大學法科ニ入り佛法學ヲ修ム同廿五年卒業セラレテ、法學士ノ稱號ヲ受ク、爾來辯護士ト爲リ熱誠以テ其事務ニ當レリ、民事及行政訴訟ハ最モ其得意トスル所ナリ傍ラ日本法律學校ノ講師トシテ民法ノ講座ヲ擔任セラル、同三十五年郷里ヨリ推サレテ代議士トナリ、政友會派ニ屬シテ硬骨ノ名最モ高ク、同派ノ推重亦淺カラス、眞平國士ノ美風ヲ發揮セルモノソレ君ニアル歟。

# 實業家 杉浦龍吉君

牛込區若宮町三二 電話番町二四三九

浦鹽斯德ニ於ケル成功者、日露貿易ノ殊勳者トシテ、君カ名聲世既ニ知悉スル處加フルニ、徒乎空拳疾クニ同地ニ渡航シ、努力積ンテ浦港第一ノ日本商店トナル徑路ニ至ツテハ絶好ナル立志傳トシテ操觚者ノ月旦スル處トナル、サレハ今新ニ吾人ノ蛇足ヲ要セサルナリ、即チ君カ外國語學校及商業學校ニ於テ專ラ露語ヲ研究シ、白面ノ一書生ヲ以テ單身浦港ニ至リ、同地ノ杉浦商店ニ入り奮闘多年、或ニ獨逸商人ト平和的商戰ニ出テ、或ハ本邦商人ノ惡弊ヲ一掃シ正々堂々進退悉ク男性的ナリシハ、今干海外貿易ヲ説ク者、皆口ヲ一ニシテ賞歎スル處ナリ、既ニ同地「ベキンスカヤ」街頭、壯大ナル高樓ヲ構へ、數百名ノ内外人ヲ使用シテ銀

## 四七四

行雜貨、廻漕ノ各部ヲ設置シ、會主杉浦ノ名聲ハ慥カニ斯界ノ風雲兒ヲ意味セシメタリキ、然ルニ日露戰役ノ大打撃ニヨリ、一時中止スルノ已ムヲ得サルニ至ルヤ、同胞ノ引上、銀行ノ措置等、機敏誠實克ク日東男兒ノ面目ヲ發揮シ、今尙逸話トシテ傳ヘラレツ、アリ、平和克復後再ヒ同地ニ航シテ捲土重來大ニ成サントセシモ、根底ヨリ破壊サレタル商業的立脚地ハ、之レヲ復舊スベク頗ル困難ナリキ、サレト堅忍不拔例ニヨツテ惡戰苦闘シツ、アリキ、偶々日戰戰役ニヨツテ受ケタル海外同胞ノ爲メ、議會ニ向ツテ個人賠償ノ請願ヲ企テ、君專ラ其衝ニ當リ、必死ノ狂奔ヲ以テ初期ノ一念ヲ達シ(假令要求通リトマデ行カズトモ)タル如キ、事實上君ノ献身の從事シタル結果ト稱スルモ、敢テ誣言ニアラサルナリ、今ヤ自ラ號シテ敗

軍ノ將兵事ヲ談セストナシ、城北ノ寓居、喜ンテ客ヲ引キ好メル園藝ニ靜ヲ養ヒツ、アルモ、旺盛ノ氣眉間ニ溢レ、滿腹ノ經綸徐ロニ復活ヲ劃シツ、アルガ如シ、知ラズ、獅子咆吼ノ日何レニカアル。

稻村商店支配人

# 田野井多吉君

日本橋區宮澤町一〇 電話浪花長五四七

自助的人物ノ型典、我田野井多吉君ハ、野州壬生町ノ産ニシテ先代重兵衛氏ノ男ナリ、重兵衛氏處世ノ方向ヲ誤ツテ家財ヲ蕩盡シ、一家ヲ擧ケテ慘憺タル運命ノ淵ニ投セラル、可憐ノ少年多吉君此犠牲ニ供セラレ、三歳ニシテ母ト生別シ十一歳ニシテ父ト死別ス、斯クテ伯父ノ許ニ養ハレ、夜毎日毎ノ酷使ニ哀レナル孤兒ハ、血涙ヲ擲リシ事想

像スルダニ一掬同情ノ涙ナキ能ハサルナリ明治九年秋奮然起ツテ運命ヲ開拓セントス、カクシテ東都ニ入り、先ツ身ヲ寄セシハ稻村商店…現ニ君カ支配人トシテ實權ヲ掌握シツ、アル、稻村商店ナリキ、爾來一貫スル忠實勤勉ハ、主命水火モ尙且辞セス、夙起宵寢、儕輩ヲ抜イテ恩顧ニ酬ユ、既ニシテ主人ノ信愛任用ヲ受ケ、十七歳ノ時初メテ京物八王子物ノ仕入方ヲ命セラル即チ當時人氣甚々揚ラス仕入方最モ困難ト稱セラレ、常ニ敏俊ノ手腕家ヲ待チアリシ、八王子、足利、桐生、佐野方面ニ一大飛躍ヲ誠ミシナリ、這般ノ奮闘ハ、今尙逸話トシテ專問家ノ賞揚スル處ナリ、遂ニ本店支配人トシテ同地方ヲ去ルニ至リ、幾多ノ機業家ハ擧ツテ記念品ヲ贈リ、尙百四十餘名有志者ハ盛大ナル送別ノ宴ヲ張ツテ君ニ酬ヒタリ、如何ニ君

## 四七五



カ貢献ノ大ナルカヲ窺フニ餘アラスヤ、爾來幼主ヲ補佐シテ事實上ノ店主トシテ今日ニ至レリ、尙其面目ヲ窺ヘハ、質素謙讓、一見平凡ノ如ク見ユルモ、懷裡蘊蓄セル強キ意志ト、憐恤ノ温情トハ亦眉宇ノ間ニ隱見ス、殊ニ奮闘的意志ノ實例トシテ昔時勉學ノ狀ヲ聞クニ、幼少ヨリノ經歷ハ、遂ニ文字ヲ修得スル能ハズ、殆ント無字ノ有様ナリシガ劇務ヲ處理シテ八王子ヨリ歸店スルヤ、深更ニ及フマテ新聞雜誌ノ振假名ナキ者ヲ選ヒ、辭書ニ就テ獨學ス、カクスル事十年一日ノ如ク、遂ニ相當ノ素養ヲ備フルニ至レリ、二十二年同店ニテ相場ノ機關トシテ商報雜誌ヲ發刊スルヤ、君編輯ヲ擔任シ、漸次發展セシメテ廿七八年戰役後完全ナル實業雜誌トシテ發行スルニ至ラシメヌ、曾テ報知新聞社ノ主催ヲ以テ雇人獎勵會ヲ起シ京濱間

ニ就テ三回ニ亘ツテ前後三回計二十人ヲ選定シテ模範的人物ヲ頌表スルヤ、君亦此選ニ入り、殊ニ第二回賞與選定人ニ加ヘラル、尙同會ガ爾來頗ル良好ノ結果ヲ呈シツ、アルヤ、報知社々長箕浦勝人氏ノ命名ニヨリ修進會ト改メ君其常任幹事タリ如斯シテ君成功ス、今ノ子弟輩渺シク願テ三省スル處アレ、茲ニ市井ノ隱士トシテ君ニ向ツテ滿腔ノ敬意ヲ拂フ。

三國貿易株式會社專務取締役

高田正一君

芝區松本町四四 電話芝 二三五六

營業所 京橋區弓町八 電話京橋 長一三五八

一二五九

ヲ卒ハルヤ更ニ同塾大學部理財科ニ入り、研鑽ノ功ヲ積ムコト實ニ五星霜、其卒業ヲ爲スヤ米國ニ航シ「ヒラデルヒヤ」ノ「ベンシルベニヤ」大學ニ入り、更ニ紐育ノ「コロンビヤ」大學ニ轉シ經濟學ノ專攻ヲ爲シ、大家碩儒ニ親炙シテ大ニ其濫奧ヲ叩キ、斯學ノ造詣甚タ深遠ナルニ至ル、明治三十七年卒業シテ「マスターオブアーツ」ノ學位ヲ得テ更ニ又歐洲各國ヲ巡遊シ、實業上ノ調査ヲ遂ケテ明治三十九年十月歸朝セラル、是ニ於テ乎大ニ外國貿易ノ發展ノ策ヲ計ラントシ、三國貿易株式會社ヲ創設シ、推サレテ其專務取締役トナリ、多年研磨ノ學殖ト實見セル辣腕トヲ以テ專心其業務ニ軌掌セラレ、今ヤ大ニ發展擴張ノ域ニ達シテ旭日冲天ノ概ヲ呈セリ、君ヤ資性皓潔ニシテ學殖豐富、尙且多年ノ經驗ヲ以テス、舊來ノ陋習ヲ打破シテ茲

ニ一新機軸ヲ出シ、我貿易界ニ多大ノ貢獻ヲ與フルヤ必セリ、吾人ハ君ノ敏腕ト炯眼トニ待ツ所大ナリ、希クハ發奮興起シテ與望ヲ滿タサンコトヲ。

實業家 兼 康祐悅君

本郷區本郷三ノ一〇 電話下谷 一三三六

都下ニ於ケル小間物商舖ノ發達ハ極メテ近代ノ事ニ屬セリ、而シテ其發展向上ノ策ニ勤メテ偉大ノ力アリシハ抑モ君等二三ノ外ニ出テス其組合ヲ組織シテ同業者ノ意志疏通ヲ計リ常ニ其指導先鞭ノ勞ヲ採リテ店舖ノ刷新販賣ノ改善ヲ示ス等其功勞一ニシテ足ラス試ミニ斯界ノ俊秀ヲ擧クレハ先ツ指ヲ君ニ屈セサルヲ得ス、其濃厚篤實ニシテ明敏聰悟ノ資性ニ富メルヤ常ニ世ノ信賴スル所トナリ幹部ニ入テ能ク其牛耳ヲ探リ、奔走盡力敢テ其勞ヲ厭ハス、明治三十九年組合ノ成ルヤ理事トシテ

且多年ノ經驗ヲ以テス、舊來ノ陋習ヲ打破シテ茲

大ニ盡ス所アリ、本年松田幸次郎氏ノ組合長ヲ辞

スルヤ、滿場ノ意見辞スルニ由ナク、多忙繁劇ノ

身ヲ割テ代テ組合長ト爲ル、斯界人士カ其真情ニ

感激スルモノ亦故ナキニアラサルナリ、君家ハ數

百年來ノ名家ニシテ元祿年間ノ義士堀部安兵衛氏

トニ於ケル美談ハ今尙吾人ノ耳ニ新ナル所ナリ而

シテ營業タルヤ美術加工品、小間物類ノ一切ニ渡

リ、其廉價ト正確トハ吾人カ敢テ嘖々ヲ要セサル

所、店頭華客ノ雜聞スルヲ見テ以テ知悉スルニ餘

リアラン、嶄新流行ノ意匠ハ都下二百萬ノ人士ヲ

シテ常ニ感嘆ニ堪ヘサラシムルモノアリ、君ハ曾

テ明治十一年ノ徵募ニ應シ三年間苦辛ヲ兵舎ノ内

ニ重ネ常ニ忠君愛國ノ大義ヲ持シ、日清日露ノ兩

役ハ兵事義會ノ爲メニ日夜奔走盡瘁ノ勞ヲ盡シ、

世ノ賞讃ヲ受ク、其至情ノ發露スル處德望ノ隆々

タル亦宜ナルニアラスヤ。

増田屋商店支配人

### 中村房次郎君

横濱市老松町二ノ二八 電話横濱長七八一

横濱三人男ノ筆頭、吾中村房次郎君、天稟ノ精力

ヲ擁シテ東奔西走、眞個活動家ノ名ニ背カズ、傳

ニヨレハ、君ハ同市ノ老紳増田嘉兵衛氏ノ次男ニ

シテ彼ノ増田増藏氏ノ令弟ナリ、即チ慶應元年ヲ

以テ横濱本町ニ生レ、幼ニシテ家ヲ繼グ、横濱商

業學校卒業ノ後專シ増田屋商店ニアツテ令兄ノ業

務ヲ扶ケ、普通使傭人ト伍シテ孜々奮勵ス、既ニ

シテ天才愈々發揮シ、明快頭腦、事ヲ處理シテ流

ル、ガ如ク、勇斷果敢髣髴トシテ乃父ノ偉アリ、爾

來兄弟相倚リ相扶ケテ店務ノ隆昌ヲ計ル、三十八

年十月歐米各國ヲ視察シテ歸朝ス、蓋シ鍛冶一段

### 工學博士 増田禮作君

赤坂區鐘南坂町一四 電話芝 四八四

聞ク君ハ九州豊後國府内ノ産、嘉永六年十二月ヲ

以テ生ル、夙ニ藩發遊焉館ニ文武ノ道ヲ學ヒ、年

十五歳長崎ニ出テ廣運館ニ入り英學ヲ修メシガ、

成績常ニ優秀群ニ冠絶ス、依ツテ選抜セラレテ貢

進生トナリテ大學南校ニ入り尋テ開成學校ニ轉シ

後同校ニ専門科ノ置カル、ヤ卒先シテ工科ニ入ル

然ルニ同九年途ニ英國留學ヲ命セラレ、往ツテ同

國「グラスゴー」府大學ニ入り在學三年工學ヲ專攻

シ成績優秀ヲ以テ卒業ス、同十一年八月「エジン

ホルグ」府「ブライス」及「カンニングハム」工業社ニ

入り、於茲工業上ノ實地、殊ニ鐵道工業設計等ノ

實際ニ當ツテ研究スル事三ケ年、技術頗ル圓熟シ

白人技師ヲシテ其非凡ニ舌ヲ卷カシム、斯クテ卓

民ノ囑望ヲ滿スニ吝ナル勿レ。

ノ妙ヲ得タリト謂ツベシ、如斯シテ銳意發展ノ衝

ニ立チ傍ラ幾多商業會社ノ創業ニ從事シ、或ハ重

役トシテ執掌ス、試ニ其主ナル者ヲ列舉セバ、關

東煉瓦株式會社、横濱保險株式會社、増田製粉株

式會社、横濱製糖株式會社等ナリ、尙公人トシテ

君ノ活動ハ、市會議員トシテ雄ヲ鳴ラスハ勿論、横

濱經濟會幹事トシテ青年實業團ノ牛耳ヲ執ル、世

人ノ稱スル名物男ノ意義ハ、這般ノ消息ヲ語ツテ

餘蘊ナシ、而シテ君等ノ光彩アル活動振ハ、常ニ

操觚者絶好資料トシテ論スル處ニシテ敢テ吾人ノ

嘖々ヲ要セサルモ、尠シク横濱市ノ現狀ヲ窺ヒ、更

ニ進ンテ其將來ヲ豫想セハ、君等ノ前途モ亦多望

ナリト謂ツベシ、隨テ其双肩ニ荷フ名譽アル責任

ハ、吾人世ト共ニ謳歌シ羨望スル處ナリ、希ハ、市

絶セル其才幹遂ニ名譽ノ月桂冠ヲ頂キテ同十四年  
 歸朝ス、時恰カモ日本鐵道株式會社創業ノ際ニシ  
 テ君ヲ招聘スル切ナリ、依リテ同社ノ技師長トナ  
 リ東京青森間鐵路布設ノ大計劃ヲ企テ、後同線路  
 ノ工部省鐵道局ノ經營ニ屬スルヤ、又同省ニ出仕  
 シテ權小技長ニ任シ、爾來東北鐵道工事ノ設計監  
 督ニ從ヒ、遂ニ此大事業ヲ完成ス、同二十三年鐵  
 道局建築課長トナリテ東海道線ヲ監督シ、翌廿四  
 年遂ニ工學博士ノ學位ヲ受ク、同廿五年鐵道線路  
 取調委員及監督員ヲ命セラレ、二十六年橫濱築港  
 工所用材料混凝調査ノ囑托ヲ受ケ、尋テ敦賀鐵道  
 局出張所長ニ任セラレ、二十九年臺灣鐵道線路調  
 査ノ囑托ヲ受ケテ調査設計シ、同年再ヒ鐵道局建  
 築部長トナリ新設線路ニ係ル計劃監督ヲナス、同  
 卅一年鐵道技監ニ任セラレテ工務課長ヲ兼ヌ、三

十三年鐵道規定取調委員ヲ命セラレ、卅八年陸軍  
 省御用掛兼勤トナリ清韓兩國へ出張シ軍用ニ關ス  
 ル鐵道事業取調ヲナス、四十年四月帝國鐵道廳技  
 監トナリ重ニ技術ニ關スル事務ヲ監督掌理ス、後  
 日本大博覽會工事計畫調查委員ヲ囑托セラル、如  
 スシテ、殆ント我國全土ノ大鐵道ハ君ノ設計監督  
 ニナルモノ、其功績ノ偉大ナル敢テ辞ヲ要セザル  
 處ナリトス、其人格ト努力ノ忠實ハ循吏ノ典型ト  
 シテ稱セラル、亦宣ナラザルナリ、今ヤ技監ノ重  
 職ヲ退キテ表面ニ立タズト雖モ陰ニ陽ニ尙君ノ努  
 カヲ待ツ多キハ人ノ知ル處ナリ、現ニ宮城縣疏水  
 工事ノ顧問及武藏電鐵會社ノ顧問等ヲ囑托セラ  
 レ其餘カヲ傾注セラレツ、アリ。

實業家 岡 埜 榮 藏 君

淺草區駒形町三六 電話下谷長六六三、一一八五

珍菓製造ヲ以テ都下ニ盛名ヲ揚ルモノ多シト雖モ  
 現今斯界ノ白眉トシテ全國ニ喧傳セラル、モノヲ  
 榮泉堂岡埜、及ヒ風月堂トス、而モ其品位風韻ハ各  
 特色アリテ嗜好自カラ異ナリト雖モ吾人カ或ル斯  
 道ノ大家ニ就テ比較論評ヲ試ムルニ風味ノ點ニ於  
 テハ榮泉堂岡埜ハ正ニ斯界ノ第一流タルヲ失ハス  
 而シテ榮泉堂岡埜ノ祖タルモノニ家アリ共ニ一門  
 ノ關係ヲ有ス、本郷區三丁目ニアルモノヲ岡埜留  
 吉君ト稱シ、淺草區駒形町ニ宏大ノ店舗ヲ有スル  
 モノヲ岡埜榮藏君ト稱ス、岡埜榮藏君ハ資性溫良  
 ニシテ熱實、能ク祖業ヲ固守シテ常ニ其發展向上  
 ノ策ニ研究ヲ重テラレ、歐米各國ノ製菓ヲ參酌シ  
 テ新規ノ意匠ヲ凝ラシ、同家一流ノ甘味ヲ添フ店  
 員又一致シテ其研究ニ苦心ヲ重ネ、渾然タル和氣  
 ハ自カラ流露シテ華客迎接ノ美風ヲ成ス、社界ノ

信用逐日多大ナルニ至リ、今ヤ上流社會ノ愛好ヲ  
 受ケ家運大ニ舉リテ商店ノ基礎鞏固ニシテ動カス  
 ヘカラサルニ至レリ、家庭ハ常ニ霽々トシテ一點  
 ノ微瑕ヲ存セス、公共事業ニ資ヲ投シ、貧民救助  
 ニ義捐スル等仁慈博愛ノ溫情ハ自カラ流露セラレ  
 テ其德望々旺盛ナルハ論ヲ俟タス、斯界ノ重鎮ト  
 シテ名聲噴々タリ。

貴族院議員 日 高 榮 三 郎 君

麻布區本村町一〇三 電話芝二四五〇

日向大盡ノ名ハ噴々トシテ天下ニ稱道セラレ、其  
 事蹟ヲ慕ヒ、其偉功ヲ讚スルモノ日ニ多キヲ加ヘ  
 水産業ノ或ル方面ニ於ケル勢力ハ開祖トシテ尊崇  
 殊ニ厚ク恰モ吾人カ其祖神ニ對スルカ如キ感想ヲ  
 抱懷セシムルモノアリ、記者曾テ山陰山陽北陸紀  
 州沿岸漁業視察トシテ漫遊ヲ試ム、同地方一帶重

要漁業地ニ於ケル、罾大敷網ノ設備ハ非常ノ成功ヲ遂ケ、年々捕獲ハ數百萬圓ノ額ニ上リ、而シテ此ノ有利ノ發明ハ君ニ基ケルカ故ニ其沿岸ノ漁夫ハ皆君ヲ開祖トシテ常ニ謳歌セリ、今ヤ又東海伊豆地方ニ傳播セラレテ成功一段ヲ加フ、抑モ君ハ宮崎縣ノ人日高龜市氏ノ長男ナリ、明治二年十二月二十二日ヲ以テ生ル、幼シニテ穎敏活達、常ニ漁業ノ發展ニ多大ノ苦衷ヲ重ネラレ、早クモ水産講習所ヲ出テ、大敷網ノ計畫ヲ立テ近海ニ其布設ヲ試ム、再三失敗ニ終ハリテサシモ名家ノ資産モ茲ニ蕩盡セラレントス剛毅不撓ノ君ハ更ニ意ニ介セス、一層ノ精力ヲ揮ヒ一段ノ心血ヲ絞リ、始メテ完全ノ計畫ヲ立ツルヲ得タリ、其漁業具ノ完備セルヤ、是ヲ實施セシニ一舉ニシテ數十萬圓ノ巨利ヲ得續々好果ヲ收メテ忽チ數百萬圓ノ資財ヲ造

リ、名聲是ヨリ喧傳セラレテ其鴻業ト共ニ中外ニ噴々タリ、此ノ盛況ヲ望ミ此ノ偉業ヲ慕ヒ、全國沿岸ノ漁業者ハ續々トシテ來訪シ、其施設ヲ見聞シテ各所ニ其計畫ヲ施シ、大ニ漁業ノ面目ヲ一新セリ、君カ現ニ所有ニ屬セル、九州五嶋ヨリ山陰北陸ノ各地ニ漁獲セラル、モノ非常ノ額ニ上リ、其餘各國ノ有志ニ依テ漁獲セラル、モノ是又多額ニシテ國家ノ富源ハ正ニ海産ニアリトノ確信ヲ一般ニ抱懷セシムルニ至レリ、君ハ尙漁網用防腐劑(所謂カツチノ類)ノ改善ニ腐心セラレ、完全無缺奏効偉大ノ精良品ヲ發明シテ普ネク天下ニ公示シ、其使用ノ必要ヲ説カル、是ニ於テ乎料然トシテ到ル所君ノ製品ヲ使用シテ其奇効ノ偉大ナルニ浴セリ、君ガ這般ノ施設計畫ハ皆國家的ニシテ自家一身ノ營利ニノミ是レ汲々タラス、其經驗ヨリ得タ

ル所ハ悉ク之ヲ公表シ敢テ一家ニ私セス、廣ク天下ト其利ヲ分タントス、其志操ノ清廉皓潔ナル誰カ亦其鴻德ヲ仰望セサルモノアテンヤ。

衆議院議員  
辯護士 齋藤 二郎 君

芝區愛宕町二ノ一四 電話芝八〇〇

故星亨先生ハ、明治時代ノ產出シタル誇ノ一ナリ齋藤君、故先生ノ門下トシテ最モ良ク衣鉢ヲ傳ヘラレタルノ士ナリ、即チ其所信ヲ斷行スルニ勇ナル、即チ超然トシテ聞達ヲ當世ニ求メサル、即チ一片耿々ノ氣常ニ憂國ノ志士ヲ以テ任スル處、亦以テ先人ノ名ヲ愧シメサルニ足ル、君ノ出身ハ、英吉利法律學校ニシテ生地ハ磐城國白石町ナリ、乃父ヲ齋藤良知氏ト稱シ、片倉家ノ家老職トシテ其名顯ハル、君校門ヲ出ルヤ、一面辯護士トシテ民

間訴訟ノ事務ニ執掌シ、一面故先生ノ政治的惟幕ニ參シテ好箇ノ參謀官タリキ、次テ韓國法部補佐官トシテ敏腕ヲ發揮シ、法官養成所教授トナツテ大ニ同國法官ヲ薰陶ス、別ニ私立法學校ヲ設ケテ生從ヲ養成ス、歸朝後辯護士ニ復シ、金丸商店ノ顧問タリシガ、星氏ノ遞相タルニ際シテ秘書官トナル、後兎漢伊庭某ノ爲、市會議場ニ一大慘事ヲ呈シテ偉大ヲ失フニ至ルヤ、君亦生前萬一ノ恩ニ酬ヒント欲シ遺族ノ爲ニ計ツテ努力怠ラサリシガ如キハ、今尙美談トシテ傳ヘラレツ、アリ、爾來專心政治上ニ奔走シ立憲政友會ノ少壯家トシテ企劃スル事茲ニ年アリ、尙外ニ東京辯護士組合副會長トシテ盡力セシ事亦尠ナカラズ、明治四十一年第十回總選舉ニ際シ、宮城縣郡部有志ノ推ス處トナリ、當選シテ衆議院議員トナル、英邁ノ才氣迸

ツテ快辯敵膽ヲシテ寒カラシム、今ヤ立憲政友會ノ少壯家トシテ中央部ニ參シ拮据經歷日モコレ足ラサルノ慨ヲ有ス、蓋シ將來ノ玉成豫メトスルニ難カラサルナリ。

### 伯爵正五位 南部 利 淳 君

郡町區宮士見町二ノ三五 電話番号二六一

當家ハ清和源氏新羅三郎義光ノ裔加賀美次郎遠光ノ三男南部三郎光行ノ後ナリ光行甲斐國南部庄ニ治スルヲ以テ氏トス文治五年頼朝ニ從ヒテ藤原泰衡ヲ征シ功ヲ以テ陸奥國糖部ヲ領シ代々三戸ニ居城ス、十一代信長、兄茂時ニ代リ封内ヲ治メテ糖部ニ在リ元弘三年後醍醐天皇ノ中興ニ際シ岩手ノ住人工藤光家鎌倉ニ黨シテ不來方城ニ據リ乱ヲ作ス信長伐チテ之ヲ平ラク同三年參議北畠顯家陸奥ノ國守トナリ、義良親王ヲ奉シテ任ニ就ク延元二年

信長顯家ニ從ヒ賊將高師直ト安倍野ニ戰フ顯家戰死ス信長乃チ結城宗廣等ト吉野ニ走リ行宮ニ謁ス帝任スルニ伊豫守ヲ以テス尋ヒテ從四位下左少將ヲ授ク興國元年鎮守府將軍北畠顯信任ニ就クニ當リ信長從テ糖部ニ歸ル、十二代政行、北畠顯信ノ任ニ赴クヤ賊之ヲ路ニ遮リ容易ニ府ニ入ルヲ得ズ政行乃チ師ヲ出シテ之ヲ援ヒ所在ノ賊徒ト戰ヒ顯信竟ニ府ニ入ルヲ得タリ政行曾テ吉野ノ行宮ニ詣リ後村上天皇ニ謁ス從四位下ニ叙シ遠江守ニ任セラレ政行和歌ヲ詠シテ上ル帝褒賞シテ松風號ノ硯ヲ賜フ此硯傳ハテ今ニ存ス、十三代守行、元中元年吉野行宮ニ詣テ後龜山帝ニ謁ス帝授クルニ左馬頭ヲ以テシ從五位下ニ叙ス時ニ隣境秋田城介師季屢次城ヲ侵ス七年守行兵ヲ率キ往キテ師季ヲ伐ツ初利アラサリシガ後之ニ克チ師季竟ニ降ル是ニ於テ守

行勢威四憐ニ振フ九年南北朝媾和天下ニ歸ス此ニ至リ守行始メテ足利氏ニ屬ス應永ノ初メ大膳太夫ニ任シ從四位下ニ進ム守行屢次足利持氏ニ從ヒ戰功アリ同十八年六月陸奥ノ國司トナル是ニ於テ奥州ノ諸豪往々服屬シ勢威東北ニ冠タリ、二十六代信直、初彦三郎ト稱ス信直ノ支庶ヨリ入リテ封ヲ襲フヤ封内叛乱相尋キ兵馬騷然殆ント康日ナシ時ニ豊臣秀吉北條ヲ征シテ小田原ニ在リ信直馳セ過キテ秀吉ニ謁ス秀吉授クルニ佩刀ヲ以テシ且ツ本領安堵ノ朱章ヲ賜フ、既ニシテ信直秀吉ノ援ヲ得悉ク反徒ヲ平定セリ秀吉其功ヲ賞シテ和賀、稗貫斯波ノ三郡ヲ加封ス又淺野長政ノ勸メニ由リ不來方城ヲ築キ治ヲ焉ニ徒ス後盛岡城ト改ム文祿ノ役信直兵ヲ卒キ名護屋ノ行營ニ會ス、二十七代利直、初名晴直曾テ前田利家ヨリ編諱ヲ授ケラレ名

ヲ利直ト改ム文祿四年從五位下ニ叙セラレ信濃守ニ任セラレ父信直卒スルニ及ンテ其封ヲ襲フ上杉景勝ノ會津ニ叛ヲ企ツルヤ徳川家康ノ命ヲ亨ケ兵ヲ卒キテ山形ニ赴キ最上義光ト會ス偶々多田忠親乱ヲ和賀郡ニ作ス利直師ヲ回シ攻戰數月竟ニ此ニ勝ツ大坂冬ノ役利直兵ヲ卒キテ之ニ會ス將軍命シテ後軍ニ備ヘシム後嗣子ヲ携ヒ將軍秀忠ニ從ヒ入朝從四位下ニ陞叙セラル、卅六代利敬、幼名慶次郎寛政八年從五年下ニ叙セラレ大膳太夫ニ任セラレ當時露人屢次我北海ヲ窺ヒ警報頻リニ至ル幕府乃チ利敬及ヒ津輕寧親ニ命シテ防禦ノ任ニ當ラシム利敬兵ヲ遣シ伐チテ之ヲ却ケ遂ニ露人ヲシテ邊境入寇ノ念ヲ絶タシム幕府其功ヲ賞シテ十萬石ヲ加賜シ尋ヒテ侍從ニ任ス、明治四十一年十月九日特旨ヲ以テ從三位ヲ贈ラル、四十代利剛、初名鏡五

郎美濃守ヨリ少將ヲ歷テ中將ニ昇進ス利剛ノ封ヲ繼クヤ批政紛乱ノ後ヲ承ケ上下疲弊内帑給セサルヲ以テ勵精治ヲ圖リ大ニ弊政ヲ一沈セリ戊辰ノ際王師ニ抗スルノ故ヲ以テ官位ヲ褫ハレ城地ヲ沒收セラル維新ノ後明治五年更ニ從五位ニ叙セラレ累進シテ正三位ニ至ル、四十一年利恭、初名彦太郎父利剛朝譴ヲ蒙リ明治元年十二月更ニ白石十三萬石ヲ賜ハリ白石城ニ治ス同二年六月白石藩知事ニ任セラル尋ヒテ盛岡ニ復歸仰付ラレ盛岡藩知事ニ任セラル利恭府藩縣制ノ國家ニ利ナラサルヲ思ヒ他ニ卒先シテ縣制ヲ布カレン事ヲ上書シ採ル所トナリ同時ニ藩知事ヲ辭セリ明治十七年伯爵ニ叙セラレ從五位ヨリ累進シテ從二位ニ昇ル、四十二年利祥、幼ニシテ學習院ニ入り九歳、東宮殿下ノ御學友ニ選ハレ十三歳東宮職出仕トナル三十一年陸

軍中央學校ヲ經士官學校ニ入り士官候補生トナリ三十五年從五位ニ叙セラレ三十六年陸軍騎兵少尉ニ任セラル此歳父利恭薨去襲爵ス三十七年日露戰役起ルヤ出征第一軍ニ屬シ韓國定州ノ初戰以來各所ニ勇戰卅八年二月中尉ニ進ミ三月四日滿州井々嶺ノ戰ニ奮闘敵彈ヲ被リテ戰沒ス黒木軍司令官感狀ヲ與ヘテ其殊勳ヲ賞ス同時ニ功五級金鷄勳章勳六等旭日章ヲ授ケラレ正五位ニ陞叙ス、四十三代利淳、幼ニシテ學習院ニ入ル明治三十八年五月九日家督相續同十五日襲爵仰付ラレ同三十日從五位ニ叙セラル三十九年七月學習院高等學科全科卒業同九月東京帝國大學法科ニ入學四十二年六月叙正五位同十月病氣ニ依リ帝國大學ヲ退學セラル。

實業家 白石甚兵衛君

日本橋新築物町一五 電話浪花長一七六

君ヲ一言ニシテ盡セハ曰ク『文明的商人ノ典型』是レ横ヨリ見ルモ將タ堅ヨリ見ルモ、眞ニ文明的商人ノ神髓ヲ有スルモノ誰カ是ヲ否定セン、由來白石家ハ江戸ノ素封家ニシテ世々織物商ヲ業トシ連綿トシテ代ヲ重ネ以テ今日ニ至リシナリ、店舗ハ水天宮ヨリ下谷ニ通スル電車道ニ沿ヘル所謂人形通りノ一角、嶄然高莊ナル所、千歳不變ノ色顯ハレヌ、君幼ニシテ伶俐、早クモ學ヲ修メテ實業界ニ投シ、其銳鋒發露シテ夙ニ有力ノ一權威者タリ、明治三十九年九月杉村勘兵衛、端善次郎氏等ト謀リ資本金一百萬圓(拂込濟)ヲ以テ東京キヤラコ株式会社ナルモノヲ創立シ、推サレテ其取締役トナル、君一タヒ事ヲ劃スルヤ英斷果決而モ猛邁猪進シテ初志ヲ遂ケズンハ止マサルノ概アリ、同社カ今日ノ隆盛ニ至リシモ或意味ニ於ケル君ノ抱

負ノ一部ヲ權化シタルニ基因セスンハアラス、同社カ増々向上發展スルハ今ヨリ豫言スルヲ憚カラス、蓋シ其富其手腕ハ地盤ヲ築造スベク極メテ易々タレハナリ、吾人ハ君ノ快腕ヲ評スヘク多クノ材料ヲ有スト雖慢リニ賞辭ヲ呈スルハ却テ君ヲ害フ懼レアリ管ニ滿幅ノ敬意ハ冒頭ノ一句ニ收ム、希クハ奮闘努力以テ其眞價ヲ發揮セラレンコトヲ。

貴族院議員

子 爵 青木信光君

四谷區大番町八五 電話番町二二六一

當家ハ宣化天皇ノ曾孫、多治比古王ノ子、左大臣四郎冠者武峯ノ後ナリ夫レヨリ實直經房元房ヲ經テ直兼ニ至ル、直兼青木武藏守ト號ス、ソレヨリ實直、實村實季、重實ヲ經テ刑部卿重直ニ至ル、重直始メ、土岐家ニ仕ヘ、後織田氏ニ徵サレ、又豊

臣秀吉ノ家臣トナル、其子民部少輔一重秀吉ニ仕  
 ヒ廿四武士黃母衣衆ノ一人タリ、秀吉又其中ヨリ  
 七士ノ番頭ニ選ビ、一重亦番頭トナル、後徳川氏  
 ニ仕フ、夫レヨリ重兼、重正、重安、一典、一都、見典  
 一新、一貫、一貞、重龍、一興、一成ヲ經緯津國麻田  
 一萬十石ノ藩主トシテ從五位重義ニ至ル、君其後  
 ヲ繼ク君實ハ中山信徴ノ第四子ナリ、夫人ヲ楠枝  
 ト云フ從四位男爵川口武定ノ第二女ナリ、君ハ明  
 治二年九月二十日ヲ以テ生ル、同十年一月十九日  
 先代重義ノ養子トナリ、同十七年十二月家督ヲ相  
 續ス、同廿二年九月從五位ニ叙セラレ三十二年十  
 二月從四位ニ陞叙セラル、現ニ正四位ニシテ同族  
 間ヨリ選出セラレ貴族院議員タリ。

貴族院議員 村上敬次郎君

小石川區小日向若荷谷町五七 電話番町四八一

意氣旺盛ニシテ豪宕、事ニ當テ勇斷果決一旦決意  
 アルヤ、直進邁往苟モ成ラズンハ止マス、常ニ駿  
 々乎トシテ一意猪進的活動ヲ試ム、其氣慨ヤ尊フ  
 可ク、其雄志ヤ敬ス可キニアラスヤ、君此ノ抱負  
 ヲ提ケテ早クモ身ヲ海軍ニ投シ、多年海軍經理局  
 長、海軍主計總監等ノ要職ニ在テ其經濟ノ總括ヲ  
 掌リ我忠國ノ勇士ヲシテ些ノ遺憾ヲ感セシメス、  
 縱横手ニ從テ生メル籌算ヲシテ毫モ齟齬ノ憂ナカ  
 ラシメタル功勳ハ當ニ特筆大書ニ値ヒスヘク、斯  
 界ノ大家カ驚嘆シテ措カサルモノ亦故ナシトセン  
 ヤ、君ハ元ト藝州廣嶋ノ人、堀尾笑石氏ノ二男ニ  
 シテ嘉永六年九月ヲ以テ生ル、文久三年十月先代  
 村上邦裕氏ノ養嗣子ト爲リ、以テ其姓ヲ冒ス、多  
 年海軍ニ奉仕シテ報國盡忠ノ功ヲ揚ケラル氏ハ、  
 明治九年始テ海軍ニ出仕シ同十六年海軍省書記官

トナリ尋テ十九年海軍主計少監トナリ爾來累進シ  
 テ海軍主計總監ニ至ル其間海軍大臣秘書官、海軍  
 大臣官房主事、海軍省經理局第一課長、吳鎮守府  
 監督部長等トナリ三十年ヨリ四十二年ニ至ル迄海  
 軍省經理局長タリ又二十七八年後ハ旅順口根據地  
 主計部長トシテ偉功ヲ奏セラレ、其勳功ニ因リ、  
 勳五等功四級ニ叙シ金鵄勳章ヲ賜ハラル、三十三年  
 清國事件ノ功ニ依リ勳二等ニ叙シ旭日重光章ヲ  
 賜ハリ同卅七八年日露戰役ニハ大本營海軍經理部  
 長ノ職ヲ奉シ功ニ依リ明治四十年特ニ華族ニ列シ  
 男爵ヲ授ケラレ、勳一等旭日大綬章功二級金鵄勳  
 章ヲ賜ハル、今ヤ現役ヲ退キ貴族院議員タリ、積  
 年忠國ノ任ヲ盡シ名遂ケテ比較的閑地ニ就ク誰カ  
 羨望ノ意ヲ以テ迎ヘサルモノアラシヤ。

三村鐵工場主

三村 周君

自宅 下谷區中根岸一 電話下谷二四六五  
 工場 京橋區月島東仲通三ノ二  
 電話浪花特長二八八〇

隅田河口ノ離レ島、煤煙天ニ漲キリ、鐵槌ノ音丁  
 々タル處、コ、月嶋邊、技量、信用、基礎、三拍子揃  
 ヲテ嶄然他者ニ數歩ヲ示ス者、先ツ指ヲ黑板君及  
 三村君ニ屈セサル可ラズ、傳ニヨレハ、君ハ海南  
 高知縣ノ人嶋崎退藏氏ノ長男ニシテ嘉永五年九月  
 四日ヲ以テ生ル、後養ハレテ三村家ノ人トナリ、以  
 テ現姓ヲ冠ス、幼ニシテ數理ノ術ニ長シ、其頭腦ノ  
 組織的ナル常ニ知人ヲシテ賞嘆セシメタリキ、始  
 メ一橋學校ニ學ビ、卒業後在橫濱燈臺學校ニ入學  
 ス、同校ハ、明治初年ニ於ケル、燈臺ニ關スル技  
 術ヲ修ムルト共ニ、汎ク機械學一般ヲ教習セシム

ル目的ヲ以テ開講セラレタル唯一ノ専門學校ナリ  
 キ、君主トシテ外人ニ就キテ機械學ヲ研究ス、卒業後技師トシテ鐵道廳ニ招聘セラレ新進ノ造詣ヲ擁シテ大ニ盡ス處アリキ、明治二十九年日本鐵道株式會社ニ入り、榮進シテ保線課長トナリ、復雜ナル保線事務ヲシテ些ノ澁滞無カラシメタリ翌三十年同僚足立太郎氏(現石狩石炭會社支配人)ト共ニ信號裝置調査ノ爲メ、歐米ニ派遣セラレ、見學年餘ニシテ歸朝ス、爾來不完全ナル本邦鐵道信號裝置ヲ改革スルノ端緒ヲ得、名聲斯界ニ推重セラレタリキ、卅二年同社ヲ退クヤ、慨然トシテ本邦鐵道保線設備ノ缺陷ヲ指摘シ、常ニ人ニ向ツテ説ク處アリシガ、即チ魄ヨリ始メント決意シ、犠牲ヲ自覺シテ私財ヲ投シ、着々研究ニ從事スルニ至レリ、コレ即チ現三村工場ノ産聲ヲ揚ケタル者ニ

シテ、爾來研究歩武ヲ進メタルモ、科學的素養缺ケル職工ノミヲ以テセハ、到底此難事ヲ完行スル能ハサルヲ察知シ、親シク鐵槌ヲ執ツテ職工ト伍シ、銳意努力ノ結果、遂ニ有名ナル聯動裝置信號機ヲ案出スルニ至シナリ、今ヤ同機ハ全國停車場ニ設置セラレ唯一ノ保安設備トシテ識者ノ賞讃ヲ受ケツ、アリ、其他同工場製作ノ鐵道用具一式ハ獨特ノ長所ヲ認識セラレテ需用頗ル熾盛ヲ極メツ、アリ稿ヲ結フニ際シ、特筆大書シテ隠レタル本邦鐵道界ノ恩人ヲ頌スル者ナリ。

實業家 白石元治郎君

麻布區廣尾町三三 電話芝一五五四

東洋汽船會社ノ立役者、我白石君ニ于スル月旦ハ之レヲ新聞ハ之レヲ雜誌ニ、散見スル處決シテ尠ナカラサルナリ、爾カモ其真隨ヲ得タルモノ決シ

テ多キヲ稱スルニ足ラス、自白ス、吾人ハ君ト一  
 二面ノ識ヲ有シ、温厚篤實ノ紳士ナルヲ知り、同時ニ其真摯ナル手腕ニ敬服シテ措カサルナリ、假ニ吾人ヲシテ君ノ人物評ヲ敢テセシメハ、恐ラク其正鵠ヲ誤ラサルベシ、サレト動モスレハ余ノ偏見者ヨリ樂屋落ノ誤解ヲ受ケサルヘカラス、如斯ハ尊信スル先輩ニ對スルノ禮ニアラサルナリ、彼ノ東洋汽船創業以來ノ苦心、南米航路ノ開發、彼ノ前年海運界悲境時代等ニ處シタル其隠レタル努力ニ至ツテハ到底他輩ノ窺知スル能ハサル處ナリ爾カモ常ニ成功ノ帷幕ニ參シテ椽ノ下ノ力持ニ甘シ、一朝逆境ニ際スルヤ自ラ其責ヲ負フ、眞乎男兒ノ意氣トシテ同情スルト共ニ滿腔ノ敬服ヲ禁スル能ハサルナリ、今ハ隔靴搔痒ノ恨ヲ忍ンテ管ニ其皮相ノ概傳ニ止メントス、傳ニ曰ク、君ハ福嶋

西白河郡釜子村ノ人、慶應三年六月二十一日ヲ以テ生ル、實ハ前山彌九郎氏ノ男ナリ、明治二十五年七月帝國大學法科ヲ卒業スルヤ、直ニ志ス處アツテ淺野商會ニ入ル、既ニシテ才器漸ク發露シテ石油部支配人トナル、會々東洋汽船會社ノ創立アルヤ、淺野氏ハ新進氣鋭ノ君ヲ登用シテ支配人トナシ、一切ノ計劃ヲ舉ケテ君ノ手腕ニ任セシム、卅一年社命ヲ以テ歐州ニ航シ、親シク航運業務ノ實情ヲ究メテ歸來同社ノ一大刷新ヲ計レリ、三十三年同社主事トナル、尙此間米國桑港支店在勤ノ功勞亦多シト聞ク、日露戰後南米ヲ觀察シテ同航路ヲ新創シ通商移民ヲ獎勵セリ、尋イテ淺野氏ヲ説ヒテ天洋地洋ノ巨船ヲ新造シ、東奔西走斯界ノ爲ニ奮闘シツ、アリ、今ヤ、兎角ノ評モ過去ノ夢トナリ、漸時發展ノ曙光ニ浴シツ、アル同社ノ前途



モ、亦以テ豫想スルニ難カラサルナリ、稿ヲ結フニ際シテ君カ健闘ヲ祈ルヤ切ナリ。

### 航海業者 岡 信次郎君

赤坂仲ノ町一七 電話新橋八七九

君ハ嘉永二年十一月香川縣中多度郡廣嶋村ニ生ル父ハ忠左衛門氏君ハ其長子ナリ、明治二年十一月東上成瀬親氏ニ就キ和漢ノ學ヲ修メ、學術ノ研鑽ニ力ヲ傾ケ螢雪ノ辛苦大ニ見ルヘキモノアリ、成瀬氏君ノ人トナリ凡ナラサルヲ知リ君ニ説クニ帝國ノ立場ヨリ將來大ニ航海業ノ發展ヲ計ルヘキヲ以テス、君大ニ喜ヒ航海事業ニ從事セント欲シ成瀬氏ニ其決意ヲ告ケテ斡旋ヲ乞ハル、當時成瀬氏ハ海軍省ニ奉職セシヲ以テ頗ル好機ヲ得テ君ヲ航海ノ業ニ從事スルコトヲ得セシメタリ、明治十三年共同運輸會社ノ成ルヤ某船ノ船長トシテ遠ク

奥太利航海ニ從フ、後同會社ヲ退キ獨立シテ汽船ヲ新造シ大ニ期スル所アリシカハ清戰役及日露ノ役起ルニ及ヒ機ヲ見ルニ敏ナル君ハ、之レヲ賣擲イ大ニ海軍ノ缺陷ヲ補イ帝國ノタメニ力ヲ致シタルハ國民トシテ至當ノ事ナリト雖近世ノ汚濁社會ニ處シテ事茲ニ出テタルハ君カ愛國ノ至誠ノ發露シタルモノニシテ其功績又渺ナシトセンヤ、吾人ハ君カ國家ニ盡シタル其隱レタル功績ノ一斑ヲ茲ニ表彰スルニ吝ナラス。

### 男 爵 安 藤 直 雄 君

府下豊多摩郡大久保村字大久保南裏町四七九 電話番町七一七

あまの原、ふりさけ見ればかすかなる、三笠の山に出でし月かも、此古歌、既ニ千古ノ詩人安部仲麿公ノ咏トシテ人口ニ膾炙セラル、即チ安藤家ノ

遠祖ハ公ニ出ツ、公ノ裔朝任姓ヲ安藤ト改ム、後十六世ヲ經テ直次ニ至ル、即チ直次ハ徳川時代ニ於ケル有數ナル政治家トシテ幕府ノ治績ニ鞅掌シ殊勳決シテ埋没スヘキニアラサルナリ、世々紀伊國田邊ニ居城シ、更ニ十五世ヲ經テ直裕ニ至ル、直裕ノ四男家督ヲ繼承ス、即チコレ先代直行男ニシテ安政五年十一月二十日ヲ以テ生ル、維新後昇殿ヲ允サレ爾來邦家ノ爲ニ盡瘁スル事渺ナカラス、三十三年七月貴族院議員ニ選舉セラレ、尙趣味ヨリ來リシ、日本帝國小銃射的協會理事ノ職ニ努力セラレキ、明治三十七八年戰役ノ功ニヨリ勳四等ニ被叙、旭日章ヲ賜ハル、當主直雄君ハ其長男ニシテ明治十五年一月ヲ以テ生ル、夙ニ學習院ニ學ヒ、先公薨去ノ後、襲爵シテ家督ヲ相續ス、先年病ヲ得テ暫ク西郊大久保ニ銳ヲ養ヒ、今ヤ健康復

シテ徐ロニ活動ノ機ニ入ラントス、殊ニ其人格ノ眞摯ナル丈ケ、政治上ノ意見亦頗ル穩和ト誠實ヲ以テシ、常ニ同志ト共ニ研究怠ラサルナリ、渺ナクトモ、近キ將來ノ飛躍ヲ豫想スルニ難カラサルナリ、尙其趣味トシテ園藝ニ熱心ナリ、嘗ニ其庭内ニ於ケル温室ノ設備ニ現ハル、ノミナラズ、眞面目ナル蘭科植物研究部トシテ陰葯ノ間、深藏ノ造詣、亦以テ床シキ者アリ、伊集院子斯界ヲ去ツテ以來、少壯貴族中先ツ君ヲ推シテ斯界ノ忠實ナル研究家トセンカ、君未タ年齒壯、渺ナクトモ活動ノ日ハ遠キニアラサルハシ。

二六新聞社長

### 前代議士 秋 山 定 輔 君

神田區通新石町一六 電話長本局二五〇〇  
荏原郡大井村字土佐山 電話長芝二六〇

君ハ備中國倉敷ノ人ニシテ明治元年七月ヲ以テ生

ル、資性個儼ニシテ大志アリ、幼時貧困ニ處シテ更ニ屈撓ノ意ナク、勉學以テ身ヲ立テント欲シ、晝夜書窓ノ中咄晤ノ聲ヲ絶タス、人以テ異ナリトス當時母姉共ニ足袋ノ内職ヲ爲シテ父君ノ補助ヲ爲シ以テ家計ヲ立テルノ悲境ニアリ、其苦學亦以テ推知スルニ難カラス、其小學校ヲ卒業セルヤ、明治十五年東都ノ遊子トナリ、學資ヲ得ルノ途ヲ講シ神學館ニ入りテ自活ノ職業ヲ求メ或ハ車夫トナリ、或ハ勞働ニ服ス、其慘狀筆紙ノ能ク盡スヘクモアラス、後三ヶ所ノ學校教師トナリ、其俸給ヲ以テ帝國大學法科ニ入り、切磋琢磨ノ功ヲ積ミ、明治二十三年學績優良ヲ以テ卒業セラレ、法學士ノ稱號ヲ得タリ、次ニ官ニ仕ヘテ會計検査官補トナリ後職ヲ辞シ、後廿六年ヲ以テ二六新聞ヲ創設シ侃諤ノ筆ヲ揮テ天下ニ呼號セラレタルモ時機佳ナ

ラスシテ一旦發刊ノ止ムナキニ至リ、更ニ一層ノ精力ヲ發揮シテ再ヒ同社ヲ起シテ現今ニ於ケルニ六新聞ノ盛況ヲ見ルニ至ラシメタリ、曾テハ市民ノ渴仰ニ因リ衆議院議員ニ當選セラレ將ニ大ニ其抱負ヲ披瀝セントスルヤ、個儼ノ硬骨遂ニ意ノ合ハサルヲ知リ、辭職シテ專ラ二六新聞ノ經營ニ任セラル、後歐米各國ヲ漫遊シテ大ニ得ル所アツテ歸朝セラル、其抱負ヤ又大ナルモノアツテ實現セラレントス、吾人ハ君ニ待ツ所多シ、希クハ滿腔ノ熱誠ヲ披瀝シテ國家ノ爲メニ貢獻ノ大ナランコトヲ、

北海道札幌區選出衆議院議員  
**淺 羽 靖 君**  
 本郷區湯島三組町八〇 電話下谷九九五  
 多年抱懷ノ主意綱領ヲ披瀝シテ國利民福ノ増進ニ

資スル處少カラス、而モ質素朴直ニシテ些少ノ邊福ヲ飾ラス、華美虛飾ニ流レスシテ眞面目ヲ發揮シ古來帝國ノ遺傳タル國土ノ風、躍如トシテ其操行ニ顯ハル、誰カ亦君ノ志操ノ高潔廉直ノ美風ニ仰望ノ念ヲ惹起セサルモノアラシヤ、抑モ君ハ大坂府平民岡氏ノ三男ニシテ安政元年一月八日ヲ以テ生ル、幼ニシテ穎悟夙ニ笈ヲ負フテ東都ニ遊學セラレ、某家ノ食客トナリ、刻苦精勵學業大ニ進ム、後淺羽氏ノ養子トナリ、元大和國出ノ故ヲ以テ明治十二年大和ニ分家セラル早クモ北海道ノ遺利開拓ノ業ニ傾注セラレ、同十六年同廳ノ官吏ト爲ツテ赴任シ、後掛官シテ野ニ下リ、天塩木材株式會社ヲ創設シテ其取締役トナツテ其敏腕ヲ揮ハレ大ニ同社ノ爲メニ盡瘁スル所アリ、同三十七年札幌區ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ、政治

上ニ於ケル滿腔ノ抱負ヲ披瀝セラレテ同派ノ推重ヲ受クルコト淺カラス、同卅九年四月勳四等旭日小綬章ヲ授ケラル、君夙ニ人材養成ノ急務ナルヲ悟リ、私財ヲ抛チ中學程度ノ學校ヲ設立シ、子弟ノ教育ニ勗メラレ、同三十六年純然タル中學校ニ改メ、北海中學ト命名セラル、既ニ同校出身ノ異材數千名ニ達シ、現今五百ノ子弟ヲ收容シテ實踐窮行主義ノ教育ヲ施シツ、アリト云ヘリ、凡ソ國ノ運隆昌ヲ見ルモノ皆政治ト實業トノ調和及ヒ人材ノ如何等ニ關聯スル所、君カ終始一貫セル、報國ノ至誠ハ正ニ實現セラレテ偉大ノ好果ヲ帝國ニ與ヘントス、試ミニ先愛後樂ノ國士ヲ求メハ先ツ指ヲ君ニ屈セサルヲ得ス、德望隆々タルモノ豈偶然ナランヤ。

### 實業家 塚本岩三郎君

京橋區宗十郎町一 電話新橋七二三

我帝國石版印刷界ノ先覺者トシテ盛名ヲ東洋ニ馳セ、斯界ノ白眉トシテ推尊セラレタル、造書館主塚本岩三郎君ハ抑モ如何ナル經歷ヲ有スルカ、君ハ愛知縣三河ノ人、文久三年ヲ以テ其郷里ニ生ル夙ニ大志ヲ抱テ上京セラレ、同人社及慶應義塾等ニ學ヒ、英書ノ研鑽ニ耽リ、後帝國大學附屬美術學校ニ入り、伊國人「ホンタネジ」氏及「カベリテ」氏ニ就キ更ニ彫刻會社ニ入り、石版彫刻ノ術ヲ修メ、造詣スル所甚タ深シ、尙斯界ノ研究ニ腐心セラレ、米國ニ航シテ同國大家ニ親炙シテ其蘊奧ヲ極メ、更ニ洋畫ノ研修ニ勉ム、其技熟シテ神ニ入ルモノアリ、歸來獨立自營ヲ以テ石版所ヲ開始シ、嶄新精巧ナル意匠ヲ以テ諸會社株式等ノ

印刷ヲ爲シ、又諸學校用圖書ノ改善ヲ計リテ新規軸ヲ出シ、名聲大ニ揚ル、三十三年三月軍旗油繪ヲ製作シテ宮中ニ獻シテ賞感ヲ受ク、尋テ日清戰役ノ大幅十數葉ヲ調製ノ命ヲ受ケテ精密ノ實寫ヲ捧呈シ、爾來幾多ノ用品ノ調製ヲ命セラレテ其職責ヲ全フセラル、各方面ニ於ケル需用ハ逐日繁劇ヲ加ヘ來リ、四六全紙大ノ石版大ロールノ据付ケヲ了シ多大ノ製作ヲ爲スト雖モ今ヤ其製造力ノ不足ヲ嘆スルノ盛況ヲ呈スルニ至リ、各種機關ノ改善ヲ爲シ、近來又一大機械ノ据付ヲ企畫セラル、其販賣區域ハ東洋全般ニ及ビ、尙南米、「ハワイ」等ニ輸出セルニ至レリ、家運ハ年ト共ニ隆盛ヲ極メ豪商紳士ノ班ニ列シテ更ニ遜色アルヲ認メス、殊ニ仁俠ニ富ミ、公共事業ニ盡瘁スル處少カラズ近代稀ニ見ル實業家ナルニアラズヤ

### 實業家 武藤山治君

兵庫縣明石郡舞子三〇八ノ四五

君ハ岐阜縣ノ人、慶應元年ヲ以テ生ル、累世土地ノ豪家ヲ以テ聞エ、父ハ多年縣會議長ヲ勤績シテ名聲頗ル揚レリ、君ハ出テ、武藤姓ヲ襲キ、明治十二年慶應義塾ニ入り、同十七年全科ヲ卒業シ、翌十八年和田豐治氏等ト相携ヘテ渡米シ「クラーク」トシテ桑港ノ一商館ニ入りシカ意ニ適セサル所アリ、二十年歸朝シテ横濱ノ「ジャツパン、ガゼット」新聞ニ入社シ後ニ築地ノ「イリス」商會ニ入ル、二十三年三井ニ入りテ神戸支店ノ支配人トナル、鐘淵紡績會社兵庫分工場ノ開設ト共ニ同工場監督トナリ、支配人ニ昇進シ、次テ同會社支配人トナル能ク同社ノ悲境ヲ挽回シテ今日ノ盛況ヲ致シ事實上ノ社長トシテ衆望ヲ一身ニ集ム、三十九年一度

表面上退去シ同社相談役トナラレシガ、四十二年春再ビ舉ケラレテ専務取締役トナル、君ハ容貞魁偉風采扑野、一見壯士ノ如ク豪傑ノ如シ、區々タル當世流ノ實業家ニ接シタルモノヨリ見レハ氏ハ誠ニ實業家トハ思ハレサルノ風アリ、然レトモ君ハ則チ機智縱橫ノ偉材ヲ以テ東洋ノ實業界ニ雄飛翺翔セラル、而シテ其人ニ接スルヤ敢テ墻壁ヲ設ケス懇切淳朴ニシテ感嘆ノ外ナカラシム、現代紡績界ノ俊傑トシテ舉世ノ重望ヲ負フモノ、吾人ハ君ニ俟ツ所大ナリ、希クハ一層ノ勇奮ヲ加ヘンコトヲ。

### 貴族院議員 千坂高雄君

赤坂區青山南町六ノ一九 電話芝一六〇

君家ハ累世東北ノ大諸侯タル上杉家ニ仕ヘテ國老ノ重職ヲ帶ビ屢々偉功ヲ奏シテ主家ノ安泰ヲ計リ

常ニ元老柱石ヲ以テ目セラル、君ハ其未奇ニシテ天保十二年一月二十九日ノ生誕ナリ、幼ヨリ文武ノ兩道ヲ研修シテ造詣スル所甚ク深シ、歳二十六ニシテ早クモ藩ノ奉行職ヲ奉シ、治績大ニ揚リ、名聲籍甚タルニ至レリ當時幕未維新ノ際ニシテ國事甚ク多端ヲ極ム、君亦快刀乱麻ヲ斷ツノ慨ヲ以テ勇決果斷大ニ藩論ヲ翻ヘシ勤王ノ大義ヲ唱導シテ氣焰萬丈當ル可カラス、東北鎮定ノ功速ニ成ルハ多ク君ノ功ノ大ナルニ基因セシムハアラス、明治三年十二月舊上杉茂憲伯ヲ奉シテ英國ニ留學シ、同四年岩倉大臣、木戸、大久保、伊藤ノ諸參議等ノ歐米ニ使命ヲ奉シ、英國ニ至ルヤ、君尾崎三長氏ト共ニ建議シテ國家ノ爲メニ大計ヲ畫シタルコトアリ、大久保參議特ニ君ヲ招キ養蠶事業ヲ訊咨セラル、所アリ、是ニ於テ君ハ佛伊ノ兩國ニ赴キ

子細ノ調査ヲ遂ケ、大ニ得ル所アリテ歸朝セラル爾來君ハ其抱負ヲ披瀝シテ帝國ノ養蠶事業ニ改善ヲ實施セラル、富岡製絲場ノ如キ其他幾干ノ施設ハ正ニ斯界ノ一新ヲ革シ、現今ノ如キ大發展ヲ視ルニ至ラシメヌ、而モ君ハ職ヲ內務書記官ニ奉シ更ニ陸軍中佐及警視等ヲ歷任シテ累進シテ石川縣知事トナリ、更ニ岡山縣知事ニ轉シ、至ル所良二千石ノ稱ヲ受ケ、治績大ニ擧カレリ、明治聖代ノ牧民官ニシテ盛名君ト比敵スルモノ幾人カアル、宜ナル哉錦鷄間祇侯ニ進ミ、貴族院議員ニ勅選セラル、ヤ、前年更ニ實業方面ニ手ヲ染メテ橫濱鐵道株式會社ノ取締役、横濱倉庫株式會社ノ取締役會長、株式會社兩羽銀行ノ取締役東京支店主任タリ、實業上ノ勢力モ亦非常巨大ナルモノアリ、名聲隆々トシテ一世ヲ壓スルモノ亦故ナキニアラス

試ミニ君カ逸事ノ一端ヲ舉クレハ、明治二十三年同志ト共ニ淀川治水ニ盡瘁シ、大坂、京都、滋賀ノ各縣ヨリ感謝狀及水利委員各町村長五百名ノ感謝狀ヲ添ヘテ物品ヲ贈リタルガ如キ、又岡山水難救濟ノ功ニ因リ同縣會ノ決議ヲ以テ感謝狀ヲ贈ラレタルガ如キ最モ其顯著ナルモノニ屬セリ、現今正四位勳三等貴族院議員ノ榮職ニアリ、君ノ帝國ニ與ヘタル偉勳ハ吾人ノ禿筆ヲ以テ能ク盡ス可キ所ニアラス、生キテハ國家ノ柱礎トナリ、死シテハ百世ニ廟食ス可キモノ蓋シ君ノ謂ナラン歟。

實業家 牧原吟三郎君

京橋區鑛岸島壘町二五 電話京橋長八三五

思慮綿密ニシテ輕々事ヲ斷セス、姑息ヲ捨テ、急進ニ失セス、寸ヲ得テ尺ニ進ミ、尺ヲ得テ丈ニ達ス、秩序整然トシテ一絲乱レス、其人ヤ見識アリ

才能アリ敏腕アリ、尙能ク忍耐ノ資性ニ富ム、其成功ノ跡歴然トシテ指呼スヘキモノ牧原吟三郎君ノ如キハ最モ稀有ノ實業家ナリトス、君ハ埼玉縣ノ人、小林岩吉氏ノ令弟ニシテ明治四年四月二十九日ヲ以テ生ル、幼ニシテ慧敏聰悟常ニ鄉黨ノ賞讚ヲ受ク、先代仁兵衛ノ知ル所トナリ、擧ケラレテ其養子ト爲リ、勤勉精勵ニシテ晝夜倦怠ノ色ナク、營々トシテ是レ勉メ以テ家運ノ益々發展ヲ見ルニ至ル、同三十八年十月分家シテ一家ヲ創立セラレ現所ニ莊大牢乎タル店舗ヲ設ケテ盛ニ吳服太物ノ販賣ニ從事セラル屋號ヲ三河屋ト稱ス、是レ祖家ノ商號ヲ分チタルモノ吾人其商風ヲ見ルニ質朴ニシテ着實更ニ華美ヲ飾サラスト雖モ、懇切鄭重ニシテ藹々タル温情ハ顧客ノ信用ヲ得ルコト大ニシテ日ニ増シ月ニ進ミ今ヤ最モ盛大ヲ極ムルニ

至リ、數萬ノ資財ヲ積テ屈指ノ實業家タルニ至レリ、家庭ハ最モ圓滿ニシテ令閨みつ子トノ間ニ二男二女ヲ擧ケ、十數人ノ雇員ヲ有シテ最モ盛況ヲ呈シツ、アリ、君ハ溫厚篤實ニシテ公共事業ニ資ヲ投シ、救濟事業ニ義捐セルモノ亦巨額ニ達シ賞狀謝狀ヲ受クルモノ甚タ少カラス、現代有數ノ實業家トシテ世ノ推尊ヲ受クルモノ亦故ナキニアラサルナリ。

### 實業家 萩原與兵衛君

京橋區靈岸島濱町一 電話京橋長二二七四

帝都肥料問屋タル我萩原與兵衛君ノ閱歷ヲ述ヘシニ、君ハ先代萩原與兵衛氏ノ長男ニシテ明治六年十二月二十四日ヲ以テ金港ノ地ニ生ル、幼ニシテ學ヲ好ミ其普通學ヲ修ムルヤ年十七ニシテ高等商業學校ニ入り二十歳ニシテ本科二年ニ昇レリ偶々

修學中家事ノ都合ニ依リ退學セラル、爾來父君ヲ翼ケテ家務ニ精勵シ敢テ學業中廢ノ怨嗟ヲ發セズ一意専心業務ニ從ヒ父君ノ指導ニ基キ時勢ノ推移ヲ達觀シテ敢テ世潮ニ後レサランコトヲ期シ新進ノ霸氣ヲ以テ邁進シ、以テ現今ノ隆昌ヲ見ルニ至ラシメタリ、父君ハ元ト金港ニ於テ兩替店ヲ營ミ土地ニ知名ノ店舗ナリシガ社界ノ進運ニ從ヒ大ニ感ズル處アリ明治十一年三越糖店ニ入り營業ヲ擔任シ益々發展ニ盡瘁セラレツ、在リシニ明治二十二年三越糖店ノ廢業スルニ際シ自ラ其業務ヲ受ケ繼ギ使用人員ヲ引受ケラル元來業務不振ヲ以テ廢業セルニアラサルヲ以テ商勢依然トシテ繁昌セルノミナラズ多年ノ經驗ト日夜ノ研究ハ其執務ニ偉大ナル改良ヲ施シ以テ爾來隆々殆ント以前ニ倍スルノ盛況ヲ見ルニ至レリ、然ルニ明治卅七年八月

父君ノ逝去セラル、ヤ君直ニ家督ヲ嗣ギ同時ニ雙名セラレ爾來益々擴張ヲ計リ以テ萩原家ヲシテ今日アルニ至ラシメタリ、現ニ各種肥料ノ大問屋トシテ其名聲四海ニ噴々タリ、目下東京肥料糖問屋副頭取トシテ盛名隆々タリ。

貴族院議員

### 伯爵 大村純雄君

麻布區市兵衛町一ノ一六 電話芝二五四八

當家ハ大織冠藤原鎌足ノ裔大村遠江權守直澄ヲ以テ始祖ト爲ス年ヲ經ル九百世ヲ累ル卅一直澄永延中從五位下ニ叙シ、肥前國藤津彼杵高來ノ三郡ヲ治メ彼杵郡大村ニ居リ因テ氏トス、直澄八世ノ孫親澄子澄宗ト與ニ元寇ヲ筑前博多ニ禦キ其ノ再侵ニ及ヒ又之ヲ壹岐瀬戸浦ニ迎ヘテ防戰甚ク力メ鎌倉府功狀ヲ賜フテ之ヲ賞ス元弘ノ變澄宗ノ子澄遠

其子純與菊地武時ト謀テ兵ヲ兩肥ニ筑ニ出シテ小貳大友諸氏ト戰ヒ始終王ニ勤ム純與ノ子純弘ノ時ニ當リ、楠新山北島名和及九州勤王諸將相踵テ戰役シ官軍不振純弘孤立敵地ニ介在シテ尙父祖ノ遺志ヲ承ケ菊地氏ト協力懷良親王ヲ奉シ、足利氏ノ大軍ニ抗シ屢々之ヲ破リ純弘七世ノ孫喜前始メ新八郎ト稱ス、豊臣秀吉ノ九州ニ下リ嶋津ヲ征スルヤ、喜前年二十歳ニシテ直チニ之ニ屬シ依テ本領ヲ安堵セリ、天正十七年小西行長秀吉ノ命ヲ奉シテ志岐六部大輔諸經天草伊豆守ヲ擊シ時喜前天草ニ軍シ、加藤清正木山彈正ト自ラ接戰シ清正既ニ危シ即チ喜前精兵ヲ激シテ橫擊之ヲ救フ、清正大ニ感稱ス諸經和ヲ請フテ城ヲ出テ伊豆守亦自殺城陷ル朝鮮ノ軍起ルニ際シ九州ノ諸候ト共ニ渡航シ其先陣トシテ各所ニ轉戰スルコト凡ソ七年慶長五

年關ヶ原ノ役起ルヤ小西行長ヨリ秀頼ノ命ト稱シ  
 軍兵ヲ卒シテ上京セシム喜前長州下ノ關(大村家  
 會シ記録ニハ松浦有馬五嶋ト共ニ神州嶋『肥前松  
 浦』ニ其去就ヲ謀ル喜前片言以テ決スト有リ)ニ  
 於テ有馬松浦五嶋等ノ九州諸侯ニ會シテ今回ノ事  
 件ヲ以テ故太閤ノ命ニ違ヒ石田三成等私意ヲ逞フ  
 シ此役ヲ企テシモノナリト論破シ、直チニ本國ニ  
 歸リ、加藤主計頭清正ト牒シテ違命ノモノヲ攻ム  
 乱平ラグニ及ビ人皆其卓見ニ感ゼント云フ、喜前  
 十二世ノ孫純熙弘化四年封ヲ襲キ其地海ニ瀕シ且  
 ツ長州ニ接ス外船屢々至テ事或ハ測ラレズ、純熙  
 常ニ之ヲ憂ヒ乃チ礮臺ヲ築キ兵制ヲ革メ大ニ武備  
 ヲ修メ士氣ヲ養フ時ニ幕政衰頽開鎖ノ論交々起ル  
 純熙慨然勤王大義ヲ持シ時ヲ待テ發セント欲ス、  
 慶應三年正月三日夜重臣某及教官某刺殺ニ遭フ事

幕府黨ノ手ニ出ツ捕テ之ヲ戮シ士氣益振フ會々時  
 事孔棘ノ報京師ヨリ至ル是ニ於テ精兵ヲ發シ薩長  
 諸藩兵ト與ニ京師ヲ衛リ、明治元年伏見ノ役大村  
 ノ兵逆徒ヲ大津ニ防キ遂ニ桑名城ヲ收メ尋テ東海  
 道先鋒タリ是ヨリ先純熙變ヲ聞テ上京天皇召見テ  
 其功ヲ賞ス命ニ因リテ九州鎮撫總督ヲ助ケテ長崎  
 ヲ衛リ乃チ手兵ヲ東海道ニ分チ戒飾シテ之ヲ遣ハ  
 シ輕裝シテ西歸ス、四月大村兵江戸城ニ入ル東臺  
 ノ役力戰又出テ以テ上總武藏ノ餘賊ヲ討チ連戰皆  
 克ツ六月王師陸奥ニ向フ大村兵ハ海陸路常陸ノ平  
 瀧ニ上リ泉及ヒ磐城平二城ヲ拔キ進テ三春ニ至レ  
 ハ降旗已ニ建ツ大村ノ援軍亦來リ會シ勢大ニ振フ  
 沿道轉戰遂ニ會津ニ入リ諸藩兵ト與ニ若松城ヲ圍  
 ム是ヨリ先出羽ノ逆徒頗ル猖獗官軍僅カニ角館ヲ  
 保ツ純熙適ニ藩ニ在テ密勅ヲ奉シ海路ヨリ兵ヲ出

シテ八月秋田ニ着シ之ヲ援ク九月刈和野ニ陣シ劇  
 戰連日逆徒跡ヲ絶ツ若松城亦降リ東北悉ク平ク是  
 役ヤ、大村兵ハ每戰功狀ヲ賜フ、前後十數次二年  
 六月勅シテ世祿三萬石ヲ賜フ、三年從四位ニ叙シ  
 十五年一月十三日從三位ニ超進尋テ薨ス、三十六  
 年十月十日從二位ヲ贈ラル、始祖直澄ノ時ヨリ明  
 治維新ニ至ル常ニ肥前大村ノ藩主トシテ二萬七千  
 九百七十三石ヲ領ス、君ハ贈正二位嶋津忠寬ノ二  
 男ニシテ嘉永四年四月廿四日ヲ以テ日向ノ佐土原  
 ニ生ル、幼名ヲ武郎ト云フ慶應二年正月江戸ニ出  
 テ英國ノ諸兵法ヲ修メ、同年十二月歸郷藩兵ヲ教  
 授ス同三年八月鹿兒島ニ趣キ重野安澤ノ塾ニ入り  
 後チ京都水本靜美ノ塾ニ轉シテ漢籍ヲ學ヒ明治二  
 年東京昌平學校ニ入り、同年十月米國ニ航シ『ニ  
 ヲブランキス』ニ留學同七年九月『ハーバート』

大學ニ入り同八年歸朝ス、同九年六月二十四日贈  
 從二位大村純熙ノ養嗣子ト爲ル、同年七月十日被  
 叙從六位同十一年十一月二十五日東京府御用掛被  
 命同十五年三月十日家督ヲ相續セラル、同年同月  
 十六日改名シ純雄ト爲ル、同十六年二月二日増宮  
 祇候被仰付、同十七年七月八日授子爵、同二十年  
 十二月二十九日被叙正五位同廿一年六月十六日任  
 式部官同廿三年七月十八日貴族院議員ニ當選セラ  
 レ現今ニ至ル、同年同月二十六日依願免式部官同  
 廿四年四月二十三日依父純熙氏ノ勳功特ニ陞授伯  
 爵、同年六月十九日被從四位同廿八年六月廿九日  
 被叙正四位同三十三年六月二十日被叙從三位明治  
 三十九年四月一日日露事件ノ功ニ依リ、叙勳四等  
 旭日小綬章ヲ賜フ、同四十一年六月三十日被叙正  
 三位。

### 男 爵 岩 崎 久 彌 君

本郷區湯島切通一〇 電話下谷特長二五六、二一〇九

明治聖代ノ大偉勳者、古今絶無ノ大金傑、岩崎彌太郎氏ノ事歴ハ赫々トシテ天下ニ光被シ、兒童走卒ト雖モ其偉大ノ成功ヲ知ラサルモノナシ、蓋シ同氏ハ創業ノ才ニ富ミ、百事ノ快舉ハ皆其正骨ヲ得テ、百發百中ノ明ヲ有シ、人意ニ壯感ヲ與フルコト大ナレハナリ、創業因ヨリ難シ、之ガ守成ノ道ヲ講スル亦容易ノ業ニアラス、君ハ其長子トシテ能ク祖業ヲ守リ、時勢ノ推移ヲ察シテ施設ヲ全フス、二代ノ傑士トシテ天下ノ推尊ヲ受クルコト甚タ大ナリ、今其小傳ヲ草シテ片影ヲ傳ハントス、抑モ君ハ慶應元年八月二十五日ヲ以テ高知縣安藝郡井ノ口村ノ邸ニ於テ生ル、始メ慶應義塾三菱商船學校ニ學ヒ大ニ得ル所アリ、明治十九年五

月北米ニ航シ『ペンシルバニヤ』大學ニ入り、同廿四年卒業セラレ『パチエラルオブサイエンス』ノ學位ヲ得テ歸朝セラル、後三菱合資會社ノ副社長トナリ、更ニ其社長ニ進ミ、彼ノ大規模タル銀行、鑛山、造船等ノ大事業ヲ總括シテ指揮監督ノ責ニ任シ、爾來其大手腕ヲ發揮シテ着々効ヲ奏シ、東洋第一ノ地位ヲ占ムルニ至リヌ、同二十年九月二十一日從四位ニ叙セラレ、同二十九年六月九日亡父彌太郎氏生前ノ功ヲ以テ特ニ華族ニ列シ男爵ヲ授ケラル、君ハ歐米各國ヲ漫遊スルコト數回、文明社會ニ於ケル實業狀態ハ勿論其風俗嗜好等ニ精細ノ調査ヲ遂ケラレ、從來ノ業務ニ一層ノ刷新ヲ施シ將ニ大ニ其面目ヲ一新セラレントス、其抱負ヤ羨スヘク亦仰クヘキニアラスヤ、其仁慈博愛ノ志厚キハ馬場辰猪ニ對スル交情ノ密ナルニ因テ知ラ

ルヘク、其義俠ノ性ニ富メルハ東洋哲學書ニ百萬ノ代價ヲ拂ヒテ是ヲ帝國大學ニ寄贈シタルノ美事ニ因テ徵スヘキニアラスヤ、而モ是レ其顯著ナルモノ、其他ハ舉ケテ數フ可クモアラス、吾人ハ只其高崇偉大ナル人格ニ對シテ無限ノ敬意ヲ捧ケント欲スルノミ。

### 新瀉縣郡部選出衆議院議員

### 山 際 敬 雄 君

新瀉縣西蒲原郡黒崎村

吾人ハ今政友會代議士中最モ少壯ニシテ潑瀾ノ氣旺溢セル、山際敬雄君ヲ品隲ス可ク秃筆ヲ呵シテ聊カ述フル所アラントス、君ハ明治五年四月新瀉縣西蒲原郡黒崎村大字木場ニ生ル、君家ハ累世同地方ノ素對家トシテ知ラレ聲望隆々タル名門ナリ君ハ夙ニ身ヲ政治界ニ投シ、政友會ノ一員トシテ

縱横論議黨ノ爲メニ多大ノ盡瘁ヲ爲シ、同派ノ重鎮ヲ以テ推サル、幾多縣下ノ公共事業ニ執筆シテ常ニ熱血ヲ傾注シ企劃獻策スル所儘カニ先輩大家ヲ凌駕スルモノアリ、而シテ其居常接客ノ風ヲ窺フニ、質素朴訥ノ美性自カラ流露シテ掬ス可キモノアリ、磊落瀟灑ニシテ敢テ邊福ヲ飾ラス、圓恬滑脫戲言口ヲ突テ出テ、談論抑揚眞ニ敬愛ス可シ明治四十一年第十回總選舉ノ際ニ當リ、縣下ノ輿望ヲ擔ヒテ衆議院議員ニ當選セラレ、爾來國家ノ大政ニ參與シテ日比谷原頭ニ一異彩ヲ放テリ、抑モ新瀉縣下ハ舊時改進黨ノ勢力ヲ占ムルノ地、其系統今尙存シテ一壘ヲ爲ス、君ハ先代ヨリ之ト對抗シテ苦戰奮闘ヲ試ミ、爾來幾多ノ變遷ヲ經テ縣下ノ大勢君ノ手ニ委スルニ至リ同縣下ニ於ケル政友會ノ勢力ハ旭日冲天ノ概ヲ呈セリ、君年齒未タ

不惑ニ達セス而モ其德望隆々タリ、將來ノ發展亦驚クヘキモノアラン。

淺野セメント合資會社技師長

### 坂内冬藏君

本所區千歲町四八

淺野セメント對深川區民ノ移轉ニ關スル問題ハ、本春ニ於ケル事件トシテ稍市民ノ聽覺ニ觸レタル者ナリキ、吾人ハ事ノ曲直、或ハ真相ニ就テ若干ノ意見ナキニ非スト雖モ、君ヲ傳スルノ項下ニ於テコレヲナスノ妥當ナラサルヲ信ジ、今ハ當ニ『同情スヘキ好技術家』ノ一句ヲ以テコレニ代ユルノミ、由來坂内家ハ舊會津藩士ニシテ父君ハ元ト御町取締役ヲ勤メタルノ人ナリ、會々成辰ノ變亂ニ際シ、主家ノ没落ニ遭ヒ、同志ト共ニ漂浪落魄ノ窮狀ニ陥レリ、サレト儼然タル武士氣質ハ、此逆

境ニ處シテ尙且子弟ノ薰育ヲ怠ラサリキ、願フニ君ノ剛骨這間ニ養ハレタル者力、既ニシテ君ガ不拔ノ志ハ、遂ニ東都ニ苦學スルニ至レリ、即チ開成學校ヲ經テ帝國大學ニ入り、應用化學ヲ專攻シテ造詣大ニ加ハル、明治十六年同校ヲ卒業シテ理學士ノ稱號ヲ領ス、此前後セメント製造ニ就テ志ヲ寄モ、苦心百方研鑽スル處アリ、恰モヨシ淺野セメント會社ノ招聘ヲ受ケ、新進ノ濫與ヲ開披シテ實地ニ臨ムノ機會ニ接セリ、當時同社工場ハ、政府ヨリ繼承シテ未タ日淺ク、諸般ノ設備決シテ完了セルモノニアラサリキ、爾來拮据經營、年々歳々、最新設計ヲ應用シ、本邦ニ於ケル斯界ノ『オウソリチー』ト稱セラル、ニ至レリ、從ツテ製産供給ニ關スル増加ハ、驚クヘキ進歩ニシテ、試ニ計上シテ往時ヲ願レハ、轉々今昔ノ感ニ堪ヘサル

者アリ、彼ノ外國製品驅逐ノ偉功ノ如キ決シテ不問ニ附スヘキニアラサルナリ、今ヤ百尺竿頭一步ヲ進メ、セメントヲ應用シタル建築材料ニ就テ着々功ヲ奏セントシツ、アリ、希クハ硬骨長ヘニ健在ナレ。

### 實業家 西村秀造君

赤坂區榎坂町五 電話三三八九

君ハ山口縣河武郡萩町ノ人幼ニテ學ヲ好ミ、夙ニ和漢ノ學ニ造詣スル所深シ、明治六年二月資本金六百萬圓ヲ以テ三井系ニ係ル朝吹英二、杉山喬氏等ト共ニ王城製紙株式會社ヲ創立シ大ニ劃策スル所アリ、君ハ選ハレテ其監査役タリ、其他日本瓦斯株式會社ノ監査役、小田原電氣鐵道株式會社ノ取締役等ノ重任ヲ全フシツ、アリ、君夙ニ文明富強ノ由ル所ニ鑑ミ國本ヲ培養スルノ道偏ニ實業

ニアリトナシ、以上三會社ノ重役トシテ之レガ發展向上ノ策ニ努メツ、アリ、至誠憂國ノ士ニアラスンハ焉ンソ得テ能ク斯ノ如クナルヲ得ンヤ、若シ君ヲシテ凡庸ノ器タラシメハ尨大タル三大會社ノ重役ノ任ヲ全フシ現今ノ盛況ヲ見セシムルコトヲ得ヘケンヤ吾邦實業發展ノ策ハ暫クモ忽諸ニ付スヘキニアラス、幾多ノ經營稍々其緒ニ就キツ、アリト雖向後其施設スヘキ事業因ヨリ一ニシテ足ラス國家ノ人材ニ渴スル豈ニ管ニ大旱ノ雲霓ニ於ケルノ比ナランヤ吾人ハ君ノ益々自重シテ帝國實業界ノ爲メ揮テ努力セラレンコトヲ翹望シテ止マサルモノナリ。

### 實業家 中村清藏君

深川區材木町一五、一八 電話浪花 三四四八 五九長五二六

深川ノ『上清』ナル屋號ハ、直ニ以テ規模ノ大ナル



ヲ聯想セスンハアテズ、材木町ノ一角ニ策源地ヲ置キ、各種ノ事業ニ軌掌ス、即チ米穀問屋ヲ中心トシテ、味噌問屋、倉庫、ト其商業幕ハ益々擴張セラレツ、アリ、其營業振ニ至ツテハ當主中村君其萬機ヲ握キリ、養子郁次郎氏ヲ總參謀長トシテ樞要ノ幹部ハ悉ク譜代恩顧ノ重臣ヲ以テシ、歩武整々一絲乱レズ、更ニ直接間接ノ經營ニ於テハ、株式會社倉庫銀行、株式會社中加貯蓄銀行ヲ筆頭トシ、製造工業會社、運送保險會社、等一々列擧ニ違アラズシテ、屹然タル組織、宛然タル江東商界ノ一王國ヲナス、更ニ此多端ナル努力ノ外、君ハ市區ノ公共事業ニ盡瘁シ、府、市、區ノ名譽職トシテ奔走計籌心血ヲ灑グ、尙吾人ノ特筆大書セント欲スルハ、前年私財ヲ投ジテ高等女學校ヲ創立シタルノ一事ニシテ、其眞面目ニシテ熱心ナル經營

ハ、校運隆々トシテ進捗シ、現社會ノ女學校蔽風ヲ一掃シテ嶄然一頭地ヲ拔ク、コレ君ガ半生ニ於ケル尊敬スベキ大事業ニシテ、錙銖ヲ爭フテ實行ニ從フモ、尙且偉大ナル人格士心ヲ失ハサルヲ證シテ餘アリ、略傳ニヨレバ、君ハ先考彌七氏ノ長男ニシテ萬延元年十二月二十四日ヲ以テ生ル、後年家督ヲ繼クニ及ンテ奮闘幾多ノ星霜ヲ經テ今日ノ巨大ヲ致シタルモノナリ、茲ニ事業ノ一面ヲ掲ケ、以テ其熾盛ヲ謳歌ス。

實業家 福住 讓 君

赤阪區青山六ノ一三七 電話芝三三六四

ニ就ク、爾來世襲ノ命ニ浴シ、成績亦見ルヘキ者アリ其子英勇氏、此遺傳ヲ享有シテ數理ニ長ズ、少壯豆州ノ英傑江川太郎左衛門氏ニ就テ學フ處アリ後職ヲ奉シテ勘定奉行ヲ襲キ、藩ノ財政上貢獻スル處尠ナカラサリキ、維新後、大勢ニ鑑ル處アリ時流ヲ軫ハスシテ、士族籍ヲ奉還シタル如キハ、其面目ノ一半ヲ窺フニ足ラスヤ、既ニシテ同窓ノ先輩肥田濱五郎ヲ東都ニ訪ヒ、種々計策スル處アリシガ、會々國立十五銀行ノ創業ニ干與シ、種々ノ獻策實行ヲ以テシ、茲ニ明治金融史上最初ノ頁ニ一指ヲ染メキ設立後一時郷人ノ德憑ニヨツテ某銀行ヲ創立シタリシガ、幾モナクシテ十五銀行ニ復歸シ、爾來營業樞要ノ地位ニ立チ、國立銀行滿期迄二十有餘年間終始一貫ノ忠實ヲ以テシ此間財界ノ變遷ニ際シ、尙且一步ハ一步ヨリ堅實ニ此大銀

由來福住家ハ、相州小田原ノ藩臣ニシテ、君ガ祖父應右衛門氏ニ至ツテ家名ヲ揚ク、應右衛門下級ヨリ身ヲ起シ、夙ニ算數ノ天才ヲ有シ、早クモ關口流算術ノ秘奧ニ通ズ、累進シテ勘定奉行ノ重職

行ノ基礎ヲ確立シタルノ偉勳ハ、尠ナキモ斯界消息通ノ認メテ以テ多トスル所以ナリ、組織變更後功成リ名遂ケテ引退セントシタルモ、二三大株主ノ強要ニヨリ多年取締役、監查役トシテ母行ノ爲ニ盡瘁シツ、アリキ、實ニ眞摯敦厚、今尙幾多ノ逸話ヲ有シツ、アリ、當主讓君ハ其息男ニシテ、三田慶應義塾出身ノ少壯實業家ナリ、卒業後金港其他ニ於テ實業ニ從事シ、尙一二、商店ノ整理ヲ擔任シタリシガ、昨四十三年四月父君ノ歿後以來專ラ家務ニ軌掌シ、來ルベキ活動ヲ期シツ、銳氣ヲ養ヒ、好メル爲ノ初音ニ、自ラ微笑ヲ浮ベツ、アリト云フ、來ルモノハ雲カ雨カ將又雪乎。

伯 爵 松 浦 厚 君

淺草區向柳原町二ノ一 電話下谷八八九  
別邸 北豊島郡集鵜村大字集鵜一五三五  
電話番四五二七

華胄界ニ於ケル新進ノ英才トシテ將來ノ大成ヲ囑望セラレツ、アル一人トシテ茲ニ君ヲ物色シテ章トナス、松浦伯ノ家ハ嵯峨天皇第十八ノ皇子正一位左大臣源融ノ後裔ナリ、八世ノ孫太夫判官久肥前松浦郡宇野御厨檢校トナリ、延久元年酉ニ下リ松浦郡ニ居ル、因テ氏ト爲ス、松浦彼杵二郡及ヒ臺岐ヲ領シ、肥前今福ノ梶谷ニ住ス、因テ梶ノ葉ヲ以テ徽章ト爲ス、六世ヲ經テ八郎定ニ至ル、驍勇絶倫世人呼ンテ鬼八郎ト云フ、後醍醐帝ノ勅ヲ奉シテ北條氏ヲ討チ、功ニヨツテ肥前守ニ任セラレ、建武二年足利尊氏叛スルニ及ヒ、帝尊良親王ヲ以テ東國ヲ管セシム、公新田脇屋等ト但ニ親王ヲ奉シ、各所ニ轉戰シテ屢々殊功ヲ樹ツ、帝御スル所ノ錦袴ヲ解キ、寸斷シテ將士ニ賜フ、公モ亦之ニ與ル、帝吉野ノ行宮ニ崩ス、衆情沮喪ス、吉

水院僧宗信、遺詔ヲ傳ヘ、天下忠義ノ士ヲ擧テ曰ク、築紫ニ松浦鬼八郎アリト、是ニ於テ公ノ名益々顯ル、既ニシテ南朝勢微ニ力屈スト雖モ、終身其ノ正朔ヲ奉シテ改メス、薨後祠ヲ建テ之ヲ祀ル崇メテ若宮明神ト稱ス、爾來十世ノ後鎮信立ツ、法眼ニ叙セラレ後式部卿法印ニ進ム、天正六年八月正親町帝、繪旨ヲ賜ヒ修法ノ事ヲ掌ラシメラル、十五年豊太閤嶋津氏ヲ征ス、公之ニ從ヒ薩ニ赴キ太閤ニ太平寺ニ謁ス、親昵衆ニ超フ、人皆以テ榮ト爲ス、時ニ肥前平戸ノ城主ニシテ六萬千七百石ヲ領ス、後文祿征韓ノ役ニ當リ、宗義智等ト小西行長ニ從テ出征ス韓ニ在ルコト七年、前後凡二十四戰、未々嘗テ一クヒモ敗衄セズ、諸將相語テ曰ク義智ノ勇、鎮信ノ智微リセバ、行長豈名譽ヲ博スルヲ得ンヤト、二十九世天祥ハ學文武ヲ兼ネ、宋

ノ文天祥ノ人ト爲リヲ慕ヒ、其室ニ扁シテ天祥庵ト曰フ、嘗テ山鹿素行ニ從テ韜鈴ノ術ヲ修メ、其蘊奧ヲ極ム、又片桐宗關ニ就テ點茶ノ儀ヲ學ヒ、深ク悟ル所アリ、新ニ一機軸ヲ出ス、世是ヲ鎮信派トイフ、七傳シテ靜山ニ至ル、公亦學文武ヲ兼ヌ、夙ニ勤王ノ志ヲ抱キ、京師ノ皆川淇園ニ師事シテ其ノ經義ヲ講スルヲ聽キ、京師ニ入レハ必ス、天機ヲ奉伺セリ、常ニ景山樂翁諸公ト交リ、又述齋一齋善庵ノ諸儒ニ師トシ事フ、著書數種アリ、就中甲子夜話ノ如キハ二百七十有餘卷アリ、公ノ後二世ヲ經テ詮公ニ至ル、亦少壯文武ヲ兼修シ皆精通セサルナシ、傍テ風流韻事ヲ嗜ミ、和歌點茶、俱ニ蘊奧ヲ極ム、維新ノ前後、王事ニ奔走シテ貢獻セシ所尠カラス、明治十一年六月、麝香間祇候ヲ命セラレ、十二月御歌會贊者ヲ命セラル、明年一月

御歌會始奉行ヲ勤ム、十月明宮祇候ヲ命セラル、十七年七月伯爵ヲ授ケラレ、二十一年十月、宮内省御用掛常宮御養育主任ヲ命セラル、廿三年七月、選ハレテ貴族院議員トナル、三十二年六月、從二位ニ進ミ、三十六年四月、勳三等ニ叙セラル、明年七月、再ヒ選ハレテ貴族院議員トナル、四十年九月、三十七八年戰役ノ功ヲ以テ、旭日中綬章ヲ賜フ、四十一年四月十一日、病革ルヤ正二位勳二等ニ叙シ、瑞寶章ヲ賜フ、是日遂ニ薨ス、當主厚君ハ先代詮公ノ長子ニシテ元治元年六月ヲ以テ生ル君モ亦學ヲ好ミ、曾テ英國劍橋大學ニ遊ヒ、政法ノ學ヲ究メ、餘事詩ヲ善クシ、又和漢ノ學ニ通ス

實業家 田坂初太郎君

芝罘下高輪町三〇 電話芝五五八

君ハ愛媛縣ノ人嘉永四年十二月ヲ以テ生ル、先代

田坂富五郎氏ノ長男ナリ、幼ニシテ學ヲ好ミ年漸ク八歳ニシテ自性寺ニ入り讀書習字ヲ修ム、學フコト七歳造詣大ニ加ハル、乃父ハ故アツテ國事犯ノ連累者トシテ囹圄ノ人トナル、茲ニ於テ乎君大ニ期スル所アリ、奮然郷關ヲ辭シ和歌山藩ノ瀛船明光丸ニ事務ヲ執レル叔父ノ許ヲ對問シテ、船員見習トシテ明光丸ニ乗船スルヲ得タリ、後千里丸ニ移リ、尋テ神奈川丸、玄海丸兵庫丸等ニ移リ更ニ萬里丸ニ乗船シテ月給十三圓ヲ受ケルニ至ル、而シテ品川邊ニ小家屋ヲ構ヒ若干ノ給料ヲ得テ食客八九名ヲ置ケリト云フ、當時神戸ノ或船主ノ懇請ニヨリ一大決心ヲ以テ或ル事項ヲ處決シタリ之レ君カ今日アル一動機ナリキ而シテ數年ヲ經テ數十萬ノ財産ヲ得テ再ヒ芝ノ高輪ニ邸宅ヲ構ヒシナリ、之レヨリ先君警視廳御用掛トナリ、品川灣警

備船仁風丸ノ船長タルノ證書ヲ受ク、後其職ヲ辭シテ更ニ中野吾一氏ノ創立セル同福社ニ入り、西洋形帆走船ノ船長トナル、而シテ後遂ニ清韓航路ヲ開クニ至ル、之レ抑モ未開時代ノ鎮港地ヲ開キシ嚆矢ナリ、後同社ヲ辭シテ更ニ大坂千足ノ全國丸、日本丸、皇國丸等ノ船長ヲ經テ千早丸ニ轉シ居ルコト四歳終ニ三井物産會社ノ開成丸ノ船長トナレリ、後チ獨力ヲ以テ英「サムソン」商會ヨリ巨船佐渡國丸ヲ買受ケ始メテ船主トナル、爾來多年ノ苦心頓ニ餘慶ヲ迎ヒ、後年傍ラ身ヲ實業界ニ投シ、明治二十九年六月同志ト共ニ株式會社品川銀行ヲ創立シ推サレテ其頭取トナル、同三十一年一月日本「ペイント」株式會社ヲ創立シテ其社長トナリ尙困ノ島造船株式會社取締役、愛媛縣石炭合資會社理事、弓削商業會社長トナリ、又獨力私財ヲ

投シテ北海道後志國岩田町附近ニ數百町歩ヲ開墾シテ田坂農場ヲ設ケ小松崎吉造氏ヲ監督トシテ農事ヲ獎勵セデメツ、アリ、今ヤ悉ク其全職ヲ令息友吉氏ニ譲リ閑地ニ就テ靜養シツ、アリ。

### 實業家菅沼廣治君

神田區鎌倉町一七 電話本局二一四九

管々乎トシテ主家ノ爲ニ忠勤シ、表面赫々春花爛漫ノ華美ナキモ、清操長ヘニ變ラヌ幽谷ノ香蘭ノ如キ奥床シサハ、蓋シ中井銀行ノ柱石菅沼慶藏君ノ風格ニコレヲ見ル、世人ノ多數ハ慶藏君ヲ目シテ使備人ノ模範理想的銀行員トナスアリ、コレ決シテ過溢ノ言辭ニアラサルハ吾徒モ亦之レヲ信セントス、東都唯一ノ堅實ヲ以テ信ヲ博シ、純然タル日本式銀行トシテ斯界ニ鳴ルハ即チコレ中井銀行ナリ、頭取中井氏ノ威信ハ同行ノ今日ヲ呈スル

素因タルヤ明カナリト雖モ、事實上其局ニ當ツテ運用萬般ノ樞機ヲ劃スルハ慶藏君ナリ、人格ノ感化ハ行員ノ態度ニ之レヲ見ルヲ得ヘク、行務ノ進歩ハ其手腕ヲ認ムルニ足ル、慶藏君ハ安政元年神田鍛冶町ニ生ル、實ハ小林新右衛門氏ノ次男ナリ後年菅沼家ニ養ハレテ其姓ヲ冒ス、幼ニシテ實業ニ志シ、備ハレテ中井家ニ入ル、遂ニ幾多同輩ヨリ拔擢セラレテ重ク用ヒラル、聞ク當時君ガ力行ハ奮ニ晨起更寢ノ勉勵ノミナラス、繁劇ノ寸閑、股間立錐ノ苦痛ヲ忍ンテ讀書ヲ敢テセリトイフ、明治十六年中井銀行ノ創立セラル、ヤ、主人ヲ補佐ンテ周旋忘ラズ、二十四年ニ至ツテ支配人トナル、爾來興伏變轉刻時ノ休止ナキ經濟界ニ處シ、老熟圓滿ノ手腕ヲ揮ヒテ行務ヲ發展セシメタルモ往年病魔ノ胃ス處トナリ、暫ク靜養シツ、アリシ

ガ、這般遂ニ幽明ノ人トナリ了リヌ、廣治君幼ヨリ此愛父ノ撫育ヲ受ケ、夙ニ實業ニ志シ、小學ヲ卒ツテ九ノ内商工中學ニ入り、卒業後更ニ修學スルアラントシテ病ノ爲ニ果サズ、前年一年志願兵ノ義務ヲ果シ、進ンテ計劃セントシテ父君ノ歿ニ遭フ今ヤ徐ロニ進發ノ準備ニアルガ如シ君年齒壯前途活動ノ餘地縱横ニ有ス希クハ自奮アラン事ヲ。

### 工學博士 眞野 文一 君

豊町區上六番町三三 電話番町五二五

文部省ノ行政機關中尤モ有望ニシテ國民ノ歡迎ニ値ヒスヘキハ則チ實業學務局ノ事業ナリトス、蓋シ殖産興業ノ前途ニ多大ノ光明ヲ與フヘキ樞要ノ位置ヲ占ムレハナリ、其任タルヤ洵ニ重シ我學府ハ茲ニ君ノ如キ恰當ノ人ヲ得テ將來益々盛大ナル施設ト實業家ヲ出タスヲ見ントス吾人ハ喜ンテ君

カ閱歷ヲ紹介セスンハアラズ、君ハ文久元年十一月ノ生ニシテ静岡藩士覺之亟氏ノ男ナリ、夙ニ英漢、數學ヲ修メテ明治八年工學寮ニ入り官費生ニ拔ンテラル、同十四年卒業シテ工學士ノ學位ヲ受ク、次テ工部省技師ニ任シ、後更ニ工部大學ニ助教授トナリ、次テ機械工學並ニ水工學修業ノ爲メ三ヶ年間英國ヘ留學ヲ命セラレ「グラスゴー」大學ニ入りテ登雪ノ苦ヲ積ム、二十一年倫敦機械學舍々員ニ推選セラル、次テ「アーム、ストロング」工場ニ入り實地ヲ研究シテ得ル所アリ、翌年更ニ各地ノ工業界ヲ巡視シテ歸朝ス、次テ工科大學教授ニ任セラル、此間内國勸業博覽會等、「グラスゴー」大博覽會ニ於ケル功ヲ以テ廿三年勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ翌年工學博士ノ學位ヲ受領ス、二十六年ニ至リ震災豫防調査委員トナリ兼テ高等商業學校講

師ヲ囑托セラル、三十年農商務省特許局審判官ヲ兼任シ三十二年東京大學附屬圖書商議委員ヲ囑托セラル、此ノ年農商務省ノ命ニヨリ佛國ニ差遣セラル、卅三年歸朝ノ後累進シテ高等官正五位勳四等ニ昇叙セラル、曾テ高等商業學校長ヲ兼任セラレタルコトアルモ現今ハ文部省學務局長震災豫防調査會長、東京帝國大學評議員、及同大學教授兼任ニシテ從四位勳三等ナリ。

### 貴族院議員 岩元 信兵衛 君

鹿兒島市金生町

日本男兒ノ精粹、薩南健兒ノ熱血ハ、一世ノ偉人故西郷南洲翁ニ就テ遺憾ナク代表セラレタリ、而カモ其精神今尙依然トシテ滅セス、各種ノ階級ヲ通シテ一貫セル此意氣アリ、豈ニ獨リ軍人ノミニ限ランヤ、君亦此靈氣圈内ニ人トナル、經營萬般

男性的ナル亦以テ故アリト云フ可シ、君ハ元治元年十一月十三日ヲ以テ鹿兒島市金生町ニ生ル、夙ニ松林學校及ヒ私塾ニ入りテ學ヲ修メ、長スルニ及テ實業ニ志シ撰テ吳服商ニ執ル、苦心經營者々トシテ功ヲ奏シ、其潑測タル起業的君ノ手腕ハ青年實業家トシテ一頭地ヲ拔ク、十九年南嶋興業會社ヲ起シテ其取締役トナリ、二十五年第四百十七銀行取締役トナル、更ニ一半ノ精力ヲ割イテ各種ノ公共事業ニ従事ス、則チ市會議員、區會議員、商業會議所議員、及理事等ニシテ尙同地商業會議所設立ノ如キハ其最モ力ヲ致シタル所ナリ、今尙評議員トシテ樞務ニ參與シツ、アリ、外ニ鹿兒嶋電氣株式會社ノ創立及鹿兒嶋貯蓄銀行等ノ設立ニ與リ前者ハ取締役、後者ハ其頭取トシテ盡瘁ス、三十五年第七回衆議院議員選舉ノ施行セラル、ヤ、

君鹿兒嶋市ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリ、爾來引續イテ第八、第九回ニ當選ス、卅七年同縣多額納稅議員ニ選出セラレテ貴族院議員ニ列ス、尙亦十字特別社員ニシテ多年盡力ノ功ニヨリ有功章ヲ授ケラレタリ。

### 實業家 田中元三郎君

本郷區彌生町三 電話下谷一八二三

二十有餘年間第一銀行ノ要職ニ在テ精勤一日ノ如ク曾テ寸時ノ荒廢ヲ見サリシモノ田中元三郎君ノ如キハ甚タ異數タリ、君ハ信州上田ノ藩士ニシテ嘉永元年ヲ以テ生ル、幼ヨリ學ニ志シ、篤學ノ稱アリ、早クモ出テ、碩儒小橋橋園先生ノ塾ニ入り研鑽大ニ勉メ、更ニ紀ノ國坂ノ新聞學舎ニ入り、英語ノ學修ニ全力ヲ傾注セラル、明治十五年第一銀行ニ入ツテ事務ノ發展ヲ計ラル、爾來二十有餘年

間同行ノ爲メニ盡瘁セラレ、秋田、神戸、大坂、名古屋、朝鮮仁川等ノ支店ニ長トシテ轉勤シ、部下ヲ督勵シテ着々トシテ好果ヲ擧ケラル、其信用ノ深厚ナル遙カニ同儕ヲ壓セリト傳ヘラル、同三十七年ニ至ツテ其職ヲ辭シ、更ニ榮銀行ノ取締役トナリ又人造肥料株式會社取締役ノ職ニ在ツテ老熟ノ計畫ヲ施シ、其隆盛ヲ招キツ、アリ、吾人ハ君ノ熱誠ニシテ事務ニ忠實ナルヲ喜フト同時ニ其成功ノ經路ノ純潔ナルヲ賞讃シテ措カサル所ナリ

### 實業家 吉田平吉君

櫻濱市太田町一ノ四 電話三三六

君ハ埼玉縣ノ出身ニシテ平沼專藏氏ト乳兄弟ナルコトハ世ノ稱導セル所ナリ、サレハ平沼氏ノ家庭ニ於テ生育セラレ同家ニアルコト實ニ十二年ナリ君又勤儉貯蓄ノ美風アリテ蓄財ニハ最モ巧妙ナリ

ト傳ヘラル、宜ナリ、彼ノ才氣喚發セル先代藤助氏ノ懇請ヲ受ケテ養子トナラレシコトヤ、數萬ノ資財ト信用トヲ擧ケテ繼承シタル君、是レヨリ一層ノ活躍ヲ見ルニ至リ、祖業タル橫濱硝子會社ヲシテ完成セシメ、尙平沼專藏氏カ頭取トシテ經營セル橫濱銀行ノ監査役トナリ、例ニ依テ例ノ如ク活動シテ少カラサル資財ヲ贏チ得、今ヤ隆々タル勢威ヲ示シテ金港實業者間ノ覇タルニ至レリ、吾人はニ於テ君ノ通常一般ノ人士ニアラスシテ慥カニ敏腕ノ俊傑ナルヲ知ルト同時ニ勤儉ノ偉大ナル教訓ヲ與ヘラレタルヲ喜フ、君本年四十有七前途尙矚目スルニ足ル乞フ奮起センコトヲ。

### 實業家 濤川惣助君

日本橋區新右工門町八 電話本局二七一

本邦七寶ノ名匠トシテ令名噴々タル君ノ祖先ハ長

會我部元親ヨリ出テ子孫歸農シテ代々下總ニ住ス先代惣助氏ハ海外貿易ニ從事セラレ、現住所ニ店舖ヲ開キ主トシテ彩磁ノ改良ヲ計リ佛國巴里ニ於テ萬國大博覽會開設ニ當テ七寶器及陶磁器ヲ試賣シテ大ニ經驗ヲ重ネ翌十三年東京牛込區神樂坂町ニ假工場ヲ新設シテ試作ニ從事シ幾多ノ失敗ヲ操返シ、後遂ニ完全ナル製作品ヲ得タリ、此ノ發明タルヤ、空前ノ快舉ニシテ一般社界ノ舊夢ヲ打破シ我ガ美術界ニ一大革新ヲ與ヘタルモノ其功績亦偉大ナリト云フ可シ、第二回内國物業博覽會ノ開設ニ當テ出陳セラレタルニ果然世評頗ル高ク終ニ名譽金牌ヲ受領セリ、爾來内外博覽會共進會等ニ出品シ常ニ優等金牌ヲ受クルモノ一々枚舉ニ遑アラズ、明治二十八年四月勅定ノ綠授章ヲ賜ヒ斯道ノ功績ヲ賞セラル、君ハ其令嗣ニシテ夙ニ農科大

學專科ニ入り農藝化學ヲ專攻シ、明治二十八年卒業セラル、爾來牛込區矢來町ノ工場ニ於テ實地ノ研究ヲ重ネ、其技大ニ進ム、先代ノ後ヲ繼承シテ益々隆盛ヲ加フ、曾テ日英大博覽會ニ出品シテ名譽大賞牌ヲ授與セラル、君斯業ニ熱血ヲ注テ其大成ヲ遂ク其功亦偉大ナラストセンヤ。

### 實業家 相川小兵衛君

府下荏原郡品川町大字南品川宿二四三

時勢ヲ知ルノ人ハ非凡ノ人ナリ、非凡ノ人ハ自カラ信ズル事深ク、自カラ信ズルコトノ深キ人ハ毫モ事ノ成否ニ就テ心ヲ動かサス、致々トシテ勉メ汲々トシテ勵ミ、其成功ヲ見ルニ至ツテ止ム、君ハ東京府平民相川小兵衛氏ノ長男ニシテ嘉永六年一月二十八日ヲ以テ生ル、幼名ヲ金太郎ト稱シ幼ニシテ普通學ヲ修ム家ハ材木商ヲ以テ其名聲四方

ニ噴々タリ、明治三年家督ヲ相續シテ先代ノ名ヲ襲フニ至レリ、目下自家ノ經營ハ令息常松氏ニ擔任ヲ命シ過年品川電燈會社ノ創立ニ與リ、他ヘ合併セルニ及ンテ止ム、又明治三十一年日本「ペイント」製造株式會社創立ニ與リ六ニ盡瘁セラレ取締役及監査役タリシモ後チ感ズル處アリテ辭任セリ、明治二十九年六月資本金十萬圓ヲ以テ品川銀行ヲ創立シ君推サレテ同年七月七日取締役支配人トナリ十有餘年間一日ノ如ク勤務セラル同行今日ノ繁盛此レ君ノ力ニ依ラスンハアラズ、吾人ハ君ノ如キ眞摯ナル實業家ノ輩出センコトヲ希望シテ止マサルナリ。

### 男 爵 澁澤榮一君

邸 府下北豊島郡瀧野川村(飛鳥山)電話下谷二六四九  
二九四一  
事務所 日本橋區兜町二 電話浪花長一五八、一〇一三

帝國實業界ノ大恩人大權威者トシテ世ノ崇敬管ナラサル、男爵澁澤榮一君ハ天保十一年二月十三日ヲ以テ埼玉縣榛澤郡血洗嶋村ニ生ル、累世製藍ノ業ニ從ヒ、同地方ノ名門タリ、幼ニシテ聰慧群童ト選ヲ異ニス、始メ家庭ニ在テ好ンテ稗史小説ヲ讀ミ、自カラ其主人公ニ擬シ以テ得意トセラル東都ニ上リ、海保漁村氏ノ門ニ入テ漢學ヲ修メ、傍ラ武ヲ千葉周作氏ノ門ニ學フ、當時幕末維新ノ過渡時代ニシテ天下騷然トシテ腥風四海ニ滿チ人心胸々タリ、君時勢ノ前途ヲ遠觀シ、京師ニ趣キ四方有爲ノ志士ト親交ヲ訂シテ名漸ク現ハル、後一橋家ノ臣トナリ、以テ同家軍事及財政整理ニ當ル慶喜公入テ宗家ヲ嗣クニ及ヒ、亦隨テ幕臣ノ班ニ列セラル、慶應三年一橋民部公子ニ從テ佛國ニ航シ、泰西文化ノ制度ヲ視察シテ翌明治元年歸朝セ

ラル、次テ静岡藩勘定組頭ヲ命セラレ同二年更ニ大藏省ニ出仕シ、租税頭ヨリ、大藏權大亟ニ進ミ通商司ヲ兼ラル、明治六年各省經費定額論ニ就テ議合ハハスシテ井上大藏大輔ト共ニ袖ヲ列ネテ辭職セラレ、爾來專ラ民間實業ノ指導ヲ勉メテ又官海ノ人タラス第一銀行ヲ創立シテ其頭取トナリ爾來紡績、海運、鐵道、銀行、其他ノ諸會社中苟モ隆盛ヲ極ムルモノハ概ネ君ノ下與ヲ爲サザルモノナク尙養育院及慈惠病院其他慈善公共事業ニ關スルモノハ君ノ努力ヲ仰カサルハナシ、近來世ノ繁ヲ避ケテ是等萬般ノ要職ヲ去リ悠々閑地ニ就テ心身ノ靜養ニ勉メラル、君カ各會社ヲ辭セントスルヤ舉世皆驚愕シテ批評嘯々タリシモ功成リ名遂ケタル偉大ノ處決ニ三嘆スルノ外ナカリキ君先年帝國實業界ヲ代表セル渡米實業團ノ首腦トシテ彼地ニ航

シ、日米兩國間ノ交誼ヲ温メテ歸朝セラル、其功績ハ世ノ既ニ定評アル所ナリ、君曾テ帝國商人ノ位置ノ卑キヲ慨シ、士魂商才ヲ鼓吹シテ其氣質ノ矯正ニ勉メ、實効漸ク現ハレテ其面目ヲ一新スルニ至レリ、君カ現今ニ至レル經歷ハ官、公、私、ノ三者ヲ通シテ皆錦上華ヲ添ユルノ美事偉功ヲ以テ飾ラレル、吾人ハ唯其崇高ノ感ニ打タル、ノ外一語ナシ。

### 辯護士小笠原勇藏君

芝區西久保明舟町三 電話芝二七九一

中央辯護士界ノ少壯者中、行政事件ニ特殊ノ才能アリト稱セラレ、其取扱件數ニ於テ亦匹敵スルモノ無キ誇ヲ有スルモノ是小笠原辯護士ナリ、君ハ秋田縣平民、明治四年ヲ以テ僻陬一寒村ノ農家ニ生ル、天資既ニ凡ナラサル君ハ田夫野人ト共ニ朽

チン事ヲ快トセズ、研學ノ念鬱勃タルモノアリシガ、境遇ハ是ヲ許サズ、爲メニ誠ヲ吞ム事久シカリシガ、竟ニ斯クテ已ムベキニ非ズ、即チ小閑ヲ利シテ和漢ノ書ヲ親シミ、尋テ法律ヲ研究シ、後裁判所書記トナリテ勤務ノ傍ラ一層研學怠ラサリシガ、明治廿九年遂ニ意ヲ決シテ上京シ、直チニ明治法律學校ニ入ル、而モ君學資ナケレハ苦學力行眞ニ難苦ヲ積ム、翌年日本法律學校三學年ニ編入セラレ、同年遂ニ同校ヲ卒業ス、後總武鐵道株式會社ニ入りテ帳房ノ事務ニ從ヒシガ、是亦君カ意トスル處ニ非ス、遂ニ判檢事試験ニ合格シテ是ヲ辭シ、直チニ札幌ニ赴任ス、後本官トナリテ宮城縣大河原ニ轉シ、ソレヨリ秋田、森岡、等ノ各裁判所ニ歷任シ、尋テ仙臺地方裁判所ニ豫審判事トナル、斯クテ往々處常ニ誠實勤格ヲ以テ名アリ

シガ、感ズル處アリテ明治三十六年十二月官ヲ辭シテ東京ニ來リ事務所ヲ開キテ一般ノ訴訟事務ニ執掌ス、而モ多年官界ニ於テ鍊磨セシ手腕ハ激測トシテ茲ニ彩華トナリ、忽チニシテ名聲同輩ヲ凌クニ至ル、殊ニ行政事件ニ於ケル手腕ハ、斯界ノ大家モ尙一步ヲ讓ルモノアリト、以テ君ノ全豹ヲ窺フニ足ラン、復將來多キ法曹界ノ一材歟。

### 實業家比留間一介君

赤阪區溜池町二九 電話新橋四四三一

世界的活眼ヲ以テ社界ノ大勢ヲ達觀シ、縱横ノ材斗大ノ膽以テ狂瀾奔濤ノ如キ經濟界ニ處シ、敢テ進マス敢テ後レス、是レ適是レ行ヒ、其風潮ニ棹シテ毫モ過ツナシ、其奇智其敏腕既ニ泰西ノ活眼家ヲシテ認識セシメ、一面其ノ後援ヲ得一面又是レカ爲メニ盡瘁ス、義心鐵石ナルモノ比留間一介

君ノ如キハ天下亦稀有ノ事ニ屬セリ、世人既ニ其大手腕ニ驚嘆セリ、吾人又多ク謂フノ語ナシ、其定評アル、大手腕、……是繰返スニ留メンノミ、君ハ先代先之助氏ノ長男ニシテ、早クモ普通學ヲ修メ、更ニ進ンテ高等中學校ニ入り、優良ノ結果ヲ得テ卒業セラル、父祖ノ業ヲ繼キ質商ヲ營ミ、金錢貸附業ヲ爲セリ、後外人設立ニ係ル『ギイン』兄弟商會ニ入り、東洋ニ於ケル全般ノ施設監督ヲ管掌シテ同商會ノ爲メニ多大ノ貢獻ヲ爲シツ、アリ其發展發揚ハ吾人ノ嘔々ヲ要セスシテ明ナラン、希クハ奮闘セヨ。

### 實業家大山斐瑳磨君

牛込區西五軒町三六 電話番町二二四七

煙草專賣局支局長トシテ名聲噴々タル大山斐瑳磨君ハ今又野ニ下リテ煙草元賣捌株式會社取締役兼

支配人トシテ其敏腕ヲ揮ハレ、同所ノ發展ニ多大

ノ功ヲ擧ケラル、由來才氣洋溢セル壯年實業家ニシテ、其熱實ナルヤ、營々トシテ又他ヲ顧ミス、一意専心業務ニ當テ更ニ荒廢ヲ見ス、人多ク其精力非凡ナルニ驚嘆セリ、其成功ヲ見ルモノ敢テ疑ヲ入レサルナリ、抑モ君ハ岡山縣苦田郡津山町ノ人大山達聞氏ノ男ニシテ明治十年九月一日ヲ以テ生ル、其普通學ヲ卒ハルヤ東都ニ出テ日本大學ニ入り、法學ヲ修メテ切磋琢磨ノ功ヲ積ミ、後文官高等試験ニ應シテ合格シ、明治三十六年大藏省ニ出仕シ、函館專賣支局長ニ進メリ、後感スル所在ツテ官ヲ掛ケテ在野ノ人トナリ、煙草元賣捌株式會社ニ入テ其取締役兼支配人トナリ、爾來其獨特ノ敏腕ヲ揮テ同社ノ爲メニ献身的活動ヲ爲シ、以テ現今ノ盛況ヲ得セシム、其偉大ノ成功ハ斯界人士

ノ驚嘆セル所ナリ。

黒田侯爵家々令

### 山中立木君

赤坂區福吉町一 電話新橋二二九

屢々死生ノ境ニ出入シテ國事ニ奔走シ、幾多境遇上ノ變動アルモ爾モ國ヲ愛フルノ赤誠、今モ昔シモ一貫シテ渝ラサルハ山中君ノ生涯ナリト謂フベシ、君ノ過去奮闘ノ歴史ハ優ニ一冊子ヲ成スニ足ルモノアルベシト雖モ今其概略ヲ抄録センニ君ハ弘化二年乙巳十月二十日ヲ以テ福岡縣早良郡烏飼村ニ生ル、父ハ福岡藩士井上權一郎氏ニシテ阿兄範吾氏家ヲ繼グ、君資性闊達不羈、幼ニシテ文武兩道ヲ修メ夙ニ勤王ノ志ヲ立テ、同志ノ士ト血ヲ啜テ死生ヲ共ニセンコトヲ誓ヒ、先輩者ニ隨テ王政復古ノ大業ニ預リ、屢々藩政廳ノ壓迫ヲ蒙リシ

モ不撓不屈國士ト來往シテ青年志士ニ敬愛セラレ文久二年京都ニ赴キ朝平御門ノ警備ニ勤務シ、同三年先帝八幡行幸ノ節各藩ヨリ精撰ノ士ヲシテ供奉セシムルコト、ナリ、君モ亦筑前藩ヨリ選ハレテ供奉ヲ命セラレ鳥帽子布衣ノ賜アリ、此日尊王攘夷ノ令天下ニ布カル、同年三條公以下六卿長州ニ脱セラル、君ハ此事ヲ聞クヤ直チニ朝平御門ヲ出テ三條公ヘ隨伴セントシ、途中薩兵ニ擁セラレテ遂ニ志ヲ達セズ、後歸國シテ遊擊銃士トナリ長倉兩藩兵ヲ交ヘシ際國端警備ニ出陣ス、解兵ノ令ニ依リ歸國ス、後チ英式練兵ニ反對シ日本武道ノ擁護ヲ計リ士氣ヲ振起セント、文武館ノ設立ヲ主張シテ遂ヒニ希望ヲ達シ、館成ルヤ其監察ニ命セラレ大ニ力ヲ盡セリ、次テ山中矢柄ノ養子トナリ現姓ヲ冠ス、當時奥州征伐中藩主ニ請フテ戰地視

察ニ赴ク、途中東京ニ至リ奥州靜定セシヨリ滯京三條公ノ隨從ヲ命セラル、後チ公ニ隨テ西京ニ至リ、各藩ノ同志者ト内議シ尊攘ノ實ヲ擧ケント爲カニ公卿愛宕殿ヲ謀主トシテ義舉ヲ企テ八幡山ニ於テ誓ヲナシ、歸國兵ヲ募リシモ京師ニテ事發露シテ成ラズ、國ニ止リテ就義隊進築隊等ノ幹部トナリ、又タ顯勇隊ノ中隊長トナリテ専ラ兵制ニ力ヲ盡シタリ、明治四年廢藩置縣ト同時ニ解兵トナリ士族長ヲ命セラル、其後明治六年筑前全國ニ涉リテ黨民蜂起シ再ビ兵隊長トナリ鎮定ノ功アリ、次テ縣廳十一等出仕補亡長トナレリ、解兵後二千餘ノ舊隊士ヲ北海道ヘ移シ北門ノ鎮鎗ヲ嚴ニセント、實地視察ノ爲メ風雪ト戰ツテ同道札幌ニ赴キ屯田兵ヲ廣ク全國ニ募ランコトヲ献言セシモ恰モ千島樺太交換ノ事起リ、續テ臺灣ノ役等國事多端



ニシテ其議行ハレズ依テ更ラニ義勇兵ヲ募リテ大ニ爲スヨトアラントセシモ偶々平和ノ報ニ接シテ止ミ屯田兵ノ議亦容ラレサリシヨリ年餘ニシテ歸國シ公共ノ事業ニ從事シ殊ニ小學校ノ建築學塾ノ創立等教育上ニ盡瘁スル所尠カラス、西南事變起ルヤ、有志ノ士蹶起シテ之ニ應セントセシモ君ハ切ニ時機尙早ヲ説キテ同志ヲ宥メ一方政府ニ向テハ調停ノ建白ヲナサントシテ却テ捕ハレテ一時幽閉ノ身トナリ、或ハ京攝間ヲ來往シ或ハ東京ニ至ル等、八方奔走シ屢々各地ニ於テ有志者ヲ會スル等專ラ調停論ヲ以テ盡ス所アリシモ其功ヲ奏スルニ至ラズシテ遂ヒニ乱平ク、其後君ハ選ハレテ嘉摩穂波兩郡ノ郡長ニ任セラレ、郡治ノ爲メニ全力ヲ傾注シ、友愛會ナルモノヲ組織シテ有志ヲ料合シ、教育勸業勤儉貯蓄獎勵ノ道ヲ講シ又一般政治

上ニ於テハ、同志ノ士ト國會開設條約改正諸願ノ事ニ力ヲ盡シタリ、同十七年福岡區長ニ任セラレ細民救助ノ爲メ授産場ヲ起シテ下層社會ノ窮困ヲ救フトコロアリ、同十九年那珂御笠席田三郡ノ郡長ヲ兼務ス、時ニ北海道へ屯田兵募集ノ令出シヨリ君ハ曩キニ同道ヲ視察セシ故其實況ヲ説キテ勸誘シ同郡ヨリ數十名ヲ移住セシム、其他福岡區ヲ横斷セル那珂川へ船舶出入ヲ便セントタメ區會ヲ動シテ百餘間ノ防波堤ヲ築キ、或ハ區内人心ノ和合ヲ謀リ交通ヲ便ナラシメントタメ福岡博多ノ中央ニ横ハリシ舛形ト稱ヘシ古城郭ヲ徹去シテ道路ヲ改修シ、或ハ運搬ヲ便セント博多棧橋ヲ架設セリ、明治十九年安場保和福岡縣知事トナルヤ、政黨ヲ壓迫セントセシヨリ縣會議員舉ケテ反抗スル等一時頗ル紛擾ヲ極メ爲メニ地方諸般ノ事業ニ大影響

ヲ來セシヨリ、君ハ其間ニ立チ事業ノ成功ヲ期シテ大ニ盡瘁セリ、殊ニ九州鐵道創立ニ就テハ福岡及ヒ佐賀熊本長崎等四縣ノ有志者再々相會シ物議紛々一時ハ瓦解セントスルニ至リシ事アリシモ君ハ献身的其衝ニ當リ東奔西走幾多ノ壓迫幾多ノ誤解ヲ排斥シ區々タル地方論ヲ説破シテ遂ニ其成功ヲ見ルニ至リタルハ君ノ誠衷預リテ大ニ力アリタリ、同二十二年福岡ニ市制ヲ布クヤ、君ハ福岡市會ヨリ滿場一致ヲ以テ市長ニ推サレ、市ノ爲メニ盡スノ外或ハ中學修献館ノ創立ニ際シ自ら數百金ヲ投シテ大ニ力ヲ盡シ或ハ政府筑豊兩州ノ石炭坑區ノ制限ヲ解キ遠賀鞍手嘉摩穂波田川五郡ヲシテ地方ノ資産家ニ委シ大ニ鐵業ノ發展ヲ計ラシメントノ議出ツルヤ、君ハ此間ニ介在シ斡旋至ラザルナク遂ニ激甚ナル借區競争ヲシテ圓滿ナル解決ヲ

遂ゲシムルニ至レリ、廿三年衆議院議員ノ選舉アルヤ、第三區ヨリ推サレテ候補ニ立チシモ總ニ數點ノ差ヲ以テ落選セシヨリ爾來屢々候補ノ勸誘ヲ請シモ亦々固辭シテ出ズ、會々露西亞皇太子殿下ノ湖南ニ於ケル遭難アリ、君ハ之ヲ以テ國家ノ一大事トナシ座視スルニ忍ヒス直ニ福岡市民ヲ代表シテ聖上天機伺及ニコラス殿下ノ慰問ヲナセリ、二十五年遠賀郡長ニ轉ス、二十六年早魃ニ際シ偶々遠賀川關係各町村ト、鞍手郡トノ間ニ水論ヲ生ジ一大葛藤ヲ醸シ、幾千ノ民衆相簇リテ竹鎗ヲ提ケ席旗ヲ翻ヘシ將ニ血ヲ見サレハ止マザラントスルニ及ビ君挺身直入死ヲ決シテ兩者ヲ和解シ遂ニ大事ニ至ラスシテ止ム、其他水利土木ノ改善ヲ成ス等郡治ノ爲メ力ヲ盡ス所多シ、後チ舊主黒田侯爵家ノ御召ニ依リ恩命賦シ難ク郡民ノ愛惜ト袂別

シテ出京同家ニ入り一身ヲ捧ケ名利ヲ脱シテ其本分ヲ全フシ同家々令トシテ舊主家ノ安泰ヲ計リツ、アリ、君ガ舊主家へ就職爾來殆ント二十年其間同家ノ爲ニ盡シタル功績不尠モ個ハ内事ニ屬シ事ゴトニ公ニスル能ハズ只其一二ノ重ナル事ヲ舉ケンニ去二十七年日清開戦ノ際某々有力ナル數名ノ華族發起シテ軍資献納ノ件ニ付舊十萬石以上ノ同族ヲ星ケ岡茶寮へ集會セラレタル、時君ハ主人ノ代理トシテ出席セリ其際發起者ノ一人會主トシテ述ベテ曰ク、今ヤ端ナク日清開戦トナリシガ是實ニ國家安危ノ係ル處而シテ其軍資タル今後幾千萬ノ多キニ至ランモ難計如此場合ナレバ我々皇室ノ藩屏タル者傍觀座視スベキ時ニアラサルヲ以テ他ニ先キ立軍資ヲ献納セザル可ラズト此ニ於テ某侯ハ只今會主ヨリ述ベラレシ如ク、同族一同振ツテ

献納スベク且ツ其献納金額ハ十五銀行株所有ノ多少ニ應シテ取極メントノ意見ナリシカハ某伯ハ銀行株ノ多少ニ依リテ額ヲ定ムル事ハ如何アラン、ト陳ベシモ別ニ賛否ノ意見モ出ザルヨリ、會主ハ一同異議ナクハ今日來會ノ諸家ハ孰モ發起者トナリ同族一般ヲ會シ勸誘セント述ベラレシヨリ、君之ニ應シテ今日ハ主人黒田侯ノ代理トシテ出席會主ノ意見ハ了解セリ之ニ對シ、主人ノ意見ハ未タ測リ難キモ余一己ノ意見ヲ開陳シ度シト述ベシニ會主ハ元ヨリ望ム所ナリト答フ、此ニ於テ君ハ諄々トシテ説テ曰ク、只今會主ヨリ御陳述ノ如ク開戦トナリテヨリ、其費ス處ノ軍資タル一日ニ一百萬圓ヲ出ツルトノ事ニテ而シテ今後或ハ數年ニ涉ルヤモ計ラレズ、然ル處今華族中ニテ一時募集スルモ思フニ數日ノ軍資ヲ支フルモ容易ナラザルベ

シ、又タ某侯ノ御意見ノ如ク強制的ニ十五銀行株ニ割當ン事甚タ穩當ナラズ、何トスレハ當時銀行へハ華族以外ノ株主モアリ且各家共ニ今日ノ株數必ズシモ其資産ニ應ゼラレテ所有セラル、者ニモアラズ、如此ハ可云シテ行ハルベキ事ニアラズ、私ノ意見ハ今ヤ憲法制度トナリタル儀ナレバ、此際速ニ帝國議會ヲ開キ大ニ軍國債ヲ起シテ軍資ヲ備フヘキノ秋ナリ、亦タ國民ハ進ンテ之レニ應ゼザル可ラズ、然ルトキハ一般國民モ依之一層敵愾心ヲ振起セシムルノ道トモナラン是レ、今日ニ於ケル一大急務ナラン、而シテ華族タル舊藩諸侯ハ此際出征軍人へ内顧ノ憂ナカラシメンタメ夫々舊藩地ニ於テ遺族者ヲ救済スル事ニ力ヲ盡サレン事切ニ希望スル旨ヲ述シニ某伯ヲ初メ諸家代理トシテ出席セシ合扶等各君ガ意見ニ賛成ヲ表セシヨリ

會主ハ遂ニ止ナク今日ノ評議ハ早迄ニシテ不日重テ會合スベシトノ事ニテ集會ハ終リタリ、其後此會主ノ意見ハ消滅ニ歸シタルモノ、如シ、君ハ右ノ次第ヲ主人侯爵へ復命シ且ツ其遺族救助ノ事ヲ申述シニ御同感ナリシヨリ、侯爵ハ華族會館ニ於テ右ノ趣旨ヲ以テ御同族ヲ勸誘セラレタル、上先ンジテ舊藩地福岡へ出張セラレ、君モ隨行シテ遺族救済ノ事ニ預リテ大ニ力ヲ盡セリ、其後他ノ御同族方モ追々舊藩地へ同様遺族救助ニ力ヲ盡サル、事トナルタリ、是レ君ガ發意預リテ大ニ力アリ又タ軍國債募集ノ議モ其後間モナク發表セラレタルガ、是レ亦タ君ガ意見或ハ其期ヲ速カナラシメタルナラン、其他黒田家中興祖ノ長政公ノ四子高政君ヲ東逆寺則チ今ノ直方へ四萬石分與セラレ、後チ四代目長清君迄ニテ斷絶ヘタルモノナルガ君

### 實業家 守谷吾平君

京橋區三十間堀二ノ一二 電話新橋長一八二四  
三〇二一

ハ當代候爵ノ弟長和君ヲ以テ其跡ヲ再興シ對來黑田家ノ根底ヲシテ益々鞏固ニセントノ志望ヲ抱キ熱心主唱シタル結果遂ニ容レラル、處トナリ、侯爵ヨリ出願ノ未長和君ヲ男爵ニ叙セラレ分家直方ノ跡再興セラレタリ是レ君ガ盡瘁セシ功績ト謂ツベシ、三十七八年日露戰爭ノ際モ舊藩地ニ於ケル出征軍人遺族ノ救助戰死者ノ追吊等ニ付テモ主人ノ命ヲ請ケ専ラ力ヲ盡シテ遺憾ナカラシメタリ、既ニ本年六十七歳トナリシモ尙モ主家ノ爲メニ盡シ其信頼ヲ博スルト共ニ舊藩人士ノ尊敬ヲ受ケツ、アリ、試ニ其風良ヲ窺ヘハ白髮童顏ノ裡當年ノ苦心眉宇ノ間ニ顯レ古武士ノ風格躍如タルモノアリ、亦以テ當代稀ニ見ルノ人傑ニシテ多年志士ノ推重ヲ博スル寔ニ故アリト云フベシ。

君ハ備中國、淺口郡鴨方村本庄、守谷金八氏ノ次男ニシテ、慶應二年十一月同地ニ生ル、幼ニシテ學ニ志シ稍長シテ縣立師範學校ニ入り居ルコト數年ニシテ業ヲ卒ヘ、後チ玉嶋小學校ノ校長ト爲ル後時代ノ風潮ニ刺戟セラレ、二十有五歳ニシテ始メテ東都ニ出テ慶應義塾ニ入ル、其學資金ノ如キハ、曾テ教師ノ奉職中蓄積シタルモノニ係リ、毫モ父兄ノ手ヲ煩ハシタルモノニアラズ、以テ君ガ性格ノ緻密周到ナルヲ知ルベシ、明治二十六年卒業スルヤ、介スル者アリ三井銀行地所部ニ入り、宮城縣仙臺ナル王城圭原ノ開墾事務ヲ司リ精勵盡力事績見ルベキモノ多ク一年餘ニシテ歸任ス、當時三井家カ田中久重氏所有ノ田中工場ヲ引受クルニ

及ヒ、藤山雷太氏ノ管理トナルヤ、君ハ又之レニ入リテ大ニ刷新ヲ行ヒ工場ノ處理ニ努ム、後三井銀行本店及ヒ支店ニ勤務シ、更ニ王子製紙會社ニ

ヲ占ムルニ至レリ、豈盛大ナリト云ルサルヘケンヤ。

### 實業家 大塚榮吉君

芝區三田疊岡町六六 電話芝九八二

入リ、職ヲ執ルコト茲ニ四年、成績良好ニシテ、衆人ノ推ス所トナリシモ君ハ固ヨリ永ク人ノ手足トナリテ之レニ甘ズル者ニアラズ、明治卅五年現住地ニ營業店ヲ開始シ、主トシテ機械銅鐵、護謨輸入製造販賣ヲ經營セリ、後本店ヲ銀座二丁目ニ置キ舊所ヲ電氣部トナス、爾來逐日殷盛ヲ極メヌ、君ヤ時機ヲ見ルニ敏、事ニ當テ果斷苟モ其目的ヲ遂ケスンハ止マサルノ慨アリ、孜孜汲々トシテ敢テ怠ラス、販路大ニ擴張セラレ、四十二年十月ニ至リ、大坂及ヒ九州直方町及盤城ニ支店ヲ設クルニ至レリ、尙ホ君ハ東洋護謨株式會社ノ取締役トシテ、販路ノ廣大信用ノ旺盛ナルハ斯界ノ第一流

君ハ岐阜縣安八郡大垣ノ人明治元年四月ヲ以テ生ル、明治二十一年奮然東都ニ出テ三田農具製作場ニ入り、具サニ辛酸ヲ嘗メ居ルコト四年後松井氏ト謀リ、松井工場ヲ創設シテ技手長トナル、同三十四年松井氏廢業セラル、ヤ君該業ノ好望ニシテ大發展ノ期アルヲ知リ先ツ獨立シテ同區田町ニ第一工場ヲ設ク其ノ計畫時宜ニ適シ着々歩武ヲ進メ又多年實驗ノ結果發明セル彼ノ銀行用數字切拔器械ハ實ニ巧妙ニシテ實用上ノ効果偉大ナリ殊ニ第三銀行及ヒ安田銀行ニ於テハ舶來品ヲ除キ特約販賣ノ契約ヲ爲スニ至レリ、又第五回內國勸業博覽會

### 實業家 井上治兵衛君

芝區高輪南町五二 電話芝九六二

ニハ硬鐵車輪ヲ出品シ第二等賞牌ヲ受領シ卅六年ニ至テ第二工場ヲ起シ三十八年ニハ更ニ第三工場ヲ増設スルノ運ニ接シ、同三十九年ニハ業務擴張ノ爲メ各工場ヲ合轄シテ同區三田豊岡町ニ移シ專ラ其製作ノ統一ヲ計ラル同年十月大塚式逆風機ヲ發明シ尋イテ大塚式陶砂盤ノ專賣特許ヲ得三十八年ヨリ四十一年ニ亘ル電鐵會社ノ電車ハ全部君ノ手ニヨリテ製造セラレ又四十二年六月ニハ大塚式生吹大窓礦爐ノ特許ヲ得先ニ帝國大學ノ「チルド」断面及ヒ鑄鐵車輪ノ標本ヲ寄附シ特ニ好評ヲ得タリ又更ニ四十三年七月ニハ大塚式浮遊選礦器ノ專賣特許ヲ得今ヤ全國各會社ノ需用頻繁ヲ加ヘ販路日ニ月ニ擴張セリ、コハ君ノ熱血ノ迸發セル自然ノ資ト稱ス可クシテ其發展ハ益シ又偉大ナルモノアラン。

三井物産ハ明治實業界ニ於ケル人材ノ叢淵ナリ、錚々噴々流ノ人傑獨特ノ手腕ヲ揮テ其功ノ大ナルヲ希フ、同所カ逐年大發展ヲ見ルモノ是等人士ノ競爭的施設ニ俟ツ所大ナリシハ吾人ノ特ニ嗷々ヲ要セサル所ナリ、君又同所ノ俊秀ヲ以テ稱セラル其非類ノ敏腕家タルハ同所ノ定評アル所ニ屬セリ君ハ京都二條堀川通ノ人先代治兵衛氏ノ長男ナリ明治七年六月十三日ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ揚ケラル、其普通學ヲ卒ハルヤ、贊ヲ京都商業學校ニ執リ、益雪多年ノ功ヲ積ミ、數年ナラスシテ學績優良ヲ以テ卒業セラレ、更ニ郁文館ニ入りテ研修シ、尙進ンテ高等中學校ニ入り茲ニ多年ノ辛酸ヲ嘗メ遂ニ良好ノ結果ヲ得テ卒業セラル、ニ至レリ、次テ三

井物産會社ノ招聘ニ因テ入社シ、東京本店ニ於テ商風ノ實習ヲ重ヌ、其慧敏ノ手腕ハ重役ノ認識スル所トナリ、拔擢セラレラ上海、天津、倫敦、「ハンボルク」等ノ各支店詰トナリ、歐亞各國ノ商業振ヲ親シク研究練磨シテ大ニ得ル所在ツテ歸朝セラル、同三十九年更ニ横濱支店詰ヲ命セラレ爾來同支店ニ在ツテ多年ノ實驗ニ依ル、一新規軸ヲ出シテ名聲赫々タリ。

### 實業家 田口吉藏君

日本橋區横山町二ノ一〇 電話浪花一五〇六

數十年來鍛鍊セラレタル鐵腕ハ、硬骨稜々トシテ石火ノ光鋒當ル可カラス、其多大ノ信用ト雄大ノ資力トハ確乎不拔ノ基礎ヲ造リ、其手腕其信用、正ニ老大銀行ヲシテ顔色ナカラシム、此ノ怪傑田口君ハ抑モ如何ナル經歷ヲ有スルカ、君ハ東京府平

民宮川平五郎氏ノ令弟ニシテ安政五年五月十四日ヲ以テ生ル、明治十六年先代田口庄七氏ノ養子トナリ、尋テ家督ヲ相續シテ兩替及地金銀ノ賣買ニ從事セリ、君始メ商業見習ノ爲メ馬喰町吉田佐助氏ノ下ニ店員トナリ、熱實至誠ヲ以テ主家ノ爲メニ多大ノ貢獻ヲ爲シ、信用甚タ豊富ナルニ至リ、田口氏ノ知ル所トナリ以テ其養子トナルニ及ヘリ、君常ニ昔時ノ艱難ヲ忘レズ、亦商機ノ機微ニ通シテ施設スル所皆正確ヲ尊フ、會テ田口銀行ヲ創設シテ其業務擔當社員トシテ其衝ニ當ラル、資本他ニ比シテ多カラスト雖モ隆々トシテ盛況ヲ極ムルモノ蓋シ君ノ信用旺盛ナルニ原由セスンハアラス、君一意専心行務ノ擴張ニ勉メテ又他ヲ顧ミス、其發展發揚ヲ見ルモノ豈怪シムニ足ランヤ、君ヤ温厚篤實ニシテ且仁慈ノ性ニ富マレ公共事業及救濟

事業ニ多大ノ援助ヲ與ヘ德望又隆々タルニ至レリ

實踐女學校長

### 下田歌子女史

赤坂區青山北町六ノ五三 電話芝六六六

抑モ女史ハ濃州岩村藩ノ醫學平尾鎮藏氏ノ女ニシテ安政三年八月九日ヲ以テ生ル、幼名ヲせき子ト稱シ、俊秀ノ賞譽アリ、祖翁東條琴臺先生ニ侍シテ漢籍ヲ學ヒ、八田知紀齋先生ニ就テ歌道ヲ修メ、其造詣甚タ深ク、斯界ノ大家ヲシテ驚嘆セシム、明治五年宮内省ニ出仕シ、累進シテ權命婦ニ任セラレ、皇后陛下ノ御覺へめでたく歌子ノ名ヲ賜ハラシ、同十二年職ヲ辭シテ下田猛雄氏ニ嫁シ、茲ニ下田歌子ヲ稱スルニ至リヌ、女史ハ女子教育ノ急務ナルヲ唱ヘ同十四年自カラ桃天女學校ヲ創立シテ其校主トナリ、爾來女史ノ苦辛ハ實ニ慘憺タル

モノアリ、同十七年不幸良人猛熊氏病沒セラレテ

悽慘ノ氣一家ヲ蔽ヒヌ、同年再々宮内省ニ出仕シテ御用掛ヲ命ゼラレ、翌十八年華族女學校教授兼幹事ニ任ゼラル、同十九年華族女學校學監ニ任ゼラレ奏任二等ニ叙セラル、同二十六年九月學監ヲ辭シ、教授在官ノ儘女子教育視察トシテ歐米各國ヲ巡遊シ同廿八年九月歸朝直チニ學監ニ任ゼラレ同二十九年常宮周宮御用掛ニ任ゼラル、同三十二年二月帝國婦人協會附屬實踐女學校工藝女學校ヲ設立シ會長及兩校長トナル、同三十四年從四位ニ叙セラレ同卅九年正四位ニ陞叙セラル、同卅九年四月學習院女學部教授兼部長ニ任ゼラレ高等官二等ニ叙セラル、同四十年十一月非職トナリ、同四十一年四月特旨ヲ以テ從三位ニ叙セラル、同年前記兩校ヲ合併シ實踐女學校長トナル、同四十一年

十一月財團法人設立ノ許可ヲ得テ私立帝國婦人協會實踐女學校理事兼職トナレリ、吾人ハ女子ノ勞ヲ多シトシ、尙女子薰育ノ爲メニ多大ノ貢獻ヲ望ムモノナリ。

大ノ盡瘁ヲ爲シ、既ニ成功ノ域ニ到達シツ、アリ其發展將ニ刮目ニ値ヒスルモノアラシ。

### 實業家 辻 同次郎君

小石川區同心町一 電話番町二二六五

明治教育界ノ大斗トシテ世ノ推敬一方ナラス、會テハ文部大臣トシテ斯界ノ發展ニ多大ノ盡瘁ヲ爲シ、大學總長ノ要位ニ在テハ學制ノ統一ヲ計リ、赫々タル名聲今尙吾人ノ耳目ニ新ナル辻新次君ノ經歷ハ嘖々トシテ天下ニ喧傳セラル、君ハ其令男ナリ明治十年ヲ以テ生ル、幼ニシテ明敏ノ稱アリ、其普通學ヲ卒ハルヤ、早稻田大學文科ニ入り研鑽ノ功ヲ積ミ、特ニ文藝ノ改良ニ趣味ヲ有ス、後諏訪電氣株式會社、伊那電車軌道株式會社ニ關シテ多

芝區西久保根川町四 電話芝二六三七

### 辯護士 堀田熊三郎君

東北人士ノ特長ハ健剛ニアリ、些事ニ拘泥セサル宏量ニアリ、此資質ヲ遺憾ナク實現シテ中央辯護士界ニ雄飛セントシツ、アル君ハ山形縣南村山ノ産、明治七年ヲ以テ生ル、天資聰敏、克ク偉大ナル自然ノ感化ト混和シテ青年時既ニ凡才ニ非サルヲ認メラル、明治二十七年優秀ノ成績ヲモツテ山形中學校ヲ卒業シ、後暫時小學ニ教鞭ヲ捉リシガ所謂村夫子タルハ君ガ志ニ非ズ、即チ同二十九年翻然及テ負フテ東京ニ來リ、直チニ明治法律學校ニ入ル、爾來拮据勉強法學ノ精髓ヲ究メ、同卅二年卒業ス、同年直チニ辯護士試験ニ應シテ合格シ、

翌年現今ノ地ニ事務所ヲ開キ一般ノ訴訟事務ニ執掌ス、而カモ朴直ノ資事ニ當ツテ熱誠親切先ツ世上ノ信用ヲ買ヒ、尋テ其手腕漸次認めラレ、今ヤ少壯辯護士間ノ敏腕家ト稱セララル、ニ至リヌ、吾人密カニ君ヲ窺フニ、内ニ幾多ノ蘊蓄アリ、外ニ是ヲ運用スル、獨特ノ才腕アリ、而モ今尙滿ヲ持シテ放タズ、悠々トシテ時機ノ來ルヲ待ツモノ、如シ、復少壯家中ノ未來アル一人者ナリト言フ可シ。

### 實業家 戸塚吉太郎君

横濱市真砂町四ノ四九 電話八八四

金港實業界ニ於テ誠實勤勉ノ聲譽ヲ以テ名アル戸塚吉太郎君ハ戸塚千太郎氏ノ長男ニシテ慶應二年ヲ以テ生ル、夙ニ師範學校及高等中學校若クハ講習所ニ於テ和漢洋書ノ研究ヲ卒ハリ、市内各所ノ學校ニ於テ育英事業ニ從事セラレシモ父君ノ後ヲ

繼承シテ現ニ商業銀行專務取締役トナリ、爾來其努力ヲ持續シテ精勵ノ聲譽ヲ博シ、同行ノ信用ヲシテ泰山ノ安キニ至ラシメ、尙其餘力ヲ提ケテ横須賀電燈株式會社ノ創立ニ盡瘁シ、推サレテ其取締役トナレリ、君ハ會テ堀越商店ニ於テ商業ノ實修ヲ爲スコト三年、此間大ニ其努力主義ヲ發揮シテ偉功ヲ奏セシヨリ、爾來其主義ニ基キ終始一貫セラレントス、所謂眞面目ノ人トシテ自カラ任ゼントスルモノ吾人又推敬ノ外ナキナリ。

### 北海道炭礦瀛船株式會社取締役

## 大島六郎君

府下豊多摩郡代々幡村代々木二二一 電話番町一六三九

君ハ舊幕臣大嶋貞薰先生ノ六男ニシテ安政二年ヲ以テ但馬國幕領小出播磨守管領ニ生ル、維新後父君ガ兵部省ニ職ヲ奉シ、令兄某司法官トシテ任ニ

就ク等ノ事アリシ爲、君亦伴ハレテ東都ニ上ル、初メ湯嶋三組町共貫義塾ニ入ツテ英漢數ノ三科ヲ修ム尋テ赤坂葵町工部大學附屬學校ニ入ツテ普通學ヲ修メ、明治九年工部大學ニ入ツテ鑛山科ヲ修ム、螢辛雪苦同十五年ヲ以テ卒業シ、工學士ノ稱號ヲ授ケラル、當時此新造詣ハ、直ニ官海ノ要求スル處トナツテ工部省ニ出仕ス間モナク阿仁鑛山ニ赴任ス、後北海道開拓使ニ轉任シ、幌內炭鑛事務所鑛山主任トナル、當時日本鑛業界ノ狀態ハ、稍進進ノ曙光ヲ認めラレツ、アリシ時代ニシテ、君等ノ努力ハ頗ル價值アルモノニシテ、明治鑛業發達史上ノ幾頁ヲ費サ、ルベカラサルナリ、同二十年技師ニ任ゼラル二十年同山ノ北有社ニ拂下ケトナリ、幾モナクシテ北海道炭鑛鐵道會社ノ創立セラル、ヤ、直ニ聘セラレテ同社ノ技師長トナリ

技術上一切ノ責ニ任ジ、多年ノ經驗ヲ擁シテ、大擴張ニ從事シ、成績亦顯著ナリキ同廿九年炭鑛及鐵道事業視察ノ目的ヲ以テ歐米ヲ視察シ、歸來施設上改革ヲ實行シタル亦尠ナカラサリキ、三十三年取締役兼理事トナリ、主トシテ本店ニ駐留シテ經營ニ任ジツ、アリキ、三十六年兼務ヲ辞シテ取締トナリ爾來營々社運ノ發展ヲ計レリ、前年經濟界ノ打撃ニヨリ、一二社運ニ影響スル處アツテ新重役ノ組織アルヤ、君亦取締トナツテ執掌ス君資性溫良ニシテ器宇頗ル大、其統御ノ才ニ至ツテ先天的ノ者ナランカ。

### 黑板工務所 主

東京月島機械製作所主

## 黑板傳作君

製作所 京橋區月島車仲通五ノ二二 長電話京橋二〇三〇  
工務所 京橋區桶町二一 長電話京橋 九七六

青年立志ノ好鑑トシテ、我黑板工學士ノ奮闘概歴ヲ掲ケンニ、君ハ長崎縣ノ出身、舊大村藩士黑板要平氏ノ次男ニシテ明治九年六月ヲ以テ生ル令兄黑板勝美博士ハ有名ナル史家ナリ、君四歳ニシテ、父君ト共ニ長崎ニ赴キ、更ニ唐津ニ轉ス、七歳ニシテ慈母ノ歿ニ遭イ、早クモ冷刻ナル運命ノ數寄ニ翻弄セラル、爾後親戚ニ寄寓シテ普通學ヲ修ム、十四歳ニシテ中學ニ入ラントス、サレト豊富ナル學資ノアルナク、或ハ學僕トナリ或ハ小學校助教員トナリ、精勵貯蓄遂ニ其資ヲ得ルニ及ンテ正則ノ學ヲ修ム、遂ニ良好ノ成績ヲ得テ卒業ス時ニ年十九、時人賞シテ青年ノ好鑑トナス、即チ令兄ノ勸告ニヨリ、工學家タラント志ス、再ビ小學校教員トナツテ貯蓄シ、熊本高等中學校ニ入ツテ修學ス、廿二歳業卒ツテ東京大學ニ志セシモ、例

ニヨツテ其旅費スラ意ノ如クナラス、三度ビ小學校教員トナツテ貯蓄シ、遂ニ東上シテ帝大工科ニ入り貸費生トナツテ苦學ス、同窓皆其精力ノ絶大ヲ稱シテ止マサリキ、三十三年機械工學科ヲ卒業シテ工學士トナル、直ニ鈴木鐵工所ニ入ツテ技師トナリ、更ニ日本精糖會社ノ技師長トナリ、實地ノ研究亦修養大ナリキ尙大學院ニ入ツテ機械學ヲ專攻シ其造詣愈々加ハル、三十八年九月、獨立シテ現所ニ理想的製作所ヲ創立シ、專心說意一貫ノ主義ヲ以テ經營シ、別ニ獨立セル工務所ヲ設ケ、兩々相俟ツテ進境ニ入リツ、アリ、如斯シテ當年ノ苦學生ハ、今ヤ中央ニ於ケル新進技術家トシテ大ナル嚮望ヲ以テ迎ヘラレツ、アリ、尙吾人ハ君ノ明晰ナル頭腦ヨリモ、寧ロ高潔ナル人格ニ向ツテ滿腔ノ敬意ヲ拂ハサル可ラス、彼ノ少年徒弟ノ養

成ノ如キハ、未タ曾テ類例ヲ有セサルナリ如斯ハ青年時代ノ修養ヨリ基因セル者カ、其同情ニ富ム美風ハ淡々トシテ禪味ヲ帶フル態度ト、相對照シテ自ラ敬慕ノ念ヲ増サシム、君亦多辛ノ未來ヲ有スルノ一人ナリ。

### 辯護士平井恒之助君

京橋區本挽町一ノ一 長電話京橋四七六

威容端嚴悠々トシテ迫ラス、侃々諤々、ノ辨ハ法庭ヲ飾リ、時ニ熱血迸ツテ氣ヲ吐ケハ、滔々トシテ盡キス、仁狹ノ氣言句ニ溢レ一種ノ感ヲ抱カシム、其學殖ヲ叩ケハ新法ノ極ヲ窮メ其風格ヲ窺ヘバ將ニ當代ノ名士タリ、其名隆々トシテ法曹界ニ響ク眞ニ所以アリト言ヒツ可シ。聞ク君ハ相州小田原ノ産、平井仁左衛門氏ノ長男ニシテ、慶應三年二月三日ヲ以テ生ル、小壯學ヲ好ミ、靜岡ニ出

テ、同地碩學名和謙次翁ノ門ニ入り、和漢ノ學ヲ修メシガ、時代ノ趨勢ハ君ヲシテ洋學ノ研究ニ着目セシメ、明治十七年橫濱ニ來リ、英和學校ニ入りテ專心英語ヲ研究シ、明治二十年東京ニ上リ、明治法律學校ニ入ツテ、其政治法律科ヲ修メ、茲ニ他日雄飛ス可ク研究ヲ積ム、明治二十四年優秀ノ成績ヲ以テ同校ヲ卒業シ、將來政治家トシテ立タント、直チニ改進黨ニ入り、信越奥羽ノ各地ヲ巡遊シ、大ニ自由民權ノ鼓吹ニ努ム、翌二十三年代言人試験ニ應シテ合格シ翌年ヨリ事務ヲ開始シテ一般ノ訴訟事務ニ應ス、君熟々政界ノ現状ヲ見、其節操ナク廉耻無ク、朝ニ吳人ト親シミ、夕ニ越人ト交ハルカ如キ夙ニ嫌厭タラス、茲ニ斷然政黨ト關係ヲ斷ツテ專念自己ノ事務ニ從フ、於茲名聲日ニ高ク、彼ノ明治二十五年橫濱築港工事事件ノ折、

君ハ全國セメント製造者ノ依囑ヲ受ケ、時ノ築港局長内海知事ヲ相手トシ、行政訴訟ヲ起シ、大ニ其名ヲ顯ハス、爾來東京辯護士組合ニ籍ヲ置キ、堅實ト誠直トヲ以テ其名愈々揚ル、現ニ同組合ノ常議員トシテ又名アリ。

### 實業家 山口誠太郎君

龜町區土手三番町三八 電話番町一五七七

由來東北人士ハ醇朴ニシテ勤勉、誠實ニシテ任侠ノ氣慨ニ富ミ、事ニ當テ直進直行、苟モ成ラズンハ止マサルノ特質ヲ備フ、君亦東北羽前ノ出、其美性ヲ遺憾ナク發揮セラレテ、着々トシテ効果ヲ奏セラレツ、アリ。將來ノ大成又驚クヘキモノアラン、抑モ君ハ羽前國荊羽郡横澤村ノ人山口達太郎氏ノ長男ナリ同家ハ地方ノ大資産家ニシテ豪族ノ名甚ク高シ、早ヤクモ普通學ヲ卒ハリ上京シテ

知スルニ難カラス。

### 鑛業家 和田維四郎君

牛込區市ヶ谷佐内坂町三六 電話番町二〇一

君ハ舊若州小濱藩主酒井家ノ世臣ナリ、明治三年選拔セラレテ藩ノ貢進生トナリ、上京シテ大學南校ニ入ル、時ニ年僅カニ十四、後開成學校鑛山科第一級ニ編入セラレ級中常ニ優等ノ成績ヲ占ム後文部省學務課ニ出仕シ、開成學校製作學助教授ヲ兼任ス、明治八年政府ハ獨逸ノ地質學博士「プロフェンソルノーマン」氏ヲ聘シテ東京大學ニ地質學ノ講義ヲ開設ス、君懇請シテ同氏ノ「アツシスタン」ト爲リ、大學理學部教場助手トナリ自ラ地質學ヲ研究シ、又博士ト共ニ日本各地ノ地質ヲ調査ス、次テ内務省ニ地質調査所ヲ設クルヤ、君亦同省御用掛兼大學教授トナリ、後農商務省地質調査

東京高等中學校ニ入り研修スルコト數年、一躍シテ米國ニ渡航シ、同國「ハーバート」大學ニ入り益雪ノ功成リテ歸朝セラレ、山下秀寬氏ノ社長タル帝國製糖株式會社ニ入り、其取締役トナリ、樞機ニ參畫シテ献策大ニ務ム、又帝國冷蔵株式會社ニ入りテ其取締役トナリ更ニ餘力ヲ提ケテ日本電氣工業株式會社ノ取締役トシテ多大ノ功ヲ舉ケ更ニ北越水力電氣株式會社ヲ起シテ專務取締役ト爲リ多年老熟ノ辣腕ヲ揮ハレシカ、昨四十二年四月資本金十萬圓ヲ以テ明治電氣株式會社ヲ創設シテ其社長ニ推サレ、爾來同社ノ爲メニ設計萬端ノ衝ニ膺ラシ、漸次良好ノ結果ヲ收メツ、アリ、君ヤ前記多數ノ會社ニ參與シテ其牛耳ヲ探リ、孜々營々トシテ、精力主義ヲ發揮セラレ、綽々トシテ餘裕ヲ存ス、此ノ一事以テ如何ニ精勵ノ人ナルカヲ窺

所長ニ任セラレ、規模ノ擴張、外國技師ノ招聘、新圖ノ調製等ノ功績アリ、十四年農商務省權少書記官ヨリ文部省御用掛、同少書記官、大學理科大學教授等ニ歷任ス、尋テ地質調査ノ用務ヲ帶ビテ歐洲ニ派遣セラレ、巡遊視察一年有半ニシテ依病歸朝ス、次テ農商務省參事官地質局長ヲ經テ鑛山局長ニ進ム、當時鑛山制度ニ關シテ當局大臣ト意見ヲ異ニシ、斷然冠ヲ掛ケテ高踏勇退ス、當時民間鑛業者カ、辞ヲ低フシテ君ガ草廬ヲ三顧セシモ、君期スル處アツテ遂ニ出テサリキ、次テ宮廷御料鑛山顧問トナリ、銳意之レガ改良ヲ計リ、該鑛山ノ處分全ク結了ヲ告ケテ其職ヲ辞ス、同三十年再ヒ仕官シテ製鐵所長官ニ勅任セラル、蓋シ同所ノ事業ハ、頗ル重要ナル關係ヲ有シ、創業當時君カ拂ハレタル苦心ハ、蓋シ局外輩容易ニ窺知スル能ハ



ナル處ナリキ、斯クシテ本邦製鐵事業ノ端緒ヲ開キ、更ニ歐州ヲ歴遊シテ實地ノ觀察ヲ遂ケ、爾來同所ノ計營更ニ新面目ヲ呈セリ、後辭シテ城北ノ閑地ニ悠々自適セシモ、往年本邦鑛業者ヲ以テスル鑛山懇話會ノ組織成ルヤ、依請君專ラ日常ノ衝ニ當リツ、アリ。

### 實業家 朝吹英二君

京橋區木挽町九ノ三三 長電話新橋一〇二一

三井四天王ノ一人、我朝吹英二君ハ、彼ノ福澤門下ノ俊秀トシテ中央實業界ニ飛翔スルヤ久矣、君カ閱歷、君カ月旦、常ニ世ノ操觚者ニヨツテ物セラレ、逸話ノ材ヤ亦決シテ抄ナカラサルナリ、彼ノ實業世界記者ヲシテ、英雄カ才人カ、大愚カ大人乎、一種ノ怪男兒、……ト評セシメタル者吾人亦其幾部分ヲ贊ス、傳ニヨレバ君ハ、大分縣ノ人、嘉

永二年二月ノ誕生ナリ、少壯慶應義塾ニ入ツテ福澤先生ノ恩顧ヲ受ク、暫ク義塾ノ出版部ニアリシカ、遂ニ機ヲ得テ實業界ニ投ス、澎湃トシテ端倪スヘカラサルノ快腕、磅礴トシテ横溢セル元氣、猪突シテ屢々人ノ膽ヲ寒カラシム、一時三菱ニアリ後辭シテ横濱ニ生糸直輸出業ヲ營マントス時ニ利アラス、君ノ貿易商會ハ終ニ失敗スルニ至レリ、豪邁ノ資此一蹶跌ニ屈スヘクモアラス、再起シテ其負債ヲ消却セリ、後中上川彦次郎氏ノ三井家ニ入ルニ及ビ、拔擢セラレテ三井吳服店理事トナル、敏腕縱橫業務ノ發展顯著ナル者アリ、殊ニ三井家ノ外交家トシテ屢々奇功ヲ奏シ、主家ノ信任愈々加ハリ實業界ノ勢力圏亦大ニ廓大セラル、既ニシテ鏡ヶ淵紡績、九州紡績、王子製紙、品川毛織、芝浦製作所等ノ重役トシテ、多年拮据經營熱血ヲ瀝イテ

其任ヲ完フセリ、今ヤ三井本部ノ理事トシテ例ニ

### 實業家 青木榮次郎君

神田區和泉町一ノ一 電話長下谷三二二

ヨツテ妙案奇策ト共ニ眞面目ナル實行ヲ以テシツ、アリ、コレ君ガ歴史ノ抄録ニシテ更ニ熱血男兒トシテ君ガ面目ハ、稜々ノ氣骨世ノ弱者ヲ恤ミ、現ニ三井慈善病院設立ノ如キ參劃與ツテ力アリト傳聞ス、尙大坂ノ忠臣石田三成ノ孤忠ニ同情シ、後世阿諛的史家ニヨツテ誤ラレタル一代ノ英雄ノ爲劇務ノ餘暇、苦心慘憺時間ト私財ヲ抛ツテ『稿本石田三成』ヲ著シテ以テ天下ノ同志ニ頌チタル如キハ、錙銖ヲ爭フ賈人輩、否、當代賣學ノ徒抄シク君ヲ顧ミテ冷汗背ヲ濕スノ感ナキカ、更ニ古書通骨董通トシテ寧ロ大家ノ部ニ算セラル、モシ夫レ萩本アニマル朝臣ノ號ニヨツテナサレタル俳歌ノ如キハ、亦以テ性格ノ幾分ヲ隱見セラル、希クハ自愛アレ。

電車和泉橋ヲ渡ツテ北走スル處車掌ノ呼號スル松枝町停留所、コ、右側ノ一巨商、『シヨウウインドアー』ニ飾ラレタル高價ナル毛皮、自ラ行人ヲ佇立セシム、コレナン君ガ經營スル毛革毛皮店伊勢屋號ナリ、傳ニヨレハ、君ハ慶應三年五月ヲ以テ下谷谷中ニ生ル、先考村松善五郎氏ノ五男ナリ、明治十三年本所長崎町青木忠兵衛氏ノ養子トナル、次テ實家代々ノ業務タル筆毛製造業ヲ營ム、十七年二月下谷練堀町ニ移リ、廿年現所ニ轉ズ、資性頗ル熱心ノ士ニシテ、創業當時ノ如キ、獸毛研究ノ爲ニ、親シク關西東北ノ山村ヲ實地踏査ヲ敢行シ結果頗ル良好ナリキ、次テ奮闘活躍、斯界ノ牛耳ヲ執ルニ至レリ、往年市區改正當時店舖ヲ新築シ

テ商業亦一段ノ進歩ヲ示シ、特ニ毛皮販賣ニ心血ヲ灑キ、品質ノ優良例ニ依ツテ信用愈々加ハル、此間實業上ニ於ケル君ノ精勵ハ、到底筆紙ノ盡シ能フ處ニアリサルナリ、即チ尊敬スヘキ全力ノ人トシテ謳歌センノミ、尙其人格ノ一面トシテ幾多ノ逸話ヲ有ス、彼ノ三十四年大學第二病院失火ノ慘事アルヤ、君悲痛シテ止マス、罹災入院者ノ爲ニ數百ノ僧侶ヲ招キテ供養會ヲ開キ、以テ吊靈ノ善根ヲ積ミタル如キハ、到底當世輕薄者流ノ企テ及フ處ニアラサルナリ、尙三十九年日露戰役ニ際シ出兵家族扶助等ニ對シ率先後援ノ實ヲ盡シ獎兵義會ヨリ、銀杯及感謝狀ヲ受ケタル如キ亦面目ノ一半タリ、尙區内ノ名譽職等ノ重任ヲ負ヒ、至誠一貫區民ノ爲メニ盡瘁ス、如斯ハ純東京男兒ノ長所タル稜々ノ氣骨遺憾ナク發揮セラレタル者カ、シ

カモ、一度其人ニ接スレハ、温厚篤實、毫モ邊幅ヲ修飾セス、好箇紳商ノ型典ヲ具有ス、トマレ市井稀有ノ人材ト謂ツヘシ。

韓國銀行總裁

### 市原盛宏君

四ツ谷區大番町四三 電話番町二五〇七

豪傑ハ豪傑ヲ知ル……明治財界ノ傑士川田氏君ノ材用ユヘキヲ察シテ自己ノ總裁セル日本銀行ノ一椅子ヲ割テ與フ、君又川田氏ニ服シテ知遇ノ厚キニ酬フ、吾人常ニ之ヲ稱導シテ止マス、君ノ手腕愈々熟シテ一躍以テ横濱市長ノ榮職ニ就キ名聲隆々トシテ一世ヲ歴セリ、金港市民カ其德ヲ頌シ今尙當時ノ治績ヲ誇トシテ喧傳シツ、アリ、其市長ノ職ヲ辞スルヤ第一銀行ノ要職ニ就キ再ヒ金融界ノ人トナリ、多年練磨ノ辣腕ヲ以テ萬般ノ施設ヲ

「ドクトル、オブ、フィロソフヒー」ノ學位ヲ得、同廿五年秋英國ニ渡リ、歐州各國ヲ視察シテ歸朝シ愈々其實業方面ニ曠足ヲ伸ヘントスルヤ、偶々怪傑川田小一郎氏ノ知ル所トナリ一躍日本銀行ノ一要位ヲ占メ、以テ現今發達ノ素因ヲ造ラル、明治財界史上ニ異彩ヲ放ツモノ川田氏ト君トニ於ケル連結ノ美譚タラスンハアラス、吾人ハ單ニ其梗概ヲ留メンノミ。

### 實業家 岡本卯平君

京都市狸熊通上立賣橋南入

試ミ前途ヲ洞觀シテ牙籌ヲ採ルヤ、着々トシテ適中シ、曾テ違算ヲ見サリシハ識者ノ嘆賞シテ措カサル所ナリ、今ヤ韓國銀行ノ總裁トシテ滿腔ノ熱血ヲ注テ同行ノ爲メ一大計畫ヲ企圖セラレツ、アリ、將來ノ發展ハ吾人カ特ニ嗷々ヲ要セサル所、傑士ノ胸中自カラ成算ヲ期スルアリ、管刮目シテ時期ヲ待ツノミ、抑モ君ハ安政五年熊本縣下阿蘇山麓宮地村ニ生ル、本性村上氏出テ、市原家ヲ繼ク明治六年熊本洋學校ニ入り、米人「チエーンズ」氏ノ薰陶ヲ受ケテ基督教信者トナリ、同九年京都同志社ニ入テ神學科ヲ修ム、卒業後同校ニ教鞭ヲ探ルコト七星霜、新嶋先生ノ洋行中ハ其代理トナリテ同校ノ監督ニ任セリ、後仙臺東華學校ノ副校長タリシモ蹶起米國ニ航シテ「エール」大學ニ入り政治、經濟、社會學等ヲ研修シ、在學三年ニシテ

勤勉精勵……是レ君ヲ評シテ餘蘊ナシ、君ハ實ニ孜孜汲々業務ニ鞅掌シテ自カラ愉快ヲ感セル先天的努力主義ノ人ナリ、其本業ナル練糸染色等ノ事業ハ由來父祖ノ苦心ニ依ツテ完成ヲ告ケ、君又其發展ニ勉メテ現今ノ大成ヲ見ルニ至レルモノナリ

吾徒曾テ聞ク、熱心勤勉ハ成功ノ基ナリト、而モ是ヲ謂フ甚タ易キモ是ヲ行フ甚タ難シ、君ノ如ク能ク其言行一致ニ至ル篤行家ハ天下甚タ珍トスル處ニ屬セリ、同業者ハ君ヲ推シテ染物同業組合評議員且部長ノ要職ニアラシム、蓋シ其人ヲ得タリト謂フ可シ、君ハ曾テ木村六右衛門氏ト謀リ、都製氷會社ヲ創立シテ其取締役ノ重任ヲ帶ヒ、社長木村氏ヲ補ケテ萬般ノ施設ニ任ス其功空シカラスシテ、近來大ニ發展ヲ見ルニ至リ、同地有數ノ一會社ヲ以テ稱セラル、君ノ如ク業務ニ熱心忠實ナルノ士ハ天下ノ異數トシテ賞讃スルニ餘リアリト謂フ可シ。

實業家 木村六右衛門君

京都市下京區錦小路高倉東入 長電話一四六六

關西實業家中ノ偉傑トシテ、名聲赫灼タル木村六

右衛門君ハ萬延元年ヲ以テ京都市柳ノ馬場ニ生ル資性明敏ニシテ活達頗ル人ノ意表ニ出テ、時人ノ稱讚ヲ受ク、早クモ普通學ヲ卒ハリ京都第一中學校ニ入り其業ヲ卒ハルヤ始メテ、實業界ノ人トナル、君カ父君ハ有名ナル創業家ニシテ常ニ人ノ推重ヲ受ケラレ、曾テハ同市錦ノ小路魚市場ヲ開始シ名聲今ニ噴々タリ、君ハ父ノ遺業ヲ繼テ魚類仲買商ニ從事シ、爾來勇奮以テ業務ノ擴張ヲ計ラル其正實ニシテ欺カサルノ主義ハ顧客ノ信用途日大ニ加ハリ、家運又隆昌ヲ見ルニ至リ、現今斯界ノ第一流ヲ以テ稱セラル、曩ニ都製氷會社ヲ組織シテ其社長ニ推サレ愈々増々其敏腕ヲ發揮シテ同社ノ盛運ヲ呈セシメヌ、京都實業家中ニ於テ錚々タル名聲ヲ博シ、德望亦淺カラサル君ノ如キハ同地ニ於ケル紳士ノ好典型ヲ以テ稱スルモ敢テ誣言ニ

アラサルナリ。

男爵 岩崎小彌太君

神田區駿河臺東紅梅町一七 電話本局二三三

海南土佐ノ健兒天下ノ風雲ニ乘シテ中原ニ呼號シ維新ノ大謨茲ニ全キヲ告ケテ顯位顯職ニ昇ル者少カラス、世ノ所謂薩、長、土、ナルモノハ或ル一面ノ意味ニ於テハ權勢ノ代名詞タルヲ失ハス斯ク烈士カ官海ニ成功セルト同時ニ一面實業界ニ於テハ岩崎氏旗幟ヲ帝都ノ一角ニ翻ヘシ、東亞ノ金權ヲ掌握シテ航海運送ヲ始メ各種ノ鑛山業及ヒ金融界若クハ物産業等ニ迄手ヲ染メテ一大成功ヲ遂ケ三菱ノ名ハ宛然金傑王ヲ意味スル程ニ及ヘリ、而シテ此偉功ヲ奏シタルハ岩崎彌太郎同彌之助ノ二氏ナリ而シテ其遺事逸事ハ既ニ天下ノ傳ヘテ美譚トスル所ニ屬セリ、君ハ岩崎彌之助氏ノ長男ニシテ

明治十三年八月三日ヲ以テ生ル、其謹厚ニシテ溫雅、宏量ニシテ衆ヲ容ル、所、正ニ先代ノ遺風ヲ存シ、人ヲシテ轉々昔日ヲ偲ハシム、今ヤ各種學校ノ課程ヲ卒ハリ、三菱合資會社副社長トシテ從兄岩崎久彌君ヲ補佐シ、社務ノ刷新、事務ノ擴張ヲ謀ツテ一日ノ倦怠ヲ見ス、由來千金ノ子ハ事務ヲ理スル比較的粗ナリトノ評アル現代ニ於テ君ノ如キ精力主義ノ貴公子ヲ得タルハ吾人ノ推敬シテ措カサル所亦一面岩崎家ノ家憲ノ正肯ヲ得タルモノアルヲ思ハスンハアラス、君ハ同家二代ノ當主トシテ益々祖業ヲ雄大ナラシメツ、アル偉功ハ創業ニ比シテ敢テ遜色アルヲ認メヌ、將來ノ發展尙一層ヲ加ヘンコト期シテ待ツヘキナリ、君先代死亡後襲爵シテ現今從五位男爵タリ。

# 實業家 内藤市藏君

芝罘三田四町四ノ二 電話芝二二〇六

一種獨特ノ努力主義ヲ發揮シテ各方面ニ勇躍ヲ試  
ミ、成功…失敗…七顛八起ノ經路ヲ辿リ、遂ニ現  
今ノ大成ヲ見ルニ至レル内藤市藏君ノ經歷ハ抑モ  
如何、君ハ明治元年三重縣下菰野ニ生レ、村木氏  
ノ二男ニシテ内藤氏ノ養子トナリ、爾來其姓ヲ冒  
ス、曾テ伊藤五左衛門氏ノ店員トナリ、數年商業  
ノ見習ニ勉メ、敏捷活潑ニシテ能ク主家ノ信認ヲ  
博シ、其重用ヲ得ルニ至レリ、後辭シテ更ニ明治  
十八年獨立白米商ヲ開始セリ、爾來各種ノ商業ニ  
手ヲ染メ苦戰奮闘ヲ繼續シテ非常ノ難境ニ立チシ  
コト一再ナラス、偶々日露戰役ノ起ルヤ、陸軍用  
達ノ恩命ニ接シ、多年老熟ノ手腕ヲ以テ其職責ヲ  
全フシ、巨利ヲ占ムルノ運ニ至レリ、又南米貿易

五四六

ノ有望ナルヲ知り、國家的觀念ヲ以テ一會社ヲ創  
設シ、盛ニ貿易ノ事業ニ軌掌セラレヌ、又君ハ空  
中飛行器ニ多大ノ趣味ヲ有シ、思考ヲ凝ラスモノ  
數年、彼ノ有名ナル空中飛行器ノ發明家山田猪三  
郎氏ノ爲メニ盡瘁セラレ、始メテ空中飛行器ニ登  
乗セラレタル人ナリ、性質頗ル義氣ニ富ミ人ノ難  
ニ赴キ敢テ其勞ヲ辭セス、世人皆其德ヲ頌シテ止  
マス、亦紳士ノ好曲型タルヲ失ハスト云フ可シ。

海軍々醫學校長  
海軍々醫總監

# 醫學博士 本多忠夫君

總町區平河町五ノ二四 電話番町四二四

帝國海軍ニ於ケル醫務ノ統一嚴然トシテ行ハレ秩  
序整然トシテ一絲亂レス、彼ノ文明先進國ニ比シ  
テ毫モ遜色ナキノミナラス、一籌ヲ加フルモ  
ノ、是レ本多君ノ苦心計畫ニ成レルモノナルハ世

ノ齋シク唱導シテ止マサル所ナリ抑モ君ハ舊宇都  
宮藩士本多長盛氏ノ次男ニシテ安政五年七月ヲ以  
テ生ル、幼ニシテ穎悟聰明學ヲ好ミ始メ郷里岡田  
塾ニ漢學ヲ修メ十四歳ニシテ上京外務省語學校ニ  
獨逸語ヲ學ビ、更ニ東京外國語學校ニ入ル、後東  
京醫學校東京大學醫學部ヲ卒業シ、明治十七年醫  
學士ノ稱號ヲ授ケラレ直ニ高知縣醫學校長兼縣立  
病院長ニ聘セララル、同二十年十一月感ズル所アリ  
職ヲ辭シテ海軍省ニ入り海軍大軍醫ニ任シ海軍々  
醫學校教官ニ補セララル、爾來軍艦浪速軍醫長比叡  
軍醫長海軍衛生會議々員等ニ歷任シ二十六年軍醫  
少監ニ進ミ、横須賀鎮守府病院附トナル廿八年江  
田嶋海軍兵學校軍醫長ニ轉シ、翌年吳鎮守府病院  
附トナル、三十年海軍大學校教官ニ補セラレ次テ  
海軍々醫學校ノ分立セララル、ニ及ビ更ニ同校教官

ニ轉ス、同年十二月海軍々醫中監ニ陞リ三十一年  
十一月同大監ニ陞ル三十四年一月海軍々醫制度取  
調及學術研究ノ爲獨逸國駐劄ヲ命セラレ在留二年  
餘、充分ノ研鑽ヲ遂ケテ三十六年七月歸朝、翌年  
日露ノ役起ルヤ病院船神戸丸病院長ニ擧ケラレ後  
送傷病兵ノ治療ヲ主リ殊勳アリ、役後功ヲ以テ勳  
三等ニ叙シ功四級金鵄勳章ヲ授ケラル、卅八年横  
須賀鎮守府病院長ニ補シ同年十二月海軍々醫學校  
長ニ轉シ、卅九年十一月海軍々醫總監ニ陞ル、之  
ヨリ先キ三十六年中癩腫病理及「ヘルニア」ニ關ス  
ル研究論文ヲ提出シテ醫學博士ノ學位ヲ授ケラル  
是ニ於テ學識聲望愈々高ク一世ノ欽仰ヲ聚ム、四  
十一年從四位ニ叙セララル、博士篤學公務ノ餘暇孜  
々トシテ研究ニ從事シ斯界ヲ裨益スル業蹟ヲ發表  
セルモノ頗ル多シ、嘗テ子爵相馬誠胤毒殺ノ疑獄

五四七

ニ關シ法術ノ颯ニ依リ死体ヲ剖檢シテソノ死因ヲ斷證シタルガ如キハ夙ニ世人ノ知ル所タリ、君公明正大常ニ職責ヲ重シシ、理務ノ研究一ハモ廢セス、孜孜營々効ヲ舉ケスンハ已マス、吾人ハ特ニ其至誠ニ感歎シテ措カサルナリ。

### 辯護士 關 幸太郎君

本郷區駒込丸山福山町七 電話下谷三二〇一

聞ク、君ハ舊秋田藩士關清之助氏ノ男ニシテ、安政元年七月ヲ以テ生ル、夙ニ學ニ志シ、萬延元年甫メテ七歳、豊間、宇野ノ兩氏ニ從ヒテ漢籍ヲ研究ス以テ君ガ才幹ノ已ニ越拔セルヲ知ル可シ、文久三年藩立學校明德館ニ入り、更ニ高儒磯野翁ニ師事シテ百方諸史經典ヲ研鑽シ、慶應二年正月年甫メテ十三歳ニシテ藩主ニ仕へ、大番組ニ編入セラレ、明治元年戊申ノ役ニ當リ、年十五旗奉行付

添役、市中取締役等ヲ命セラレ、能ク其任ヲ全レス、如斯折柄ニモ不拘、君尙攻學ノ事ヲ廢セス、常ニ藩儒平塚翁ニ就キテ漢籍ヲ研究シ、後同門ノ子弟十數名ヲ托セラル、ニ至リ、爾後數年青年薰育ノ事ニ當ツテ能ク師意ヲ愆ラズ、明治六年、時世ニ鑑ミテ蹴然上京シ、大井憲太郎氏ニ從ヒテ法律政治ノ二學科ヲ學ビ、後元田直氏ノ法律學會ニ入りテ益々研修造詣ヲ積ム、翌年同校ヲ卒業シテ直ニ代言人試験ニ應シテ登第シ、長野縣松本市ニ事務所ヲ開キテ訴訟事務ニ専掌ス、後東京ニ轉シテ爾來法律事務所ヲ開キテ一般ノ需ニ應シ、其博識達見ヲ以テ鳴ル、明治廿五年本郷區民ニ推サレテ區會議員トナリ、其後改選毎ニ當選シ今尙ホ現ニ其職ニ在リ其間二十六年區會議長代理者ニ選任セラレ翌廿七年議長ニ選任セラレテヨリ、同區會議

長タルコト前後八回又明治二十六年推サレテ東京市會議席ニ列シ復改選ノ時市會議員ニ推サル、コト前後四回侃々諤々ノ辯ハ以テ君ガ政治的手腕ヲ發揮シテ令名愈々揚ル、後市參事會員トナリ、又市衛生常設委員長トナリ市政ノ革新ニ努力シ又明治三十八年内閣ヨリ警視廳防疫評議員ニ任セラレ市ノ衛生改善ニ參與シ、偏セズ倚セズ以テ市民ノ信望ヲ聚ム、今ヤ、市政紊亂、風紀廢頹ノ弊ヲ聞ク、吾人ハ君ノ如キ硬骨、而モ達識者ヲ恃マサルヲ得ズ、乞フ自重幸ニ市政ノ爲メ盡瘁セラレン事ヲ。

### 實業家 柴田極人君

神田區裏袋榮町四 電話本局一六八七

北陸越後ノ地由來豪傑ノ輩ヲ以テ鳴ル、昔上杉謙信高田城ヲ築キ霜滿軍營ノ詩ヲ吟シテ轉々豪將ノ

心緒ヲ偲バシメ、其偉功ト共ニ今尙天下ニ喧傳セラレヌ、明治聖代ニ在テハ池田侍醫頭ノ如キ、前嶋男ノ如キ、サテハ大企業家大倉喜八郎氏ノ如キ孰レモ天下ノ錚々タル人傑タリ、君又是等名士ノ後輩トシテ眞摯熱烈以テ業ニ當リ其所信ヲ貫キテ一大成功ヲ企畫シツ、アリ、抑モ君ハ高田藩士吉田登那美氏ノ長男ニシテ明治元年ヲ以テ呱呱ノ聲ヲ學ケラル、其普通學ヲ卒ハルヤ、更ニ獨逸協會學校專修科ニ入り、語學ノ研鑽ヲ爲スコト數年、學業大ニ進ミ、同窓ノ推重ヲ受クルコト甚々淺カラス、其業ヲ卒ハルヤ、株式會社第十五銀行ニ入り勤勉精勵以テ行務ノ擴張ニ勉メ、重役諸氏ノ信認ヲ得ルコト一層厚キヲ加へ、拔擢セラレテ要位ヲ占ムルニ至レリ、在勤十有餘年、明治三十六年ニ至ツテ職ヲ辭シ、更ニ西脇銀行ニ入ツテ一大盡瘁

ヲ重ネラレ、現今其助役トシテ正確ノ名ヲ博セラ  
ル、餘力ヲ以テ尙共益人造肥料株式會社ニ取締役  
トシテ其發展擴張ノ策ヲ講シツ、アリ、君ハ要ス  
ルニ熱心勤勉ヲ以テ終始一貫セルノ人、現今滔々  
トシテ浮華虛飾ノ風潮漸ク侵潤シ來レルヲ慨シ、  
常ニ質素醇朴ヲ以テ自カラ處シ範ヲ後進子弟ニ示  
サレントス、吾人其志操ノ皓潔ニ多大ノ同情ヲ寄  
セスンハアラス、君乞フ勉メヨヤ。

### 實業家 田邊米藏君

深川區西町八 電話浪花二四七七

勤儉貯蓄ノ美風ヲ存シテ着々トシテ成功ノ基礎ヲ  
開キ、仁慈博愛ノ名聲ヲ都下ニ專ラニシタル田邊  
米藏君ノ事歴ハ世ノ聞カント欲シテ止マサル所ナ  
リ、吾人其確聞セル所ニ基キ其概歴ヲ語ラン哉、抑  
モ君ハ府下大嶋町ノ人ニシテ幼少出テ、深川區上

大嶋町質商福嶋彌兵衛氏方ニ店丁トシテ仕へ、具  
サニ艱難辛苦ヲ嘗メ、斯業ノ蘊奧ニ通スルニ至リ  
明治八年獨立ヲ以テ現住所(深川區西町)ニ一小質  
舗ヲ開始セリ、其商號橋本屋ノ名ハ微々タルモノ  
ナリシモ、君ガ多年經驗セル熟腕ハ勤勉精勵ト相  
俟テ漸次好調ヲ迎フルノ運ニ至リ、都下有數ノ質  
商タルニ至レリ、同卅三年深川銀行創立ニ盡瘁シ  
爾來其取締役ノ要位ニアリテ一面西町支店長ヲ兼  
ネラル、又同業者ノ推ス所トナリ、同區ノ同業組  
合頭取トシテ十數年間勤績セラレ、又公職トシテ  
明治二十二年市町村制實施以來區會議員ノ一權威  
者トシテ同儕ノ重視スル所トナレリ、區内公共事  
業ニ關シテハ常ニ卒先シテ其衝ニ當リ、德望大ニ  
加ハ、ル殊ニ仁慈博愛ナルヤ、彼ノ四十三年八月  
ノ府下大洪水ニ際シテハ罹災民救助ノ爲メ寢食ヲ

忘レテ奔走セラレ、尙養育院施療所ノ設置及本所  
若宮町ノ無料宿泊所深川支部設置等ニ就キ多大ノ  
便宜ヲ與へ、且ツ洪水ノ際盡力奔走セル、區役所  
員警察署及深川沿岸ノ船渡世者ニ對シ區内ノ名譽  
職全体ヨリ相當ノ慰勞金ヲ寄贈スヘキ計畫ヲ立テ  
、是カ委員トナリ專ラ其講究中ニ屬セリ、君ノ如  
キハ古來相傳ヘテ帝都ノ名物タル所謂「江ッ子」即  
チ任俠ノ義氣洋溢セル模範的好紳士ト稱セスシテ  
可ナランヤ。

### 實業家 山本彦太郎君

橫濱市山田町一 電話二二二三

人間成功ヲ謂フ、其裏面ニハ必ス苦辛慘憺ノ經歷  
ヲ存ス、艱難人ヲ玉成スルノ古諺ハ是等ノ消息ヲ  
語テ餘蘊ナキモノ、君亦金港成功者ノ一ナリ、其  
徑路ハ豈亦語ルニ足ルモノナカナンヤ、抑モ君ハ

千葉縣君津郡ノ人、嘉永四年ヲ以テ生ル、十七歲  
ニシテ東京ニ出テ、何等カノ成功ヲ求メントシテ  
各種ノ事業ニ携ハレシモ聊カノ効アラサリキ、困  
頓更ニ横濱ニ出テ某商店ニ入り、商業ノ練習ニ勉  
メ、後居留地ニ唐物品ヲ估フ、是レ君カ成功ノ第一  
歩タリシナリ、同十七年廢業シテ元町五丁目ニ轉  
シテ地所家屋賃附業ヲ開始セリ、是成功ノ第二步  
タリシナリ、同二十五年更ニ中村町ニ移リ、同三  
十七年又現所ニ莊宏ノ大屋ヲ新築シテ移轉セラル  
是レ成功ノ第三步タリシナリ第四第五ニ於ケル、  
爾後ノ成功ハ又偉大ナルモノアラン歟、君ガ公職  
ヲ舉クレハ市會議員、獎兵義會々員、衛生組合長  
惠華學院會員、小田原幼年學校會員、等ニシテ就  
レモ名譽職ナラサルハナシ、以テ君ノ公共心ニ厚  
キヲ窺知スルコトヲ得ン。

## 實業家 樋口春吉君

日本橋濱町一ノ二 電話濱化二六七九

忽チニシテ山トナリ、忽チニシテ海トナル、人世浮沈究極ナシ、古人稱シテ七顛八起ト稱ス、蓋シ是等ノ消息ヲ洩ラシタルノ意味タラン乎、吾人樋口君ヲ見ル、殊ニ此ノ感ヲ深フスルモノナクンハアラヌ、抑モ君ハ三重縣多藝郡丹生村ノ人辻和平氏ノ二男ニシテ嘉永五年ヲ以テ生ル、幼少出テ、本町四丁目吉右衛門氏方ノ店丁トナリ、商業ノ實習ヲ爲ス、爾來夙起宵寢勤勉精勵多ク同儕ヲ歴ス年齒二十四歳ニシテ樋口家ノ養子ト爲リ以テ其姓ヲ冒セリ、後非常ノ蹉跌ヲ生シ、一敗地ニ委シテ亦立ツ可カラサル悲境ニ陥リ石町上總屋商店主三枝久兵衛氏ニ依テ至囑スル所アラントス、三枝氏其究乏ヲ聞キ是ヲ憐ミ、其知友タル或ル金貸業者

## 五五二

ニ一封ヲ裁シテ君ヲ紹介セリ其金貸業ハ君ノ人ト爲リヲ信シ若干ノ融通ヲ承諾セラル、爾來其援助ニ因リ行商ヲ開始シ、幾多ノ難關ヲ辿リ、薄利多賣主義ヲ一貫シテ社會ノ信認ヲ博シ、殊ニ大丸三井兩家ノ眷遇ヲ受ケ、漸ク好潮ノ運ニ接シ、以テ現今ノ大成切ヲ遂クルニ至リヌ、織物同業組合會ハ君ヲ推シテ第三部長ノ職ニ就カシメ、以テ同業發達ノ指導者タラシメントス、君尙餘力ヲ以テ日清紡績會社ノ監查役、日清洗布株式會社ノ取締役トシテ敏腕ヲ揮ヒツ、アリ、而シテ彼ノ盛名アル吳服太物店タル紀ノ國屋ハ即チ君ノ商店ナルモノナリ、其盛況羨スヘキ哉。

## 實業家 岡田傳君

神田區猿樂町五 電話本局三三三三

勤勉精勵ニシテ一意専心銀行業ノ爲メニ盡瘁セラ

レ、是レ我天職ナリ、是我カ性命ナリトシテ献身

信認偉大ナルニ職由スルモノ多キハ世ノ定評ナリ

君其レ尙一層ノ勇奮ヲ試ミヨ。

的忠實ナルモノ、吾人岡田傳氏ノ如キヲ見サルナ

## 利根電氣株式會社取締役

## 内田眞君

芝區南佐久間町二ノ一八 電話芝二六三六

リ、抑モ君ハ故ト出雲國廣瀨藩士ニシテ松平侯ノ家臣ナリ、父ハ御勘定役ヲ勤メ、勤格ヲ以テ名アリ、君ハ萬延元年十月藩邸ニ呱呱ノ聲ヲ舉ケ、幼ニシテ穎敏聰悟ヲ以テ賞セラル、夙ニ藩儒ニ就テ學ビ、明治七年上京シテ帝都ノ遊子トナル、其勤直ニシテ精勵ナルヤ、早クモ矢澤家ニ入り營々トシテ同家ノ爲メニ盡瘁シ、矢澤銀行ノ創立セラル、ヤ君拔擢セラレテ其衝ニ當リ、發展擴張ニ勉メテ日モ亦足ラズ、數十年間一日ノ如ク忠勤ヲ盡シテ更ニ他ヲ顧ミス、矢澤銀行人ヲ得タリトノ評ハ既ニ内外ニ喧傳セラレツ、アリ、同行カ現今盛況ヲ極ムルモノ固ヨリ頭取ノ信望淺カラスト雖モ君ノ確乎タル勤直ノ美風ハ自然流露セラレテ社會ノ

君ガ半生ノ閱歷ハ、頗ル趣味アル曲折ヲ有シ、一命一高直ニ採ツテ一篇ノ立志小説ノ材タルニ値ス試ニ其概略ヲ摘記セバ君ハ佐賀縣三養基郡鳥栖町ノ人ニシテ、篠原喜六氏ノ四男ナリ、後年養ハレテ内田利平氏ノ嗣トナリ、現姓ヲ冠ス、天性眞摯敦厚ヲ以テ郷人ニ重ンセラル、少壯一賣藥店ヲ經營シツ、アリシガ、日清戰役ニ際シ、内田組ヲ組織シテ軍夫ヲ募集シ、自ラ引卒シテ軍ニ從ヒ、至誠一貫碌々ノ群ヲ抜キ、各所司令部員ノ信任頗ル厚ク、大ニ利得スル處アルト共ニ後方勤務ノ補助

機關トシテ遺憾ナク本分ヲ全フセリ、後臺灣ニ渡リ、臺南林維源、林紳望等ノ巨商ト約シテ樟腦ノ一手買占ヲ行ヒ、其手腕ノ凡ナラサルヲ示シキ其後志ヲ鑛業ニ寄せ、天草炭鑛、及青森銅鑛ヲ出願シ、更ニ長崎縣彼杵郡川棚村ノ鐵鑛區、及鹿兒嶋縣河邊郡枕山村鐵鑛區ノ探掘、又ハ山梨縣山梨郡西保村ニ於ケル重石鑛發見等、金銅鑛ノ試掘ヲ出願スル者前後十數箇所ニ及フ、尙去ル三十八年七月群馬縣利根郡水上村ノ利根川上流ニ於テ枕木製作事業經營中利根川ヲ利用シテ以テ水力電氣事業ヲ起スヘキヲ認メ、苦心慘憺幾多ノ努力ヲ提供シテ遂ニ利根發電株式會社ノ創立ヲ見ルニ至レリ、即チ同社力創業日尙淺キニモ拘ハラズ、業務者々トシテ進捗スル所以ハ、地ノ利ヲ占ムル與ツテ力アリト雖モ、重役幹部ノ熱誠ノ結果ニ他ナラサル

ナシ、更姉妹會社利根川水力電氣株式會社ノ創立幹部トシテ奔走計籌スル處渺ナカラザリキ、如斯シテ事業ニ心血ヲ灑クト共ニ、仁慈博愛ノ美性ハ常ニ發露シテ具體現ス、亦以テ眞乎ノ事業家ト稱スルニ足ラズヤ。

實業家 吉野源吉君

日本橋區兜町三 電話浪花長三四九〇

鎧南市場ノ群雄中、老熟ノ手腕ト堅實ノ商風ヲ以テ知ラレタルハ夫レ君カ、其取引市場ニ於ケル經驗ハ、恐ラク同所ニ多クノ比儔ヲ見サルヘシ、其多年奮闘ノ歴史ハ、亦以テ興味津々タルモノアリ今ハ僅カニ其抄録ニ止メントス、君ハ千葉縣一ノ宮町ノ出身ニシテ安政四年ノ誕生ナリ、家ハ同地ノ舊家ニシテ、代々富ト德望トヲ以テ遠近ニ聞ユ長スルニ及ンテ志ヲ實業ニ寄せ、在東都ノ親戚ニ

寄寓シ、徐ロニ機會ノ到來ヲ待ツ、恰モ明治初年ニシテ財界亦多端ノ時代ニ屬ス、即チ金祿公債、弗相場等、頻々トシテ出現ス、君此狀態ニ見ルアリ身ヲ此取引界ニ投ズ、當時ノ紳商間ニ伍シ、敏腕ト忠實ヲ認容セテレテ漸ク重用セララル、後獨立シテ業務ヲ開始シ、幾多ノ波瀾アル經濟界ニ處シ、手腕縱橫其眞骨頭ヲ發揮ス、即チ當時ノ鍛鍊ハ、應カテ今日ヲ形成スルノ素地ナリキ、從ツテ其苦心ノ如キモ、到底筆紙ノ盡シ能フ處ニアラサルナリ既ニシテ時勢ノ運遷ハ、愈々其鐵腕ヲ鍛治ス、後故アツテ一時斯界ヲ退キシモ、更ニ復活シテ現所ニ株式取引所仲買店ヲ開クニ至レリ、此間彼ノ福嶋浪藏氏ト提携シテ相扶ケ相擁シテ奮闘シタルハ亦世人ノ知悉スル處ナリ、今年來ノ大主義堅實ヲ以テ店憲ナシ、極メテ實業ニ發展シツ、アリ、彼

ノ前年度ニ於ケル優等ノ成績ヲ示シタルガ如キ、以テ好箇ノ雄辯タリ、君亦斯界ニ於テ眞面目ナル老手ト謂ツヘシ。

實業家 田中經一郎君

京橋區宗十郎町一 電話新橋二二一三

君ハ但馬國美方郡村岡町ノ人、先考與治兵衛氏ノ長男ニシテ、弘化三年四月十八日ヲ以テ生ル、幼名ヲ嘉一郎ト云ヒシガ後現名ニ改ム、家代々酒造ヲ業トセシガ、君ガ青年時代ハ恰モ維新ニ際シ、風雲暗騰トシテ寧日無シ、而モ君ノ英資能ク和漢ノ學ヲ究メ、又地方ノ爲メニ盡瘁シ、遂ニ藩士ニ加ヘラレ藩ノ會計改革ヲ任ゼラル、後王政復古ニ至リ、君ハ戸長トシテ地方治ニ當リシカ、天下ノ大勢ヲ洞觀シテ僻陬ニアルヲ屑シトセス、家ヲ弟ニ譲リテ明治十二年上京シ、爾後奮闘力行ヲ續行



シテ陸軍用達トナリ、専ラ被服ヲ納ム、後年二十九年佐竹若尾ノ諸氏ト謀リ、東京電燈株式會社ノ創立ニ與リテ其取締役ニ推サレ、又上野鐵道株式會社ノ監査役ニ推サル、明治三十三年株式會社與信銀行ヲ創立シテ自ラ其頭取トナリ、養嗣子伊三郎氏ト共ニ經營ニ當リ、銳意發展ヲ謀ル、尋テ三十七年十二月田中合名會社ヲ起シ、土木建築勞力請負及物品販賣ヲ主トシテ用達ヲ兼、其他株式會社帝國ホテル、豊前採炭株式會社、大谷鑛山合名會社ノ各監査役ヲ勤ム、曩ニ東京商業會議所議員ニ選ハレ出テ、着實老功ヲ以テ名アリシモ今ハ辭セリ又區會議員トシテ區政ニ盡瘁ス、如斯多方面ニ亘ツテ怪腕ヲ揮フト共ニ、夙ニ我ホテル設備ノ不完備ヲ慨シ、自ラ經營セル紅木屋旅館ヲ新運ニ添フテ漸次改良シ、其整頓セル設備ハ他ニ多クノ

比鋒ヲ見スト云フ、君資性温厚恭謙、容姿偉大、而モ奮闘ノ疲勞ハ認ム可ラズ、尙鏗鏘トシテ壯者ヲ壓スルノ元氣ヲ見ル、蓋シ君ノ如キ明治成功界ノ一權威タルヲ失ハズト云フ可シ。

### 實業家金子政吉君

横濱市太田町一ノ九 電話八六一

横濱市會議長ノ要職ニ在ツテ其敏腕ヲ發揮シ、名聲隆々トシテ高ク、全市ノ施設ヲ双肩ニ擔ヒ、着々トシテ其緒ニ就カシメツ、アル、金子政吉君ハ群馬縣下氏家ノ資産家鈴木宇右衛門氏ノ二男ニシテ安政元年ヲ以テ生ル、年二十二ニシテ家翁ニ侍シテ横濱ニ出テ、始メ質商ヲ營ミシカ更ニ蠶絲賣込商ニ轉シ、大ニ其敏捷ノ手段ヲ以テ功ヲ擧ケシモ廿七歳ノ時ニ及ヒ、金子家ノ養子トナリ、爾來其姓ヲ冒セリ、明治十八年家督ヲ相續シテ一層ノ

宜シキヲ得タルニ基因セスンハアラス、吾人ハ唯其梗概ヲ書シテ祝福スルノミ。

### 理學士岡田一三君

麴町區富士見町五ノ九 電話番町一七三二

發奮ヲ加フ同廿一年横濱銀貨並株式取引所肝煎トナリ、同二十三年以來數回商業會議所員、及市會議員ニ推選セラレ、又徵兵參事員、水道常設員等ニ職ヲ執リ、更ニ市會議長ニ進ミ、聲望噴々タルニ至ル、其謹厚ノ資沈着ノ態度ヲ以テ漸進スル所當ニ牛步千里ヲ畏レサルニ似タリ、積年辛苦ノ功空シカラス、家ニハ巨萬ノ富ヲ造リ、公人トシテハ金港全市ノ興廢ヲ左右ス人間ノ快事是レ極マレリト云フ可シ、君ハ又前記ノ外五品取引所理事、貿易銀行專務取締役、商業銀行取締役、貿易倉庫横濱火災保險會社等ノ監査役タリ、家庭ハ頗ル圓滿融和ニシテ洋々タル春海ノ如ク、長男常太郎氏ハ金子合名會社執行社員トシテ本店事務ノ總括ヲ計リ、二男泰次郎氏ハ貿易銀行支配人心得ノ要職ニ在リ、斯ノ如キハ最モ異數ニシテ其教育指導ノ

學殖豊富ニシテ經驗ニ富ミ、夙ニ鑛山事業ニ執掌セラレテ令名ヲ斯界ニ馳ス、寔ニ現代ノ紳士タル典型ニ愧チス、吾人カ特ニ崇敬ノ意ヲ拂フモノ亦故ナキニアラサルナリ、君ハ元ト石川縣金澤ノ人前田藩士岡田與一氏ノ三男ナリ、嘉永四年九月ヲ以テ生ル、始メ藩校ニ學ヒ、秀才ノ賞譽アリ、次テ藩ノ貢進生トナリ、開成學校ニ學ヒ、後大學南校ニ移リ、更ニ工科大学ニ入り、切礎球盤ノ功ヲ積ムコト幾星霜、常ニ學績優良品行方正ヲ以テ同窓ノ模範タリト聞ケリ、同十二年業ヲ卒ヘ理學士ノ稱號ヲ授ケラル、同年大藏省ニ職ヲ奉シ造幣局

技師トナリ、精勤ノ聞ヘ高ク敏腕ノ稱ヲ受ク、同二十三年御陵局技師トナリ、同廿九年職ヲ辞シテ野ニ下リ獨立ヲ以テ鑛山事業ヲ經營スルコト數年大ニ嶄新ノ施設ヲ企畫シテ奏功亦迅速ヲ致セリ、現今ハ多年ノ學理ト實驗トニヨリ得タル老熟ノ敏腕ヲ以テ鑛山ノ鑛質鑑定等ノ事務ヲ開始セラル、爾來其聲望ヲ傳ヘテ君ノ鑑定企劃ヲ乞フモノ甚タ多シ現今ノ成功亦偶然ノ結果ナランヤ。

岡鐵工所長

### 岡 實 康 君

住 邸 大坂西區新町南通五ノ一四 電話四二八二  
工 場 大坂西區川北字四九條番外八二 電話四八八四

嶄新奇抜ナル新發明ヲ爲シ、以テ社界國家ノ福祉ヲ増進モンコトニ勤メ、會テ吸入瓦斯「ガソリン」發動機ヲ製作シテ工作者ノ爲メ偉大ナル恩惠ヲ與ヘ、防火車、運搬消毒器、蒸氣消毒器、無響湯沸器

ノアリ、爾來世運ノ進運ト共ニ斯業ハ年一年ヨリ繁盛ヲ加ヘ以テ現今ノ大規模ヲ見ルニ至レリ、其専門トスル處ハ蒸氣電氣及水力諸機械製造ト冒頭ノ諸種器械トノ製造ニアリ、會テ川崎造船所ニ在ルヤ、消毒器ヲ發明シテ日露戰役ニ際シ大ニ利用セラレテ賞讃一方ナラサリシ事アリ、君ハ此ノ如ク發明的頭腦ニ富ミ、世ヲ利シ且自カラ利シタルコト幾干ナルヲ知ラズ、又會テ紡績用品株式會社發動機製造株式會社ノ創設ニ與テ力アリ、其成ルヤ其重職ニ居リシモ今ハ後進ノ士ニ讓リ、現今自家經營ニ係ル鐵工所ニ全力ヲ傾注シツ、アリ、君ノ如キハ實ニ發明ノ權化タル偉傑ヲ以テ稱スルニ餘リアリト謂フ可シ。

練壓搾器等ノ發明ニ因テ社會ノ鴻益ヲ計リ、勃然トシテ其名聲揚リテ天下ニ洽キモノ是レ岡鐵工所長岡實康君トス、君ハ佐賀縣ノ士族岡實階氏ノ二男ニシテ安政二年四月十六日ヲ以テ藩邸ニ生ル、天資聰慧學ヲ好ミ、數理ニ長ス、始メ藩儒ニ就キ和漢ノ學ヲ修メ、維新變革ノ後時勢ノ趨ク所ヲ察シテ數理學ヲ研鑽シ、後上京シテ工部大學ニ入り更ニ東京帝國大學ニ轉シテ專ラ工學ヲ修メ、業ヲ卒ツテ工學士タルノ稱號ヲ得タリ、當時ハ未タ舊幕ノ陋習ヲ脱セス、官尊民卑ノ弊旺盛ナリシヲ以テ同門ノ俊秀ハ皆爭テ榮達ノ途ヲ官ニ求ム、君ハ大ニ見ル所アツテ仕ヲ官途ニ絶チ、始メ某會社ニ入りテ經驗ヲ積ミ、更ニ大坂ノ地ヲトシテ獨立ヲ以テ鐵工業ヲ創ム、知人前途ヲ危虞シテ注告スル所アリシモ君ノ決心牢乎トシテ拔ク可カラサルモ

三井物產株式會社常務取締役

### 福 井 菊 三 郎 君

麻生區市兵衛町二ノ一三 電話芝二六八三

其傳ニ曰ク、君ハ東京市ノ産、中村萬吉氏ノ五男ニシテ慶應二年三月二日ヲモツテ生レ、夙ニ福井家ニ養嗣トナリテ其姓ヲ襲フ、少壯高等商業學校ニ入りテ理財學ヲ修メ、卒業後三井物產會社ニ入り、漸次累進シテ大坂支店長トナリ、尋テ米國紐育支店長ニ轉シ、幾年三井家組織ノ變革ニ當リ、遂ニ現位ニ昇ル、是君カ單ナル閱歷トス、述上以テ君カ一班ハ窺フヲ得ンモ、而モ、吾人尠クトモ一管ノ禿筆君ヲ物色スルニ材無シトセズ、君ハ所謂純粹ナル江戸ッ兒ナリ、其霸氣俠骨ハ遂ニ君カ言動ニ表ハレテ躍々、生氣アリ活氣アリ、而モ明截徹ヲ穿ツノ智ハ自享ノ徳ト待ツテ一面ニ湧出シ

人格ノ光輝新ニ茲ニ現ハル、視ヨ。由來三井ハ天下人材ノ叢淵トシテ知ラル、俊才優材雲集シテ環ヲ成ス、此ノ間ニ於ケル君ガ榮達ハ、決シテ情實ノ左右セシニ非ズ、儕輩是ヲ許シ、先輩是ヲ認メシニ外ナラズシテ、一度紐育ニ支店長タリシ時ノ如キ名ハ一支店長タルニ過ギサリシモ、既ニ三井物産ノ米國ニ於ケル優超セル權利ハ君ノ掌中ニ依リテ産マレシモノナルヲ、サレバ、三井改革ニ際シテ、遂ニ本店ノ常務ニ拔カレシ亦自然ノ數而已、亦蘇ツテ其性格ヲ窺ヘバ、居常質素敦厚ニシテ友誼ニ厚ク、後進ヲ誘掖シテ不息、手腕ハ人格ト相待ツテ陰然三井ノ柱礎ヲ以テ目サル、亦故アリト言フヲ得ン。

衆議院議員 大繩 久雄君

麴町區富士見町一ノ三一 電話番号二五八七

一面實業ニ雄飛シテ敏腕家ノ名アリ、一力政治界ニ其經綸ヲ揮ツテ雄ヲ唱フ亦偉ナル哉。君ハ舊秋田藩士築市三郎氏ノ二男文久二年二月ヲ以テ生レ後先代大繩織衛氏ノ養子トナリ家名ヲ襲グ、年十九才ニシテ上京シ、島田、根本等ノ塾ニ學ビ造詣深キヲ加ヘシガ、偶々藩主佐竹侯ノ認鑑ニ觸レ、同家ニ入りテ家令トナリ、同家ノ財産管理ニ當リ、精忠以テ大ニ努メ益々重用サル、後實業界ニ志アリ同家管理ノ傍ラ會テ帝國漁獵株式會社、日本倉庫株式會社等ニ關係シテ努力ヲ割キ、又國光生命保險株式會社ノ監查役タリシガ、明治四十二年八月其專務取締役トナリ、現ニ同社ノ經營ニ當リテ活動止マズ、其他、同四十二年七月東京殖産銀行頭取ニ推サレ、四十三年十二月米穀商品取引所役員ノ改選ニ當リ其理事トナリ、益々多方面ニ努力ヲ致

シ、又京濱電氣鐵道株式會社取締役ヲ兼ス、如斯ニモ拘ラズ、夙ニ政界ニ雄飛シ、明治三十七年秋田市ヨリ選出セラレテ衆議院議員トナリシ以來、四十年ノ改選ニ再選セラレ、下院ノ一角ニ權威ヲ稱ス、頃日感ズル處アリテ立憲政友會ニ入會セリ蓋シ實業界政界共ニ、君ガ大成ハ尙後日ニ有ル可ク吾人ハ期シテ其將來ヲ待タン。

衆議院書記官長

林 田 龜 太 郎 君

麴町區內幸町官舎 電話新橋八一八

本邦唯一ノ議院制度通トシテ、現行衆議院議員選舉法ノ起草者トシテ斯界ニ令名ヲ恣ニスル、現衆議院書記官長林田龜太郎氏ノ功績ハ、固ヨリ不朽ニ垂ルベキモノニシテ、君ヲ評論月旦スル者已ニ多シ、吾人亦君ヲ論スルニ於テ多少ノ材ヲ有セサ

ルニ非スト雖モ、這ハ暫時斯界專門家ニ讓リ、此處ニ單ナル、君ノ小傳ヲ抄録シテ已マン、君ハ肥後ノ藩士林田俊太郎氏ノ長男ニシテ、文久三年八月十五日ヲ以テ熊本城二ノ丸ニ生ル、天資穎敏幼ヨリ文武ノ學ヲ好ミ其才力夙ニ嶄然トシテ群童ヲ抜ク、君ノ青春ノ時代ニ於テ偶々西南ノ乱有リ、其餘波延テ君ノ家ニ及ビ家運頓ニ傾ク、然レトモ君屈セス撓マズ明治十四年蹴然鄉關ヲ辭シテ上京シ東京大學豫備門ニ入り、某家ノ食客トナリ或ハ桑茶ノ採集ニ從ヒ或ハ夜學ノ教師トナリ、其上ヨリ得タル所ノ些々タルモノヲ以テ學資トス、其後チ舍弟遊龜氏ヲ招キテ俱ニ苦學力行ヲ繼續シ、遂ニ二十年七月帝國大學政治科ヲ卒業シ、同月直ニ法制局屬トナル、是レ實ニ氏ガ官途ニ於ケル第一歩ナリトス、爾來樞密院屬、法制局參事官試補、法

制局參事官等ヲ歴、臨時帝國議會事務局ニ出仕シ故井上毅氏ヲ輔ケテ議院制度ノ調査ニ當リ、二十三年衆議院書記官ニ轉シ、翌年農商務省參事官ヲ兼ヌ、尋テ明治三十年十一月遂ニ現職ニ勅任セラレ、爾後十有三年ニシテ即チ衆議院ニ於ケル奉職年數ハ實ニ二十一年餘ノ久シキニ亘レリ、其間孜々トシテ一日モ懈ルコトナク、能ク其顯職ヲ完フセラル、三十九年四月勳四等ヲ授ケラレ、四十一年四月正四位ニ叙セラル、君志操高潔ニシテ頗ル俠氣ニ富ミ、洒々落落トシテ光風霽月ノ如ク、人ト談ズル更ニ城壁ヲ設ケズ、是ヲ以テ交遊極メテ多シ、又風流韻事ヲ好ミ雲梯、芳草園主人、四十

六口飲仙等ノ雅號アリ、狂歌ヲ能クシ書ニ巧ニ、能ク俗語ヲ作ル、又園藝ノ趣味ヲ有シ、各種ノ菊ヲ蒐聚培養ス、目下東都ニ噴々タル肥後菊ハ君ノ

輸入シタル所ナリ、君ノ嗜好ニ於ケル遊藝トシテハ聯珠ニシテ其技能ク専門家ヲ凌クト云フ、斯ノ如ク叙シ來ツテ吾人ハ濟々タル明治ノ名士中、君ノ如キ多方面ニ活動セラル、士ノ多カラサルヲ知ル、乞フ益々自愛シテ愈々至美ヲ發揮セラレントヲ待ツヤ切ナリ。

### 工學士吉井茂則君

牛込區市ヶ谷加賀町一ノ二〇 電話番町一八三〇

君ハ高知縣士族岡林茂基氏ノ次男ニシテ安政四年八月四日ヲ以テ生ル、夙ニ東京府平民吉井正澄家ノ養子トナリ、明治四年二月英國ニ留學シ同七年六月歸朝ス、九年四月工部大學ニ入ルヤ、其學才優秀常ニ儕輩ノ畏敬スル所タリ、十六年五月造家學科ヲ卒業シ工學士ノ稱號ヲ受ク十八年四月大坂砲兵工廠ニ勤務シ伊太利式カノン砲及野戰砲等ノ

### 實業家磯野長藏君

麻布區廣尾町五七 電話芝八九九

製造所新築工事ニ從事ス居ル事三年憲法發布ト共ニ帝國議院建築ノ主任ニ當リ、東京内幸町ニ假議事堂ヲ建設ス其功ニ依リ、勳六等瑞寶章ヲ授與セラル、蓋シ斯ノ如キハ君ヲ以テ嚆矢ナリトス、二十五年九月遞信技師ニ任セラレ、爾來同省建築事業ニ貢獻スル所尠カラス、三十年鐵道技師ヲ兼任セラレテ今日ニ及フ此間ニ於ケル同省所轄ノ各建物ハ一トシテ君ノ設計監督ノ下ニ竣ラサルハナシト雖就中吳服橋内同省假廳舎ノ如キニ至テハ其ノ工夫ノ巧妙ニシテ其ノ着眼ノ奇拔ナル如何ニ君カ其ノ智識ト經驗ノ豊富ナルカヲ知悉スルニ足ラン殊ニ最近建築ニ係ル遞信省本館及京橋電話局ノ如キハ其ノ著名ナルモノトス、四十二年二月從四位勳三等ニ叙セラレ今尙孜々トシテ其ノ職ニ盡瘁セラルト云フ。

合名會社明治屋ハ、故法學學士磯部計君ノ創設ニ係ル、氏ハ岩崎彌太郎ノ後援ニヨリ、夙ニ英國ニ航シ、親シク彼土ノ某商店ニ入り、苦心研究ノ後歸朝シ、其英國式修養ヲ發揮シ、幼稚ナル我實業界ノ弊風ヲ一掃セント欲シ、明治十八年橫濱本町一丁目ニ明治屋ナル理想的商店ヲ創メ洋酒食料品ヲ販賣シ、更ニ日本郵船會社船舶ニ供給スル目的ヲ以テセリ、既ニシテ業務者々トシテ進捗セリ、同二十年以來『キリンビール』ノ總代理店トシテ販路ノ擴張ニ從事セリ、當時ノ活動ハ殆ント商界進歩ノ一新紀元ヲ現實シ、尠ナクモ當時ノ事情ヲ知ル者ヲシテ敬服セシメツ、アル處ナリ、然ルニ天ナル哉、三十年十二月、卅九歳ヲ以テ他界ノ人ト